

Title	『三田学会雑誌』 総目次1巻-99巻
Sub Title	Contents of Mita gakkai zasshi vol. 1-vol. 99
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2007
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.100, No.1 (2007. 4) ,p.205- 427
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：『三田学会雑誌』100巻
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070401-0205">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070401-0205</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『三田学会雑誌』 総目次 1巻～99巻

## 凡 例

1. 本総目次は、創刊号（1909年2月）から99巻4号（2007年1月）までの『三田学会雑誌』869冊（合併号は1冊として数えた）の「巻」, 「号」, 「発行年月」, 「種別」, 「タイトル」, 「著者名」, 「開始頁」を刊行順, 掲載順にまとめたものである。ただし、報告関連で著者のいない記事については、除いてある。  
【例】「三田学会記事」（理財学会大会記事, 理財学会会報等）, 「経済学会報告」, 「学位授与報告」, 「年度総目次」等。（休刊 1944年9月～1946年6月, 1949年9月～1950年6月）
2. 作成にあたっては、各号の表紙目次を使用し、一部は各号の論文等を直接参照して補完した。各表記の形式等については、初出通りとした。ただし、明らかな誤植については訂正した。
3. 巻号の表記における「第」の有無については、表紙の表記に従った。  
（第1巻第1号～第53巻第12号までは第を入れ、54巻1号～99巻4号までは第を入れず表記している。）
4. 刊行年月は、表紙または奥付に記された刊行年月を記載した。また、合併号についても表紙の表記通り、あるいは該当する複数の月を併せて記載した。
5. 字体について
  - 1) 漢字
    - ①タイトルについて 常用漢字に改めた。
    - ②人名について 旧字体で刊行された第1巻第1号～第50巻第3号（1909年2月～1957年3月）までは常用漢字に改め、新字体を採用した第50巻第4号（1957年4月）以降は、各号の表紙目次の表記に従った。（したがって、同一著者で旧字体と新字体両方で表記されていることがある。）
  - 2) ひらがな 初出通り
  - 3) カタカナ 初出通りとしたが、現在では見られない「キ」「井」「ン」を小さく表記する用法は改め、全角文字とした。
  - 4) 句読点・記号 初出通り「,」「,」「。」を使用した。
  - 5) 欧文 初出通り
6. 罫線（直線）について  
各号の表紙目次における罫線（直線・波線）、または小特集などの内容上の区切りを、罫線（直線）として挿入した。

### 一覧表

巻・号	判型・組み方	種 別
第1巻第1号～ 第18巻第12号	菊判・縦組み	記念号, 口絵, 論説, 講演, 時評, 雑録, 新著批評（新著紹介, 批評紹介, 紹介, 批評と紹介, 新刊紹介）, 雑報
第19巻第1号～ 第38巻第8号	菊判・縦組み	記念論文集。その他の種別なし（第19巻第5号, 同第6号, 第20巻第5号, 同第7号, 第22巻第3号, 第24巻第12号に新刊紹介あり）
第39巻第1号～ 第53巻第3号	A5判・縦組み	特集, 論説, 資料, 学界展望, 研究指針, 特別寄稿, 書評（紹介, 論文紹介, 書評及び紹介）
第53巻第4号～ 61巻12号	A5判・縦組み	特集, 追悼の辞, 論説, 資料, 資料・研究ノート, 研究ノート, 学界展望, 書評, 新刊紹介
62巻1号～ 72巻6号	B5判・横組み	特集, 論説, 遺稿, 資料, 資料・研究ノート, 研究ノート, ノート・コメント, 学界展望, 書評
73巻1号～ 99巻4号	B5判・横組み	会長講演, 特集, 小特集, 学界展望, 論説, インタビュー, 座談会, 読書案内, 研究ノート, 資料, 批判・応答, 書評論文, 書評

第1巻第1号 (1909年2月)	
[論 説]	銀行の小切手保証を論ず……………青木 徹二 1
	Emil Reich 氏の史学研究法……………田中萃一郎 13
	Some Aspects of Charity and Providence……………F. H. Vickers 41
	潜在意識に就て……………川合 貞一 55
	減債基金の真価……………星野 勉三 71
	社会学上に於ける同種意識説と模倣説との比較……………田中 一貞 81
[時 評]	社会主義の取締——新党政組織説——文芸院設立の風評——袁世凱氏の 辞職……………竹 葉 103
[雑 録]	米国工業管見……………高橋誠一郎 111
	空想の心理……………小林 乳木 123
	経済学史上の一奇観……………小川 節 129
	新著批評……………星野 生 133
第1巻第2号 (1909年3月)	
[論 説]	租税制度に於ける土地差増の地位……………堀江 帰一 1
	Emil Reich 氏の史学研究法……………田中萃一郎 11
	数学界に於ける二つの思想……………福沢 三八 43
	俊才教育に就て……………稲垣 末松 55
	井田の法と班田の法……………清水 静文 69
	Notes on Japanese Policy in Formosa……………W. W. McLaren 79
	ビスマルクとカザール (第一回)……………林 毅陸 95
[時 評]	勤儉貯蓄説の流行——文部大臣の文学者招待——憲法発布廿年——外務大臣の 対米意見……………高橋誠一郎 107
	新著批評……………星野 勉三 115
[雑 録]	月の引力と人体の関係並に七の數に就て……………清水 静文 117
	千九百〇七年の恐慌を論ず……………丸山 義造 119
	蘇州杭州論……………加藤勝三郎 130
第1巻第3号 (1909年4月)	
[論 説]	代理行為の要件を評す……………神戸寅次郎 1
	A Chapter out of the Life of Two Friends……………A. Lloyd 23
	ビスマルクとカザール (第二回)……………林 毅陸 35
	利潤分配制度論……………気賀 勘重 49
	班田の法と井田の法 (続)……………清水 静文 67
[講 演]	郵便貯金と社会問題……………桑田 熊蔵 85
[時 評]	壟塞関係——高等商業学校の紛紜——富豪専制か貧民専制か——貴族院と都制案——タフト氏 と黒人問題——又新会と新党政——黙阿彌劇の運命——空中時代来らんとす……………高橋誠一郎 105
[雑 録]	英文学の趣味養成に必要な小文庫……………田中萃一郎 115
	露国農民界の大革命……………小倉 和市 127
	濠洲に於ける移民問題と国防問題……………小倉 和市 130
	新著批評……………田中萃一郎 134
第1巻第4号 (1909年5月)	
[論 説]	Emil Reich 氏の史学研究法 (第三回)……………田中萃一郎 1

	利潤分配法論……………	気賀 勲重	33
	代理行為の要件を評す (承前) ……	神戸寅次郎	57
[講演]	運河と海運業……………	堀 光亀	73
[時評]	試験制度と師弟の関係——釈尊降誕会——英独製艦競争——米国茶税案否決 ——日糖重役の拘引——雑誌界の傾向……………	高橋誠一郎	93
[雑録]	露国文豪アンドレエフ論……………	昇 曙 夢	103
	ルーズベルト氏時代概観……………	小倉 和市	111
[新著批評]	気賀勲重解説 フィリップovich氏『経済政策』……………	星野 勉三	127
	堀江帰一著『財政学』……………	星野 勉三	130
	E. H. Parker: Ancient China simplified……………	田中萃一郎	131
<b>第1巻第5号 (1909年6月)</b>			
[論説]	日本基督教史の研究……………	阿部 秀助	1
	人物発生に対する自然の界勢力……………	田中 一貞	17
	代理行為の要件を論ず……………	神戸寅次郎	33
	最恵国条款及び其分類……………	板倉 卓造	57
[時評]	英国の財政難——エリオット総長と旭日章——英国下院の歳費案可決—— 統監交迭の内議——勃牙利の独立承認——アタナの大虐殺——商大問題 ——瀆職代議士の続出……………	高橋誠一郎	71
[雑録]	欧洲関税政策の現状……………	小倉 和市	81
	看却せられたる経済学上の緊要問題……………	三辺 金蔵	93
	コオト シヤタア……………	小山内 薫	103
[新著批評]	ヒルト教授著『支那古代史』……………	田中萃一郎	121
<b>第2巻第1号 (1909年7月)</b>			
[論説]	マルクス「資本論」第三巻研究の一節……………	福田 徳三	1
	法王レオと宗教改革……………	木村 重治	25
	ジョン、ラスキンの立脚地より見たる俳句……………	忽滑谷快天	49
[時評]	革命思想の文学——其後の高商事件——大隈伯とチロル氏との問答——ダルキン 百年祭——海軍拡張と財政難——布哇邦人同盟罷業の再燃——孔子廟の焼火 ——武士道の流行……………	高橋誠一郎	87
[雑録]	法律発達の新紀元……………	小倉 和市	97
	社会主義と共産主義……………	高橋誠一郎	109
<b>第2巻第2号 (1909年9月)</b>			
[論説]	人生の意義及び価値 (第一回) ……	川合 貞一	1
	新文学の弁……………	馬場 孤蝶	15
	本能の解釈に関する俗説を排す……………	稲垣 末松	27
[講演]	外資輸入に就て……………	渋沢 栄一	43
	人間の発展……………	建部 遯吾	52
[雑録]	看却されたる経済学上の緊要問題 (続き) ……	三辺 金蔵	77
	領水概論……………	小倉 和市	90
[新著批評]	田中萃一郎訳補 ドーソン男著『蒙古史』……………	阿部 秀助	103
	小林行郎著『倉庫及税関』……………	堀江平重郎	105

<b>第2巻第3号</b> (1909年10月)			
[論 説]	人生の意義及び価値 (第二回) .....	川合 貞一	1
	都市と人物発生との関係 .....	田中 一貞	13
	上総介忠輝 .....	阿部 秀助	33
[講 演]	産業組合の鼻祖ライフアイゼンの伝 .....	矢作 栄蔵	49
[時 評]	英国貴族院と自由党内閣——ローズベリー伯の予算案反対——工場法案の制定 ——歳費増額案——政友会十周年大会——直轄学校に対する修身訓令—— 北極探検家の功名争ひ——火星との通信 .....	高橋誠一郎	61
[雑 録]	領事裁判を論ず .....	小倉 和市	71
	亜米利加鉄道会社の概要 .....	鈴木恒三郎	82
[新 著 批 評]	加藤政之助著『産業政策』 .....	星野 新吉	93
<b>第2巻第4号</b> (1909年11月)			
[論 説]	社会と境遇及天然 .....	河辺 治六	1
	上総介忠輝 .....	阿部 秀助	15
	ルソーとパーク .....	松岡 正男	29
[講 演]	趣味ある経済資料 .....	井上 友一	39
[時 評]	士君子の競技 .....	高橋誠一郎	55
[雑 録]	戦時封鎖を論ず .....	小倉 和市	65
	社会価値の概念 .....	小泉 信三	88
[新 著 批 評]	匿名女史著『若き女工の経歴談』 .....	星野 勉三	97
<b>第2巻第5号</b> (1909年12月)			
[論 説]	漢代の非官営論 .....	田中萃一郎	1
	司法権の性質 .....	泉二 新熊	18
	上総介忠輝 .....	阿部 秀助	30
[講 演]	経済雑感 .....	添田 寿一	47
[時 評]	布哇に於ける日本労働者——工場法案と幼年工及び女工——イブセン劇の試演 ——陪審制度と政友会——学制改革案の解決難——女学生と「可らず訓」 ——浜野先生の長逝 .....	高橋誠一郎	65
[雑 録]	独逸の政変と財政改革 .....	金 嶺 生	77
	米国に於ける国家権力伸長の由来 .....	小倉 和市	86
	ドルチェスタア事件とオーウェンズム .....	高橋誠一郎	98
<b>第3巻第1号</b> (1910年1月)			
[論 説]	朝鮮統治の道如何 .....	竹越与三郎	1
	日本銀行増資問題 .....	堀江 帰一	17
	労働者の組織 .....	気賀 勘重	35
	人生の意義及び価値 (第三回) .....	川合 貞一	51
[雑 録]	英蘭銀行に関する研究 (其一) .....	堀江 帰一	65
	海外経済事情要報 .....	堀江 帰一	77
	印度の統治に関する英米論客の論争 .....	小倉 和市	83
	カプールの後半生 .....	高橋誠一郎	99

第3巻第2号 (1910年2月)			
[論 説]	ジヨン、ロツクの私有財産制度論……………	福田 徳三	1
	殖民地の財政方針……………	堀切善兵衛	17
	耕地整理の方針に対する一疑議 (其一) ……	気賀 勘重	35
	上総介忠輝 (其四) ……	阿部 秀助	43
[雑 録]	英蘭銀行に関する研究 (其二完) ……	堀江 帰一	59
	米国中央銀行設立問題 (其一) ……	松田 暢	66
	仏国土地所有制度の現状……………	久山寅一郎	76
	テ紙事件と独逸前宰相との関係を論じて金嶺生を駁す……………	北 東 生	84
	カプールの後半生 (其二) ……	高橋誠一郎	91
[新 著 紹 介]	スタニユール氏『英仏両国公債比較論』……………	堀江 帰一	103
	『実践国際為替』……………	堀江 帰一	105
	Grunzel: Allgemeine Volkswirtschaftslehre. ……	星野 勉三	106
第3巻第3号 (1910年3月)			
[論 説]	労働取引所論……………	堀江 帰一	1
	耕地整理の方針に対する一疑議 (其二完) ……	気賀 勘重	21
	上総介忠輝 (其五完) ……	阿部 秀助	34
	女王ヴィクトリヤとパーメルストーン……………	林 毅陸	64
	最近の土地所有法改良運動……………	星野 勉三	82
[雑 録]	海外経済事情要報……………	堀江 帰一	95
	英国憲法上の危機……………	小倉 和市	105
	実際経済政策に対する経済学の意義……………	小泉 信三	116
	米国中央銀行設立問題 (其二完) ……	松田 暢	128
[新 著 紹 介]	ゴータイン氏『独逸保護関税影響論』……………	堀江 帰一	139
	アツシユレー氏註 ミル氏『経済原論』……………	堀江 帰一	142
第3巻第4号 (1910年4月)			
[論 説]	自然法に関する学説の変遷を論ず……………	田中萃一郎	1
	英国の銀行準備金問題 (其一) ……	堀江 帰一	23
	最恵国条款の沿革……………	板倉 卓造	41
	人生の意義及価値 (其四) ……	川合 貞一	65
[講 演]	イスパニア大艦隊破滅談……………	箕作 元八	75
[雑 録]	教育史上の自然主義 (其一) ……	石田新太郎	97
	奥匈国銀行の外国為換政策……………	久山寅一郎	103
	遊戯の説 (其一) ……	沢木四方吉	115
	カプールの後半生 (其三完) ……	高橋誠一郎	124
[新 著 紹 介]	幸田成友著『大塩平八郎』……………	阿部 秀助	136
第3巻第5号 (1910年5月)			
[論 説]	物価名義雑考……………	福田 徳三	1
	殖民及殖民地の意義……………	堀切善兵衛	19
	英国の銀行準備金問題 (其二完) ……	堀江 帰一	27
	社会的勢力としての欲望を論ず……………	田中 貞一	45
[講 演]	陪審制度論……………	大場 茂馬	61

〔雑 録〕	ギールケ教授憲法論……………小倉 和市	81
	英国工場法の淵源（其一）……………高橋誠一郎	102
	教育史上の自然主義（其二）……………石田新太郎	112
〔新著紹介〕	気賀勘重解説『経済政策後編上巻』……………三辺 金蔵	123
<b>第3巻第6号</b> （1910年6月）		
〔論 説〕	銀行の投機的業務……………気賀 勘重	1
	独逸中央党の労働者保護運動……………田中萃一郎	27
	宗教改革時代と資本主義……………阿部 秀助	67
〔講 演〕	歴史の裏面……………久米 邦武	77
〔雑 録〕	英国工場法の淵源（其二）……………高橋誠一郎	89
	教育史上の自然主義（其三完）……………石田新太郎	102
	ロイド、ジヨージの予算案を評す……………増井 幸雄	112
	遊戯の説（其二完）……………沢木四方吉	123
	歴史と言語学……………村田岩次郎	131
〔新著紹介〕	O. Most; Die Schuldenuirtschaft der Deutschen Städte……………星野 勉三	133
	F. Zadow; Der ausserordentliche Finanzbedarf der Städte……………星野 勉三	136
<b>第4巻第1号</b> （1910年7月）		
〔論 説〕	救貧法調査委員会報告と失業問題……………堀江 帰一	1
	愛蘭問題の将来……………田中萃一郎	19
	南阿連合と英国殖民政策の真髓……………堀切善兵衛	33
	人生の意義及び価値……………川合 貞一	53
〔雑 録〕	英国工場法の淵源（其三）……………高橋誠一郎	61
	徳川初期に於ける日韓関係……………小沢 愛国	82
	アダム・スミス国富論解題略……………小泉 信三	92
	国勢調査方法の変遷……………高木 貞一	109
〔新著紹介〕	英文東欧問題参考書一二……………田中萃一郎	122
<b>第4巻第2号</b> （1910年8月）		
〔論 説〕	失業保険論……………気賀 勘重	1
	救貧法調査委員会報告と失業問題（其二完）……………堀江 帰一	27
	地方財政の研究……………星野 勉三	43
〔講 演〕	延喜時代に於ける都鄙文化の懸隔……………大森金五郎	53
	地方経済に就て……………床次竹次郎	66
〔雑 録〕	欧文史籍便覧……………田中萃一郎	75
	日本の殖民地統治問題……………小倉 和市	80
	十八世紀の国家観と其反動……………村田岩次郎	92
	徳川初期に於ける日韓関係（其二完）……………小沢 愛国	100
	米国所得税法改正問題……………吉村 良	108
〔新著紹介〕	竹越与三郎氏著『南国記』……………田中萃一郎	113
<b>第4巻第3号</b> （1910年9月）		
〔論 説〕	英国の貴族院問題……………林 毅陸	1
	営利衝動論（其一）……………気賀 勘重	31



	米布合併の先例 (其一) .....	板倉 卓造	41
[講演]	本年度の歳計に就て .....	若槻礼次郎	65
[雑録]	英国の予算案議事とコンソル公債問題 .....	堀江 帰一	83
	シモンド、 <sup>(ママ)</sup> ヅ、シスモンヂの生涯 (其一) .....	高橋誠一郎	87
	日本の殖民地統治問題 (其二、完) .....	小倉 和市	99
	イナマ教授の日本墨西哥比較論 .....	小泉 信三	109
	英国労働党の変遷 .....	河合清太郎	114
[新著紹介]	柳田国男氏著『石神問答』 .....	田中萃一郎	121
<b>第4巻第4号 (1910年10月)</b>			
[論説]	商業政策に関する時論 .....	堀江 帰一	1
	米布合併の先例 (其二完) .....	板倉 卓造	34
	営利衝動論 (其二完) .....	気賀 勸重	53
[講演]	家屋の構造と経済状態 .....	下村 宏	71
[雑録]	ヴント氏生理的心理学所載の変体心理論 (其一) .....	稲垣 末松	91
	露西亞及露西亞人 .....	広瀬 哲士	99
	シモンド、 <sup>(ママ)</sup> デ、シスモンヂの生涯 (其二) .....	高橋誠一郎	106
	芬蘭憲法 .....	田中萃一郎	117
[新著紹介]	箕作元八氏著『西洋史講話』 .....	田中萃一郎	128
<b>第4巻第5号 (1910年11月)</b>			
[論説]	社会主義の現状及び将来 .....	田中萃一郎	1
	フオルクウエーとは何ぞや .....	田中 一貞	25
	立憲工場論 .....	星野 勉三	38
[雑録]	英国憲法上に於ける国王の地位 (其一) .....	小倉 和市	49
	シモンド、ド、シスモンヂの生涯 (其三) .....	高橋誠一郎	59
	「ヴント」氏生理的心理学所載の変体精神現象 (其二) .....	稲垣 末松	78
	ヘーゲルの国家観 .....	村田岩次郎	88
	「近世史研究案内」 .....	田中萃一郎	93
[新著紹介]	Les Origines diplomatiques de la guerre de 1870-1871. ....	林 毅陸	103
	大西猪之介著『帝国主義論』 .....	林 毅陸	105
	大場茂馬著『刑法各論』 .....	西村富三郎	106
<b>第4巻第6号 (1910年12月)</b>			
[論説]	レフエレンダムの得失を論じて英国憲政の前途を卜す .....	田中萃一郎	1
	政府の財政方針に就て .....	堀切善兵衛	35
	米国政界の変動 .....	板倉 卓造	53
[雑録]	シモンド、ド、シスモンヂの生涯 (其四) .....	高橋誠一郎	79
	「ヴント」氏生理的心理学所載の変体精神現象 (其三) .....	稲垣 末松	102
	英国憲法上に於ける国王の地位 (其二) .....	小倉 和市	113
	トライチユケの政党論 .....	村田岩次郎	123
	「伯林近信」 .....	阿部 秀助	129
[新著紹介]	The Political History of England Edited by W. Hunt and R. L. Poole ...	田中萃一郎	130

第5巻第1号 (1911年1月)	
[論 説]	企業連合及び企業合同の競争者に及ぼす影響…………… 気賀 勘重 1
	The Harvard Group-Elective System…………… W. W. McLaren 14
	支那の君主及び国体…………… 橋本 増吉 29
[雑 録]	市民的国民経済学と社会主義的国民経済学との接近 (其一)…………… 高橋誠一郎 55
	ヘルマン、ハインリヒ、ゴツセンと其学説…………… 小泉 信三 67
	米国憲法と大統領の権能 (其一)…………… 小倉 和市 77
	法権の圧迫と労働組合…………… 高橋誠一郎 89
	帝国主義の経済学…………… 宮坂 作衛 101
[新 著 紹 介]	Andrew D. White: Seven Great Statesmen…………… 田中萃一郎 116
第5巻第2号 (1911年2月)	
[論 説]	輸出廉売を論ず…………… 気賀 勘重 1
	日本版刻術の進歩につき (其一)…………… 幸田 成友 26
	朝鮮に於ける日本商人の前途…………… 星野 勉三 33
	ナポレオンの平和的事業 (其一)…………… 占部百太郎 44
[雑 録]	慶長末年英人通商談…………… 田中萃一郎 52
	米国憲法と大統領の権能 (其二)…………… 小倉 和市 62
	市民的国民経済学と社会主義的国民経済学との接近 (其二)…………… 高橋誠一郎 74
	グレーン、エレベーター…………… 明智 滝郎 86
[新 著 紹 介]	岡村玄治著『法之真髓』…………… 西村富三郎 90
	青木徹二著『手形法論』…………… 西村富三郎 90
第5巻第3号 (1911年4月)	
〈アダムスミス記念号〉	
	アダム、スミス記念号発刊之辞…………… 幹 事 巻頭
	アダム、スミス略伝及国富論諸版本に就て…………… 小泉 信三 1
	倫理学者としてのアダム、スミス…………… 川合 貞一 24
	アダム、スミスの政治学説…………… 田中萃一郎 42
	アダム、スミスの価値学説…………… 気賀 勘重 68
	アダム、スミスの殖民論…………… 堀切善兵衛 91
	アダム、スミスの財政論…………… 星野 勉三 107
	アダム、スミスと独逸の経済学…………… エルンスト、グリューンフェルト/星野勉三訳 118
	アダム、スミスの研究書目…………… 125
	アダム、スミス記念会記事…………… 135
第5巻第4号 (1911年10月)	
[論 説]	同盟罷工と工場閉鎖…………… 気賀 勘重 1
	バグダッド鉄道問題…………… 林 毅陸 39
	貧国論…………… 堀切善兵衛 63
	Municipal Tramways…………… W. W. McLaren 95
	経済学上より観たる済生会…………… 星野 勉三 123
	『労働』の新定義…………… 高城仙次郎 135
[雑 録]	英国民主政治の障碍…………… 村上 一郎 165
	経済学より観たる結婚問題…………… 高城仙次郎 177

	学界の消息——日、独、仏、英、米国の学界——	197
[批評紹介]	神戸寅次郎氏著『権利質論』	板倉 卓造 206
	戸田海市氏著『日本の経済』	高城仙次郎 207
	河上肇氏著『物財の価値』	高城仙次郎 211
<b>第6巻第1号 (1912年1月)</b>		
[論説]	小売制度の改善と公開市場	河津 暹 1
	「エルバルフェルド」救貧制度	堀江 婦一 17
	露国の政体に付て	田中萃一郎 27
	欲望の自変を論じて三辺教授に答ふ	寺尾 隆一 53
	The Unit of Labor	Senjiro Takagi 87
[雑録]	機関行為と国家の責任	村田岩次郎 99
	国際法上及国法上の主権	川端 審三 110
	経済学上より観たる結婚問題 (其二)	高城仙次郎 136
	社会政策学界大会記事	154
	学界の消息 日本及外国	167
[批評紹介]	津村教授著『商業政策』上巻及下巻	170
	福田博士著『経済学教科書』	179
	Clay's Syndicalism and Labour	184
	Taussig's Principles of Economics	186
<b>第6巻第2号 (1912年4月)</b>		
[論説]	効用遞減の法則成立の根拠	河上 肇 1
	犠牲の研究	河上 肇 4
	伊土戦争と国際法	板倉 卓造 21
	取引所制度の改善につきて	河津 暹 57
	白河楽翁公の『物価論』を評す	高城仙次郎 79
[雑録]	主観的価値論沿革の一節	小泉 信三 109
	我国上中古に於ける都府の発達	松本彦次郎 137
	物価の変動と当座預金	高城仙次郎 156
[批評紹介]	堀江教授著『中央銀行と金融市場』	173
	フィッシャー原著 河上學士評訳『資本及利子歩合』	178
	デー原著 三上氏訳述『世界商業史』	190
	広中法學士著『独逸殖民新論』	191
	フィリップポヴィッチ原著 氣賀教授解説『経済政策後篇』(下巻)	192
<b>第6巻第3号 (1912年7月)</b>		
[論説]	英国炭坑最低賃銀法	関 一 1
	英国職工組合の法制的地位を論じて最低賃銀国定制度に及ぶ	堀江 婦一 25
	閉却せられたる銀行貸出の二方面	佐野 善作 51
	土地価格の上騰に就きて	神戸 正雄 77
	Social Policy of John Stuart Mill	W. W. McLaren 91
	我国に於ける物価騰貴の根本的原因は何ぞや	高城仙次郎 125
[雑録]	千八百九十六年以来の物価変動の原因	増井 幸雄 165
	室町時代の経済史的事実の一端	松本彦次郎 189

	米国都市委員制度の特徴……………	村田岩次郎	197
[紹介]	フィリップヴィッチ氏原著 気賀教授解説『経済政策後篇』下巻……………		207
<b>第6巻第4号 (1912年10月)</b>			
[論説]	小作料金納の利害……………	桑田 熊蔵	1
	住居問題……………	気賀 勘重	15
	商人の意義に関する立法主義……………	松本 烝治	37
	原始民族に於ける交換の意義……………	阿部 秀助	53
	国際法上国家及び国家の分類に関する私論……………	板倉 卓造	73
[雑録]	欧洲に於ける特異なる三種の銀行……………	小原喜三郎	95
	株式の消却……………	西本辰之助	110
	英国国民保険法……………	増井 幸雄	125
	憲法発展上に於ける合衆国の地位……………	吉田 三郎	147
	経済学上より自殺を論じて乃木大将の自刃に及ぶ……………	高城仙次郎	163
[紹介]	河田学士 岡本学士共著『日本の経済と仏教』(松本)……………		187
<b>第7巻第1号 (1913年1月)</b>			
[論説]	労働時間を論ず……………	関 一	1
	外国貿易と国民経済の権衡……………	堀切善兵衛	31
	アダム・スミスの価値論に就いて……………	河上 肇	59
	英国々民保険法に於ける失業保険制度……………	堀江 帰一	89
	貨幣の本質……………	神戸 正雄	123
[雑録]	同盟罷業と独仏両国の法制……………	堀江 帰一	159
	日本経済史料(室町時代記録の部)……………	松本彦次郎	165
	国家観念の要素としての主権と統治権……………	村田岩次郎	182
[批評と紹介]	An Introduction to the Study of Prices, by Layton……………	増 井	199
	The Theory of Value, by Smart……………		206
	Syndicalism, by Macdonald……………		208
<b>第7巻第2号 (1913年4月)</b>			
[論説]	経済学上より観たる動物の生活と人類の生活……………	河上 肇	1
	公債の弊害……………	星野 勉三	73
	日本に於ける憲政の進歩(英文)……………	マクラレン	83
	貨物の価格と物価の平準との関係……………	高城仙次郎	101
[雑録]	物価下落の徴候……………	ア シ レ イ	139
	日本経済史料(室町時代記録の部)……………	松本彦次郎	143
	英国に於ける内外投資利廻の比較……………	増井 幸雄	159
	倫敦金融と外国銀行支店……………	スポールデン	175
	世界の石炭産額と消費……………	エコノミスト	184
[批評と紹介]	田中萃一郎選『欧米の政党政治』……………		189
	武田英三著『税関行政綱要』……………		190
	野村商店編纂『株式年鑑』……………		190
	農商務省編纂『保険年鑑』……………		191
	宇都宮鼎著『財政学』……………		192
	松村光三著『賃銀論』……………		194

	Principles of Economics, Vol.II by Pierson	197
	Japanische Industriearbeit, Von E. A. Heber	198
	The Laws of Supply and Demand, by G. B. Dibblee	198
	Traité et Conventions Commerciaux par le Ministère des affaires étrangères	199
	Life of David Lloyd George, vol.I, by Du Parcq	199
	The Malthusian Limit, by Edward Isaacson	200
	Economic Beginnings of the Far West, 2 vols, by Coman	200
<b>第7巻第3号 (1913年7月)</b>		
[論 説]	英国に於ける労働不安の状態	堀江 帰一 1
	仏国に於ける比例代表運動	田中萃一郎 29
	農業労働者の組織運動と小作組合	気賀 勘重 65
	近世資本主義と地代説	阿部 秀助 87
	貨幣数量説に関する諸税	神戸 正雄 127
[雑 録]	収穫通減及び通増の法則と生産力とに就て	増井 幸雄 159
	立憲君主国に於ける議会の地位	村田岩次郎 181
[批評と紹介]	小野塚教授著『現代欧洲之憲政』	田中萃一郎 197
	ヘイス氏著『英国社会政策』	堀江 帰一 199
	堀江博士著『経済財政横義』	201
	三上正毅氏訳『財政学』	202
	佐野博士著『取引所投機取引論』上巻	203
	飯島氏著『社会問題の根本観念』	204
<b>第7巻第4号 (1913年10月)</b>		
[論 説]	制定法規としての憲法の特質	美濃部達吉 1
	英国憲法の特性	占部百太郎 15
	日本及び外国に於ける公債株券の騰落と其原因	高城仙次郎 31
	労働者に対する雇主の連合	気賀 勘重 65
[雑 録]	英国先帝の外交的活動	田中萃一郎 89
	近世に於ける銀行の集中運動に就て	高島佐一郎 105
	恐慌の原因	イングランド夫人 130
	日本中世経済史料	松本彦次郎 141
	最近十年間に於ける物価騰貴	オイレンブルグ 161
	国家と法	村田岩次郎 177
[批評と紹介]	関一著『工業政策』下巻	200
	西垣恒矩著『米穀経済論』	201
<b>第8巻第1号 (1914年1月)</b>		
[論 説]	減債基金制度の今昔	堀江 帰一 1
	中世企業史に関する研究	阿部 秀助 17
	経済的努力論	堀切善兵衛 37
[雑 録]	英国の食物供給問題	『エコノミスト』 49
	ボエムバヴェルク氏利子論の基礎としての主観的価値	増井 幸雄 53
	上杉博士の憲法論	村田岩次郎 74
	倫敦に於ける日本及び他国の市債	『エコノミスト』 90

	新聞売子の研究……………	中村 桂	96
	英国に於ける鉄道国有の損益を論ず……………	レーフェルド	115
[批評と紹介]	キインス氏著『印度通貨並に金融論』……………	堀 江	124
<b>第8巻第2号</b> (1914年3月)			
[論 説]	兌換制度の本体と変体……………	堀江 帰一	1
	仏国政界の二大勢力……………	田中萃一郎	27
	大企業に於ける兼業の発達(一)……………	気賀 勸重	59
[雑 録]	労働争議解決に関する英国調査会の報告……………	堀江 帰一	75
	銀行、財政の交錯点並に預金組織への進展運動、殊に米国の連合準備の 新法に就て……………	高島佐一郎	82
	仏国の失業保険(上)……………	杉 琢磨	96
	都市と交通……………	増井 幸雄	108
	金融会社の先駆及其類例(一)……………	船尾栄太郎	119
<b>第8巻第3号</b> (1914年4月)			
[論 説]	大企業に於ける兼業の発達(二、完)……………	気賀 勸重	1
	無尽会社必要論……………	星野 勉三	23
	英国の内閣制と大宰相の地位……………	占部百太郎	39
[雑 録]	仏国の失業保険(下)……………	杉 琢磨	67
	英独市政比較論(一)……………	村田岩次郎	79
	軍備拡張と直接税の増収……………	田辺 高雄	92
	金融会社の先駆及其類例(二)……………	船尾栄太郎	97
	正貨補充問題と積極政策……………	高城仙次郎	105
[批評と紹介]	伊藤重次郎著『海運論』……………	高 城	121
	山田伊三郎訳『国民経済原論』……………	高 城	125
<b>第8巻第4号</b> (1914年5月)			
[論 説]	独逸消費組合の近況に就て……………	高野岩三郎	1
	十七、八世紀に於ける和蘭経済学説(一)……………	福田 徳三	11
	民族の企業化(上)……………	阿部 秀助	37
	利子歩合に及ぼす外資輸入の影響……………	高城仙次郎	60
[雑 録]	代議政治と直接民主政治……………	占部百太郎	85
	独逸大銀行の発達(上)……………	林屋友次郎	90
	英独市政比較論(二)……………	村田岩次郎	100
	屯倉について(大化革新以前の土地制)……………	松本彦次郎	114
[批評と紹介]	松尾音次郎著『我国商工業之現在及将来』……………		124
	三上正毅訳『ユートピア』……………		125
<b>第8巻第5号</b> (1914年6月)			
[論 説]	職工組合の組織……………	堀江 帰一	1
	農業と商工業の衝突(一)……………	堀切善兵衛	21
	民族の企業化(下)……………	阿部 秀助	33
[雑 録]	万国社会保険会議に就て……………	杉 琢磨	49
	英独市政比較論(三、完)……………	村田岩次郎	59

	地代と穀価	増井 幸雄	68
	金融会社の先駆及其類例 (三、完)	船尾栄太郎	85
	独逸大銀行の発達 (中)	林屋友次郎	102
[批評と紹介]	マレット氏著『英国財政二十五年史』	堀 江	111
	ウイッテ伯著『国民経済並財政講義』	阿 部	113
	石原医学士著『女工之現況』	阿 部	115
	高垣商学士著『銀行集中論』	片 桐	115
<b>第8巻第6号 (1914年7月)</b>			
[論 説]	経済政策と経済的自由	気賀 勤重	1
	農業と商工業の衝突 (二)	堀切善兵衛	26
	大蔵大臣の経済観を評す	高城仙次郎	39
[雑 録]	加奈陀工業紛議調査法実績	堀江 帰一	55
	国家と自治体	村田岩次郎	69
	経済史観の前九年後三年の役	松本彦次郎	79
	和蘭に於ける労働者運動 (一)	大矢知 昇	93
	資本主義の社会的研究	阿部 秀助	103
[批評と紹介]	アシレー嬢著『比公の社会政策』	阿 部	113
	トレルチ氏著『流行に関する国民経済的観察』	阿 部	114
	バーバー氏著『物価並利潤に及ぼす金供給の影響』	高 城	115
	インネス氏著『貨幣とは何ぞや』	高 城	119
	帝国通信社編纂『大正三年日本経済年鑑』		121
	野村商店編纂『株式年鑑』		122
<b>第8巻第7号 (1914年9月)</b>			
[論 説]	独仏両国軍備充実計画	田中萃一郎	1
	無条件最恵国条款は絶対的無償規定に非ず	板倉 卓造	25
	戦乱と物価	高城仙次郎	43
[雑 録]	最近の労働者問題概観 (其一)	松崎 寿	65
	財政上の緊急処分	村田岩次郎	79
	和蘭労働者運動 (其二 完)	大矢知 昇	88
	米国連邦新所得税法 (上)	向井 鹿松	103
	就職難論	前田 隆吉	112
[批評と紹介]	カナン氏著『富』		127
	沢田吾一氏著『高等利息算』		128
	フィシャー氏著『貨幣の購買力』		128
	ピグー氏著『失業論』		129
<b>第8巻第8号 (1914年10月)</b>			
[論 説]	欧洲の大戦役と列強の財力	阿部 秀助	1
	欧洲大戦と伊太利の態度	占部百太郎	20
	資本の実体に就て (一)	堀切善兵衛	41
	欧洲開戦後の倫敦金融市場	堀江 帰一	53
	独逸の勝敗と農工立国問題	星野 半六	79
	戦闘資本を論じて独逸の耐久力に及ぶ	高城仙次郎	90

〔雑 録〕	交通機関と経済との関係……………	増井 幸雄	123
	山東省の経済事情……………	気賀 勤重	137
	普国行政法上個人の地位……………	村田岩次郎	147
	米国連邦新所得税法（下）……………	向井 鹿松	157
	最近の労働者問題概観（其二）……………	松崎 寿	169
〔批評と紹介〕	ミュンスターベルヒ著『心理学と経済生活』……………	阿 部	182
	『日本経済叢書』……………	阿 部	183
<b>第8巻第9号</b> （1914年11月）			
〔論 説〕	十七、八両世紀に於ける和蘭経済学説（二）……………	福田 徳三	1
	欧洲戦争中の倫敦金融市场……………	堀江 帰一	13
	資本の実体に就て（二、完）……………	堀切善兵衛	28
	欧洲大戦乱破裂前の英国外交……………	林 毅陸	57
	ベルナルド、ダヴンヅァチの貨幣論（上）……………	高橋誠一郎	87
〔雑 録〕	利益分配並に労資協同制度に関する調査……………	堀江 帰一	99
	巴拿馬運河条約中の永久中立の意義……………	泉 哲	112
	玉葉の経済的研究（上）……………	松本彦次郎	121
	金為替本位と印度通貨（一）……………	向井 鹿松	128
〔批評と紹介〕	服部文四郎著『銀行原論』……………		133
	小林丑三郎著『日本財政論』……………		133
<b>第8巻第10号</b> （1914年12月）			
〔論 説〕	英仏大小農制度に関するアーサー、ヤングの研究（其一）……………	福田 徳三	1
	ベルナルド、ダヴンヅァチの貨幣論（下）……………	高橋誠一郎	27
	手形債務発生の原因……………	西本辰之助	43
〔雑 録〕	独逸の戦時経済……………	阿部 秀助	71
	欧洲戦乱勃発当時に於ける倫敦金融市场……………	増井 幸雄	78
	玉葉の経済史的研究（下）……………	松本彦次郎	99
	金為替本位と印度通貨（二、完）……………	向井 鹿松	109
	日本に於ける田地の利廻りと農民の貯蓄心……………	高城仙次郎	119
〔批評と紹介〕	和田垣博士紀念『経済論叢』……………		129
	津村秀松著『国民経済学原論』……………		131
	板倉卓造著『欧洲戦乱の真相と交戦列国』……………		132
<b>第9巻第1号</b> （1915年1月）			
〔論 説〕	穀価調節論を評す……………	河津 暹	1
	不景気の由来及び効果……………	気賀 勤重	15
	欧洲戦乱期に於ける英仏大小農制度に関するアーサーヤングの研究（其二）……………	福田 徳三	38
	独逸と穀物関税問題……………	阿部 秀助	62
〔雑 録〕	新西蘭に於ける近時の労働紛議……………	松崎 寿	75
	英国法制上警察権の限界……………	村田岩次郎	87
	経済学上より観たる戦争……………	高城仙次郎	94
〔批評と紹介〕	堀江帰一著『欧洲戦時の経済財政』……………	増 井	105
	フォン・ビュロー著 間崎万里訳『独逸外交政策』……………	松 本	106
	津村秀松著『国民経済学原論』……………		108



	板倉卓造著『国民政治読本』	108
第9巻第2号 (1915年2月)		
〔論 説〕	英吉利帝国は瓦解すべきか	占部百太郎 1
	欧洲戦時の中央銀行	堀江 帰一 27
	穀価調節策論を評す (中)	河津 暹 54
〔雑 録〕	英国最低賃銀裁定局法施行の状況	堀江 帰一 67
	欧洲戦乱と米国金融市場	松崎 寿 73
	国家意志の帰一	村田岩次郎 81
	限界収穫均等の法則 (上)	増井 幸雄 91
	一九一四年八九月に於ける倫敦金融市場と英蘭銀行 (一)	高島佐一郎 101
〔批評と紹介〕	ヒグス著『英国財務制度』	堀 江 112
	阿部秀助著『独逸対列強の抗争』	占 部 112
	レキニス著『国民経済学汎論』	阿 部 113
	占部百太郎著『英国憲法政治』	間 崎 113
第9巻第3号 (1915年3月)		
〔論 説〕	裁判所の命令審査権に付て	美濃部達吉 1
	欧洲戦乱期に於ける英仏両国大小農制度に関するアーサー・ヤングの研究 (其三、完)	福田 徳三 10
	英仏独諸国の戦時財政	堀江 帰一 33
	米価調節策上に於ける農政上の一疑義	気賀 勘重 61
〔雑 録〕	The Persistent Misinterpretation of Ricardo's Value Theory	R. C. Whitnack 89
	埃及の将来 (埃及と英吉利帝国との関係如何)	占部百太郎 98
	一九一四年八九月に於ける倫敦金融市場と英蘭銀行 (二、完)	高島佐一郎 109
	限界収穫均等の法則 (下)	増井 幸雄 125
	経済政策の意義に就て (山本京大助教授の論文を読む)	松崎 寿 132
第9巻第4号 (1915年4月)		
〔論 説〕	穀価調節策論を評す (下)	河津 暹 1
	クロパトキンの史観	田中萃一郎 13
	地代と価格との関係 (上)	高城仙次郎 25
〔雑 録〕	ウ井ザース氏の新著『戦争とロムバード街』	堀江 帰一 45
	近世の国家に於ける官僚の地位	村田岩次郎 59
	一九一四年末に当り金融の将来を憶ふ	高島佐一郎 72
	福田博士に答ふ	高岡 熊雄 85
	金融に及ぼす大戦乱の影響 (上)	向井 鹿松 86
	リカルド分配論特に地代論の研究 (一)	島 文献 99
〔批評と紹介〕	マネー氏『国富は持続す可きか』	高 城 108
	朝河貫一氏『日本の封建土地制度の起源』	間 崎 109
第9巻第5号 (1915年5月)		
〔論 説〕	倫敦金融市場と事変通貨の供給	堀江 帰一 1
	A Modification of the Ricardian Theory of Rent.	D. H. Buchanan 30
	地代と価格との関係 (下)	高城仙次郎 38

[雑 録]	「オックスフォード小冊子」中の時局経済研究……………堀江 帰一	71
	『経済政策』の意義に就きて松崎寿氏に答ふ……………山本美越乃	81
	銀行業と生命保険業……………高島佐一郎	86
	金融に及ぼす大戦乱の影響（下）……………向井 鹿松	95
	リカルド分配論特に地代論の研究（二）……………島 文献	108
[批評と紹介]	福田徳三著『改定経済学研究』……………	117
	古仁所豊著『最近独逸産業の発達』……………	117
	安部磯雄著『最近の社会問題』……………	119
第9巻第6号（1915年6月）		
[論 説]	穂積博士の隠居論を読む（其一）……………福田 徳三	1
	中産階級政策（一）……………堀切善兵衛	22
	独逸戦時財政の根柢如何（上）……………阿部 秀助	32
[雑 録]	独逸都市の土地並に住宅政策……………村田岩次郎	53
	一九一四年十一月、戦時金融の前途（上）……………高島佐一郎	63
	リカルド分配論特に地代論の研究（三、完）……………島 文献	82
	再び経済政策の意義に就て山本助教授に質す……………松本 寿	90
[批評と紹介]	高野岩三郎著『統計学研究』……………	97
	大阪市野村商店編纂『株式年鑑』（大正四年度）……………	97
第9巻第7号（1915年7月）		
[論 説]	穂積博士の隠居論を読む（其二）……………福田 徳三	1
	英国政党政治の変局……………占部百太郎	25
	中産階級政策（二、完）……………堀切善兵衛	52
	独逸戦時財政の根柢如何（下）……………阿部 秀助	63
[雑 録]	責任支出に就て……………堀切善兵衛	73
	憲法の解釈に関する根本問題……………村田岩次郎	88
	第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑（一）……………高島佐一郎	96
	簡易保険案に対する生命保険協会の批評を読みて……………三辺 金蔵	106
	米価調節審査会の設置に就て（上）……………高城仙次郎	120
[批評と紹介]	大蔵省理財局編纂『金融事項参考書』（外国の部）……………	137
	鈴木久蔵訳『実業純率増進の心理』……………	138
第9巻第8号（1915年8月）		
[論 説]	穂積博士の隠居論を読む（其三）……………福田 徳三	1
	恐慌後の倫敦金融市場に於ける種々の変態……………堀江 帰一	22
	都会と田舎……………気賀 勘重	50
	札差に就きて（其一）……………幸田 成友	72
[雑 録]	欧洲戦時に於ける米国の金融政策並に連合準備金法の運用……………堀江 帰一	86
	第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑（二）……………高島佐一郎	103
	米価調節審査会の設置に就て（中）……………高城仙次郎	110
[批評と紹介]	ハムフレー著『国際社会主義と戦争』……………堀 江	121
	武藤栄次郎著『会計法規通論』……………	123

第9巻第9号 (1915年9月)	
[論 説]	穂積博士の隠居論を読む(其四)……………福田 徳三 1 札差に就きて(其二、完)……………幸田 成友 18 トーマス・マンと其の時代(一)……………高橋誠一郎 42
[雑 録]	欧洲戦争と英国対外放資……………シー・ケー・ホブソン 56 消費の順序並に限度に関する原則及び其の行はるゝ結果に就て(上)……………増井 幸雄 69 英国の連立内閣……………山崎 宗直 77 第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑(三)……………高島佐一郎 85 『経済政策』に関して再び松崎寿氏に答ふ……………山本美越乃 97 米価調節審査会の設置に就て(下の甲)……………高城仙次郎 105
[批評と紹介]	ルオアボリユー氏著『仏英独に於ける租税と所得』…………… 114
第9巻第10号 (1915年10月)	
[論 説]	穂積博士の隠居論を読む(五、完)……………福田 徳三 1 欧洲戦争と植民地問題……………堀切善兵衛 23 英国捕獲審検所に於ける独船智利号事件の検定(上)……………板倉 卓造 45 トーマス・マンと其の時代(二)……………高橋誠一郎 68
[雑 録]	独逸金融上の動員……………ベンゼキクス 91 消費の順序並に限度に関する原則及び其の行はるゝ結果に就て(下)……………増井 幸雄 110
[批評と紹介]	ヘッドラム著『十二日史』…………… 122 高島佐一郎著『金融の原理』…………… 124 小泉信三・三辺金蔵共訳『戦争是非』…………… 125 土屋興著『英国労働不安』…………… 127
第9巻第11号 (1915年11月)	
[論 説]	墨銀考……………田中萃一郎 1 英国捕獲審検所に於ける独船智利号事件の検定(下)……………板倉 卓造 15 トーマス・マンと其の時代(三)……………高橋誠一郎 37 新たに貸借理論を闡明して貸借対照表の形式論に及ぶ……………三辺 金蔵 69
[雑 録]	輿論政治と行政……………村田岩次郎 83 第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑(四)……………高島佐一郎 93 経済政策に関する山本助教授の答弁に答ふ……………松崎 寿 104 米価調節審査会の設置に就て(完結)……………高城仙次郎 114
[批評と紹介]	中田公直著『佐藤信淵ノ農政学説』…………… 132
第9巻第12号 (1915年12月)	
[論 説]	欧洲戦争と国際貸借殊に英米両国の貸借関係……………堀江 帰一 1 英国連合内閣成立の由来並びに其立法事業……………占部百太郎 37 トーマス・マンと其の時代(四、完)……………高橋誠一郎 57
[雑 録]	英国戦時の産業組織……………堀江 帰一 87 仏国憲政の研究……………村田岩次郎 99 第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑(五、完)……………高島佐一郎 110 経済学の科学的性質の変遷(上)……………大矢知 昇 126
[批評と紹介]	福田徳三著『改定経済学講義』第一巻…………… 142 浜田四郎著『現代式商店の経営』……………気 賀 143

	高島佐一郎著『貨幣及物価の原理』	145
	宇野利右衛門著『職工優遇論』	151
第10巻第1号 (1916年1月)		
[論 説]	米価調節私見(上)	気賀 勲重 1
	戦後の経済的革新(一)	阿部 秀助 27
	貸借対照表に於ける資産評価の原則に就て	三辺 金蔵 43
[雑 録]	地代概論(一)	増井 幸雄 61
	資本制発達の大特徴	高島佐一郎 74
	ハッチェック教授の独逸帝国議会論	村田岩次郎 88
	経済学の科学的性質の変遷(下)	大矢知 昇 95
[批評と紹介]	中島信虎著『大日本地方財政史』	114
第10巻第2号 (1916年2月)		
[論 説]	米価調節私見(下)	気賀 勲重 1
	印度の貨幣並に金融制度に関する研究	堀江 帰一 28
	戦後の経済的革新(二)	阿部 秀助 62
[雑 録]	比例代表制度の四典型	村田岩次郎 87
	社会政策より見たる加奈陀官営年金制度	松崎 寿 102
	日英の選挙法改正	山崎 宗直 116
	公開工業研究所に対する私見(上)	山崎 繁樹 132
	地代概論(二)	増井 幸雄 142
[批評と紹介]	上田貞次郎著『戦時経済講話』	157
第10巻第3号 (1916年3月)		
[論 説]	英国の強制徴兵制度	占部百太郎 1
	戦後の経済的革新(三)	阿部 秀助 27
	時と場所と物に依る海上捕獲権の制限	板倉 卓造 38
	墨銀考補遺	田中萃一郎 58
[雑 録]	欧洲諸国の戦費と戦時財政	堀江 帰一 69
	公開工業研究所に対する私見(下)	山崎 繁樹 87
	日支銀行法案概評	三宅嘉十郎 99
	英国の対米放資回収に関する規程一斑	堀江 帰一 114
	貴衆両院論	村田岩次郎 119
	英国の土地法	山崎 宗直 129
第10巻第4号 (1916年4月)		
[論 説]	兌換制度の停止と復興	堀江 帰一 1
	最近の巴爾幹問題(一)	林 毅陸 40
	戦後の経済的革新(四)	阿部 秀助 60
	社会政策としての簡易保険	堀切善兵衛 75
[雑 録]	最近に於ける奥国の財政	阿部 秀助 107
	地代概論(三)	増井 幸雄 119
	小川博士の正貨蓄積論を読む	三宅嘉十郎 139
	貸付利子歩合の解剖	高城仙次郎 149

[批評と紹介]	堀江帰一著『本邦経済社会の重要問題』	167
	青木得三著『貨幣論』	168
<b>第10巻第5号</b> (1916年5月)		
[論 説]	最近の巴爾幹問題(二)	林 毅陸 1
	英国憲法の本体	占部百太郎 26
	戦後の経済的革新(五、完)	阿部 秀助 42
[雑 録]	全米貨幣制度統一の計画	堀江 帰一 53
	都市の警察自治を論ず	村田岩次郎 63
	土地法と荘園	山崎 宗直 74
	戦時に於ける仏国の経済及財政(上)	高島佐一郎 91
	交戦状態を構成せずして武力を用ふる場合を論ず	泉 哲 102
	地代概論(四)	増井 幸雄 114
	貸付利子の本質に関する疑問	高城仙次郎 138
[批評と紹介]	鳥谷亮輔著『現代米国外交論』	154
<b>第10巻第6号</b> (1916年6月)		
[論 説]	米国銀行制度の新型	堀江 帰一 1
	地方経済振興策	堀切善兵衛 28
	年金に依る減価償却を論ず	三辺 金蔵 56
[雑 録]	交戦国貨幣低落と其防止策(一)	三宅嘉十郎 69
	地代概論(五、完)	増井 幸雄 86
	内外興信制度の研究(上)	山崎 繁樹 112
	戦時に於ける仏国の経済及び財政(下)	高島佐一郎 123
	長期貸借と短期貸借	高城仙次郎 136
[批評と紹介]	佐野善作 高垣寅次郎共著『銀行論』	153
	社会政策学会論叢 第九冊	153
<b>第10巻第7号</b> (1916年7月)		
[論 説]	台湾人同化論	田中萃一郎 1
	英国王の大権と実際政治上の地位	占部百太郎 18
	最近の巴爾幹問題(三、完)	林 毅陸 47
	輸出奨励の手段	気賀 勸重 77
[雑 録]	欧洲戦争と米国の貿易状態(上)	堀江 帰一 101
	内外興信制度の研究(下)	山崎 繁樹 119
	服部教授の『国際経済論』を評す	向井 鹿松 129
<b>第10巻第8号</b> (1916年8月)		
[論 説]	欧洲戦争と英国労働者の状態(上)	堀江 帰一 1
	天保人別改令(上)	幸田 成友 50
[雑 録]	欧洲平和の根本義	占部百太郎 73
	欧洲戦争と米国の貿易状態(上)	堀江 帰一 87
	仏国戦時の食料問題(下)	増井 幸雄 102
	交戦国貨幣低落と其防止策(二)	三宅嘉十郎 119
	資金需用論	高城仙次郎 140

[批評と紹介]	小野塚教授著『欧洲現代政治及学説論集』	田中萃一郎	165
<b>第10巻第9号</b> (1916年9月)			
[論 説]	欧洲戦争と英国労働者の状態 (下)	堀江 帰一	1
	露国及極東露領の関税政策 (上)	堀切善兵衛	39
[雑 録]	欧洲平和の根本義 (下)	占部百太郎	73
	仏国戦時の食料問題 (二)	増井 幸雄	87
	国際漁業警察 (上)	泉 哲	100
	資金供給論	高城仙次郎	108
[批評と紹介]	宇野利右衛門著『職工優遇の根拠』		123
<b>第10巻第10号</b> (1916年10月)			
[論 説]	ヴェクトリア並に新西蘭労働立法の近況 (上)	堀江 帰一	1
	露国及極東露領の関税政策 (中)	堀切善兵衛	42
	所得を中心とする経済理論の結構 (一)	小泉 信三	79
[雑 録]	仏国戦時の食料問題 (三、完)	増井 幸雄	95
	国際漁業警察 (下)	泉 哲	109
	交戦国貨幣低落と其防策 (三、完)	三宅嘉十郎	116
	米国経済学思潮の今昔 (上)	高島佐一郎	135
[批評と紹介]	美濃部達吉著『日本行政法』第四巻		145
<b>第10巻第11号</b> (1916年11月)			
[論 説]	ヴェクトリア並に新西蘭労働立法の近況 (下)	堀江 帰一	1
	露国及極東露領の関税政策 (下)	堀切善兵衛	36
	所得を中心とする経済理論の結構 (二、完)	小泉 信三	63
	戦争と金利	高城仙次郎	85
[雑 録]	正貨の増加と物価騰貴の関係 (再び小川博士に問ふ)	三宅嘉十郎	101
	英国戦後財政改革の一案	小泉 信三	116
	米国経済学思潮の今昔 (下)	高島佐一郎	121
	倉庫と金融	清崎 昌雄	128
	日露英仏公債の利廻	高城仙次郎	135
[批評と紹介]	鉄道院編纂『本邦鉄道の社会及経済に及ぼせる影響』	増井 幸雄	142
<b>第10巻第12号</b> (1916年12月)			
[論 説]	民族主義の研究 (奥国に於ける独逸民族の地位)	田中萃一郎	1
	ジン・フェインの叛乱 (上)	占部百太郎	23
	保護関税の効果	気賀 勤重	54
	天保人別改令 (下)	幸田 成友	77
[雑 録]	英仏両国対独逸貿易上の関係	堀江 帰一	101
	新造船の輸出に就て	増井 幸雄	112
	ジード氏の戦時並に戦後財政論	高城仙次郎	128
	仏国戦後の農業	増井 幸雄	142
[批評と紹介]	金井教授在職二十五年紀念『最近社会政策』		156

<b>第11巻第1号</b> (1917年1月)			
[論 説]	英国兌換制度の将来……………堀江 帰一	1	
	ジン・フェインの叛乱(下)……………占部百太郎	37	
	欧洲大戦の責任(一)……………林 毅陸	72	
[雑 録]	英国の食料及び原料……………気賀 勘重	103	
	大戦前の独逸の政策……………占部百太郎	117	
	フランソア・ケネーの経済論……………高橋誠一郎	122	
	戦後の独逸と内地移民問題……………阿部 秀助	142	
	グレシャムの法則と徳川時代の経済学説……………増井 幸雄	147	
	戦後の利子歩合……………高城仙次郎	158	
[批評と紹介]	伊藤重次郎著『交通論』第一篇……………阿部 秀助	169	
<b>第11巻第2号</b> (1917年2月)			
[論 説]	欧洲大戦の責任(二、完)……………林 毅陸	1	
	物価高き乎人安き乎……………堀切善兵衛	33	
	英国に於ける小農場運動の発展と戦後の土地政策(一)……………三辺 金蔵	53	
[雑 録]	合衆国の新財政策……………堀江 帰一	67	
	英国の食料及び原料(其二)……………気賀 勘重	75	
	英国社会運動史に就て(一)……………小泉 信三	84	
	慶長より元文に至る貨幣制度の変遷……………増井 幸雄	94	
	独逸為替相場低落の原因(上)……………小林 武男	111	
	大戦の教訓と極東主義……………泉 哲	123	
	利子歩合と価値……………高城仙次郎	129	
[批評と紹介]	フォン・クリス著『支那経済財政論』……………阿部 秀助	145	
<b>第11巻第3号</b> (1917年3月)			
[論 説]	印度の金融と印度証券……………堀江 帰一	1	
	「フキジオクラット」の純収益論に就きて……………高橋誠一郎	26	
	英国に於ける小農場運動の発展と戦後の土地政策(二)……………三辺 金蔵	51	
[雑 録]	国民主義の研究……………占部百太郎	59	
	英国社会運動史に就て(二、完)……………小泉 信三	65	
	独逸為替相場低落の原因(下)……………小林 武男	79	
	利子論上に於ける貨幣数量説(一)……………高城仙次郎	89	
[批評と紹介]	副島八十六著『帝国南進策』……………	109	
<b>第11巻第4号</b> (1917年4月)			
[論 説]	戦後の関税政策(上)……………堀江 帰一	1	
	国家の生物学的観察……………田中萃一郎	25	
	非人寄場……………幸田 成友	45	
	支那と関税(一)……………阿部 秀助	66	
[雑 録]	沙翁の著書として誤伝せられたる匿名氏の経済論……………高橋誠一郎	87	
	農村救済と耕地拡張……………気賀 勘重	106	
	史上より観たる世界主義(上)……………占部百太郎	117	
	利子論上に於ける貨幣数量説(二)……………高城仙次郎	126	
[批評と紹介]	福田徳三著『国民経済講話』……………	150	

	関口健一郎訳『アダム・スミスの帝国主義観』	151
第11巻第5号 (1917年5月)		
[論 説]	戦後の関税政策 (下)	堀江 帰一 1
	フェルヂナンド・ラッサルと独逸労働者 (一)	小泉 信三 24
	支那と関税 (二)	阿部 秀助 32
[雑 録]	欧洲戦時に於ける通貨、物価、為替相場 (上)	堀江 帰一 45
	史上より観たる世界主義 (下)	占部百太郎 58
	連続航海に関する英米の主張	泉 哲 75
	国際関係の将来	松崎 寿 91
	利子論上に於ける貨幣数量説 (三、完)	高城仙次郎 101
[批評と紹介]	東亜同文会編纂『支那年鑑』第二回	126
第11巻第6号 (1917年6月)		
[論 説]	英国軍事内閣の憲法的意義	占部百太郎 1
	「貨幣問答」を中心として観たるサー・井リアム・ベチの貨幣論 (上)	高橋誠一郎 22
	支那と関税問題 (三)	阿部 秀助 39
[雑 録]	The Nature and Classification of Values.	R. C. Whitnack 55
	欧洲戦時に於ける通貨、物価、為替相場 (下)	堀江 帰一 70
	貧国論	小泉 信三 83
	米国の食物動員論	増井 幸雄 100
	所謂「得意」問題	岡田 市治 114
	有価証券の価格に就て (上)	高城仙次郎 119
[批評と紹介]	Chin Chu: The Tariff Problem in China.	阿 部 134
	山崎覚次郎著『経済原論』	135
第11巻第7号 (1917年7月)		
[論 説]	欧洲戦時財政に於ける国債の地位 (上)	堀江 帰一 1
	「貨幣問答」を中心として観たるサー・井リアム・ベチの貨幣論 (下)	高橋誠一郎 27
	フェルヂナンド・ラッサルと独逸労働者 (二)	小泉 信三 54
[雑 録]	年金法に依る減価銷却に就て池田実氏に答ふ	三辺 金蔵 75
	グリーン英国史の最近版に就て	占部百太郎 83
	給料論	山崎 繁樹 94
	米国の金準備問題	三宅嘉十郎 109
	有価証券の価格に就て (中)	高城仙次郎 124
第11巻第8号 (1917年8月)		
[論 説]	欧洲戦時財政に於ける国債の地位 (下)	堀江 帰一 1
	思想問題として見たるサンヂカリズム ベルグソン哲学との交渉	左右田喜一郎 24
	フェルヂナンド・ラッサルと独逸労働者 (三)	小泉 信三 51
[雑 録]	一七八四年の総選挙に就て	田中萃一郎 77
	仏国人口の将来 (上)	阿部 秀助 91
	米穀定期取引に対する数箇の疑義	山崎 繁樹 99
	有価証券の価格に就て (下)	高城仙次郎 117
[批評と紹介]	『支那関税引上反対意見書』	阿 部 142



第11卷第9号 (1917年9月)	
〔論 説〕	英帝国会議の進展 (上) …………… 占部百太郎 1 南スラブ統一問題…………… 林 毅陸 16 フェルゼナント・ラッサルと独逸労働者 (四) …………… 小泉 信三 57
〔雑 録〕	英国に於ける戦時労働不安 (上) …………… 堀江 帰一 83 茶業労働の現況…………… 勝俣千之助 98 物価の暴騰と其調節に就て…………… 高城仙次郎 103
〔批評と紹介〕	シエラ著『経済学と経済学者』…………… 116
第11卷第10号 (1917年10月)	
〔論 説〕	戦費の泉源と戦後財政整理策…………… 堀切善兵衛 1 英帝国会議の進展 (下) …………… 占部百太郎 19 サー・井リアム・ペチィの国富論 (上) …………… 高橋誠一郎 41 フェルゼナント・ラッサルと独逸労働者 (五、完) …………… 小泉 信三 64
〔雑 録〕	英国に於ける戦時労働不安 (下) …………… 堀江 帰一 95 仏国人口の将来 (下) …………… 阿部 秀助 105 北米合衆国の通貨制度 (一) …………… 三宅嘉十郎 109 物価の暴騰と其調節に就て (下) …………… 高城仙次郎 124
第11卷第11号 (1917年11月)	
〔論 説〕	サー・井リアム・ペチィの国富論 (下) …………… 高橋誠一郎 1 所得税改正論 (上) …………… 成瀬 義春 38 我邦海港の史的研究…………… 阿部 秀助 56
〔雑 録〕	Jugoslav 運動の主張…………… 板倉 卓造 68 北米合衆国の通貨制度 (二、完) …………… 三宅嘉十郎 84 元禄時代の財政学説一斑…………… 原 万里 107 恐慌と利子歩合 (上) …………… 高城仙次郎 116
第11卷第12号 (1917年12月)	
〔論 説〕	カント国家及法律哲学と論理主義経済学 (其一) …………… 福田 徳三 1 義荘の研究…………… 田中萃一郎 25 国民経済の基礎を拡大す可し…………… 堀切善兵衛 59 所謂産業の不安…………… 気賀 勲重 82 所得税改正論 (下) …………… 成瀬 義春 109 私法上に於ける決議の性質 (上) …………… 西本辰之助 128
〔雑 録〕	トオマス・ホジスキンの労働全収権主張…………… 小泉 信三 141 英国改造の各問題と民衆政治…………… 占部百太郎 156 ケツテル僧正と其の「労働問題及び基督教」(上) …………… 高橋誠一郎 167
第12卷第1号 (1918年1月)	
〔論 説〕	私法上に於ける決議の性質 (下) …………… 西本辰之助 1 アドリヤチック問題…………… 板倉 卓造 17 米切手 (上) …………… 幸田 成友 41 経済学原理四分法の弁 (上) …………… 三辺 金蔵 59 日米共同宣言の所謂特殊利益を論ず…………… 林 毅陸 76

	カント国家及法律哲学と論理形式主義経済学（其二）	福田 徳三	100
〔雑 録〕	ケツテレル僧正と其の「労働問題及び基督教」（下）	高橋誠一郎	117
	倫敦時代の Karl Marx	阿部 秀助	129
	恐慌と利子歩合（下）	高城仙次郎	136
<b>第12巻第2号</b> （1918年2月）			
〔論 説〕	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の一）	高橋誠一郎	1
	所得の性質を論じて所得税改正案に及ぶ	堀切善兵衛	35
	米切手（中）	幸田 成友	67
	カント国家及法律哲学と論理形式主義経済学（其三）	福田 徳三	77
	経済原理四分法の弁（下）	三辺 金蔵	87
〔雑 録〕	徳川時代の尚農論に対する支那思想の影響	野尻 清隆	105
	石炭調査資料としての統計	山崎 繁樹	117
	露国革命の根本思想	占部百太郎	136
<b>第12巻第3号</b> （1918年3月）			
〔論 説〕	支那幣制改革雜記	堀江 帰一	1
	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の二）	高橋誠一郎	30
	米切手（下）	幸田 成友	48
〔雑 録〕	商業証券の意義	西本辰之助	63
	米価と投機	高城仙次郎	69
	労働掠奪説と労働価値説	中山 英一	86
〔批評と紹介〕	福田徳三著『労働経済講話』		94
	工藤重義著『最近財政之研究』		94
	河田嗣郎著『穀価ノ研究』		95
<b>第12巻第4号</b> （1918年4月）			
〔論 説〕	所謂治外法権国及び敵占領地に於ける住所（一）	板倉 卓造	1
	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の三）	高橋誠一郎	19
	欧洲戦後の労働問題	堀江 帰一	40
	貸借対照表に於ける擬制的項目	西本辰之助	54
〔雑 録〕	英国選挙法改正（上）	占部百太郎	73
	十三行	田中萃一郎	82
	西比利亜の経済的意義（上）	阿部 秀助	95
	物価と生計費との関係に対する誤解に就て	高城仙次郎	100
	経済時事評論	安川 貞三	119
〔批評と紹介〕	ギブス嬢著『最低生計費』		130
<b>第12巻第5号</b> （1918年5月）			
〔論 説〕	近世経済史上に於ける企業家の地位（一）	阿部 秀助	1
	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の四）	高橋誠一郎	9
	英蘭銀行条例改正論	堀江 帰一	37
	地方銀行の不動産貸付業務	気賀 勤重	60
	所謂治外法権国及び敵占領地に於ける住所（二）	板倉 卓造	83
〔雑 録〕	戦争と信用通貨並に財政（一）	堀江 帰一	103

	西比利亜の経済的意義（中）	阿部 秀助	117
	独逸兼営銀行論（一）	大矢知 昇	137
	経済時事評論	安川 貞三	153
〔批評と紹介〕	福田徳三著『経済学考証』		158
	池田龍蔵著『無尽の実際と学説』	阿 部	160
	田子一民著『市町村財政の実際と其理論』		161
第12巻第6号（1918年6月）			
〔論 説〕	所得税法の欠陥と其弊害	堀切善兵衛	1
	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の五）	高橋誠一郎	18
	近世経済史上に於ける企業家の地位（二）	阿部 秀助	47
	米価の前途	気賀 勘重	52
〔雑 録〕	民主政治論二種	田中萃一郎	77
	英国の選挙法改正（下）	占部百太郎	85
	銀価に関する研究（上）	小林 武雄	97
	戦争と信用通貨並に財政（二）	堀江 帰一	105
	独逸兼営銀行論（中）	大矢知 昇	119
	西比利亜の経済的意義（下）	阿部 秀助	128
	利子歩合の平衡（一）	高城仙次郎	135
	経済時事評論	安川 貞三	156
第12巻第7号（1918年7月）			
〔論 説〕	英国戦時の食糧問題と農業政策（上）	堀江 帰一	1
	十七世紀の英国に於ける利子論争（其の六）	高橋誠一郎	27
	近世経済史上に於ける企業家の地位（三）	阿部 秀助	59
〔雑 録〕	会計学とは何ぞや	三辺 金蔵	81
	戦争と信用通貨並に財政（三）	堀江 帰一	86
	銀貨に関する研究（下）	小林 武男	91
	独逸兼営銀行論（下）	大矢知 昇	106
	利子歩合の平衡（二、完）	高城仙次郎	115
	渡辺博士の『秘密積立金の推算』を讀みて	池田 龍蔵	137
	経済時事評論	安川 貞三	142
第12巻第8号（1918年8月）			
〔論 説〕	ジョン・ロックの利子学説（上）	高橋誠一郎	1
	英国戦時の食糧問題と農業政策（下）	堀江 帰一	31
	所謂治外法権国及び敵占領地に於ける住所（三）	板倉 卓造	49
	記名株式の移転と名義変換（一）	西本辰之助	73
	近世経済史上に於ける企業家の地位（四）	阿部 秀助	87
〔雑 録〕	戦争と信用、通貨並に財政（四）	堀江 帰一	99
	資金融通の性質と利子歩合との関係（上）	高城仙次郎	112
	経済時事評論	安川 貞三	132
第12巻第9号（1918年9月）			
	軍国主義の弁	占部百太郎	1

	ジョン・ロックの利子学説（下）	高橋誠一郎	27
	所謂治外法権国及び敵占領地に於ける住所（四）	板倉 卓造	68
	記名株式の移転と名義変換（二）	西本辰之助	97
〔雑 録〕	戦争と信用、通貨並に財政（五、完）	堀江 帰一	113
	資金融通の性質と利子歩合との関係（中）	高城仙次郎	133
第12巻第10号（1918年10月）			
〔論 説〕	通貨の膨脹	堀江 帰一	1
	和蘭護送船問題と軍艦護送の変遷（一）	板倉 卓造	26
	所謂通貨収縮論の真価	気賀 勸重	63
	英国の封建制度	占部百太郎	81
	近世経済史上に於ける企業家の地位（五）	阿部 秀助	102
	流通貨幣の数量と信用（上）	高橋仙次郎	110
	Tableau Économique（経済表）の解説（上）	三辺 金蔵	124
〔雑 録〕	経済時事評論	安川 貞三	135
	資金融通の性質と利子歩合との関係（下）	高城仙次郎	147
第12巻第11号（1918年11月）			
〔論 説〕	タキツスの観たる古代独逸	占部百太郎	1
	和蘭護送船問題と軍艦護送の変遷（二）	板倉 卓造	14
	Tableau Économique（経済表）の解説（下）	三辺 金蔵	40
	流通貨幣の数量と信用（下）	高橋仙次郎	55
〔雑 録〕	クセノフオンの諸著に現はれたる経済思想	高橋誠一郎	77
	経済価値論（一）	野村兼太郎	101
	独逸社会主義の二傾向	阿部 秀助	112
	物価調節の一方策	高城仙次郎	116
	商法判決批評	西本辰之助	121
	経済時事評論	安川 貞三	132
〔批評と紹介〕	松倉乾二著『最近印度経済事情』		146
第12巻第12号（1918年12月）			
〔論 説〕	物価騰貴と生活難	気賀 勸重	1
	ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争（其一）	高橋誠一郎	33
	資本徴課金論	堀江 帰一	64
	物価騰貴の隠れたる重大原因	堀切善兵衛	81
〔雑 録〕	価値時差論	高城仙次郎	91
	経済価値論	野村兼太郎	109
	商法判決批評	西本辰之助	122
	経済時事評論	安川 貞三	135
〔批評と紹介〕	堀江帰一著『支那経済小観』		149
	内池廉吉著『交戦国の財政』		150
	山崎覚次郎著『改訂増補 貨幣銀行問題一斑』		150
	田尻稲次郎著『米国経済』		151

第13卷第1号 (1919年1月)	
[論 説]	ノルマン朝の裁判制度……………占部百太郎 1
	芸術と経済(一)……………阿部 秀助 19
	ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其二)…高橋誠一郎 32
	講話に伴う経済上の問題……………堀江 帰一 62
	経済的反動の趨向……………気賀 勘重 85
[雑 録]	経済価値論(三)……………野村兼太郎 113
	年金の種類……………池田 龍蔵 123
	商法判決批評……………西本辰之助 128
	経済時事評論……………安川 貞三 134
第13卷第2号 (1919年2月)	
[論 説]	労働者を圧迫したる英国法制の沿革一斑(上)……………堀江 帰一 1
	ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其三)…高橋誠一郎 19
	芸術と経済(二)……………阿部 秀助 53
	利子歩合の季節的変動……………高城仙次郎 61
[雑 録]	経済価値論(四)……………野村兼太郎 81
	『本邦鉱業と金融』を読む……………松崎 寿 93
	修正せられたるフィッシャー氏の物価調節策……………高城仙次郎 98
	経済時事評論……………安川 貞三 115
[批評と紹介]	橋本喜著作『紐育株式取引所』……………126
第13卷第3号 (1919年3月)	
[論 説]	巡回裁判と陪審制度……………占部百太郎 1
	労働者を圧迫したる英国法制の沿革一斑(下)……………堀江 帰一 20
	ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其四)…高橋誠一郎 36
	AN ECONOMIC INTERPRETATION OF THE SOCIALISTIC MOVEMENTS IN THE UNITED STATES. I.……………Senjiro Takagi 67
	芸術と経済(三)……………阿部 秀助 97
[雑 録]	太田氏の批評に答ふ……………三辺 金蔵 107
	平和克復と欧米経済界(上)……………高城仙次郎 114
	異本節儉略……………園 乾治 123
	商法判決批評……………西本辰之助 146
	経済時事評論……………安川 貞三 154
第13卷第4号 (1919年4月)	
[論 説]	トーマス・モーアのユートピアと其共産主義的思想(上)……………高橋誠一郎 1
	非職工組合論……………堀江 帰一 28
	AN ECONOMIC INTERPRETATION OF THE SOCIALISTIC MOVEMENTS IN THE UNITED STATES. II.……………Senjiro Takagi 39
	芸術と経済(四)……………阿部 秀助 61
[雑 録]	我国銀行取引改善の根本方針……………三宅嘉十郎 69
	平和克復と欧米経済界(下)……………高城仙次郎 85
	財政経済評論……………浪速 次郎 93

第13巻第5号 (1919年5月)	
[論 説]	大憲章……………占部百太郎 1
	トーマス・モーアのユートピアと其共産主義的思想(中)……………高橋誠一郎 24
	社債の法律上の性質……………西本辰之助 56
	AN ECONOMIC INTERPRETATION OF THE SOCIALISTIC MOVEMENTS IN THE UNITED STATES. III.……………Senjiro Takagi 67
	芸術と経済(五)……………阿部 秀助 87
[雑 録]	経済的史観論の価値(一)……………野村兼太郎 93
	商法判例批評……………西本辰之助 104
	財政経済評論……………浪速 次郎 109
第13巻第6号 (1919年6月)	
[論 説]	労働者と産業管理権……………堀江 帰一 1
	トーマス・モーアのユートピアと其共産主義的思想(下)……………高橋誠一郎 23
	中立船内の敵貨と敵船内の中立貨(一)……………板倉 卓造 60
	AN ECONOMIC INTERPRETATION OF THE SOCIALISTIC MOVEMENTS IN THE UNITED STATES. IV.……………Senjiro Takagi 73
[雑 録]	新物価革命……………山崎 繁樹 97
	経済的史観論の価値(二)……………野村兼太郎 109
	アダム・スミスの価値論に就いて(一)……………加田 忠臣 120
	財政経済評論……………浪速 次郎 129
[批評と紹介]	大塚金之助訳 福田徳三補訂『マーシャル経済学原理』……………135
	松崎寿著『工業政策』……………136
第13巻第7号 (1919年7月)	
[論 説]	汪龍莊遺書を読む……………田中萃一郎 1
	手形引受と合衆国金融市場(上)……………堀江 帰一 31
	中立船内の敵貨と敵船内の中立貨(二)……………板倉 卓造 44
[雑 録]	開戦責任の調査報告……………占部百太郎 57
	経済的史観論の価値(三)……………野村兼太郎 71
	製鉄生産費に関する調査……………山崎 繁樹 84
	アダム・スミスの価値論に就いて(二)……………加田 忠臣 97
	トーマス・ホッブズの政治哲学中に見れたる経済学説……………高橋誠一郎 109
	米穀消費量の計算方法に就て……………高城仙次郎 132
	商法判決批評……………西本辰之助 136
	財政経済評論……………浪速 次郎 142
第13巻第8号 (1919年8月)	
[論 説]	物資配給上の失費……………気賀 勘重 1
	手形引受と合衆国金融市場(下)……………堀江 帰一 35
	ジョン・ロックの哲学と其経済学説との交渉(一)……………高橋誠一郎 51
	中立船内の敵貨と敵船内の中立貨(三)……………板倉 卓造 83
[雑 録]	英国の労働党は何を要求するや……………堀江 帰一 97
	都市計画と米国商業会議所(上)……………根本 清六 108
	アダム・スミスの価値論に就いて(三)……………加田 忠臣 120

	マーシャル教授のリカルド価値学説批評（上）	鈴木 清吉	123
	商法判決批評	西本辰之助	129
	財政経済評論	浪速 次郎	135
<b>第13巻第9号</b> （1919年9月）			
〔論 説〕	英国貴族院の改造（上）	占部百太郎	1
	ジョン・ロックの哲学と其経済学説との交渉（二）	高橋誠一郎	21
	中立船内の敵貨と敵船内の中立貨（四）	板倉 卓造	57
〔雑 録〕	銀行手形引受制度及実行論（上）	三宅嘉十郎	73
	都市計画と米国商業会議所（下）	根本 清六	82
	経済的史観論の価値（四）	野村兼太郎	93
	マーシャル教授のリカルド価値学説批評（下）	鈴木 清吉	107
	物価騰貴の『原因』の意義	高城仙次郎	114
	アダム・スミスの価値論に就いて（四、完）	加田 忠臣	127
	財政経済評論	浪速 次郎	135
<b>第13巻第10号</b> （1919年10月）			
〔論 説〕	第一次国際労働大会の議事々項を論ず	堀江 帰一	1
	英国貴族院の改造（下）	占部百太郎	22
	芸術と経済（六、完）	阿部 秀助	39
	中立船内の敵貨と敵船内の中立貨（五、完）	板倉 卓造	44
	マーカンチリズム概論	高橋誠一郎	60
〔雑 録〕	小売商習慣と公設市場	根本 清六	91
	銀行手形引受制度及実行論（下）	三宅嘉十郎	106
	経済的史観論の価値（五）	野村兼太郎	117
	賃銀制度廃止論（上）	加田 忠臣	121
	採算の基数	池田 龍蔵	129
<b>第13巻第11号</b> （1919年11月）			
〔論 説〕	学問芸術と社会主義	小泉 信三	1
	英国労働界の三角同盟	堀江 帰一	28
	デヴィッド・ヒュームの経済学説（一）	高橋誠一郎	47
	経済史の研究に就て	滝本 誠一	74
〔雑 録〕	「古代国家論」の五十年紀	田中萃一郎	99
	保険史上に於けるコレギア	園 乾治	114
	賃銀制度廃止論（下）	加田 忠臣	124
	経済的史観論の価値（六）	野村兼太郎	136
	同盟罷工の原因に関する疑問（上）	根本 清六	142
〔新刊紹介〕	支那財政論三種	堀江 帰一	148
	福田徳三著『黎明録』	阿部 秀助	150
<b>第13巻第12号</b> （1919年12月）			
〔論 説〕	労働運動を圧迫する法制	堀江 帰一	1
	我商法の評価規定を論ず	三辺 金蔵	19
	有限責任社員の間接責任	西本辰之助	31

	デヴィッド・ヒュームの経済学説（二、終）	高橋誠一郎	52
[雑 録]	株式会社起源考	阿部 秀助	85
	マアシャル教授の National Guilds 評論梗概	三辺 金蔵	91
	経済的史観論の価値（七、終）	野村兼太郎	101
	同盟罷工の原因に関する疑問（下）	根本 清六	107
	シャール・ジート氏経済原論第四版と第三版米国訳との比較	臼井鑑太郎	115
[新刊紹介]	カウッキイ校訂『資本論』第一巻平民版	小泉 信三	121
	箕作博士著『フランス大革命史』前編	占部百太郎	128
	堀江博士著『労働問題の現在及将来』	高橋誠一郎	129
<b>第14巻第1号</b> （1920年1月）			
[論 説]	契約解除論（一）	神戸寅次郎	1
	既婚婦人労働問題	阿部 秀助	16
	英国の「インダストリアル、ユニオニズム」	堀江 帰一	23
	西比利亚撤兵論（一）	板倉 卓造	44
	デヴィッド・ヒュームの奢侈論と其功利主義的倫理	高橋誠一郎	57
[雑 録]	第十七世紀の理想国『クリスチアノポリス』	間崎 万里	91
	資本家の覚醒	松本 芳夫	100
	労働組合の帰趣	野村兼太郎	110
	保険と人生	園 乾治	117
	シウリー公の尚農的政策	高橋誠一郎	129
[新刊紹介]	戦時金融上の諸問題	堀江 帰一	139
	リース改訂世界史	阿部 秀助	140
<b>第14巻第2号</b> （1920年2月）			
[論 説]	徳川氏の道路交通政策	滝本 誠一	1
	契約解除論（二）	神戸寅次郎	21
	英国の二大党制と労働党（一）	占部百太郎	55
	合衆国の最低賃銀制度を論じて移民問題に及ぶ	堀江 帰一	72
	再論 Guild Socialism（一）	小泉 信三	89
	西比利亚撤兵論（二）	板倉 卓造	120
[雑 録]	英国石炭業委員会報告の概要	堀江 帰一	131
	ギルド社会主義の国家観（上）	加田 忠臣	136
	「四十エキュの人」	高橋誠一郎	147
[新刊紹介]	小山清次著『支那労働者研究』	田中萃一郎	156
	生田長江訳『マルクス資本論』第一分冊	高橋誠一郎	157
<b>第14巻第3号</b> （1920年3月）			
[論 説]	デヴィッド・ヒュームの貨幣論	高橋誠一郎	1
	契約解除論（三）	神戸寅次郎	30
	西比利亚撤兵論（三、完）	板倉 卓造	49
	英国の二大党制と労働党（二、完）	占部百太郎	69
	再論 Guild Socialism（二）	小泉 信三	92
[雑 録]	露国政党と過激派	板倉 卓造	115
	英国石炭業委員会報告の概要（下）	堀江 帰一	123



	ギルド社会主義の国家観（下）	加田 忠臣	129
	忘れられたロイド教授	手塚 寿郎	140
〔新刊紹介〕	英国所得税法調査委員会報告書	堀江 帰一	147
	東亜攻究会々報第二号	阿部 秀助	149
第14巻第4号（1920年4月）			
〔論説〕	利益分配制度を論ず（一）	堀江 帰一	1
	再論 Guild Socialism（三、完）	小泉 信三	18
	本佐録とマキヤヴェリズム	滝本 誠一	33
	契約解除論（四）	神戸寅次郎	60
	トマッソ・カムパネララの「日の都」	高橋誠一郎	78
〔雑録〕	コール国家観の補論	加田 忠臣	101
	労働保険の施設を論ず（一）	園 乾治	116
	中世 Gilds の文化史上に於ける意義（一）	野村兼太郎	124
〔新刊紹介〕	Bowley の悲観的論断	小泉 信三	135
	滝本博士著『利益分配法』	加田 忠臣	138
第14巻第5号（1920年5月）			
〔論説〕	講壇社会主義（一）	阿部 秀助	1
	合名会社社員の持分	西本辰之助	12
	利益分配制度を論ず（二）	堀江 帰一	40
	契約解除論（五）	神戸寅次郎	59
	利子学説史上のマッシー及びヒューム	高橋誠一郎	76
〔雑録〕	独逸戦後の財政経済	堀江 帰一	97
	独逸革命の真相に関する史料	占部百太郎	105
	中世 Gilds の文化史上に於ける意義（二）	野村兼太郎	120
	労働者保険の施設を論ず（二）	園 乾治	130
〔新刊紹介〕	堀江博士著『労働組合論』	奥井復太郎	139
	堀江博士著『経済組織改造論』	高橋誠一郎	142
第14巻第6号（1920年6月）			
〔論説〕	地代論と社会主義	小泉 信三	1
	契約解除論（六、完）	神戸寅次郎	33
	利益分配制度を論ず（三、完）	堀江 帰一	50
	講壇社会主義（二、完）	阿部 秀助	70
〔雑録〕	アンドリュー・ヤラントンの経済論	高橋誠一郎	83
	中世 Gilds の文化史上に於ける意義（三、完）	野村兼太郎	96
	労働者保険の施設を論ず（三、完）	園 乾治	108
〔新刊紹介〕	ウェップ著『労働組合主義の歴史』	堀江 帰一	122
	Summa Theoeogica の英訳	小泉 信三	125
	河合氏『労働問題研究』	堀江 帰一	127
	黒田、谷島共訳『産業自治とギルド社会主義』	加田 忠臣	128
	円谷弘『我国資本家諸階級の発達と資本主義的精神』	野村兼太郎	131
	松本芳夫『神代史研究』	阿部 秀助	133

第14巻第7号 (1920年7月)	
[論 説]	経営権分配制度を論ず……………堀江 帰一 1 遺産相続法と土地の分配 (一) ……滝本 誠一 22 社会主義者の「歴史的法的」資本観概略……………小泉 信三 41 デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論 (一) ……高橋誠一郎 70
[雑 録]	産業管理と労働組合……………三辺 金蔵 94 フォルアールベルグ問題……………阿部 秀助 110 九州に於ける炭坑ストライキの近因に就て……………俵 麟太郎 115 マルクス派の国家観……………加田 忠臣 124 西紀三十三年の経済恐慌……………高橋誠一郎 133
[新刊紹介]	小泉信三著『社会問題研究』……………加田 忠臣 140 本庄栄治郎著『経済史研究』……………滝本 誠一 146 滝本博士著『経済一家言』……………野村兼太郎 148
第14巻第8号 (1920年8月)	
[論 説]	続契約解除論 (一) ……………神戸寅次郎 1 仏国大革命の主因は経済的なり……………占部百太郎 21 遺産相続法と土地の分配 (二、完) ……滝本 誠一 61 科学的経営法と労働組合……………堀江 帰一 82 デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論 (二) ……高橋誠一郎 97
[雑 録]	英国労働問題に関する新刊書……………堀江 帰一 120 ラッセルの思想とウキリアム・ジェームス (一) ……奥井復太郎 122 マルクス派の国家観 (二) ……………加田 忠臣 134
[新刊紹介]	高島素之訳『資本論』第一巻……………小泉 信三 146 金沢庄三郎著『言語に映じたる原人の思想』……………野村兼太郎 150 財部静治著『国勢調査問題講話』……………園 乾治 153 野村兼太郎著『経済的文化と哲学』……………高橋誠一郎 155
第14巻第9号 (1920年9月)	
[論 説]	株式会社発起人論 (一) ……………西本辰之助 1 続契約解除論 (二) ……………神戸寅次郎 20 デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論 (三、完) ……高橋誠一郎 43
[雑 録]	Thomas Aquinas の利息論……………小泉 信三 75 第十九世紀の文明史及び文明史家 (上) ……間崎 万里 80 ゲゼルの「自由経済」論……………園 乾治 93 マルクス派の国家観 (三、完) ……………加田 忠臣 109 ラッセルの思想とウキリアム・ジェームス (二) ……奥井復太郎 123 社会の強制力 (特にデュルケムの学説に就いて) ……野村兼太郎 131
[新刊紹介]	G. D. H. Cole の新著二種……………野村兼太郎 145 室伏高信著『ギルド社会主義』第一巻……………堀江 帰一 149 坂口昂著『概観世界史潮』……………高橋誠一郎 150
第14巻第10号 (1920年10月)	
[論 説]	フイヒテの経済観 (上) ……………阿部 秀助 1 続契約解除論 (三) ……………神戸寅次郎 21

	ロオドベルトスの地代論とリカルドオ (一) .....	小泉 信三	40
	米国移民問題の経済的方面 .....	堀江 帰一	55
	株式会社発起人論 (二) .....	西本辰之助	78
[雑 録]	英国の鉄道改造案 .....	増井 幸雄	99
	欧米経済史界の趨勢と其の研究法 (上) .....	木村 莊五	109
	第十九世紀の文明史及び文明史家 (下) .....	間崎 万里	119
	第三インタナショナルに就いて .....	加田 忠臣	132
	ラッセルの思想とウキリアム・ジェームス (三、完) .....	奥井復太郎	144
[新刊紹介]	労働問題に関する米国の新刊書 .....	堀江 帰一	158
	Edward Friedmann, Der mittelalterliche Welthandel von Florenz in seine geographischen Ausdehnung mit 2 Tafeln. ....	阿部 秀助	160
	米田庄太郎著『経済心理の研究』 .....	野村兼太郎	161
第14巻第11号 (1920年11月)			
[論 説]	限界効用説雑考 .....	三辺 金蔵	1
	ロオドベルトスの地代論とリカルドオ (二、完) .....	小泉 信三	21
	続契約解除論 (四) .....	神戸寅次郎	40
	株式会社発起人論 (三) .....	西本辰之助	71
	フイヒテの経済観 (中) .....	阿部 秀助	87
[雑 録]	上海兩と上海の通貨 .....	池田 龍蔵	97
	社会保険の賃銀に及ぼす影響 (上) .....	園 乾治	104
	消費経済論 .....	奥井復太郎	116
	欧米経済史界の趨勢と其の研究法 (下) .....	木村 莊五	129
[新刊紹介]	高橋誠一郎著『経済学史研究』 .....	小泉 信三	136
	小泉信三著『経済学説と社会思想』 .....	阿部 秀助	140
	手塚寿郎著『ゴツセン研究』 .....	小泉 信三	144
第14巻第12号 (1920年12月)			
[論 説]	アリストテレーズの奴隷制度論 .....	高橋誠一郎	1
	続契約解除論 (五、完) .....	神戸寅次郎	32
	フイヒテの経済観 (下) .....	阿部 秀助	64
	株式会社発起人論 (四、完) .....	西本辰之助	71
[雑 録]	労農露国の労働組合 .....	堀江 帰一	93
	革新文学の仏国大革命に及ぼしたる影響 .....	占部百太郎	99
	社会保険の賃銀に及ぼす影響 (下) .....	園 乾治	110
	銀行の支払承諾の内容に就て .....	三宅嘉十郎	115
	古代法に現れたる家族制 .....	野村兼太郎	131
[新刊紹介]	徳富蘇峯著『大戦後の世界と日本』 .....	田中萃一郎	143
	ベア版『ロバート・オーエン自伝』 .....	加田 忠臣	147
	落合昌太郎著『社会生活学』 .....	小泉 信三	150
第15巻第1号 (1921年1月)			
[論 説]	銀価騰貴時代の印度通貨問題 .....	堀江 帰一	1
	アリストテレーズの貨殖論 .....	高橋誠一郎	27
	ロオドベルトスの経済学説補遺 (一) .....	小泉 信三	49

	外国領海内に於ける商船の地位に関する仏国主義（上）	板倉 卓造	67
[雑 録]	現代中国学者間に於ける井田論の研究（上）	李 永霖	81
	親族関係と社会組織（上）	野村兼太郎	103
	アーサー・ペンティの歴史観（一）	加田 哲二	115
	ギルドの起原に就いて	園 乾治	123
	生存権と自殺権	高橋誠一郎	138
[新刊紹介]	M. Beer: A History of British Socialism. Vol. I	野村兼太郎	147
	M. Beer: A History of British Socialism. Vol. II	加田 哲二	149
	小島昌太郎著『海運経済論第一巻』	増井 幸雄	151
	中川正左著『鉄道論』	増井 幸雄	153
<b>第15巻第2号</b> （1921年2月）			
[論 説]	商道九篇に就て	滝本 誠一	1
	ロオドベルトスの経済学説補遺（二）	小泉 信三	19
	アダム・スミスの価値論に就て	三辺 金蔵	44
	外国領海内に於ける商船の地位に関する仏国主義（下）	板倉 卓造	64
[雑 録]	希臘領域に於ける金銀の増加	高橋誠一郎	89
	親族関係と社会組織（下）	野村兼太郎	98
	アーサー・ペンティの歴史観（二）	加田 哲二	111
	現代中国学者間に於ける井田論の研究（下）	李 永霖	120
[新刊紹介]	ホッヂス氏の炭坑国有論	堀江 帰一	144
	福田博士著『現代の商業及商人』	高橋誠一郎	146
	滝本博士著『日本経済史』	野村兼太郎	148
	福田博士著『暗雲録』	高橋誠一郎	151
<b>第15巻第3号</b> （1921年3月）			
[論 説]	近時の物価政策論（一）	気賀 勤重	1
	希臘に於ける貨幣及び利子学説	高橋誠一郎	19
	英国所得税法改革に関する新研究（上）	堀江 帰一	39
	ロオドベルトスの経済学説補遺（三、完）	小泉 信三	61
	Economic Rent and The Marginal Expenses of Production.	D. H. Buchanan	92
[雑 録]	丹後の飛脚に就て	紀 清市	123
	アーサー・ペンティの歴史観（三、完）	加田 哲二	128
	ギイディングスの歴史学説（上）	野村兼太郎	139
[新刊紹介]	労働市場論	堀江 帰一	148
	G. D. H. Cole: Guild Socialism Restated.	加田 哲二	149
	池田龍蔵著『株式市価論』	園 乾治	151
	三浦周行著『国史上の社会問題』	野村兼太郎	153
	堀江帰一著『社会経済研究』	小泉 信三	154
<b>第15巻第4号</b> （1921年4月）			
[論 説]	プラトーンの家観と之れに対するアリストオテリーズの批評（一）	高橋誠一郎	1
	英国所得税法改革に関する新研究（下）	堀江 帰一	17
	近時の物価政策論（二、完）	気賀 勤重	41
	恐嚇政治とロバスピエル	占部百太郎	60

	歴史と歴史家……………	滝本 誠一	83
[雑 録]	石城志考……………	阿部 秀助	101
	仏国鉄道の近状……………	増井 幸雄	108
	ロレンツォ・トンチとその時代……………	園 乾治	118
	ギイディングスの歴史学説(中)……………	野村兼太郎	130
	中世の紀年法大意(上)……………	間崎 万里	141
[新刊紹介]	五来欣造著『社会革命の将来』……………	田中萃一郎	157
	堀江博士著『増補改版労働問題の現在及び将来』……………	高橋誠一郎	158
	和辻哲郎著『日本古代文化』……………	野村兼太郎	160
	荒川憲訳『社会主義審判』……………	高橋誠一郎	161
[雑 報]	S. J. Chapmam 教授の返書……………		163
<b>第15巻第5号 (1921年5月)</b>			
[論 説]	対外放資の伸縮性……………	堀江 帰一	1
	大陸封鎖令(上)……………	阿部 秀助	25
	鉄道経費に於ける恒常費の優越……………	増井 幸雄	44
	Professor Alfred Marshall on The Relation between Economic Rent and the Marginal Expenses of Production……………	D. H. Buchanan	69
	プラトーンの国家観と之れに対するアリストオテリーズの批評(二)……………	高橋誠一郎	99
[雑 録]	八十年代の英国社会主義(一)……………	加田 哲二	111
	中世の紀年法大意(下)……………	間崎 万里	124
	ギイディングスの歴史学説(下)……………	野村兼太郎	140
	国家機能の二分岐……………	奥井復太郎	149
[新刊紹介]	森戸辰男訳『近世社会主義思想史』……………	小泉 信三	160
	加田哲二著『経済価値論』……………	阿部 秀助	163
	リカアド原著、堀経夫訳『経済原論』……………	加田 哲二	165
<b>第15巻第6号 (1921年6月)</b>			
[論 説]	最近数年間に於ける銀価の動揺……………	堀江 帰一	1
	大陸封鎖令(下)……………	阿部 秀助	25
	プラトーンの国家観と之れに対するアリストオテリーズの批評(三、完)……………	高橋誠一郎	39
[雑 録]	リカルドオ略伝附年譜……………	小泉 信三	65
	ウイザアルの社会主義評論梗概……………	三辺 金蔵	83
	八十年代の英国社会主義(二、完)……………	加田 哲二	95
	国家機能の二分岐(二、完)……………	奥井復太郎	110
	保険数学の発達……………	園 乾治	121
	クラーク教授の資本の機能に就て……………	金原賢之助	135
[新刊紹介]	Dr. Kurt Giese; Das Seefrachttarifwesen……………	増井 幸雄	146
	アスクウキス卿の『産業上の諸問題と争議』……………	堀江 帰一	147
	上田貞次郎著『改訂増補 株式会社経済論』……………	園 乾治	149
<b>第15巻第7号 (1921年7月)</b>			
[論 説]	基督教会と徴利問題(一)……………	高橋誠一郎	1
	国際貸借の理論と償金問題……………	堀江 帰一	19
	鉄道経費の結合性……………	増井 幸雄	46

	マナアと荘園の比較……………	滝本 誠一	74
[雑 録]	組合社会主義に対するウィザースの批評……………	三辺 金蔵	93
	シヨオを中心として観たるフェビヤン社会主義運動 (一) ……	町田義一郎	107
	経済史研究に就いて (一) ……	野村兼太郎	119
	社会思想家としてのウキリアム・モリス (一) ……	加田 哲二	130
[新刊紹介]	米国の通貨収縮論……………	堀江 帰一	139
	福田徳三著『改訂増補 国民経済講話』……………	小泉 信三	141
	土田杏村著『マルクス思想と現代文化』……………	野村兼太郎	147
	本位田祥男著『消費組合運動』……………	加田 哲二	148
<b>第15巻第8号 (1921年8月)</b>			
[論 説]	リカルドオの通貨論 (一) ……	小泉 信三	1
	英国国会制度の起原 (上) ……	占部百太郎	26
	基督教会と徴利問題 (二) ……	高橋誠一郎	47
[雑 録]	モンテス・ピエタチス……………	園 乾治	69
	社会思想家としてのウキリアム・モリス (二) ……	加田 哲二	76
	十九世紀初期に於ける英国都市生活の一面 (一) ……	奥井復太郎	89
	利子説明の基礎に関するボエム・バヴエルクとクラークとの論争 (上) ……	金原賢之助	100
	経済史研究に就いて (二) ……	野村兼太郎	111
	シヨオを中心として観たるフェビヤン社会主義運動 (二完) ……	町田義一郎	123
[新刊紹介]	ウキリアム・モリスと英国社会主義運動……………	加田 哲二	140
	内田銀蔵著『日本経済史の研究』……………	野村兼太郎	142
	瀬谷佐次郎著『経済原論』……………	園 乾治	145
<b>第15巻第9号 (1921年9月)</b>			
[論 説]	英国国会制度の起原 (下) ……	占部百太郎	1
	基督教会と徴利問題 (三) ……	高橋誠一郎	18
	リカルドオの通貨論 (二) ……	小泉 信三	35
[雑 録]	千九百二十一年亜米利加合衆国緊急関税法制定に就て (其一) ……	水野 智彦	55
	経済史研究に就いて (三) ……	野村兼太郎	77
	社会思想家としてのウキリアム・モリス (三) ……	加田 哲二	89
	十九世紀初期に於ける英国都市生活の一面 (二) ……	奥井復太郎	104
	利子説明の基礎に関するボエム・バヴエルクとクラークとの論争 (下) ……	金原賢之助	116
[新刊紹介]	無産階級独裁とソヴェト制度……………	小泉 信三	133
	Hermann Paul, Aufgabe und Methode der Geschichtswissenschaften. ……	野村兼太郎	140
	野村兼太郎著『改版 経済的文化と哲学』……………	加田 哲二	143
	鼓常良訳『文化の諸相と其進路』……………	園 乾治	145
<b>第15巻第10号 (1921年10月)</b>			
[論 説]	工業協約制度を論ず……………	堀江 帰一	1
	リカルドオの通貨論 (三、完) ……	小泉 信三	25
	基督教会と徴利問題 (四) ……	高橋誠一郎	55
[雑 録]	ヨセフ・デーツゲンの社会主義唯物論……………	上原 好咲	71
	社会思想家としてのウキリアム・モリス (四) ……	加田 哲二	80
	シヨオを中心として観たるフェビヤン社会主義運動 (三、完) ……	町田義一郎	93

	十九世紀初期に於ける英国都市生活の一面（三、完）	奥井復太郎	107
	経済史研究に就いて（四）	野村兼太郎	118
	千九百二十一年亜米利加合衆国緊急関税法制定に就て（二、完）	水野 智彦	129
	「資本」なる名辞の変遷（上）	園 乾治	140
〔新刊紹介〕	R. Eucken: Sozialismus.	阿部 秀助	147
	河上肇著『唯物史観研究』	野村兼太郎	148
<b>第15巻第11号</b> （1921年11月）			
〔論 説〕	鉄道に於ける「運送の価値」に就て（上）	増井 幸雄	1
	国際間の通貨並に信用問題（上）	堀江 帰一	21
	ハンザ対英国（上）	阿部 秀助	48
	基督教会と徴利問題（五）	高橋誠一郎	55
〔雑 録〕	マルサスのリカルドオ批評一斑	小泉 信三	79
	「資本」なる名辞の変遷（下）	園 乾治	86
	社会思想家としてのウキリアム・モリス（五）	加田 哲二	95
	経済史研究に就いて（五）	野村兼太郎	109
	伊太利に於ける社会主義学説の発達（上）	金原賢之助	124
〔新刊紹介〕	佐野学著『露西亜経済史研究』	田中萃一郎	134
	山口正太郎著『純理経済学の諸問題』	中山 英一	138
<b>第15巻第12号</b> （1921年12月）			
〔論 説〕	リカルドオの機械論	小泉 信三	1
	国際間の通貨並に信用問題（下）	堀江 帰一	32
	鉄道に於ける「運送の価値」に就て（下）	増井 幸雄	54
	基督教会と徴利問題（六、完）	高橋誠一郎	74
	ハンザ対英国（下）	阿部 秀助	96
〔雑 録〕	経済史研究に就いて（六、完）	野村兼太郎	103
	社会思想家としてのウキリアム・モリス（六、完）	加田 哲二	113
	伊太利に於ける社会主義学説の発達（下）	金原賢之助	139
〔新刊紹介〕	中川正左著『鉄道論』	増井 幸雄	150
	森莊三郎著『労働保険研究』	園 乾治	151
	雑誌『史学』創刊	野村兼太郎	153
<b>第16巻第1号</b> （1922年1月）			
〔論 説〕	労働組合に関する諸問題（一）	堀江 帰一	1
	日本に於けるソリダリティの思想	滝本 誠一	27
	聖トーマスの奴隷論	高橋誠一郎	41
〔雑 録〕	米国に於ける健康保険運動（一）	園 乾治	71
	ベルンシュタインとマルクス主義	金原賢之助	80
	高及び楊に関する考証	李 永霖	90
	羊毛工業の発達と Merchant Adventurers（一）	高木 寿一	109
	哲学と社会科学との関係	勝本 鼎一	121
	万国中央銀行の提案	鈴木 良雄	129
〔新刊紹介〕	原口亮平解説 ほーきんす氏工場会計	三辺 金蔵	141
	海運に関する米国近刊書二種	増井 幸雄	141

	小泉信三著『社会組織の経済理論的批評』	野村兼太郎	146
	野村兼太郎著『社会生活と理想哲学』	加田 哲二	149
第16巻第2号 (1922年2月)			
[論 説]	リカルドオの価値論 (一)	小泉 信三	1
	英国の新鉄道政策 (二)	増井 幸雄	18
	労働組合に関する諸問題 (二)	堀江 帰一	32
	近世資本主義起源考 (一)	阿部 秀助	50
[雑 録]	アダム・スミスの生涯 (一)	高橋誠一郎	61
	国有鉄道と運賃政策	増井 幸雄	87
	米国に於ける健康保険運動 (二、完)	園 乾治	96
	羊毛工業の発達と Merchant Adventurers (二)	高木 寿一	117
[新刊紹介]	堀江帰一著『世界の経済は如何に動くか』	三辺 金蔵	130
	上田貞次郎著『社会改造と企業』	小泉 信三	135
	角田時雄著『新労働組合運動』	野村兼太郎	139
第16巻第3号 (1922年3月)			
[論 説]	The Influence of So-called Marginal Rent upon the Marginal Expenses of Production.	D. H. Buchanan	1
	労働組合に関する諸問題 (三、完)	堀江 帰一	19
	英国の新鉄道政策 (三)	増井 幸雄	40
	リカルドオの価値論 (二)	小泉 信三	56
	近世資本主義起源考 (二)	阿部 秀助	79
[雑 録]	ウ井リアム・モリスの労働論 (一)	加田 哲二	87
	健康保険運動の基調 (一)	園 乾治	96
	羊毛工業の発達と Merchant Adventurers (三)	高木 寿一	112
	アダム・スミスの生涯 (二)	高橋誠一郎	122
[新刊紹介]	福田徳三著『社会政策と階級闘争』	野村兼太郎	136
	寺井久信著『船荷証券』	西本辰之助	141
第16巻第4号 (1922年4月)			
[論 説]	アダム・スミスの自由貿易除外論	堀江 帰一	1
	英国の新鉄道政策 (三)	増井 幸雄	22
	リカルドオの価値論 (三)	小泉 信三	39
	近世資本主義起源考 (三)	阿部 秀助	68
[雑 録]	資本の本質に関する一論争 (一)	金原賢之助	73
	チユルゴオ著 Réflexions の英訳に就いて	常松 三郎	84
	ウ井リアム・モリスの労働論 (二、完)	加田 哲二	93
	羊毛工業の発達と Merchant Adventurers (四)	高木 寿一	106
	健康保険運動の基調 (二)	園 乾治	114
	アダム・スミスの生涯 (三)	高橋誠一郎	134
[新刊紹介]	田中萃一郎抄訳『民主主義批判』	高橋誠一郎	147
第16巻第5号 (1922年5月)			
[論 説]	「道徳的情操論」と「国富論」(上)	高橋誠一郎	1



	リカルドオの価値論 (四) .....	小泉 信三	13
	英国の新鉄道政策 (四、完) .....	増井 幸雄	42
	近世資本主義起源考 (四) .....	阿部 秀助	64
[雑 録]	国際労働組合主義の運動 .....	堀江 帰一	73
	欧洲各国の生活費 .....	池田 龍蔵	80
	ジョン・ラスキンの奢侈論 (一) .....	奥井復太郎	87
	ウ井リアム・モリスの観たる中世経済生活 (上) .....	加田 哲二	98
	健康保険運動の基調 (三) .....	園 乾治	109
	英国羊毛工業の発達と Merchant Adventurers (五、完) .....	高木 寿一	131
	資本の本質に関する一論争 (二) .....	金原賢之助	143
[新刊紹介]	小島昌太郎著『海商国の立場から』 .....	増井 幸雄	157
	小林行昌著『内外商業政策』上巻 .....	高橋誠一郎	160
<b>第16巻第6号 (1922年6月)</b>			
[論 説]	分業と専占 .....	滝本 誠一	1
	リカルドオの価値論 (五、完) .....	小泉 信三	14
	近世資本主義起源考 (五、完) .....	阿部 秀助	29
	「道徳的情操論」と「国富論」(下) .....	高橋誠一郎	38
[雑 録]	モリス・ヒルキットの「マルクスよりレーニンへ」 .....	加田 哲二	57
	ジョン・ラスキンの奢侈論 (二、完) .....	奥井復太郎	63
	資本の本質に関する一論争 (三、完) .....	金原賢之助	84
	ウ井リアム・モリスの観たる中世経済生活 (下) .....	加田 哲二	100
	健康保険運動の基調 (四、完) .....	園 乾治	112
[新刊紹介]	堀江帰一著『続編 世界の経済は如何に動くか』 .....	増井 幸雄	140
	原静著『銀行実務誌』 .....	堀江 帰一	143
	加田哲二著『国家学説と社会思潮』 .....	金原賢之助	144
<b>第16巻第7号 (1922年7月)</b>			
[論 説]	小作料の高低 .....	気賀 勘重	1
	英国に於ける銀行合同の趨勢と其特色 .....	堀江 帰一	29
	近世資本主義起源考続論 (一) .....	阿部 秀助	51
	サー・井リアム・テムブルの経済論 (上) .....	高橋誠一郎	60
[雑 録]	人口集中の現象に対する経済的説明 .....	奥井復太郎	77
	労働管理問題一斑 (一) .....	園 乾治	97
	露西亜に於ける労働組合運動 (一) .....	町田義一郎	107
	中華民国財政の整理 (上) .....	胡 己 任	119
	ジェイ・エス・ミルと経済学の定義 .....	榎本 敏治	146
[新刊紹介]	デイル、モンベルト共編 社会主義的重要文献宣言綱領集成 .....	加田 哲二	155
	Lee K. Frankel Alexander Fleisher: The Human Factor in Industry. ....	園 乾治	159
<b>第16巻第8号 (1922年8月)</b>			
[論 説]	対外債務廃棄問題 .....	堀江 帰一	1
	続リカルドオの価値学説論 (一) .....	小泉 信三	26
	近世資本主義起源考続論 (二) .....	阿部 秀助	49
[雑 録]	商船の速力増加と其の費用 .....	増井 幸雄	55

	英国財政史文献抄録……………	金原賢之助	68
	ウ井リアム・モリスの共産主義（一）……………	加田 哲二	80
	労働管理問題一斑（二、完）……………	園 乾治	92
	露西亜に於ける労働組合運動（二）……………	町田義一郎	107
	中華民国財政の整理（中）……………	胡 己 任	120
	ジェイ・エス・ミルと経済学の定義……………	榎本 敏治	138
〔新刊紹介〕	左右田喜一郎著『文化価値と極限概念』……………	勝本 鼎一	150
	福田徳三著『社会運動と労銀制度』……………	高橋誠一郎	153
<b>第16巻第9号</b> （1922年9月）			
〔論 説〕	鉄道と運送上の競争……………	増井 幸雄	1
	続リカルドオの価値学説論（二、完）……………	小泉 信三	21
	サー・井リアム・テムルの経済論（下）……………	高橋誠一郎	58
〔雑 録〕	失業救済施設に就いて（一）……………	園 乾治	87
	ウ井リアム・モリスの共産主義（二）……………	加田 哲二	103
	露西亜に於ける労働組合運動（三、完）……………	町田義一郎	112
	ジェイ・エス・ミルと経済学の定義（三、完）……………	榎本 敏治	125
	中華民国財政の整理（下）……………	胡 己 任	139
〔新刊紹介〕	Joseph L. Cohen: Insurance Against Unemployment. ……	園 乾治	167
<b>第16巻第10号</b> （1922年10月）			
〔論 説〕	チャールズ・ダヴェナントの経済策……………	高橋誠一郎	1
	物価問題に関する二三の考察……………	堀江 帰一	40
	近世資本主義起源考続論（三）……………	阿部 秀助	58
〔雑 録〕	エンゲルスのロオドベルトス批評（一）……………	小泉 信三	67
	ウ井リアム・モリスの共産主義（三、完）……………	加田 哲二	73
	自然的課税の主張者（一）……………	金原賢之助	84
	失業救済施設に就いて（二）……………	園 乾治	96
	基督教社会主義者としてのキングスレー……………	横浜 礼吉	109
〔新刊紹介〕	遠藤友四郎著『無政府共産主義の根本批評』……………	加田 哲二	119
	野村兼太郎訳『英国経済史及学説』上巻……………	金原賢之助	122
<b>第16巻第11号</b> （1922年11月）			
〔論 説〕	「資本論」以前に於けるマルクスの価値論、価格論……………	小泉 信三	1
	近世資本主義起源考続論（四）……………	阿部 秀助	27
	英国に於ける経済的秩序の快復……………	堀江 帰一	33
〔雑 録〕	マルクス主義の社会階級論（一）……………	加田 哲二	55
	エンゲルスのロオドベルトス批評（二、完）……………	小泉 信三	63
	自然的課税の主張者（二）……………	金原賢之助	69
	失業救済施設に就いて（三）……………	園 乾治	84
	英国田園都市運動の発生（上）……………	奥井復太郎	108
	経済学の自然科学的基礎（上）……………	上原 好咲	118
〔新刊紹介〕	マンチエスター・ガーザンの欧州改造雑誌……………	堀江 帰一	125
	川合貞一著『現代哲学への途』……………	阿部 秀助	126
	堀江帰一著『国際経済と国民経済』……………	三辺 金蔵	128

慶應義塾大学経済思潮講演集……………加田 哲二 131

第16巻第12号 (1922年12月)

〔論 説〕	鉄道に於ける競争の手段と原因に就いて……………	増井 幸雄	1
	近世資本主義起源考統論 (五、完)……………	阿部 秀助	26
	地代論に於けるマルクスとロオドベルトス……………	小泉 信三	32
〔雑 録〕	一千六百二十八年附東印度会社の請願書……………	高橋誠一郎	65
	自然的課税の主張者 (三、完)……………	金原賢之助	73
	英国田園都市運動の発生 (下)……………	奥井復太郎	90
	ミルとマーカンチリズム……………	榎本 敏治	109
	失業救済施設に就いて (四、完)……………	園 乾治	120
	マルクス主義の社会階級論 (二、完)……………	加田 哲二	135
	経済学の自然科学的基礎 (下)……………	上原 好咲	153

第17巻第1号 (1923年1月)

〔論 説〕	国際信用復興問題……………	堀江 帰一	1
	近世資本主義と殖民経済 (一)……………	阿部 秀助	24
	旧約全書に現れる社会思想 (上)……………	高橋誠一郎	30
〔雑 録〕	原始基督教と共産主義的思想 (上)……………	三辺 金蔵	59
	社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯 (一)……………	奥井復太郎	69
	「政治的正義」と「人口論」……………	津田 誠一	80
	アリストファネスの喜劇「エクレシアツゼ」とプラトーの「ポリタイヤ」 との関係……………	大城戸 忠	107
	徴利論に関する一考察 (一)……………	打村 敏三	117
	近世初期の英国株式会社に対するスコットの観察 (上)……………	高木 寿一	136
〔新刊紹介〕	小島幸治訳『近代英国社会主義史』……………	小泉 信三	147
	神田孝一著『労働能率研究』……………	園 乾治	151
	岩波書店編『岩波哲学辞典』……………	勝本 鼎一	155

第17巻第2号 (1923年2月)

〔論 説〕	社会主義と国家 (一)……………	小泉 信三	1
	近世資本主義と殖民経済 (二)……………	阿部 秀助	13
	旧中村藩の報徳仕法と産業組合……………	滝本 誠一	19
	旧約全書に現れたる社会思想 (下)……………	高橋誠一郎	39
〔雑 録〕	「人口論」の原理と政策……………	津田 誠一	61
	社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯 (二)……………	奥井復太郎	85
	近世初期の英国株式会社に対するスコットの観察 (下)……………	高木 寿一	101
	徴利論に関する一考察 (二、完)……………	打村 敏三	116
	原始基督教と共産主義的思想 (下)……………	三辺 金蔵	126
	クリフ・レスリーの観たるジョン・スチュアート・ミル……………	榎本 敏治	136
〔新刊紹介〕	Arthur J. Penty: Post-Industrialism……………	加田 哲二	147
	高島佐一郎著『金融経済の諸問題』……………	堀江 帰一	150
	伊東米治郎著『日本の海運』……………	増井 幸雄	151
	汐見三郎著『経済統計研究』……………	園 乾治	152

第17卷第3号 (1923年3月)	
[論 説]	組織概念としての商業……………向井 鹿松 1
	社会主義と国家(二)……………小泉 信三 31
	近世資本主義と殖民経済(三)……………阿部 秀助 52
	エツセネ教団の共産主義……………高橋誠一郎 58
[雑 録]	チュードル、スチュアート両朝に於ける工業政策(一)……………高木 寿一 79
	カロリン・フォックス女史とジョン・スチュアート・ミル(一)……………榎本 敏治 90
	「人口論」の哲学思想……………津田 誠一 102
	社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯(三)……………奥井復太郎 125
	フィリップスの貸出金の公式……………鈴木 良雄 150
	消費組合の限界(上)……………浜田 精一 163
[新刊紹介]	高田保馬著『社会学概論』……………加田 哲二 171
	杉程次郎氏著『最近貨幣論』を評す……………萩原吉太郎 173
第17卷第4号 (1923年4月)	
[論 説]	合衆国予算決算制度の改正……………堀江 帰一 1
	鉄道経営の独占的傾向に就て……………増井 幸雄 23
	社会主義と国家(三)……………小泉 信三 57
	近世資本主義と殖民経済(四)……………阿部 秀助 75
[雑 録]	独逸賠償問題の経過……………池田 龍蔵 83
	カロリン・フォックス女史とジョン・スチュアート・ミル(二)……………榎本 敏治 89
	社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯(四)……………奥井復太郎 106
	チュードル、スチュアート両朝に於ける工業政策(二)……………高木 寿一 127
	「人口論」批判(上)……………津田 誠一 138
	消費組合の限界(下)……………浜田 精一 167
[新刊紹介]	谷口弥五郎著『アダム・スミスの経済思想』……………高橋誠一郎 175
第17卷第5号 (1923年5月)	
[論 説]	原始基督教と社会問題(上)……………高橋誠一郎 1
	社会主義と国家(四、完)……………小泉 信三 14
	鉄道賃率制御策としての最高限度制定に就て……………増井 幸雄 43
[雑 録]	カントに帰って経済学を論ず……………勝田 貞次 61
	社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯(五)……………奥井復太郎 67
	「人口論」批判(下)……………津田 誠一 79
	基督教義と羅馬法理(上)……………打村 敏三 108
	カロリン・フォックス女史とジョン・スチュアート・ミル(三)……………榎本 敏治 124
	チュードル、スチュアート両朝に於ける工業政策(三)……………高木 寿一 140
第17卷第6号 (1923年6月)	
[論 説]	国家と失業並に失業者……………堀江 帰一 1
	配給組織構成要素を論ず……………向井 鹿松 26
	原始基督教と社会問題(下)……………高橋誠一郎 63
[雑 録]	社会思想論上のカーライルとミル……………谷口弥五郎 77
	基督教義と羅馬法理(下)……………打村 敏三 94
	カロリン・フォックス女史とジョン・スチュアート・ミル(四、完)……………榎本 敏治 110

社会思想家としてのジョン・ラスキンの生涯（六、完）	奥井復太郎	123
チュードル、スチュアート両朝に於ける工業政策（四、完）	高木 寿一	140

第17巻第7号（1923年7月）

〈アダム・スミス生誕二百年記念号〉

〔口 絵〕	アダム・スミス肖像	卷頭
	一千七百七十六年国富論初版扉	卷頭
	エデンボロオ、キヤノンゲイトに於けるスミスの墓碑	卷頭
〔論 説〕	アダム・スミスの租税論	堀江 帰一 1
	アダム・スミスの賃銀論	気賀 勤重 32
	アダム・スミスの「道德情操論」に就て	川合 貞一 71
	アダム・スミスの理論経済学概論	小泉 信三 102
	アダム・スミスの価値論中に於ける難関に就て	三辺 金蔵 156
	アダム・スミスと其後の仏蘭西経済学説	増井 幸雄 174
	アダム・スミスの商業に対する思想	向井 鹿松 215
	マーカンテリズムとアダム・スミス	高橋誠一郎 277

第17巻第8号（1923年8月）

〔論 説〕	アダム・スミス論補遺	小泉 信三 1
	国際貸借に於ける合衆国の地位	堀江 帰一 15
	原始基督教の社会思想	高橋誠一郎 30
〔雑 録〕	景気循環による社会的弊害の緩和策	池田 龍蔵 65
	経済学の科学的性質と経済法則の意	勝田 貞次 75
	カウツキーの「修道院的共産主義」を読む	小島 幸治 88
	ミルの死	榎本 敏治 113
〔新刊紹介〕	藤原銀次郎著『労働問題帰趣』	伊藤 秀一 130

第17巻第9号（1923年11月）

〔論 説〕	効用逓減の法則の根拠に就きて	高城仙次郎 1
	羅馬に於ける社会闘争と社会思想（一）	高橋誠一郎 26
〔雑 録〕	カール・ディールのアダム・スミス論（上）	三辺 金蔵 65
	資本主義的経済組織の本質と作用	金原賢之助 72
	リカドオ地代学説の先蹤（上）	津田 誠一 96
	故田中教授	山崎又次郎 124
〔新刊紹介〕	Jahrbuch für Wirtschaft, Politik und Arbeiterbewegung 1922/23 Verlag der kommunistischen Internationale Auslieferungsstelle für Deutschland.	小泉 信三 131
	池田龍蔵著『混沌裡の欧洲経済界』	向井 鹿松 133

第17巻第10号（1923年12月）

〔論 説〕	減債基金の理論と実際	堀江 帰一 1
	社会政策の原理	小泉 信三 23
	配給組織存在の理由に関する新説	向井 鹿松 56
	羅馬に於ける社会闘争と社会思想（二、完）	高橋誠一郎 101
〔雑 録〕	労働価値説に対するベルンシュタインの一批評	金原賢之助 169

	リカアドオ地代学説の先蹤（下）	津田 誠一	180
	アダム・スミスの自由主義に就て	浜田 恒一	203
	カール・ディールのアダム・スミス論（下）	三辺 金蔵	219
〔新刊紹介〕	勝本鼎一訳『経済法則の理論的性質』	金原賢之助	226
<b>第18巻第1号</b> （1924年1月）			
〔論 説〕	和学者の経済学説	滝本 誠一	1
	鉄道賃率制御策としての賃率認可の制度に就いて	増井 幸雄	21
	リカルドオの地代論（一）	小泉 信三	44
	マルクスの二つの価値と平均利潤率の問題	三辺 金蔵	60
〔雑 録〕	「近世画家論」第二巻より「建築の七灯」に至る迄（一）	奥井復太郎	79
	ジョン・スチュアート・ミルの功利主義に就いて	宇佐美 洵	98
	貨幣数量説の史的考察	萩原吉太郎	119
	ソレル著作年表	百瀬 二郎	147
〔新刊紹介〕	アダム・スミス原著 竹内謙二全訳『富国論』第三巻	高橋誠一郎	151
<b>第18巻第2号</b> （1924年2月）			
〔論 説〕	グラッカス兄弟（上）	高橋誠一郎	1
	平等思想の学理的根拠	滝本 誠一	24
	直接配給の原理と其限度（上）	向井 鹿松	37
〔雑 録〕	支那工業の現状に就て（一）	及川 恒忠	71
	「近世画家論」第二巻より「建築の七灯」に至る迄（二、完）	奥井復太郎	83
	リカアドオ派社会主義概論（上）	津田 誠一	105
	自由主義以前	榎本 敏治	132
	マルクスの価値論に対する Beer の批評	三辺 金蔵	144
<b>第18巻第3号</b> （1924年3月）			
〔論 説〕	鉄道賃率の妥当性に就いて	増井 幸雄	1
	リカルドオの地代論（二）	小泉 信三	27
	グラッカス兄弟（中）	高橋誠一郎	50
〔雑 録〕	ヴェニス石（上）	奥井復太郎	71
	リカアドオ派社会主義概論（中）	津田 誠一	94
	支那工業の現状に就て（二）	及川 恒忠	118
	勢州松坂に於ける銀札の沿革（上）	三井 高陽	141
	英国穀物市場の史的考察（一）	高木 寿一	150
〔新刊紹介〕	マルクス—エンゲルス遺稿	小泉 信三	158
	土方久美著『財政学の基礎概念』	堀江 帰一	160
<b>第18巻第4号</b> （1924年4月）			
〔論 説〕	英国中世の政治権力と社会組織	榎 智雄	1
	リカルドオの地代論（三）	小泉 信三	37
	直接配給の原理と其限度（中）	向井 鹿松	53
	グラッカス兄弟（下）	高橋誠一郎	69
〔雑 録〕	ヴェニス石（中）	奥井復太郎	93
	リカアドオ派社会主義概論（下）	津田 誠一	118

	勢州松坂に於ける銀札の沿革（中）	三井 高陽	135
	英国穀物市場の史的考察（二）	高木 寿一	149
第18巻第5号（1924年5月）			
〔論 説〕	革命期の羅馬に於ける社会闘争（上）	高橋誠一郎	1
	直接配給の原理と其限度（下）	向井 鹿松	21
	リカルドオの地代論（四）	小泉 信三	47
〔雑 録〕	経済学諸概念の社会心理学的考察（上）	上原 好咲	61
	ヴェニス石の石（下）	奥井復太郎	74
	勢州松坂に於ける銀札の沿革（下）	三井 高陽	103
	共産主義の経済的基礎に就て（上）	伊藤 秀一	118
	英国穀物市場の史的考察（三）	高木 寿一	134
〔新刊紹介〕	Frank Frost Abbott: Roman Politics.	高橋誠一郎	143
第18巻第6号（1924年6月）			
〔論 説〕	鉄道賃率の妥当性と制定主義	増井 幸雄	1
	リカルドオの地代論（五、完）	小泉 信三	23
	革命期の羅馬に於ける社会闘争（下）	高橋誠一郎	44
〔雑 録〕	Thorstein Veblen.	Frank W. Fetter	55
	共産主義の経済的基礎に就て（下）	伊藤 秀一	71
	英国穀物市場の史的考察（四、完）	高木 寿一	83
	経済学諸概念の社会心理学的考察（下）	上原 好咲	91
	支那工業の現状に就いて（三、完）	及川 恒忠	94
	Guiseの「新しき村」	打村 敏三	112
	ラスキンの労働者教育	奥井復太郎	125
第18巻第7号（1924年7月）			
〔論 説〕	ダウズ委員会の独逸賠償金問題提案	堀江 帰一	1
	経済政策の極致	向井 鹿松	19
	革命期の羅馬に於ける社会闘争続編（一）	高橋誠一郎	49
〔雑 録〕	農奴解放後の露西亜社会運動（一）	伊藤 秀一	67
	生産的及び不生産的なる語に就て（一）	榎本 敏治	86
	仏蘭西経済学に於る価値論の発達（一）	津田 誠一	105
	「近世資本主義論」第二版序文緒論に於けるゾムバルト	高木 寿一	127
	科学的社会主义は如何にして可能なりや（上）	平井 新	140
第18巻第8号（1924年8月）			
〔論 説〕	鉄道に於ける交通量の伸縮性に就いて	増井 幸雄	1
	革命期の羅馬に於ける社会闘争続編（二）	高橋誠一郎	27
〔雑 録〕	ヒーシオドスの「エルガ」	高橋誠一郎	53
	仏蘭西経済学に於る価値論の発達（二）	津田 誠一	58
	生産的及び不生産的なる語に就て（二）	榎本 敏治	75
	科学的社会主义は如何にして可能なりや（下）	平井 新	89
	農奴解放後の露西亜社会運動（二）	伊藤 秀一	104

第18卷第9号 (1924年9月)	
[論 説]	較差地代と絶対地代(上、中篇)……………小泉 信三 1 革命期の羅馬に於ける社会闘争続編(三)……………高橋誠一郎 71
[雜 録]	ラスキンの美術批評家時代の終焉……………奥井復太郎 109 農奴解放後の露西亜社会運動(三、完)……………伊藤 秀一 130 生産的及び不生産的なる語に就て(三)……………榎本 敏治 147 仏蘭西経済学に於る価値論の発達(三)……………津田 誠一 162
第18卷第10号 (1924年10月)	
[論 説]	農業の進化……………滝本 誠一 1 較差地代と絶対地代(下)……………小泉 信三 19 組織的觀念市場としての取引所……………向井 鹿松 52
[雜 録]	ソレルと唯物史觀……………百瀬 二郎 91 生産的及び不生産的なる語に就て(四)……………榎本 敏治 110 仏蘭西経済学に於る価値論の発達(四)……………津田 誠一 132 エドワード三世に関する一考察(上)……………高木 寿一 158
[新刊紹介]	『露西亜に於ける協同組合運動』……………伊藤 秀一 165
第18卷第11号 (1924年11月)	
[論 説]	ジャン・バティスト・セイの財産論……………増井 幸雄 1 ミルの社会思想に就て……………滝本 誠一 26
[雜 録]	社会と自然との平衡関係と「生産力」……………伊藤 秀一 41 生産的及び不生産的なる語に就て(五)……………榎本 敏治 67 仏蘭西経済学に於る価値論の発達(五、完)……………津田 誠一 84 エドワード三世に関する一考察(下)……………高木 寿一 98 数理学派に於ける利用遞減理論……………寺尾 琢磨 106
[新刊紹介]	林要訳『分配論』……………金原賢之助 138
第18卷第12号 (1924年12月)	
[論 説]	為替相場と物価の高低……………高城仙次郎 1 物産定期取引と株式定期取引の本質的差異……………向井 鹿松 51
[雜 録]	米国郵制略史……………三井 高陽 113 生産的及び不生産的なる語に就て(六、完)……………榎本 敏治 134 銀行業の公共性を論じ山崎博士の批評に答ふ……………勝田 貞次 151
第19卷第1号 (1925年1月)	
	欧洲戦争に基づく国際金融上の関係……………堀江 帰一 1 不換紙幣と物価……………高城仙次郎 44 ラッサアルとマルクス……………小泉 信三 80 スミス以前に於ける貨幣価値論の二潮流……………萩原吉太郎 95 婆羅門教法制に現はれし徴利思想……………芳賀 忠次 131
第19卷第2号 (1925年2月)	
	古典的価値学説と効用概念……………高橋誠一郎 1 チュルゴアのギルド解散令と水野越前守の間屋組合禁止令……………滝本 誠一 26



	七十年代の露西亞社会思想概観……………	伊藤 秀一	49
	仏教の興立と商人階級の活動……………	友松 円諦	99
	カール・ディールの資本理論に就いて……………	金原賢之助	127
	阿部秀助先生の学究的生涯……………	高木 寿一	154
<b>第19巻第3号</b>	(1925年3月)		
	「ユートピヤ」島より「新アトランチス」島への移動……………	高橋誠一郎	1
	職業的企業家の成立と資本家との闘争……………	向井 鹿松	29
	利益を以てする株式の消却に就て……………	三辺 金蔵	70
	正統学派の賃銀論……………	津田 誠一	87
	マルクス社会学説の起源並に之に対するヘーゲル、フォイエルバッハ、 シュタイン及びブルードンの影響……………	平井 新	144
<b>第19巻第4号</b>	(1925年4月)		
	ゾムバルトの「プロレタリア社会主義」……………	小泉 信三	1
	生産消費の均衡に関する論争……………	増井 幸雄	27
	労農露西亞に於ける農民問題……………	伊藤 秀一	143
<b>第19巻第5号</b>	(1925年5月)		
	人口学説史上に於けるグローント及びペチイ……………	高橋誠一郎	1
	錢莊の発行する莊票について……………	及川 恒忠	23
	佐藤信淵の国家専売法……………	滝本 誠一	52
	修正派社会主義概論(特に唯物史観並に近世社会の経済的進化に関する ベルンシュタインの見解)……………	金原賢之助	69
	佛教に於ける四方の思想について……………	友松 円諦	112
[新刊紹介]	山崎清純著『外国為替の見方』……………	堀江 帰一	128
	早坂喜一郎著『銀価と銀為替』……………	堀江 帰一	128
<b>第19巻第6号</b>	(1925年6月)		
	卸相場と小売相場の関係について……………	高城仙次郎	1
	正統派の利潤論……………	津田 誠一	45
	『共産党宣言』剽窃問題……………	平井 新	90
[新刊紹介]	高橋亀吉著『金融の基礎』……………	堀江 帰一	137
	太田正孝著『改訂増補 国民予算論』……………	堀江 帰一	137
<b>第19巻第7号</b>	(1925年7月)		
	金貨本位制度に関する根本問題……………	堀江 帰一	1
	英国都市起源考……………	野村兼太郎	32
	ナツソウ・ウイリアム・シニョアに於ける収穫通減の法則……………	浜田 恒一	63
	経済的世界の数学的表現……………	武部与八郎	80
	自然的地理的環境の経済学的考察……………	伊藤 秀一	108
<b>第19巻第8号</b>	(1925年8月)		
	セイの経済政策論……………	増井 幸雄	1
	産業予備軍と農民の都市流入……………	小泉 信三	70

	社会の経済的発達に関するミルの見解に就て……………	榎本 敏治	95
	経済価値説の体系……………	武部与八郎	122
	井上準之助著『我国の経済及金融』……………	堀江 帰一	152
	ジエムス・ボーナー博士の『マルサスと其事業』増訂版……………	高橋誠一郎	156
<b>第19巻第9号</b>	(1925年9月)		
	古羅馬社会闘争史上に於けるキケロ……………	高橋誠一郎	1
	市場経済と経営経済……………	向井 鹿松	64
	英国産業革命史一斑の説明……………	高木 寿一	111
	坂西由藏教授著『経済生活の歴史的考察』……………	高橋誠一郎	127
	竹内謙二氏訳『国富論』増訂版……………	高橋誠一郎	129
<b>第19巻第10号</b>	(1925年10月)		
	徳川時代に於ける悪貨濫造の結果に就て……………	滝本 誠一	1
	近世初期に於ける英葡通商関係とMethuen条約……………	野村兼太郎	25
	羅馬共和政治の滅亡……………	高橋誠一郎	57
	「ヴ・ナロッド」と其後の革命的社會運動……………	伊藤 秀一	87
	価格及び価値の幾何学的研究……………	武部与八郎	129
<b>第19巻第11号</b>	(1925年11月)		
	邦訳「国富論」題言……………	高橋誠一郎	1
	価値論より見たるセイの地位……………	増井 幸雄	48
	消費組合運動と組合使用人……………	町田義一郎	93
	マルクス階級闘争説起源考……………	平井 新	112
<b>第19巻第12号</b>	(1925年12月)		
	労働者の企業資本参加……………	向井 鹿松	1
	ラッサアルとロオドベルトス……………	小泉 信三	58
	孫江二氏の社会主義……………	及川 恒忠	81
	Johann Heinrich von Thiinenの自然賃銀論に就いて……………	寺尾 琢磨	113
	「国富論」以後……………	高橋誠一郎	140
<b>第20巻第1号</b>	(1926年1月)		
	インフレーションとデフレーション……………	堀江 帰一	1
	再び江亢虎氏の学説に就て……………	及川 恒忠	34
	ジュリウス及びアウグストゥス・ケーザル……………	高橋誠一郎	58
	社会科学の法則……………	武部与八郎	111
<b>第20巻第2号</b>	(1926年2月)		
	セイの分配理論……………	増井 幸雄	1
	第十三世紀英国の政治思想……………	榎 智雄	39
	小農維持法案に就て……………	滝本 誠一	71
	社会改良と人生論……………	島田 久吉	95
	グスタフ・カッセル「経済学根本思想」の一節……………	高木 寿一	117

第20巻第3号	(1926年3月)		
	「価値論の価値」	小泉 信三	1
	金融資本網の組織	向井 鹿松	26
	経済地理学研究に関するシュミツドの見解	伊藤 秀一	121
	森耕三郎著『リカード価値論の研究』	三辺 金蔵	137
第20巻第4号	(1926年4月)		
	ケネー「経済表の範式」に就て	三辺 金蔵	1
	金融資本網の健全性	向井 鹿松	12
	「社会科学の法則」の哲学的研究	武部与八郎	65
	国富論と初期独逸経済学者	町田義一郎	102
第20巻第5号	(1926年5月)		
	予算純計の計出法を評す	高城仙次郎	1
	古代希臘上期の詩歌中に現れたる社会	高橋誠一郎	40
	死亡率出生率相関の現象	竹村豊太郎	65
	シニョアの価値論	浜田 恒一	121
[新刊紹介]	Professor Seligman: Essays in Economics	町田義一郎	151
第20巻第6号	(1926年6月)		
	ケネーとアダム・スミス	滝本 誠一	1
	セイの資本所得論	増井 幸雄	20
	英蘭徒弟制度の変遷	野村兼太郎	56
	「共産党宣言」前史の一齣	平井 新	87
	津田誠一氏逝く	高橋誠一郎	106
第20巻第7号	(1926年7月)		
	英吉利の炭坑並に炭業経済	堀江 帰一	1
	Fiducia と Treuhand	西本辰之助	28
	貸銀学説史概論	富永 和夫	47
	中世英国工業統制の一解説	高木 寿一	92
[新刊紹介]	W. F. Galpin: —The Grain Supply of England during the Napoleonic Period. pp.305. 1925 New York.	野村兼太郎	104
	永井博士の『社会読本』を読む	園 乾治	114
第20巻第8号	(1926年8月)		
	労農露西亜に於ける農民問題	小泉 信三	1
	フィズィオクラートの学説の出所	滝本 誠一	39
	階級闘争説に於けるマルクスと其の先駆者	平井 新	83
	経済学に於ける純粹悟性概念の演繹	武部与八郎	108
第20巻第9号	(1926年9月)		
	波斯戦役以後の雅典に於ける社会思想	高橋誠一郎	1
	工場制度を特徴とする資本主義の進展 (マルクスよりテラーへ)	向井 鹿松	65
	米国経済学の歴史的瞥見 (植民地時代より十八世紀末に至る)	町田義一郎	107

	R. H. Snape: —English Monastic Finance in the Later Middle Ages. . . . . 野村兼太郎	135
	土方成美著『我國民經濟と財政』 . . . . . 高木 寿一	147
第20巻第10号	(1926年10月)	
	雅典国の収入 . . . . . 高橋誠一郎	1
	イギリスに於ける発明の保護と工場工業の成立 . . . . . 園 乾治	65
	経済学に於ける実践理性の演繹 . . . . . 武部与八郎	94
	シュバンの経済学方法論の根本思想 . . . . . 藤林 敬三	119
	M. S. Miller: The Economic Development of Russia. . . . . 野村兼太郎	148
	価値論に関する最近の二文献 . . . . . 寺尾 琢磨	159
第20巻第11号	(1926年11月)	
	物価の季節的変動 . . . . . 高城仙次郎	1
	マルクス共産社会観の一批評 . . . . . 加田 哲二	13
	富神開眼と懶惰奢侈よりの解放 (古希臘經濟思想研究の一節) . . . . . 高橋誠一郎	74
	シニョアの労銀論 . . . . . 浜田 恒一	103
	我国労働法に関する最近の収穫 . . . . . 園 乾治	126
	キリアム・ゴドキン『政治的正義』新刻版 . . . . . 伊藤 秀一	137
	Fisher—Mathematical Introductions in the Theory of Value and Prices. の再版 . . . . . 寺尾 琢磨	141
第20巻第12号	(1926年12月)	
	セイの土地所得論 . . . . . 増井 幸雄	1
	アメリカに於ける初期の労働組合と労働争議 (一七八六年より一八二七年まで) . . . . . 園 乾治	38
	Liber Albusに現れたる倫敦の經濟生活 . . . . . 野村兼太郎	79
	マルサス人口論各版和訳本の研究 . . . . . 竹村豊太郎	112
第21巻第1号	(1927年1月)	
	英国炭坑争議の發展 . . . . . 堀江 帰一	1
	古代英国都市概論 (英国都市發達史の一節) . . . . . 野村兼太郎	32
	ミルの生産要素論 . . . . . 榎本 敏治	73
	アメリカに於けるフリードリヒ・リスト . . . . . 山田 正夫	99
	黒正巖著『農業共産制度史論』 . . . . . 加田 哲二	135
第21巻第2号	(1927年2月)	
	邦訳リカアドオ原論解題 . . . . . 小泉 信三	1
	マックイザアの国家論——彼の新著『近代国家論』とその思想的背景の概観—— . . . . . 加田 哲二	62
	海洋の發展に関する經濟地理学的一觀察 . . . . . 伊藤 秀一	123
第21巻第3号	(1927年3月)	
	英独銀行制度の比較研究 . . . . . 向井 鹿松	1
	端西時代のキルヘルム・ワイトリング——『ワイトリング研究』の一節—— . . . . . 平井 新	51
	富国論の根本思想に就て . . . . . 藤林 敬三	82
	社会学の研究に就て . . . . . 加田 哲二	122

	吉阪俊蔵著『改正工場法論』	園 乾治	140
第21巻第4号	(1927年4月)		
	経済史の学理的研究	滝本 誠一	1
	労働階級の覚醒とフィラデルフィアに於ける政治運動	園 乾治	23
	倫敦に於けるハンザの Steelyard	野村兼太郎	73
	中世英国の政治詩歌	榎 智雄	98
	アメリカ時代に於けるリストの経済思想	山田 正夫	105
第21巻第5号	(1927年5月)		
	セイの人口論	増井 幸雄	1
	リカアドオ原論解題補遺	小泉 信三	46
	「職能経済学」に就いて——定型と個性の結合——	勝田 貞次	89
	社会保険の範囲に就いて	園 乾治	111
	Ricart's Kalendar に就いて	野村兼太郎	132
第21巻第6号	(1927年6月)		
	第十七世紀英国の民権思想と新教	榎 智雄	1
	割賦販売制度と消費金融	向井 鹿松	26
	社会保険の給付に就て	園 乾治	49
	マルサス人口原理の本質	竹村豊太郎	70
	第十九世紀前半の独逸社会思想史文献大要	加田 哲二	100
	ブルノオ・ビルデブランドの一書簡——『共産党宣言』成立史の一資料——	平井 新	110
第21巻第7号	(1927年7月)		
	昭和二年のパニック（其経過と対策）	堀江 帰一	1
	上海に於ける標金の取引	及川 恒忠	28
	内国債の発行方法	向井 鹿松／内藤 蔚彦	47
	リストの経済思想の背景	山田 正夫	64
	シニョアの利潤論	浜田 恒一	102
第21巻第8号	(1927年8月)		
	物価の月次的変動	高城仙次郎	1
	“Piers the Plowman”を通じて見たる英国社会状態	野村兼太郎	39
	唯物史観批評	平井 新	91
第21巻第9号	(1927年9月)		
	一八三〇年前後のアメリカに於ける労働階級の政治運動	園 乾治	1
	リカアドオ原論の本文	小泉 信三	61
	リストとレーモンド	山田 正夫	112
	集落の自然的条件について	奥井復太郎	154
第21巻第10号	(1927年10月)		
	リカアドオの死後	小泉 信三	1
	休業銀行に関する法律問題	西本辰之助	55

	第十七世紀前半に於ける英国東印度会社の状態	野村兼太郎	77
	科学的管理法と産業心理学	藤林 敬三	116
第21巻第11号	(1927年11月)		
	海運に於ける競争に就いて	増井 幸雄	1
	市場と都市発生	奥井復太郎	33
	アメリカに於ける地方的労働組合の活動	園 乾治	76
	経済学に於ける過剰人口論の不可能	竹村豊太郎	131
	Von Thünen に於ける遊離的数学的方法に就いて	寺尾 琢磨	163
第21巻第12号	(1927年12月)		
	エンゲルスの原始家族論	加田 哲二	1
	上海外国為替の趨向及漢口金融市場の近況	及川 恒忠	44
	ナッソウ・ウィリアム・シニョア論	浜田 恒一	65
	ローザンヌ学派創設者レオン・ワルラス	永田 清	100
	外国経済史に関する新刊書(英書)	野村兼太郎	143
第22巻第1号	(1928年1月)		
	アリストテレス経済学の疑点	高橋誠一郎	1
	経済史研究序論	野村兼太郎	23
	マルクシズム前史 正義者同盟の建設よりマルクス、エンゲルスの加盟まで	平井 新	63
	古代社会に於ける氏族制度と其経済単位に就て	山本勝太郎	139
	河原田稼吉『労働行政綱要』	園 乾治	164
	堀江帰一教授逝く	高橋誠一郎	167
第22巻第2号	(1928年2月)		
	歴史と理想	滝本 誠一	1
	分業組織としての経営概念	向井 鹿松	15
	家計調査の結果	高城仙次郎	37
	古代社会に於ける経済生活発達の史的経過に就て	山本勝太郎	81
	Turgeon の価値論に関する Caëtan Pirou の批評に就て	永田 清	97
第22巻第3号	(1928年3月)		
	独逸都市研究序論	奥井復太郎	1
	一八三〇年代のアメリカに於ける全国労働組合の活動	園 乾治	33
	ラッサアルとファイヒテ	小泉 信三	85
	新経済史観の上に於ける万葉研究	山本勝太郎	93
	「アリストテレスの『流通の正義』=マルクスの其解釈に関する疑」(其三)		
	中に於ける福田博士の拙稿に対する批難に就いて	高橋誠一郎	155
[新刊紹介]	淡路円次郎著『職業心理学』	藤林 敬三	164
	上野陽一著『産業能率概論』	藤林 敬三	168
第22巻第4号	(1928年4月)		
	農業信用と普通銀行	成瀬 義春	1
	海運会社の競争と其の結末	増井 幸雄	23

	現代の純理経済学	永田 清	73
	コンシデラン『社会主義原理、第十九世紀民主主義宣言』の前編	平井 新	84
	エンリーコ・パローネの独占論	寺尾 琢磨	113
第22巻第5号	(1928年5月)		
	社会階級論の一考察	加田 哲二	1
	英国東印度会社の発展時代	野村兼太郎	57
	労働科学の出発点	藤林 敬三	81
	旧大陸に帰りたる新人の活躍	山田 正夫	101
第22巻第6号	(1928年6月)		
	上海銀行公会の支那国民経済に於ける地位に就て	及川 恒忠	1
	経済生物学の研究方法来に就て	勝田 貞次	43
	Yves-Guyot 逝く	永田 清	62
	「バボエフ説分析」並びにバボエフ及びバボエフ主義文献小録	平井 新	78
	古代社会に於ける農業の発達	山本勝太郎	99
	「一デュネーヴ住民の書翰」に現れたるサン・シモンの思想	小泉 順三	110
第22巻第7号	(1928年7月)		
	古代希臘人の貨幣思想に就きて	高橋誠一郎	1
	『人類の現実と理想』に現はれたるワイトリングのユウトピヤ	平井 新	21
	独逸古典哲学よりマルクスに至る間の社会概念の発展	奥田 忠雄	65
	W. Radolph Burgess, The Reserve Banks and the Money Market.	金原賢之助	116
	滝本博士五難説に就て	山本勝太郎	131
	森耕二郎著『労賃学説の史的発展』	小泉 信三	139
第22巻第8号	(1928年8月)		
	産業革命前に於ける英国社会状態概論	野村兼太郎	1
	ランスブルクの金本位論	金原賢之助	49
	金解禁問題	萩原吉太郎	75
	封建制度の崩壊と維新革命に関する一異論 ——猪谷善一氏著『明治維新経済史』の拙稿に対する誤解を矯す——	山本勝太郎	94
	ヘンリー・チャールズ・ケリーの地代学説	内田 勇二	109
	三木清著『唯物史観と現代の意識』	小泉 信三	139
第22巻第9号	(1928年9月)		
	アメリカ労働運動史に於けるヒューマニタリアニズム	園 乾治	1
	労働時間問題	藤林 敬三	57
	統計数字比較の問題	寺尾 琢磨	89
	Boris Brutzkus, Die Lahren des Marxismus im Lichte der russischen Revolution.	小泉 信三	110
第22巻第10号	(1928年10月)		
	法律上より見たる有価証券発行方法	西本辰之助	1
	初期仏蘭西社会主義と階級闘争説		

	——マルクス以前における階級闘争説発達史の一節——	加田 哲二	17
	金本位制度の理論的研究	金原賢之助	76
	英国産業革命研究資料一般	野村兼太郎	155
	価値論と平衡論——「価値論の価値」を中心として観たる		
	ワルラスよりパレトへの経済的平衡論の発展——	永田 清	169
第22巻第11号	(1928年11月)		
	関東州特に大連取引所制度の生成	向井 鹿松	1
	第十九世紀中葉に於けるアメリカ労働階級運動史	園 乾治	46
	価格論の基礎としての主観的価値論	原子文四郎	125
	竹村豊太郎著『経済生活の原理』	山田 正夫	154
第22巻第12号	(1928年12月)		
	米価は安きか高きか	高城仙次郎	1
	近世国家における自然法学説	加田 哲二	78
	サン・シモンと「十九世紀科学的研究に関する序論」	小泉 順三	125
	油谷十二 片岡義雄著『会計学実務』	山田 正夫	165
第23巻第1号	(1929年1月)		
	政治算術と経済学	高橋誠一郎	1
	英国に於ける労働者階級の発生	野村兼太郎	23
	ルドルフ・シュタムラーの経済学方法論(社会的法的経済学派研究 其一)	奥田 忠雄	75
	サミュエル・ベエリイのリカアドオ批判		
	——価値の本質、尺度並に原因の問題に就いて——	永田 清	141
第23巻第2号	(1929年2月)		
	社会政策序論——社会政策の根本観念——	奥井復太郎	1
	貨幣価値本質性概論	内田 正孝	51
	サン・シモンの歴史哲学と人類の科学	小泉 順三	80
	橋樸著「『官僚』の社会的意義」	小泉 信三	147
	吉田良三著『工業簿記と原価計算』	山田 正夫	150
第23巻第3号	(1929年3月)		
	自由主義の国家観——ジョン・ロック及びアダム・スミス——	加田 哲二	1
	南北戦争とアメリカ労働階級	園 乾治	61
	「一八四八年乃至一八五四年の英国クリスチヤン、ソシアリスト運動に於ける」		
	ジョン・マルコーム・フオーブス・ラドロウの生涯、思想及び其の貢献	野田 幸一	113
	日本経済史の始り——日本史の科学的研究問題に関する一批評——	山本勝太郎	130
	The Growth of Philosophical Radicalism By Elie Halévy, Translated by		
	Mary Morris. 1928	小泉 信三	142
第23巻第4号	(1929年4月)		
	為替相場理論概説	金原賢之助	1
	十八世紀中葉の仏蘭西哲学とコンディヤックの価値論		
	——感覚論と主観的価値説との交渉——	永田 清	71



	シイニオア『経済学』 解題	濱田 恒一	110
第23巻第5号	(1929年5月)		
	国際重複課税の防止	成瀬 義春	1
	『国民主義政治経済学』の成立	山田 正夫	29
	一七八九年に於けるフランスの第三階級	小泉 順三	78
	近刊のマルクス伝二種	小泉 信三	124
第23巻第6号	(1929年6月)		
	経済的独立自尊の意義	滝本 誠一	1
	プルウドンの財産論とその独逸に於ける反響	加田 哲二	21
	クライミング・ボーイ研究——英国児童労働史の一齣——	高村 象平	93
	ニッチの財政学原理 (仏訳版)	永田 清	148
第23巻第7号	(1929年7月)		
	我国に於ける近世的商業の萌芽——町人階級発達史序説——	野村兼太郎	1
	『全国労働組合』と政治経済問題 ——一八六六年以降のアメリカ労働階級の政治運動——	園 乾治	58
	指数の性質に関する Flaskämper の所説	寺尾 琢磨	111
第23巻第8号	(1929年8月)		
	プルウドンとマルクス	加田 哲二	1
	サン・シモンの欧洲社会改造論	小泉 順三	77
	経営概念と経営労働の本質	鈴木 保良	126
第23巻第9号	(1929年9月)		
	邦訳マルサス人口論解題	小泉 信三	1
	鉄道に於ける距離比例賃率に就いて	増井 幸雄	76
	ウィリアム・スタンリー・ジェヴォンズの書翰に現れたる其の「経済学理論」	高橋誠一郎	116
	時間級数の分析	小高 泰雄	139
第23巻第10号	(1929年10月)		
	英国に於ける道路の発達と産業革命	野村兼太郎	1
	『全国労働組合』の崩壊と一八七三年の恐慌	園 乾治	45
	ワルラスとカッセル——主として理論経済学上に於ける両者の関係に就て——	永田 清	81
	ホップハウス教授逝く	生形 要	121
第23巻第11号	(1929年11月)		
	市民的社會と国家——マルクスに於ける国家の本質——	加田 哲二	1
	金本位制度の世界大戦前に於ける普及とその戦後に於ける復興	金原賢之助	55
	紐育市を中心として見たる米国印刷業労資団体の沿革及組織 ——米国労働運動に関する報告一斑——	小島 栄次	143
第23巻第12号	(1929年12月)		
	我国の所得税に関する若干の考察	成瀬 義春	1

	一七八九年のフランスに於ける農民階級……………小泉 順三	33
	Carl Snyder “Business Cycles and Business Measurements” N.Y. 1927……………小高 泰雄	110
第24巻第1号	(1930年1月)	
	初期経済学説中に於ける「生存費労銀説」の潜在……………高橋誠一郎	1
	『ナイツ・オブ・レーバー』成立前の労働情勢	
	——一八七〇年代に於けるアメリカ労働運動史一斑——……………園 乾治	14
	英国産業革命研究資料補遺……………野村兼太郎	53
	ダグラスに対する若干の批判……………高村 象平	64
	Roger Mauduit, Auguste Comte et la science économique, 1929……………永田 清	99
第24巻第2号	(1930年2月)	
	マルクス=エンゲルスに於ける原始自生的共同体の認識……………加田 哲二	1
	「都市問題」一考察……………奥井復太郎	64
	バブウフの Conspiration pour l'Égalité……………平井 新	107
第24巻第3号	(1930年3月)	
	長距離通減賃率の根拠に就いて……………増井 幸雄	1
	運河と産業革命……………野村兼太郎	31
	一七九七年の金融恐慌と Bank Restriction Act の制定……………町田義一郎	66
	租税犠牲説と功利主義哲学——租税理論研究の一節——……………永田 清	133
第24巻第4号	(1930年4月)	
	金解禁策の批判と金流出の対策私案……………高城仙次郎	1
	ピグー、ダルトンの資本課税論——附、コルウイン委員会報告書——……………高木 寿一	44
	ベーコン「新論理学」解説——ミルの方法論研究への一序説——……………浜田 恒一	99
	採炭方法の変化と児童雇傭——英国児童労働史の一齣——……………高村 象平	156
	フランス学会編『フランスの社会科学』……………永田 清	201
第24巻第5号	(1930年5月)	
	マーカンチリスムの重金思想に就いて……………高橋誠一郎	1
	労働法の研究方法……………奥田 忠雄	19
	米国印刷業労資団体概観——其相互関係其態度及方針等——……………小島 栄次	85
	景気変動理論研究に対する統計上の準備……………小高 泰雄	124
第24巻第6号	(1930年6月)	
	搾取の理論……………小泉 信三	1
	英国綿業の発達と商業——綿業に於ける産業革命序説一——……………野村兼太郎	42
	バブウフ主義と秘密結社……………平井 新	79
第24巻第7号	(1930年7月)	
	マルクス社会学と原始社会論……………加田 哲二	1
	一八四二年前の炭礦労働状態——英国児童労働史の一齣——……………高村 象平	61
	貨幣動態価値論概観……………内田 正孝	128

第24巻第8号	(1930年8月)		
	ユートピア管見——(W. E. Campbell 著 More's Utopia & his Social Teaching, 1930. を読みて)——	高橋誠一郎	1
	ジェイ・エス・ミルの社会科学方法論梗概		
	——その経済学方法論研究への序——	浜田 恒一	23
	産業主義者サン・シモン		
	——「欧洲社会改造論」以後「新キリスト教」に至る迄——	小泉 順三	65
	江戸時代浅草寺門前町の地価の変遷	上坂 倉次	142
第24巻第9号	(1930年9月)		
	アメリカ労働階級の政治運動と社会主義思想	園 乾治	1
	独逸社会政策理論前史——自由放任論と其の社会政策的批評——	奥井復太郎	52
	正統派経済学批判者としてのシモンディ		
	——特に彼れの恐慌論を中心として——	永田 清	143
第24巻第10号	(1930年10月)		
	一八七八年以降に於けるアメリカの新労働組合運動	園 乾治	1
	労働法の本質	奥田 忠雄	53
	濠洲に於ける賃銀統制	小島 栄次	121
第24巻第11号	(1930年11月)		
	英国綿業に於ける家内労働者(綿業に於ける産業革命序説二)	野村兼太郎	1
	史的唯物論研究序説	加田 哲二	43
	英蘭教区徒弟制度管見	高村 象平	99
	カッセルの自由主義経済学	気賀 健三	131
第24巻第12号	(1930年12月)		
	蘇連新々経済政策以後	小泉 信三	1
	資本制蓄積の理論	伊藤 秀一	28
	経済学に於ける経験の方法に就て(De l'expérimentation en science économique positive)	フランソア・シミアン/松本 信広訳	95
[新刊紹介]	長谷川安兵衛著『新銀行会計研究』	三辺 金蔵	111
	長谷川安兵衛著『予算統制の研究』	山田 正夫	115
第25巻第1号	(1931年1月)		
	近世初期の失業対策と就業権論	高橋誠一郎	1
	貨幣数量説と貨幣本質観との論理的関係	萩原吉太郎	51
	経済価値論管見——波多野鼎氏の近著『価値学説史』を読みて——	永田 清	102
	景気論に関する近刊書三	小高 泰雄	118
第25巻第2号	(1931年2月)		
	「講壇社会主義」論戦——独逸社会政策理論史の一片——	奥井復太郎	1
	プランキの階級闘争説とプロレタリア独裁説	平井 新	75
	ジェイ・エス・ミルの経済学方法論	浜田 恒一	131

第25巻第3号	(1931年3月)		
	「ナイツ・オブ・レーバー」の構成と其勢力の消長……………	園 乾治	1
	理論経済学の対象……………	奥田 忠雄	61
	サン・シモンの宗教論——Nouveau christianisme と彼の晩年——……………	小泉 順三	114
第25巻第4号	(1931年4月)		
	明治初期の社会主義……………	加田 哲二	1
	山鹿素行の経済学説……………	野村兼太郎	59
	カツセルの価格論と自由競争論……………	気賀 健三	113
第25巻第5号	(1931年5月)		
	ジョン・ペラーズの研究……………	高橋誠一郎	1
	ピグウ教授の産業変動論に就て……………	小高 泰雄	43
	アリストテレスよりオレームに至る貨幣理論の発達……………	萩原吉太郎	73
	Alfons Dopsch, Naturalwirtschaft und Geldwirtschaft in der Weltgeschichte. 1930. ……………	高村 象平	115
第25巻第6号	(1931年6月)		
	セイの消費論……………	増井 幸雄	1
	フランス革命以前の知識階級——フランス革命と知識階級への序説——……………	小泉 順三	25
	オウエンの社会思想……………	土田 玉雄	78
	歴史学方法論の一面……………	高村 象平	105
第25巻第7号	(1931年7月)		
	金の国際的移動に就いて……………	金原賢之助	1
	貸借対照表の回顧的目的——フィッシャーの貸借対照表論——……………	山田 正夫	71
	貸銀支給制度研究——集团的奨励貸銀支給制に就て——……………	小島 栄次	111
	Ernst Oppler, Der Begriff des Wirtschaftsgesetzes in der Volkswirtschaftslehre. 1930 ……………	奥田 忠雄	140
第25巻第8号	(1931年8月)		
	第十九世紀末葉に於けるアメリカ労働運動の概観……………	園 乾治	1
	植民政策と自由主義——英国植民政策史上に於ける自由主義の時代に就て——…	伊藤 秀一	63
	理論経済学方法論叙説……………	奥田 忠雄	133
第25巻第9号	(1931年9月)		
	正徳享保時代の社会経済論概説……………	野村兼太郎	1
	ジョン・エリオット・ケアンズの経済学方法論……………	浜田 恒一	67
	価値学説無用論と限界効用理論……………	気賀 健三	125
第25巻第10号	(1931年10月)		
	明治二十年前後の社会問題に関する自由党左翼の見解 ——明治二十年代の社会思想史の一節——……………	加田 哲二	1
	「社会政策学会」の成立とシュモラアの社会政策原理 ——独逸社会政策思想史統篇——……………	奥井復太郎	52

	荘内藩の与内制度に就いて……………	国分 剛二	119
第25巻第11号	(1931年11月)		
	マーカンチリズム時代の人口学説……………	高橋誠一郎	1
	明治二十年代に於ける労働者問題観……………	加田 哲二	52
	恐慌論上に於けるシスモンディとフォン・キルシュマン……………	小高 泰雄	101
	英蘭児童労働史研究上の一寄与——ロブスンの新著を讀みて——……………	高村 象平	141
	弁証法研究に関する若干の文献……………	奥田 忠雄	153
第25巻第12号	(1931年12月)		
	余剰価値と利潤……………	小泉 信三	1
	ヨーロッパ戦争以前のアメリカ労働組合運動		
	——一八九八年より一九一四年に至る——……………	園 乾治	36
	フリドリッヒ・フォン・ウィーザアの帰算理論……………	小池徳太郎	119
第26巻第1号	(1932年1月)		
	マーカンチリズム時代の主権及び財産理論……………	高橋誠一郎	1
	租税経済論序説……………	高木 寿一	48
	ヴィンデルバントに於ける歴史学と歴史の発展……………	高村 象平	73
	Irving Fisher; “The Theory of Interest”……………	気賀 健三	139
第26巻第2号	(1932年2月)		
	太宰春台の経済論……………	野村兼太郎	1
	帝国主義の概念に就て……………	伊藤 秀一	43
	観念論に於ける現実性認識への端緒——理論経済学方法論叙説——……………	奥田 忠雄	115
第26巻第3号	(1932年3月)		
	外国為替管理の普及と其有する意義に就いて……………	金原賢之助	1
	現実性認識への道——理論経済学方法論叙説——……………	奥田 忠雄	51
	労働価値説の基本的考察……………	伊東 岱吉	79
第26巻第4号	(1932年4月)		
	キング卿の通貨観——第十九世紀英国地金論者の一先蹤——……………	町田義一郎	1
	経済的原則の意義……………	気賀 健三	59
	フランス革命時代の知識階級……………	小泉 順三	90
	“A Treatise on Money” に現はれたるケーンズの金融理論に就いて……………	吉田 寛	120
第26巻第5号	(1932年5月)		
	ヨーロッパ戦争とアメリカ労働階級		
	——一九一四年より一九二〇年に至るアメリカ労働運動史——……………	園 乾治	1
	英国歴史学派に於ける方法論の発達……………	浜田 恒一	53
	経済史研究序説の一章……………	高村 象平	121
	慶應義塾創立七十五年記念 西洋経済思想史展覧会目録		
	…奥田 忠雄／高村 象平／小池 基之／小島 栄次／小高 泰雄／気賀 健三共編		151

第26巻第6号	(1932年6月)		
	セイの私的及公的消費論	増井 幸雄	1
	弁証法の基本的諸特徴と体系とに就いて——理論経済学方法論叙説——	奥田 忠雄	51
	帰算理論と分配論——奥大利学派の分配論に就いての一考察——	小池 基之	103
第26巻第7号	(1932年7月)		
	短期清算取引の解剖と其の批判	向井 鹿松	1
	日本におけるファシズムの概観	加田 哲二	39
	ボアギェルベールの「富の本質論」——フイジオクラアト学説の出所再吟味——	下田 博	86
	社債の平等担保に就て	佐々木 暁秀	121
	G. -H. Bousquet "Les Bases du Système Économique" Paris 1932.	小高 泰雄	146
第26巻第8号	(1932年8月)		
	日本における国民社会主義と無産政党の動向	加田 哲二	1
	获生祖来の経済論	野村兼太郎	44
	労働価値説の諸問題	伊東 岱吉	75
	十九世紀に於ける欧米の経済発展	高村 象平	121
第26巻第9号	(1932年9月)		
	アメリカに於ける産業別労働組合運動一斑	園 乾治	1
	米国社会事業概観	小島 栄次	35
	経済の「社会的法的」基礎	気賀 健三	66
	Theo. Surányi-Unger; Geschichte der Wirtschaftsphilosophie. 1931.	小池 基之	100
第26巻第10号	(1932年10月)		
	〈慶應義塾創立七十五年記念論文集〉		
	ソキエト五個年計画概論	小泉 信三	1
	統制経済と計画経済	向井 鹿松	47
	徳川時代に於ける商業論の変遷	野村兼太郎	79
	現代日本における国粹的社会思想	加田 哲二	111
	最近十年間に於けるアメリカの労働階級運動	園 乾治	145
	都市社会学の一考察	奥井復太郎	183
	インフレーションの本質と恐慌の現段階に於けるその意義	金原賢之助	217
	植民政策と帝国主義——植民政策研究序説——	伊藤 秀一	255
	人口減退とその経済的意義	寺尾 琢磨	285
	精神技術学の危機——ソヴェート・ロシヤに於ける精神技術学に就いて——	藤林 敬三	327
	Jean Bodin と其時代	永田 清	361
	支那労働組合法の歴史一斑	及川 恒忠	383
	ジ・ベ・セイの交換論	増井 幸雄	439
	所謂る農村問題の実態	気賀 勸重	465
	賃銀学説史上の収益説	高橋誠一郎	497
	現象形態論——(理論経済学方法論叙説)——	奥田 忠雄	539
	景気観測の基礎問題——経済的發展の基本的傾向の叙説——	小高 泰雄	565
	経済發展段階説の構造——経済史研究序説——	高村 象平	595
	科学と社会事業	小島 栄次	627

	経済学の心理的、個人主義的基礎——リーフマンの経済学方法論——	気賀 健三	653
	カアル・メンガアと価値心理学	小池 基之	679
	巻末に記す	高橋誠一郎	705
第26巻第11号	(1932年11月)		
	大都市の人口学的考察の限界	奥井復太郎	1
	量の範疇に就いて	奥田 忠雄	41
	英国自由主義の終焉	浜田 恒一	77
	恐慌と金本位制の危機	小高 泰雄	110
第26巻第12号	(1932年12月)		
	恐慌論と修正主義	町田義一郎	1
	本邦財政の必然的動向と累進課税の経済的作用に就て	高木 寿一	29
	カベエの共産主義体系	平井 新	71
	回顧的損益計算に於ける先見的要素——フィッシャーの貸借対照表価値論——	山田 正夫	123
第27巻第1号	(1933年1月)		
	梅園、万里及び福澤先生の経済論	高橋誠一郎	1
	為替相場とインフレーションとの関係に関する若干の考察	金原賢之助	47
	物価論上に於ける一論争	小高 泰雄	107
	ハンザ同盟に於ける中世的要素	高村 象平	139
	Henryk Grossmann: Die Wert / Preis / Transformation bei Marx und das Krisenproblem.	奥田 忠雄	169
第27巻第2号	(1933年2月)		
	経済史の意義について	野村兼太郎	1
	ジョン・ヘイの「門戸開放」宣言 ——支那に於けるアメリカ帝国主義の一齣——	伊藤 秀一	23
	通貨論を中心として再び福澤先生の経済論を観る	高橋誠一郎	55
	George B. Mangold, Social pathology, New York, 1932.	小島 栄次	93
第27巻第3号	(1933年3月)		
	ドイツ国民社会主義の経済観	加田 哲二	1
	旧社会政策の没落——新社会政策論序説——	奥井復太郎	49
	我国農業に於ける封建的性質について	小池 基之	79
第27巻第4号	(1933年4月)		
	新マルサス運動の先駆者フランシス・ブレースと其の時代	寺尾 琢磨	1
	貨幣に対する社会的信認	萩原吉太郎	19
	英国急進運動第一期概観——その発端よりフランス大革命勃発時まで——	浜田 恒一	47
	フイジオクラート以前の重農思想	下田 博	89
第27巻第5号	(1933年5月)		
	労働科学に就いて	藤林 敬三	1
	価値と経済的ディメンジョン——ゴットルの価値論——	気賀 健三	27

	フランス革命と民衆運動——其指導者とその性質——	小泉 順三	75
	アダム・スミス蔵書目録新版	小泉 信三	97
第27巻第6号	(1933年6月)		
	シドニー・エツプのソギエト露西亜観	小泉 信三	1
	最近景気観測に現はれたる理論と統計の折衷的傾向に就て	小高 泰雄	21
	フランス社会思想史概論文獻数種	永田 清	59
	ホランド・ロオズ著『古代の地中海』——J. Holland Rose: The Mediterranean in the Ancient World. 1933——	高村 象平	65
	リカアドオ著作及び手稿の発見	小泉 信三	71
第27巻第7号	(1933年7月)		
	中間階級問題の一考察	加田 哲二	1
	満洲に於ける「弗外交」の発端	伊藤 秀一	41
	中世西欧に於ける商業の復活——ビレンヌの所説に就いて——	高村 象平	73
	英国経済史に関する新刊書若干	野村兼太郎	107
第27巻第8号	(1933年8月)		
	新井白石の経済論	野村兼太郎	1
	大都市に蝟集する知識階級に就ての統計	奥井復太郎	33
	社会調査に関する若干の基本的考察	小島 栄次	65
	レオン・ワルラス 手塚寿郎氏訳『純粹経済学要論』(上卷)	永田 清	91
	技術の社会科学的研究に関する若干の新刊書	藤林 敬三	97
	「価値論の諸問題」(社会政策学会誌百八十三ノ一) ——ミーゼス及びシュピートフ編纂——	気賀 健三	107
第27巻第9号	(1933年9月)		
	ペリクレスの大工事に就きての社会経済史的考察	高橋誠一郎	1
	国際収支勘定より観たる我國民經濟の世界大戦後に於ける推移	金原賢之助	63
	日英通商問題概観	浜田 恒一	113
	西班牙經濟史に関する三文獻	高村 象平	165
第27巻第10号	(1933年10月)		
	ソヴェート租税政策概説	高木 寿一	1
	大都市に於ける知識階級の地域的研究 ——東京及大阪を中心とする統計的研究——	奥井復太郎	41
	ペリクレス時代以後に於ける希臘の社会不安	高橋誠一郎	87
	新マーカンチリズム——仏蘭西資本主義起源考——	下田 博	121
	社会学関係邦文献大要(編年表)	加田 哲二	167
第27巻第11号	(1933年11月)		
	ジ・ベ・セイの租税論	増井 幸雄	1
	米国に於ける戦債帳消論	町田義一郎	31
	地租改正前後の農民運動	小池 基之	67
	婚姻儀式の公示性と婚姻概念の二構成要素	打村 鉦三	99



	世界都市大柏林の地理学的研究——(Friedrich Leyden: Gross-Berlin: Geographie der Weltstadt. 1933. Verlag-Ferdinand Hirt in Breslau)——……………奥井復太郎	141
	「価値論の諸問題」第二編 (社会政策学会誌一八三ノ二) ——ミーゼス及びシュピートフ編纂——……………気賀 健三	151
第27巻第12号	(1933年12月)	
	ファシズム・イデオロギーの批判的方面 ——その自由主義・民主主義・社会主義批判——……………加田 哲二	1
	我国の日傭労働者に関する若干の考察……………園 乾治	45
	「西洋中世史料及考証」第一、二、三輯……………高村 象平	117
	W. A. Scott “The Development of Economics 1933” ………………浜田 恒一	123
	田園型を排する都市計画論——Town and Countryside: Some Aspects of Urban and Rural Development. by Thomas Sharp. Oxford University Press, London: Humphrey Milford. 1932 (p.228)——……………奥井復太郎	133
第28巻第1号	(1934年1月)	
	旗本困窮の過程について……………野村兼太郎	1
	「国際借款団」と米国……………伊藤 秀一	51
	客観的価値論批判——特にオッペンハイマーの価値論——……………気賀 健三	91
	大ロンドン北西部一帯の工業調査——The Industries of Greater London. Being a survey of the recent industrialisation of the northern and western sectors of London. by D. H. Smith. London, P. S. King & Son, Ltd. 1933…奥井復太郎	133
第28巻第2号	(1934年2月)	
	財政学の社会理論……………永田 清	1
	一七八九年のフランスに於ける貴族階級……………小泉 順三	29
	ウィットフォーゲル『支那の経済と社会』……………伊藤 秀一	65
	Simiand, F.: Les fluctuations économiques á longue période et la crise mondiale. ………………小高 泰雄	73
第28巻第3号	(1934年3月)	
	貨幣対外価値の一般的標章としての為替相場水準と為替相場の指標としての 購買力平価水準……………金原賢之助	1
	ソヴェート五ヶ年計画とその技術論……………藤林 敬三	37
	婚姻の制度的特性或は経済性……………打村 敏三	81
	メェリイ・アグネス・ハミルトンの『ジョン・スチュアート・ミル』……………高橋誠一郎	107
第28巻第4号	(1934年4月)	
	京浜工場地帯研究 (大都市地域的研究の一部) ………………奥井復太郎	1
	都会と農村との分類に就て……………寺尾 琢磨	51
	精神技術学に関する若干の新刊書の紹介と批評……………藤林 敬三	83
	バスカル著『独逸宗教改革の社会的基礎』……………高橋誠一郎	101
第28巻第5号	(1934年5月)	
	リキニウス法前後——羅馬社会闘争史研究——……………高橋誠一郎	1

	批判的景気観測に就ての若干の考察……………小高 泰雄	27
	ソヴェート同盟に於る「一国社会主義建設論」への思想的発展 ——コミンテルンの崩壊過程の一観察——……………橋本 勝彦	61
	フランス革命に於ける「人権の宣言」の解釈……………小泉 順三	101
	アーヴィング・フィッシャーの世界不況に関する債務・デフレーション説……………金原賢之助	125
第28巻第6号	(1934年6月)	
	明治初年の新旧思想対立への序曲……………加田 哲二	1
	貝原益軒の社会経済思想……………野村兼太郎	47
	東京市に於ける工場規模分布の調査……………奥井復太郎	79
	十六世紀ネエデルラントのカルヴィン主義 ——近世欧羅巴資本主義成立期に於ける宗教思潮——……………高村 象平	143
第28巻第7号	(1934年7月)	
	平価切下に関する若干の考察……………金原賢之助	1
	限界効用理論の擁護……………気賀 健三	23
	仏蘭西児童労働法の成立過程……………下田 博	65
	ヒィグス版カンチロン著『商業一般の本質論』……………高橋誠一郎	111
	国民社会主義(ナチス)文献……………加田 哲二	119
第28巻第8号	(1934年8月)	
	テレオロギーの財政学——Karel Englišを中心として観たる——……………永田 清	1
	『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立……………園 乾治	37
	マンチェスターに於ける社会・経済的調査(J. S. Ashton, Economic and Social Investigations in Manchester 1833-1933. pp.xii., 179., 1934.)……………野村兼太郎	79
	電力時代の認識——W. N. Polakov; The Power Age, its Quest and Challenge, N. Y. 1933. の紹介……………藤林 敬三	89
	合衆国関税問題文献二種……………浜田 恒一	107
	ジョージ・アール・ガイガー氏著『ヘンリー・ジョージの哲学』……………高橋誠一郎	115
	伊藤秀一教授逝く……………伊東 岱吉	125
第28巻第9号	(1934年9月)	
	アリストテレスの生涯と其の政治理論……………高橋誠一郎	1
	我国農業に於ける外的自然的条件……………小池 基之	51
	The rural exodus in Germany——Geneve, 1933……………寺尾 琢磨	87
	戸田貞三著『社会調査』及びエルウッド著『社会学方法論——批判的研究』……………小島 栄次	99
第28巻第10号	(1934年10月)	
	能率心理学と人間技術学……………藤林 敬三	1
	大都市生活圏の決定について(東京都市生活圏の調査)……………奥井復太郎	57
	トーマス・ペイン論(その生涯並びに政治思想)……………浜田 恒一	103
	ハンス・ペーター著『現代経済理論の任務』"Aufgaben der Wirtschaftstheorie der Gegenwart" Stuttgart, 1933.……………気賀 健三	143

第28巻第11号	(1934年11月)		
	Harvard Barometer の内容の変遷……………	寺尾 琢磨	1
	現代租税制度に於ける一般取引税の地位と其本質……………	高木 寿一	41
	カール・ムースのカルテルと景気運動との関係に就いての研究……………	小高 泰雄	71
	[資料] 明治初年に於ける諸職人の労働事情		
	——鉄道寮雇傭建築労働者の賃銀及び労働時間に就いて——……………	高村 象平	103
	赤字財政論 Unbalanced Budgets. By Dalton, Thomas, Reedman,		
	Hughes and Leaning. 1934 を読みて……………	永田 清	141
第28巻第12号	(1934年12月)		
	明治時代における経済的国民主義の成立……………	加田 哲二	1
	不良住宅改良事業の根本方針と不良住宅の家主に関する調査に就いて……………	小島 栄次	43
	現代都市計画論上の発展 Recent Advances in Town Planning — by Thomas		
	Adams. In collaboration, with F. Longstreth Thompson, E. Maxwell Fry,		
	James W. R. Adams. (J. & A. Churchill, London. 1932)……………	奥井復太郎	97
	アレクザンダー・ハミルトンの財政経済論集……………	高橋誠一郎	109
第29巻第1号	(1935年1月)		
	トーマス・ロバート・マルサスと彼れの所謂「経済学上の新学派」……………	高橋誠一郎	1
	婚姻に於ける『生物学的』と『社会学的』……………	打村 鉦三	41
	ヘランダー著『経済政策の合理的基礎』——Sven Helander; Rationale Grundlage		
	der Wirtschaftspolitik, 1933. Nürnberg——……………	気賀 健三	89
	波多野鼎著『景気論』……………	小高 泰雄	95
	『新国際主義』を読む——Clark Foreman, The New Internationalism.		
	Norton & Co. New York 1934——……………	加田 哲二	99
	野間繁著『無産者救護制度体系』……………	小島 栄次	107
	ハミルトン教授の西班牙に於ける価格革命……………	高村 象平	111
	マルサス人口論及び経済学説関係文献……………	加田 哲二	133
第29巻第2号	(1935年2月)		
	大名貸について——その実例——……………	野村兼太郎	1
	アメリカに於ける失業補償運動……………	園 乾治	39
	正統学派貿易理論……………	岩田 仞	97
	ナチス文献雑考——「国民社会主義(ナチス)文献」補遺——……………	加田 哲二	133
	沢田章著『明治財政の基礎的研究(維新当初の財政)』……………	高村 象平	143
	モルゲンシュテルン著『経済政策の限界』——Oskar Morgenstern; Die Grenzen		
	der Wirtschaftspolitik, 136 S. Wien 1934——……………	気賀 健三	149
第29巻第3号	(1935年3月)		
	「盛り場」に関する若干考察(都市に於ける中心地域の構成)……………	奥井復太郎	1
	アンダーラインティングとシンダケートティング		
	——米国に於ける証券発行に関する協約の一斑——……………	町田義一郎	35
	マブリーの社会思想……………	平井 新	71
	古版経済書解題		
	サー・トーマス・コールペッパア著 千六百四十一年版『高利排斥論』……………	高橋誠一郎	117

	フイリップ・スノーデンの自叙伝		
	An Autobiography by Viscount Snowden. 1934. . . . .	高木 寿一	127
	オーリン著『地域貿易と国際貿易』——Bertil Ohlin; Interregional and International Trade. Cambridge, Harvard University Press. 1933-xvii, 617 pp.—— . . . . .	岩田 俣	133
	橋本弘毅訳『経済地理学の方法論』 . . . . .	小島 栄次	141
	ピグウ原著『厚生経済学』第一分冊——小島栄次、高村象平共訳—— . . . . .	気賀 健三	145
	協同組合に関する二書——近藤康男著『協同組合原論』並びに 高橋亀吉著『日本農業統制と産業組合』—— . . . . .	小池 基之	149
<b>第29巻第4号</b>	(1935年4月)		
	統計的長期傾向値と理論的發展正常値 . . . . .	寺尾 琢磨	1
	普遍主義の財政学——アンドレエを中心として見たる—— . . . . .	永田 清	45
	経済政策学の可能性 . . . . .	気賀 健三	89
	ワグナー博士編『アダム・スミスよりジョン・デューイに至る社会改革家』 . . . . .	高橋誠一郎	119
	Walter Greiff, Die neuen Methoden der Handelspolitik, 1934 . . . . .	岩田 俣	125
	古版経済書解題 サー・ショードーア・ジャンセン著 千七百十三年版 『特に大不列顛及び仏蘭西間の通商に適用せられたる貿易の一般準則』 . . . . .	高橋誠一郎	129
<b>第29巻第5号</b>	(1935年5月)		
	労働喜悦論 . . . . .	藤林 敬三	1
	ナチスの擡頭及びその経済政策の社会経済的基礎 . . . . .	加田 哲二	29
	リカード直後に於ける其の分配理論に対する英国経済学者の修正意見 . . . . .	高橋誠一郎	77
	エリッヒ・プライザー著『経済の形態と形成』 . . . . .	気賀 健三	119
	Manfred Schreiber, Grundzüge einer national-organischen Aussenhandelspolitik, 1935. . . . .	岩田 俣	125
	鈴木小兵衛著『満州の農業機構』 . . . . .	小池 基之	131
<b>第29巻第6号</b>	(1935年6月)		
	ゴッシェンの為替理論に就いて . . . . .	金原賢之助	1
	徳川後期に於ける農村人口の一例(概論)——下野国都賀郡上泉村—— . . . . .	野村兼太郎	31
	プライスの説教「爱国心」を契機とするフランス革命論争の序幕 (英国急進運動とフランス革命) . . . . .	浜田 恒一	71
	古版経済書解題 シモンド・ツ・シスモンディの『経済学新原理』其他 . . . . .	高橋誠一郎	109
	オッター・コンラッド著『経済学の死罪』 . . . . .	気賀 健三	123
	サルウィン・シャピロ氏著『コンドルセと自由主義の興起』 . . . . .	高橋誠一郎	129
	Richard Kerschagl, Finanzwissenschaft. Abriss der Steuerlehre. 1935 . . . . .	永田 清	135
	紐育市社会事業の実証的研究——Kate Huuntley, Financial Trends in Organized Social Work in New York City. New York, 1935. Albert J. Kennedy, Kathryn Farra and Associates, Social Settlements in New York City; Their Activities, Policies, and Administration. New York, 1935 . . . . .	小島 栄次	141

第29巻第7号	(1935年7月)		
	転換期に立つ理論経済学	武村 忠雄	1
	コール市場に就いて	吉田 寛	47
<hr/>			
	ソヴェート計画経済文献集	橋本 勝彦	97
	アンリイ・セエ『科学と歴史哲学』		
	——Henri Sée, Science et philosophie de l'histoire. 1933——	下田 博	143
	吉川秀造著『土族授産の研究』	小林栄二郎	163
	海峡植民地経済史資料の若干	高村 象平	169
第29巻第8号	(1935年8月)		
	分配論以前	高橋誠一郎	1
	学生の日常生活に於ける『動き』の調査		
	(学生生活調査によつて得たる一結果)	奥井復太郎	45
	国際価格理論——正統学派貿易理論——	岩田 俣	81
	東北農村に於ける自然経済の崩壊	小池 基之	115
<hr/>			
	H. Jerome, Mechanization in Industry, 1934	藤林 敬三	153
	Teiichi Katsumoto: Wirtschaft und Philosophie	武村 忠雄	159
	Ralph H. Blodgett, Cyclical Fluctuations in Commodity Stocks. 1935	山本 登	171
第29巻第9号	(1935年9月)		
	現代の全体主義国家論——ムッソリーニとヒットラーの国家論——	加田 哲二	1
	季節変動の統計的測定に就て	寺尾 琢磨	41
	経済地理学の実際的任務に関する一考察	小島 栄次	83
<hr/>			
	古版経済書解題 ジェームズ・アンダーソンの『国民的勤勉に就いての考察』	高橋誠一郎	103
	化学工業の技術的合理化と技術の進歩に関する研究	藤林 敬三	139
	竹内運平著『北海道史要』	気賀 健三	149
第29巻第10号	(1935年10月)		
	二元的経済組織論		
	——資本主義的経済生活に於ける経済組織としての公共経済に就て——	永田 清	1
	学生生活の思想的方面の一調査——学生生活調査第二報告——	奥井復太郎／藤林 敬三	41
	徳川時代に於ける農村経済の一端	野村兼太郎	111
<hr/>			
	古版経済書解題 農業保護問題に関するマルサス及びリカードの諸小冊子	高橋誠一郎	159
	戦争社会学文献雑考	加田 哲二	189
	リュテー著『国民経済的利益、全体利益及び共同福祉』	気賀 健三	203
第29巻第11号	(1935年11月)		
	クナップの為替理論	金原賢之助	1
	ルイ・ブランの社会主義体系	平井 新	27
<hr/>			
	羽田海面稼方に関する紛争(社会経済史資料紹介一)	野村兼太郎	89

	戦争経済学の文献に就いて……………	武村 忠雄	117
	ローゼンベルグ経済学史 附、リヤシチエンコ経済学史……………	浜田 恒一	143
第29巻第12号	(1935年12月)		
	独占段階に於ける動態理論——独占と景気変動——……………	武村 忠雄	1
	経済政策の目的論的観察……………	気賀 健三	61
	輸入割当制度……………	岩田 俣	87
	古版経済書解題 ジョン・レーの『経済学の主題に関する一定新原理の叙述』…	高橋誠一郎	123
	播州一揆聞書(社会経済史資料紹介)……………	野村兼太郎	145
	J. M. Clark, Strategic Factors in Business Cycles 1934.……………	山本 登	153
第30巻第1号	(1936年1月)		
	国民主義経済学……………	高橋誠一郎	1
	地理学の本質と地理的環境に就いて——経済地理学方法論に於ける一断想——……………	小島 栄次	23
	東京ビルディング街の発展に関する一調査(都心地形成に関する一資料)……………	奥井復太郎	47
	フイジオクラウト直前の重農主義運動——特にエルベールを中心として——……………	下田 博	67
	淀橋町米穀問屋仲間古記録(社会経済史資料紹介)……………	野村兼太郎	103
	機械と労働者……………	藤林 敬三	129
	本邦財政学新刊書に就て……………	高木 寿一	139
	小山栄三著『新聞学』……………	加田 哲二	151
第30巻第2号	(1936年2月)		
	具体的需要曲線の導出に就て——H. Schultz を中心として——……………	寺尾 琢磨	1
	財政社会学の展開——現象学の財政学と知識社会学の財政学——……………	永田 清	41
	古版経済書解題 ウイリアム・バターサン著 一千七百〇一年版		
	『商務院設立の提案及び理由』……………	高橋誠一郎	89
	護持院百姓門訴の判決(社会経済史資料紹介)……………	野村兼太郎	95
	発明の社会学……………	藤林 敬三	105
	ドマンジェー氏編註『パプーフ選集』に就て……………	平井 新	115
	Carl Landauer 著 “Planwirtschaft und Verkehrswirtschaft” München, 1931.		
	(邦訳、計画経済と流通経済 田中力訳)……………	気賀 健三	123
第30巻第3号	(1936年3月)		
	経営社会学、経営社会政策、労働者心理学……………	藤林 敬三	1
	現代国家財政の類型……………	高木 寿一	35
	貨幣的景気理論上に於ける金利の地位に就て……………	山本 登	63
	六郷川渡船について(社会経済資料紹介)……………	野村兼太郎	107
	新刊紹介 人口問題二著……………	寺尾 琢磨	121
	古版経済書解題 サー・エドワード・ウエスト著		
	一千八百十五年版『土地に対する資本の適用に関する論文』……………	高橋誠一郎	131

第30巻第4号	(1936年4月)		
	明治初期社会経済思想史への序論	加田 哲二	1
	英国資本主義の成立過程序論	野村兼太郎	51
	ジャン・メリエとその『遺書』	平井 新	87
	為替清算制度	岩田 俣	105
	井藤半弥著『租税原則学説の構造と生成』	永田 清	143
	Brutzkus 著 “Economic Planning in Soviet Russia”	気賀 健三	155
	本庄栄治郎著『幕末の新政策』	加田 哲二	163
第30巻第5号	(1936年5月)		
	経済学者としてのジェームズ・ミル	高橋誠一郎	1
	ベンディクセン及びエルシュタアの為替理論	金原賢之助	45
	商法司と通商司の改廃について	伊東弥之助	75
	播州百姓一揆拾遺 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	111
	手工業徒弟並に青年農業労働者に関する労働者心理学の一研究	藤林 敬三	119
	自然法則 (La loi naturelle) に関する新刊書二種	永田 清	139
	農産物価格についての近著	小池 基之	145
	椎名幾三郎著『海上保険概論』	園 乾治	155
	明治初期社会経済思想文献大要	加田 哲二	159
第30巻第6号	(1936年6月)		
	欲望論の財政論	永田 清	1
	地域的社会調査に関する若干考察	奥井復太郎	37
	教会法の理論として現はれたる自然法の觀念	打村 鉦三	69
	上総国三ッ作村百姓越訴——社会経済史資料紹介——	野村兼太郎	123
	B. P. Adarkar. The Theory of Monetary Policy.	山本 登	163
	地方財政改善に関する内閣審議会中間報告 (内閣調査纂編局)	高木 寿一	169
第30巻第7号	(1936年7月)		
	ヘンリー・ムーアの具体的動的均衡の理論体系に就て	寺尾 琢磨	1
	中世基督教と婚姻——古代中世に於ける自然法理とその実証法的適用——	打村 鉦三	37
	古版経済書解題 ルイス・ロバート著 一千六百四十一年版『外国貿易論』	高橋誠一郎	89
	天保八年の困殺令について (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	99
	マルシイ著『集産主義の建設者コンスタンタン・ペクール』を読む	平井 新	115
	技術の進歩と失業		
	——W. Woytinsky; Drei Ursachen der Arbeitslosigkeit. 1935——	藤林 敬三	127
	田村浩著『財産進化論』	加田 哲二	135
第30巻第8号	(1936年8月)		
	ファッシズムと自由主義	加田 哲二	1
	本居宣長の社会経済思想——国学運動の勃興——	野村兼太郎	37

	農業生産の特殊性についての一考察	小池 基之	77
<hr/>			
	英国に於けるスラムとその住人		
	Slums and Slummers, by C. R. A. Martin. London, 1935	奥井復太郎	111
	技術的失業の否定		
	—Machinery, Employment, and Purchasing Power, National Industrial Conference Board Studies, No.218 R. 2nd. Rev. Ed. 1936.—	藤林 敬三	129
	Gerhard Colm, Probleme der Finanzsoziologie (Festgabe für F. Tönnies), 1936.	永田 清	137
	古版経済書解題 ジョン・ラムジイ・マカラックの一千八百二十四年版『経済学の発生、		
	進歩、特殊目的及び重要性』並びに一千八百二十五年版『経済原論』	高橋誠一郎	145
<b>第30巻第9号</b>	(1936年9月)		
	カルテル諸形態の質的高度化過程——独占結成の動態学の一節——	武村 忠雄	1
	経済地理学に於ける自然環境観察の意義及び手続きに就いて	小島 栄次	53
	価値論と計画経済	気賀 健三	83
<hr/>			
	牛久宿助郷差村騒動 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	117
	戸田武雄著『機械の経済学』	藤林 敬三	137
	古版経済書解題 フランシス・プレース著 一千八百二十二年版『人口原理の例証』	高橋誠一郎	141
<b>第30巻第10号</b>	(1936年10月)		
	財政学の政治的性格	永田 清	1
	アメリカに於ける証券信託社債	金原賢之助/佐々木暁秀	45
	貿易理論の発展と貿易政策原理——正統学派貿易理論研究——	岩田 仞	79
<hr/>			
	古版経済書解題 サー・エドワード・ウエスト著 一千八百二十六年版		
	『穀物の価格と労働の賃銀』	高橋誠一郎	133
	天保の貸借帳消令の実例 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	145
	函数的価格論の認識価値——Hans Meyer; Der Erkenntniswert des funktionellen Preistheorien (Die Wirtschaftstheorie der Gegenwart Bd. II. Wien 1932)——	気賀 健三	155
	最近労働者心理学の一研究に就いて——R. B. Hersey; Seele und Gefühl des Arbeiters, Psychologie der Menschenführung, 1935.—	藤林 敬三	169
	中沢弁次郎監修『輪中聚落地誌』	小池 基之	179
<b>第30巻第11号</b>	(1936年11月)		
	公私経営の接近と民有国営事業 (産業統制より産業管理へ)	向井 鹿松	1
	都市社会の構成	奥井復太郎	29
	金ブロックの崩壊を中心とする若干の貨幣問題	金原賢之助	51
<hr/>			
	カール・マルクスの『労働者調査』	藤林 敬三	69
	安濃津騒動記 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	87
	Grover Clark, The Balance Sheets of Imperialism, 1936.	武村 忠雄	97
	Gottfried Haberler; Der internationale Handel.(The Theory of International		



	Trade, translated by Alfred Stonier and Frederic Benham, 1936.) … 岩田 仨	107
	W. T. C. King; History of the London Discount Market. 1936. …… 山本 登	113
	古版経済書解題 一千七百五十年版アンドリュウ・フック著『国債論』 …… 高橋誠一郎	121
<b>第30巻第12号</b>	(1936年12月)	
	ナチス人口政策概論 …… 寺尾 琢磨	1
	技術の進歩と失業—L. V. BrickとE. Ledererの見解に就いて— …… 藤林 敬三	47
	為替平衡資金に就いて …… 金原賢之助	89
	ライプチヒ市郵組合史 …… 三井 高陽	127
	常州真壁郡大国玉村百姓騒動 (社会経済史資料紹介) …… 野村兼太郎	141
	国際資本移動の問題—Carl Iversen; Aspects of the Theory of International Capital Movements, Copenhagen and London, 1935.— …… 岩田 仨	149
	ジョイス・オー・ハーツラー教授著『古代諸文明の社会思想』 …… 高橋誠一郎	157
<b>第31巻第1号</b>	(1937年1月)	
	国学の社会思想史的意義 …… 野村兼太郎	1
	人口構成に現はれた地域性 『三田』社会調査報告第一 …… 奥井復太郎	37
	経済政策の目的 …… 気賀 健三	55
	アメリカ連邦の国家的性格と其の財政及び経済 …… 東井 金平	103
	古版経済書解題 一千六百七十四年版 リチャード・ヘインズ著『防貧論』 …… 高橋誠一郎	139
	ロバーツ著『ボアギュベール』—Hazel Van Dyke Robert, Boisguilbert, economist of the reign of Louis XIV, 1935.— …… 下田 博	147
<b>第31巻第2号</b>	(1937年2月)	
	支那に於ける道路建設に就て …… 増井 幸雄	1
	景気の独占結成に及ぼす作用—独占結成の質量変化の交代過程— …… 武村 忠雄	37
	身分構成に現はれた地域性 『三田』社会調査報告第二 …… 奥井復太郎	79
	景気循環と商品貯蔵量の関係 …… 山本 登	103
	維新当時における品川宿の助郷 (社会経済史資料紹介) …… 野村兼太郎	137
	ラスキ「ヨーロッパ自由主義の発達」—Harold Laski, The Rise of European Liberalism. 1936. London— …… 加田 哲二	163
	馬場敬治著『技術と社会』(第一巻) …… 藤林 敬三	171
	ナチス独逸に関する三文献 …… 加田 哲二	179
<b>第31巻第3号</b>	(1937年3月)	
	戦争の本質と起源—戦争社会学序説— …… 加田 哲二	1
	世帯構成に現はれた地域性 『三田』社会調査報告第三 …… 奥井復太郎	53
	原始時代の助産制 …… 望月 玉三	75
	古版経済書解題 ジョン・クック著 一千六百四十八年版 『唯一緊要事、一名、貧民の訴訟』 …… 高橋誠一郎	101
	地主と地借—武蔵国八町目村一件 (社会経済史資料紹介) …… 野村兼太郎	111

	ラツラフ著『自由競争の理論』——Ratzlaff, “The theory of free competition” Philadelphia, 1936.——	気賀 健三	131
	E. Zweig, Economics and Technology, London 1936.——	藤林 敬三	143
	ゾーリン著『フロンド党』——Paul Rice Doolin, The Fronde, 1935——	下田 博	155
第31巻第4号	(1937年4月)		
	第十九世紀英国反統派経済学	高橋誠一郎	1
	有業者及び其の業態に現はれた地域性 『三田』社会調査第四報告	奥井復太郎	47
	見沼通船と小山田与清 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	75
	Alfred Kruse; Technischer Fortschritt und Arbeitslosigkeit, 1936.	藤林 敬三	105
	P. Studenski 編 Taxation and Public Policy, 1936	永田 清	119
	フィリップ・ヘンリー・ウィックスチードの『経済学の常識』	高橋誠一郎	123
第31巻第5号	(1937年5月)		
	財政と経済的過程	永田 清	1
	購買力平価説序説	金原賢之助	41
	職業構成に現はれた地域性 『三田』社会調査第五報告	奥井復太郎	75
	見沼通船と御定運賃 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	101
	民族主義に関する文献	加田 哲二	123
第31巻第6号	(1937年6月)		
	天体的景気理論の二つの基型	寺尾 琢磨	1
	経済地理学的観察の対象としての経済現象に就いて	小島 栄次	45
	アルフレット・ケーラーの労働者解放理論	藤林 敬三	69
	維新直前における百姓一揆の報告 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	103
	古版経済書解題 ジェーカップ・ヴンダーリント著 一千七百三十四年版『銀子は何事にも応ずる』	高橋誠一郎	125
第31巻第7号	(1937年7月)		
	統制経済と景気変動	武村 忠雄	1
	自由主義の経済政策	気賀 健三	59
	貿易理論と貨幣理論との論理的関係——正統学派貿易理論研究——	岩田 侃	103
	J. Kuczynski, Labour Conditions in Western Europe 1820 to 1935, London 1937	藤林 敬三	141
	(1) D.V. Glass, The Struggle for Population.	寺尾 琢磨	155
	(2) René Roy, Contribution aux Recherches Econométriques.	寺尾 琢磨	155
	トーマス・アイ・クック助教授著『プレートオよりパークに至る政治哲学史』	高橋誠一郎	165
第31巻第8号	(1937年8月)		
	幕末における代表的経済論者 佐藤信淵	野村兼太郎	1
	ジョン・スチュアート・ミルの富の定義	高橋誠一郎	39

	ドイツ技術哲学史——E. Zschimmer, Deutsche Philosophen der Technik, 1937.——	藤林 敬三	71
	Erich Carell, Freihandel und Grösstmögliche Güterversorgung. 1937.……	岩田 俣	77
	シラス著『財政学』第三版 Findly Shirras, Science of Public Finance Third Edition (1936)……	高木 寿一	85
	アルマン モーブラン共編『フーリエ』著作選集——F. Armand et R. Maublanc; Fourier 2 Tomes. 1937. (“Socialisme et culture” Collection publiée sous la direction de Georges Friedmann)——	平井 新	91
	J. E. Meade; An Introduction to Economic Analysis & Policy, Oxford 1936. pp.392……	気賀 健三	107
	アンリイ・セエ原著 大淵彰三訳『資本主義発達史概論』を讀みて……	下田 博	115
<b>第31巻第9号</b>	(1937年9月)		
	仏蘭西人口の危機と対策……	寺尾 琢磨	1
	財政と景気対策——財政動態に関する一研究——……	永田 清	37
	国際的資本移動の發展傾向に就いて……	金原賢之助	83
	古版經濟書解題——ヴィルヘルム・フォン・ホルニツク著 一千六百八十四年版 『唯だ意図すれば、奥太利は万国に優越するを得可きである』——	高橋誠一郎	137
	現実的の人間研究の二つの著作……	藤林 敬三	149
	パウリ女史著『ナッソ・シニニオアと古典經濟学』……	高橋誠一郎	161
<b>第31巻第10号</b>	(1937年10月)		
	効果計算と原価計算の關係……	小高 泰雄	1
	米國に於ける取引所制度改正の概要……	向井 鹿松	41
	労働者心理学の体系概観……	藤林 敬三	81
	古版經濟書解題 サー・マシュー・デッカー著 一千七百四十四年版 『外国貿易衰頹の原因に関する試論』……	高橋誠一郎	133
	A. E. Hindmarsh, The Basis of Japanese Foreign Policy, 1936……	寺尾 琢磨	143
<b>第31巻第11号</b>	(1937年11月)		
	資源問題考究の若干の基礎……	小島 栄次	1
	社会主義經濟と經濟的福祉……	気賀 健三	43
	東北農村に於ける年雇の労働形態……	小池 基之	81
	独逸官版郵便史 Deutsche Postgeschichte.……	三井 高陽	127
	L. Robbins; Economic planning and international order, London 1937. pp.330……	気賀 健三	131
	イー・エー・ジェ・ジョンソン博士著 『アダム・スミスの諸先蹤英国經濟思想の發達』……	高橋誠一郎	139
<b>第31巻第12号</b>	(1937年12月)		
	民族・民族性・民族主義——民族主義研究序論——……	加田 哲二	1

	和蘭商業資本のバルト海進出に就いて……………高村 象平	49
	モレリイ『自然法典』と其思想的背景……………平井 新	87
<hr/>		
	ゲルストナー著『企業の経済計算』解説……………小高 泰雄	151
	Raymond Burrows; The Problems and practice of economic planning. London 1937. ………………気賀 健三	165
	Dr. G. Kurt Johannsen and H. H. Kraft; Germany's Colonial Problem. 1937. (Das Kolonialproblem Deutschlands. 1936.)……………山本 登	169
第32巻第1号	(1938年1月)	
	商品としての浮世絵版画……………高橋誠一郎	1
	統制経済と再生産過程——『統制経済と景気変動』研究の一節——……………武村 忠雄	53
	車両信託の若干問題……………金原賢之助/佐々木暁秀	109
<hr/>		
	領主の困窮と村方の負担(社会経済史資料紹介)……………野村兼太郎	125
	「巴里伯」アンリイ著『プロレタリア』 ——Henri (Comte de Paris), Le Prolétariat, 1937.——……………下田 博	133
	Robert R. Kuczynski; Colonial Population. 1937.……………山本 登	143
	Dr. Hans Schlie; Die britische Handelspolitik seit Ottawa und ihre weltwirtschaftlichen Auswirkungen. 1937.……………岩田 俣	149
第32巻第2号	(1938年2月)	
	徳川時代の農業論……………野村兼太郎	1
	名子賦役と刈分小作——小本川流域地方の名子制度(一)——……………小池 基之	35
	古代の土地所有並測地記録——(紀元前四—二千年代 シュメルバビロン時代)——……………井上 芳郎	65
	チュルゴオ『価値と貨幣』……………山内 毅	101
<hr/>		
	経済組織としての社会主義と資本主義	
	A. C. Pigou, Socialism versus Capitalism 1937.……………加田 哲二	123
	ジョシッフ・マッシイ編 一千五百五十七年より一千七百六十三年に至る 商業・通貨及び救貧法に関する書篇及び小篇蒐集目録……………高橋誠一郎	129
第32巻第3号	(1938年3月)	
	法則に於ける必然性と蓋然性——Statistik より Stochastik への転化——……………寺尾 琢磨	1
	シスモンディの思想過程について……………永田 清	39
	名子制度と家畜小作——小本川流域地方の名子制度(二)——……………小池 基之	83
	生産統制と貿易統制——綿業を中心として——……………岩田 俣	113
<hr/>		
	村騒動の一例——武州橋樹郡木月村(社会経済史資料紹介)……………野村兼太郎	137
	ハンザ出現前のゴトランドの通商——Siegfried Mews: Gotland's Handel und Verkehr bis zum Auftreten der Hausen (12. Jahrhundert). Greifswald. 1937.——……………高村 象平	153
第32巻第4号	(1938年4月)	
	維持以前における領土拡張論——わが国大陸政策発展史の一節——……………加田 哲二	1

	独逸を中心とする為替清算協定……………	金原賢之助	39
	カッセル価値学説無用論概説……………	千種 義人	67
<hr/>			
	下総生実領助郷騒動（社会経済史資料紹介）……………	野村兼太郎	111
	独逸の植民地問題に関する二著……………	山本 登	137
	組合配給の研究 Henry H. Bakken and Marvin S. Schaars; The Economics of Cooperative Marketing……………	岩田 仩	143
<hr/>			
第32巻第5号	（1938年5月）		
	経営価値と操業率に関する一考察……………	小高 泰雄	1
	都市郊外論序説……………	奥井復太郎	35
	経済地理学に於ける文化環境観察の手續きに就いて……………	小島 栄次	69
	為替会社の没落原因……………	伊東弥之助	93
<hr/>			
	旗本の分度生活（社会経済史資料紹介）……………	野村兼太郎	119
	難波田春夫著『国家と経済』……………	武村 忠雄	137
<hr/>			
第32巻第6号	（1938年6月）		
	インフレーション対策		
	——統制経済段階に於ける再生産過程の内的矛盾とその止揚——……………	武村 忠雄	1
	ブルウヂユ市場に於けるハンザと和蘭商人……………	高村 象平	35
	植民地原料資源問題に関する一考察……………	山本 登	69
<hr/>			
	『自治制発布五十周年記念論文集』を読む……………	奥井復太郎	105
	古版書解題 一千六百八十二年版神学博士ギルバート・バーネット著 『英国王座裁判所長サー・マシュー・ヘールの生産』……………	高橋誠一郎	113
	第十七世紀経済文献展覧会目録……………	三辺清一郎	121
<hr/>			
第32巻第7号	（1938年7月）		
	統計比較の本質と限界について……………	寺尾 琢磨	1
	路易十四世治下の財政状態——特にポアギユベールの諸著を中心として観たる——……………	下田 博	31
	日本資本主義成立過程に於ける配給組織の変革——砂糖業を中心として——……………	岩田 仩	59
	カッセル貨幣価値決定論に関する若干の考察……………	千種 義人	95
<hr/>			
	古版経済書解題 一千七百五十七年マラッカイ・ポストルスウエイト著 『大不列顛の真体制』……………	高橋誠一郎	125
	最近経営経済学関係文献三……………	小高 泰雄	135
	宮本又次氏著『株仲間の研究』……………	伊東弥之助	145
<hr/>			
第32巻第8号	（1938年8月）		
	労働振興策の経済的意義——経済構造と財政支出に関する一研究——……………	永田 清	1
	戦争と統制経済政策……………	加田 哲二	33
<hr/>			
	古版経済書解題 一千八百〇八年版シャル・フーリエ著『四運動の理論』其他……………	高橋誠一郎	87
	F. Huhle-Statistik als ein Erkenntnismittel der Wirtschaftspolitik, 1938……………	寺尾 琢磨	123

	Mervyn Crobaugh, Economics for Everybody from the Pyramids to the Sit-Down Strike, 1937	高橋誠一郎	131
第32卷第9号	(1938年9月)		
	外交文書を通じて見た幕末の長崎	野村兼太郎	1
	都市生活論	奥井復太郎	47
	シュメル時代の都市構成	井上 芳郎	77
	Maxwell H. H. Macartney and Paul Cremona; Italy's Foreign and Colonial Policy (1914-1937), 1938	山本 登	131
	最近日仏貿易関係資料——「日本経済発展の対仏影響」 Les conséquences du développement économique du Japon pour l'Empire Français——	下田 博	137
第32卷第10号	(1938年10月)		
	道路運送費の分析と其の効用	増井 幸雄	1
	明治維新直後の長崎	野村兼太郎	35
	カッセルの経済本質論について	千種 義人	71
	古版経済書解題 一千八百二十四年版ウィリアム・タムソン著 『人間の幸福に資すること最大なる富の分配の原理に関する研究』その他	高橋誠一郎	107
	1. W. L. Crum, Rudimentary Mathematics for Economists and Statisticians, 1938	寺尾 琢磨	137
	2. R. G. D. Allen, Mathematical Analysis for Economists, 1937 軍拡財政の分析 Ch. Tiffen, Cours aux armements et finance Publique, 1938.	寺尾 琢磨 永田 清	137 145
第32卷第11号	(1938年11月)		
	地理的環境論の諸問題	小島 栄次	1
	支那事変下に於ける我が国物価対等の若干問題	金原賢之助	25
	明治初頭に於ける保護貿易思想と E. P. Smith の来朝	江波戸 靖	55
	古版経済書解題 一千八百三十二年版ヴィルヘルム・フォン・ヘルマン著 『国家経済研究』	高橋誠一郎	73
	M. R. Lehmann; Planvolles Rechnen in Betrieb und Gruppe, Ein Beitrag zur Wertschöpfung- und Wirtschaftlichkeits-Rechnung. Berlin 1937.	小高 泰雄	89
	H.S. Ashton; Clamour for Colonies. 1936.	山本 登	97
	マックス・ベア著『第十三世紀より第十八世紀中葉に至る初期英国経済学』	高橋誠一郎	101
	石川博資著『日本産金史』	野村兼太郎	111
	小野武夫編『宇和島藩吉田藩漁村経済史料』	野村兼太郎	116
第32卷第12号	(1938年12月)		
	景気変動論前史	武村 忠雄	1
	独逸ハンザ衰退期に於けるベルゲンの商業に就いて	高村 象平	39
	我国に於ける小売商問題——配給組織論への理論的反省——	岩田 仞	83
	クルーノー「富の理論」の出版百年に際して	寺尾 琢磨	113

	古版経済書解題 ジョングレー著一千八百四十八年版	
	『貨幣の本質及び効用に関する講義』……………	高橋誠一郎 123
	椎名幾三郎著『海上保険論』……………	園 乾治 135
第33巻第1号	(1939年1月)	
	鎌倉町の現代相……………	奥井復太郎 1
	経営機能と其の統制の一面……………	小高 泰雄 39
	一千五百八十一年版ダブルユー・エス・ヂェントルマン著	
	『種々なる人々の有する目下の不平の簡略なる検討』……………	高橋誠一郎 65
	シロテ著『十八世紀以降の英吉利対外貿易の変遷』——Werner Schlotte, Entwicklung und Strukturwandlungen des englischen Aussenhandels von 1700 bis zur Gegenwart. Jena. 1938——……………	高村 象平 121
	Limits of Land Settlement. A Report on Present-day Possibilities. Prepared under the direction of Isaiah Bowman. New York, 1937.……………	小島 栄次 127
	松井清著「貿易理論の研究」……………	岩田 俣 133
	J・R・マカラツク編「経済学文献」……………	三辺清一郎 141
第33巻第2号	(1939年2月)	
	わが国対外経済政策の決定における社会的並に政治的要因……………	加田 哲二 1
	部分と全体——試料に於ける誤差の本質——……………	寺尾 琢磨 27
	軍拡財政論——軍備拡張の過程とその経済的作用の分析——……………	永田 清 65
	A. Schnettler; Das Rechnungswesen industrieller Betriebe. Berlin 1938……………	小高 泰雄 105
	H. Guittton——Economie Rationelle, Economie positive, Economie Synthétique. 1938.……………	寺尾 琢磨 113
	『布哇——島嶼社会の社会生態的研究』……………	奥井復太郎 127
第33巻第3号	(1939年3月)	
	戦時租税政策の諸問題……………	高木 寿一 1
	本多利明の経済開発論……………	野村兼太郎 17
	第十九世紀前半の英国に於ける社会主義学説に対する対抗理論として	
	発達を見たる限界効用学説の予示……………	高橋誠一郎 53
	『漁業孤村の調査』 Isolated Communities. A Study of a Labrador Fishing Village. by Oscar Waldemar Junek, M. A., F.R.S.A. American Book Company. 1937.……………	奥井復太郎 89
	H. R Rudin; Germans in the Cameroons, 1884-1914. (A Case Study in Modern Imperialism. 1938.)……………	山本 登 115
	フォーゲル著『政治と経済学』——Emanuel Hugo Vogel, Politik und Wirtschaftswissenschaft. Jena, 1938——……………	武村 忠雄 121
	島恭彦氏著『近世租税思想史』……………	永田 清 129

第33巻第4号	(1939年4月)		
	景気変動論の端初形態	武村 忠雄	1
	我が国戦時金融の現段階と若干の問題	金原賢之助	43
	大英ブロック経済に於ける工業原料の自給性	山本 登	75
<hr/>			
	経済名著解題——ウイリアム・スタンレイ・ジェヴォンズ著『石炭問題』——	高橋誠一郎	111
	L. E. Hubbard; Soviet Trade & Distribution. 1938.	岩田 俣	121
第33巻第5号	(1939年5月)		
	戦時財政の基本問題	永田 清	1
	カッセルによる価格の意義とその決定原理	千種 義人	35
	人口理論と理想社会	小林宗三郎	79
	希臘及び羅馬経済学(ギリシヤ・ラテン学会発会記念公開講演会講演 ——昭和十四年四月二十七日、慶應義塾大学教室に於いて)	高橋誠一郎	109
	(1) L. D. de Bernonville-Initiation à l'analyse statistique	寺尾 琢磨	129
	(2) 宗藤圭三著『統計学通論』	寺尾 琢磨	129
	H. Nicklisch; Handwörterbuch der Bebetriebwirtschaft の再版に就いて	小高 泰雄	139
第33巻第6号	(1939年6月)		
	ブロック経済の本質およびその発展	加田 哲二	1
	統計的平均値の理論的構造	寺尾 琢磨	63
	カッセルの価格構成機構論	千種 義人	101
<hr/>			
	古版経済書解題 一千七百八十五年版サー・ジョン・シンクレア著『英帝国公収史』	高橋誠一郎	147
	『東京火災保険株式会社五十年誌』	高橋誠一郎	157
	市村今朝蔵著『再組織された英国の経済』	高橋誠一郎	161
第33巻第7号	(1939年7月)		
	経営評価と経営計算	小高 泰雄	1
	純粹景気理論の方法論的構造	武村 忠雄	31
	計画経済下に於ける配給組織の若干問題	岩田 俣	67
	アントアンヌ・オーギュスタンクールノーの片影	三辺清一郎	95
<hr/>			
	Jacques Marchand, La renaissance du mercantilisme à l'époque contemporaine, 1937.	下田 博	119
	C. N. Vakil and D. N. Maluste, Commercial Relations between India and Japan, 1937.	野村兼太郎	129
	H. L. Shapiro, Migration and Environment, 1939.	山本 登	135
第33巻第8号	(1939年8月)		
	理論と実践——最近イギリスにおける経済学方法論論争——	野村兼太郎	1
	商業革命時代の独逸ハンザ	高村 象平	35
	我国中小商工業金融に就いて	三村 称平	69
<hr/>			
	古版経済書解題 一千六百六十九年版匿名氏著		



	『自国貨物の改良、特に又羊毛の加工に由る英吉利の利益主張』……………高橋誠一郎	121
	カール・タルハイム『国民経済構造論の輪廓』……………武村 忠雄	127
	白井規矩稚著『日本の金融機関——基の生成と発展』……………高橋誠一郎	147
第33巻第9号	(1939年9月)	
	公債論の三つの型……………永田 清	1
	古代及び中世の西洋に於ける地理学——その史的素描——……………小島 栄次	27
<hr/>		
	古版経済書解題 仏蘭西共和国第三年版マリー・ジャン・アントアーン・	
	コンドルセー遺著『人類精神進歩の歴史画下図』……………高橋誠一郎	67
	Oswald Dutch, Germany's Next Aims, 1939.……………山本 登	95
	シュトリイダ教授の『アウグスブルク経済史』Das reiche Augsburg;	
	Ausgewählte Aufsätze Jakob Strieders zur Augsburger und süd	
	deutschen Wirtschaftsgeschichte des 15 und 16. Jahrhunderts	105
	Herausgegeben von Heinz Friedrich Deininger. (München. 1938.)……………高村 象平	
	園田一亀著『韃靼漂流記の研究』……………野村兼太郎	119
第33巻第10号	(1939年10月)	
	効用価値学説史の一節……………高橋誠一郎	1
	大都市の発展に伴ふ近郊社会の変質——(鎌倉町調査の第二報告)——……………奥井復太郎	41
	支那の戦時通貨政策と法幣の前途——支那金融の研究・序説——……………金原賢之助	87
<hr/>		
	Klocke; Buchführung und Bilanzen der G m b H.……………小高 泰雄	119
	増井光蔵・傍島省三訳 ラグナー・ヌルクセ原著『国際資本移動論』……………岩田 仞	127
	松井栄一訳 キンドウル・バーガー原著『国際短期資本移動論』……………岩田 仞	127
第33巻第11号	(1939年11月)	
	中国国民党の諸派と三民主義——孫文没後三民主義は如何に解釈されたか——……………加田 哲二	1
	短期経営成果計算形式について……………小高 泰雄	31
<hr/>		
	古版経済書解題 一千七百七十六年版エチエンヌ・ボンノー・ツ・	
	コンディヤック著『相互の関係に於いて考察せられたる商業と政治』……………高橋誠一郎	61
	ジョン・ダリダン著『インフレーションの父、ジョン・ロー』	
	——Jean Daridan, John Law, Père de l'Inflation, 1938.——……………下田 博	79
	松野賢吾訳『レブケ財政学』……………永田 清	91
	井上芳郎著『支那原始社会形態』……………野村兼太郎	99
	一千六百六十九年版『自国貨物の改良、特に又、羊毛の加工に由る英吉利の	
	利益主張』の著書に就いて……………高橋誠一郎	105
第33巻第12号	(1939年12月)	
	断種法の理念とその人口政策的意義……………寺尾 琢磨	1
	有限会社経営上の若干の問題……………小高 泰雄	39
	ケインズの「一般雇傭理論」……………千種 義人	57
	エドウキン・R・A・セリグマン教授逝く……………三辺清一郎	97

経済文献解題 一千八百八十三年版フランシス・デーヴィ・ロング著 『チョーザ氏の「進歩と貧困」及びミル氏の貨銀理論の批判的検討』……………高橋誠一郎	117
ミックヴィッツ『十六世紀レヴァルの貿易』——Gunnar Mickwitz, Aus Revaler Handelsbüchern. Zur Technik des Ostseehandels in der ersten Hälfte der 16. Jahrhunderts. (Helsingfors. 1938.)——……………高村 象平	133
Evans Lewin, The Germany and Africa. 1938 ……………山本 登	141
第34巻第1号 (1940年1月)	
前世紀後半の高貨銀論……………藤林 敬三	1
中世独逸の建設都市と商人仲間——特にゴスラールについて——……………高村 象平	39
租税経済の理念……………永田 清	71
<hr/>	
経済名著解題 一千八百八十三年版ヘンリイ・シヂウィック著『経済原論』……………高橋誠一郎	103
A. J. P. Taylor, Germany's First Bid for Colonies. 1884-1885 (A Move in Bismarck's European Policy). 1938……………山本 登	123
James J. Gillespie: The Principles of Rational Industrial Management. London 1938. ……………小高 泰雄	131
羽原又吉著『アイヌ社会経済史』……………高村 象平	135
宮本又次氏著『近世商業組織の研究』……………伊東弥之助	139
第34巻第2号 (1940年2月)	
転換期経済学の国防経済学的性格……………武村 忠雄	1
自動車運送能力の拡大に就て……………増井 幸雄	45
大英帝国の食糧自給性……………山本 登	69
<hr/>	
ダグラス・デーキン著『チュルゴオ及び仏蘭西アンシアン・レジーム』……………高橋誠一郎	125
ソーニエ『現代の貨幣理論』……………千種 義人	141
H・バイアス『独逸——一九一四年と一九三九年』……………三辺清一郎	165
N・B スレッシャア『ナチの必要物資と露西亜の資源』……………三辺清一郎	165
エントホルト、ボイチン共著『ブレメンの東北欧貿易史』……………高村 象平	173
第34巻第3号 (1940年3月)	
少数民族問題——ヨーロッパにおける少数民族としてのドイツ人問題——……………加田 哲二	1
青果市場の一研究——商業調査報告の一齣——……………岩田 仞	47
貯蓄投資の均等説について——ケインズ「一般的論」を中心として——……………千種 義人	91
<hr/>	
技術の進歩と労働者心理学の問題……………藤林 敬三	127
西原雄次郎著『藤山雷太伝』……………高橋誠一郎	133
第34巻第4号 (1940年4月)	
人口性比の三形態……………寺尾 琢磨	1
海保青陵の経済論……………野村兼太郎	29
過大都市論の検討……………奥井復太郎	65
辺境政策と国族理論——中国々民党の辺境理論と三民主義——……………加田 哲二／小林宗三郎	93

古版経済書解題 一千七百五十三年版ロバート・ウォレス著	
『古代及び現代に於ける人類の数に関する論述』……………	高橋誠一郎 123
W・ビヴァリヂ著『英国価格及び賃銀史』……………	三辺清一郎 137

第34巻第5号 (1940年5月)

原価の時間的分析に関する諸研究……………	小高 泰雄 1
八時間労働論と労働時間最適限論の擡頭……………	藤林 敬三 37
世界為替政策の若干特徴に就いて……………	金原賢之助 79

---

グレイダナス著『ケインズ経済理論の発展』 Tjardus Greidanus, The Development of Keynes' Economic Theories, 1939. ……	千種 義人 111
中山伊知郎博士編『ケインズ一般理論解説』……………	千種 義人 111
トーマス・イ・エニス著『印度支那におけるフランスの政策と発展』 — Thomas E. Ennis, French Policy and Developments in Indochina, 1936— ……	下田 博 125
E・ステレー著『平時並に戦時における原料問題』 — E. Staley; Raw Materials in Peace and War, 1937.— (邦訳名: 山田文雄訳『国際原料資源論』)……………	山本 登 133

第34巻第6号 (1940年6月)

再生産理論の構造変化——国防経済学研究の一節——……………	武村 忠雄 1
近世に於ける西洋地理学——その史的素描——……………	小島 栄次 41
独逸騎士団について——その成立・活動・衰退——……………	高村 象平 69

---

アダム・スミスと国民主義経済学 (アダム・スミス歿後一百五十年記念講演会講演)……………	高橋誠一郎 105
ユベル『デモクラフィーと衛生統計に関する講義』……………	寺尾 琢磨 123
最近に於ける日本戦時貿易政策論の展望……………	岩田 俣 129

第34巻第7号 (1940年7月)

財政と経済の波動——財政政策の基調として——……………	永田 清 1
理論的商業学への一試論……………	岩田 俣 27
貯蓄投資の均等説をめぐる論争……………	千種 義人 53
技術の概念——テヒノロギイへの一試論(上)——……………	豊田 四郎 95

---

『劔橋古代史』第十二巻『帝国の危機及び回復』……………	高橋誠一郎 133
-----------------------------	-----------

第34巻第8号 (1940年8月)

徳川時代村落研究序説——その静態的研究——……………	野村兼太郎 1
計画化と社会科学(国土計画論への一省察)……………	奥井復太郎 49
強大国は如何なる領域的基礎を持つべきか——基礎地帯・基礎海洋・国家——……………	加田 哲二 87

---

シェバアド・バンククロフト・クロウ著 『フランス国民経済史(一七八九年—一九三九年)』……………	下田 博 135
マックス・ペーア著『重農主義研究』……………	高橋誠一郎 143
岸本誠二郎教授著『価格の理論』……………	千種 義人 151

第34卷第9号 (1940年9月)

優生学的人口政策の消極面と積極面	寺尾 琢磨	1
工場精神と労務管理	藤林 敬三	33
台湾經濟の外地的性格	山本 登	77
アダム・スミス書誌	三辺清一郎	117

---

南三井家交通記録集	野村兼太郎	153
-----------	-------	-----

第34卷第10号 (1940年10月)

〈皇紀二千六百年慶應義塾大学部設立五十年記念論文集〉

道路交通の安全と自動車速度の制限に就いて	増井 幸雄	1
有機的貸借対照論に就て	三辺 金蔵	47
徳川時代村落研究序説——その動態的研究——	野村兼太郎	67
新体制と統制經濟	加田 哲二	101
計画化と統制——(国土計画の政治的性格)——	奥井復太郎	153
世界經濟新秩序と國際經濟体制	金原賢之助	185
国家政策に於ける統計の任務と限界	寺尾 琢磨	209
労働者政策の基本問題	藤林 敬三	243
財政学の理論的課題——財政学の自己反省のために——	永田 清	307
国防經濟欲求	武村 忠雄	339
地理学的研究の対象と課題	小島 栄次	373
労務管理に関する若干の考察	小高 泰雄	403
中性諸威の農地世襲——グウラ民会法律書を中心として——	高村 象平	431
農業の經營規模について	小池 基之	465
商業学の対象と体系	岩田 仞	493
大陸政策の展開過程	山本 登	527
新東亜指導理論の瞥見	望月 玉三	565
消費性向と乗数理論	千種 義人	595
「テヒノロギイ」の系譜	豊田 四郎	643
正価思想史概観	高橋誠一郎	711

第34卷第11号 (1940年11月)

自動車交通事業法の改正に就て	増井 幸雄	1
国防經濟欲求の調達——国防經濟の再生産過程——	武村 忠雄	21
日本地理区の研究と国土計画	小島 栄次	59

---

エドモンド・ホイッターカー著『經濟觀念史』	高橋誠一郎	85
江戸下肥取引について——(社会經濟史資料紹介)——	野村兼太郎	99
古版經濟書解題 一千六百十五年版ロバート・キール著 『トレーズ・インクリース』	高橋誠一郎	109
杉栄著『理論統計学研究』	寺尾 琢磨	117
塚原仁著『人口統計論』	寺尾 琢磨	121

第34卷第12号 (1940年12月)

財政理論の発足——財政学の理論的課題統稿——	永田 清	1
------------------------	------	---

	経済の政治化——全体主義経済政策の根本問題——	気賀 健三	25
	ケインズの長期予想理論——資本の限界効率理論を中心として——	千種 義人	81
<hr/>			
	日光御用船引人足出入一件——(社会経済史資料紹介)——	野村兼太郎	113
	王子製紙株式会社編纂『楮及楮紙考』	高橋誠一郎	125
	王子製紙株式会社編纂『三椏及三椏紙考』	高橋誠一郎	125
<b>第35巻第1号</b>	(1941年1月)		
	経営経済法則の体系に関する一考察	小高 泰雄	1
	桜田虎門の経済論	野村兼太郎	47
	バルト海諸都市の建設事情——独逸ハンザ成立前史の一齣——	高村 象平	83
<hr/>			
	谷口吉彦『新体制の理論』	気賀 健三	111
	柴田敬『日本経済革新案大綱』	気賀 健三	111
	ドイツ労働戦線の労働科学研究所年報(一九三八年)	藤林 敬三	137
<b>第35巻第2号</b>	(1941年2月)		
	太平洋経済戦論——アメリカの対日本経済戦争——	加田 哲二	1
	五人組帳の形式	野村兼太郎	41
	金融統制と戦時経済の推移	金原賢之助	63
<hr/>			
	古版経済書解題 一千八百二十六年版ナッソー・ウィリアム・シニニオアの 『経済学序講』	高橋誠一郎	89
	独逸農民史の資料集と文献集——ギュンター・フランツ教授の二編者——	高村 象平	97
	チャールス・スミス著『英国食糧補給問題』	山本 登	103
	鈴木栄太郎著『日本農村社会学原理』	小池 基之	111
<b>第35巻第3号</b>	(1941年3月)		
	社会科学及び自然科学と統計学との関連を論ず ——応用統計学の可能性に関する試論——	寺尾 琢磨	1
	国土と地方の問題	奥井復太郎	35
	吾国に於ける労働移動の研究 ——特に先きの欧洲大戦当時の労働移動現象に就いて——	藤林 敬三	65
<hr/>			
	津田道治編著『津田真道』	三辺清一郎	123
	E・B・ディートリッヒ著『アメリカの極東貿易』	山本 登	147
	ブーフホルツ『正価とは何か』 ——Friedrich Buchholz „Was ist ein gerechter Preis?“——	気賀 健三	155
<b>第35巻第4号</b>	(1941年4月)		
	国防経済欲求と調達を持続的調和	武村 忠雄	1
	再び日本地理区の研究と国土計画に就いて	小島 栄次	27
	商業政策の現代的課題——商業の倫理と論理——	岩田 仵	54
<hr/>			
	ルドルフ・ゴールドシャイドの『人間経済学』に就いて	藤林 敬三	83

	日本財政史二種……………	永田 清	106
	川野重任著『台湾米穀経済論』……………	山本 登	111
第35巻第5号	(1941年5月)		
	バルト海都市の建設と都市領主——リュベック市について——……………	高村 象平	1
	強制貯蓄の必要とその方法——ケインズの強制貯蓄案——……………	千種 義人	33
	台湾農業再編成の問題……………	山本 登	74
	デブイスの工場管理論について……………	小高 泰雄	109
	フリーダ・ウンダーリッヒの労働生産力論……………	藤林 敬三	134
第35巻第6号	(1941年6月)		
	五人組帳の前書について……………	野村兼太郎	1
	政治経済学の意味……………	気賀 健三	34
	公債とインフレーション——フランスに於ける経験——……………	永田 清	61
	古版経済書解題 一千七百〇七年版「貿易の繁昌を祈る者」著 『貨幣及び為替概論』……………	高橋誠一郎	80
	独逸ハンザに関する近著三種……………	高村 象平	89
	新版ジョン・グラント『死亡表に基く自然的及び政治的諸観察』(一九三九年)…	三辺清一郎	97
第35巻第7号	(1941年7月)		
	五人組帳を通じて見たる五人組……………	野村兼太郎	1
	台湾工業化問題の検討……………	山本 登	21
	本邦都市発達の近状……………	奥井復太郎	55
	古版経済書解題 一千八百三十一年版リチャード・ジョーンズ著 『富の分配及び課税の諸源泉に関する一論、第一部、地代』……………	高橋誠一郎	90
	戸田武雄著『計画経済と職能倫理』……………	気賀 健三	112
第35巻第8号	(1941年8月)		
	吾国工、鉱業に於ける労働移動の研究 ——特に世界大戦後、満州事変の勃発に至る迄——……………	藤林 敬三	1
	工場管理の合理性に関する若干の問題……………	小林 泰雄	74
	支那民族の相貌……………	望月 玉三	93
	台湾経済年報刊行会編『台湾経済年報』昭和十六年版……………	山本 登	124
第35巻第9号	(1941年9月)		
	経済的自給主義思想史概観……………	高橋誠一郎	1
	国民政府治下の経済概観……………	金原賢之助	50
	古版経済書解題 一千八百年版トマス・ロバート・マルサス著 『目下の食料高価原因の攻究』……………	高橋誠一郎	75
	ワイペルト『理想型と形式理論』——現代ドイツの方法論争の一節——……………	気賀 健三	84

	独逸経済史研究の一傾向——フランツ教授の近業について——	高村 象平	106
第35巻第10号	(1941年10月)		
	出生減の原因と対策の基調	寺尾 琢磨	1
	統制経済下に於ける会計学の一問題	小高 泰雄	41
	戦争本質論の一研究——クラウゼウィッツの戦争論を中心として——	加田 哲二	70
	<hr/>		
	イー・ダブルユー・エッカード教授著		
	『ダブルユー・エス・ジェヴォンズの経済学』	高橋誠一郎	117
第35巻第11号	(1941年11月)		
	労働移動の概念に就いて	藤林 敬三	1
	広域経済の動態学	武村 忠雄	44
	江戸の干鰯ノ柏市場	伊東弥之助	62
	<hr/>		
	豊崎稔著『日本機械工業の基礎構造』	豊田 四郎	100
	黒正巖著『経済地理学原論』	小島 栄次	110
第35巻第12号	(1941年12月)		
	日本農村財政の課題——財政と国民生活に関する研究——	永田 清	1
	農村に於ける商取引の展開——繭を中心として——	岩田 仞	35
	経済理論と統制経済	気賀 健三	60
	<hr/>		
	一谷藤一郎教授著『金融統制の理論』	千種 義人	104
第36巻第1号	(1942年1月)		
	利潤思想史概観	高橋誠一郎	1
	松ヶ岡開墾場幹部の苦心	国分 剛二	39
	<hr/>		
	永井雅也氏著『紡績標準原価計算』	小高 泰雄	82
	T・A・ピソン『最近に於ける米国の対東亜政策』	山本 登	89
第36巻第2号	(1942年2月)		
	東亜に於ける棉花需要量に就いて	小島 栄次	1
	古版経済書解題		
	一千七百七十五年版ジャック・ネッケル著『穀物法規及び穀物商業論』	高橋誠一郎	27
	高田保馬博士『勢力説論集』	気賀 健三	42
	住谷信五 加藤哲太郎著『中華塩業事情』	稲垣 正信	63
第36巻第3号	(1942年3月)		
	大東亜政策の経済的課題	山本 登	1
	ケインズ利子論概説	千種 義人	32
	関東漁業の揺籃期	羽原 又吉	60
	<hr/>		
	古版経済書解題	チャールズ・ダヴェナント著一千六百九十五年版	

	『戦費調達の手段方法に関する一試論』……………高橋誠一郎	87
第36巻第4号	(1942年4月)	
	市域設定と市民の土地取得——リュベック市についての暫定的考察——……………高村 象平	1
	マルサス人口論に現はれた南海諸島……………寺尾 琢磨	44
	商家家訓の一例——(社会経済史資料紹介)——……………野村兼太郎	70
	M・T・ウェア著『古典貨銀学説の発展』……………三辺清一郎	85
第36巻第5号	(1942年5月)	
	不可避的労働移動に関する一考察	
	——吾が国工、鉱業労働者中の死傷病生産脱落者に就いて——……………藤林 敬三	1
	戦時都市経済論序……………奥井復太郎	41
	古版経済書解題 一千六百十五年版サー・ダッドリイ・ディグズ著	
	『貿易の擁護』……………高橋誠一郎	66
	藤井茂著『外国貿易の理論』……………岩田 仞	78
第36巻第6号	(1942年6月)	
	東亜共栄圏と貿易理論の展開……………岩田 仞	1
	関東漁業の黎明期……………羽原 又吉	19
	経済学名著解題 一千八百五十三年初版カール・クニース著	
	『歴史的方法の見地よりする経済学』……………高橋誠一郎	73
	酒枝義旗氏『構成体論理的経済学』……………気賀 健三	86
第36巻第7号	(1942年7月)	
	村明細帳と農村の貨幣経済化……………野村兼太郎	1
	現代の統制経済の性格と問題……………気賀 健三	43
	沼津版『経済説略』……………三辺清一郎	68
	上原専禄著『独逸中世史研究』……………高村 象平	80
第36巻第8号	(1942年8月)	
	原料資源問題について……………加田 哲二	1
	作業労働に於ける協同形態について——経営組織論研究の一節——……………小高 泰雄	49
	現代経済学理論概況(昭和十七年六月二十五日慶應義塾経済学会講演)……………高橋誠一郎	77
	ジョン・ウォルター・ウッド著『空港——設計諸要素の一端と将来の発展』……………三辺清一郎	99
第36巻第9号	(1942年9月)	
	世界経済新秩序と金の地位……………金原賢之助	1
	国富論書誌 アダム・スミス書誌続篇……………三辺清一郎	23
	古版経済書解題 一千八百十一年版ディ・ボアロー著『経済学学習の手引』……………高橋誠一郎	69
	板倉与一氏『政治経済学の方法』……………気賀 健三	77
第36巻第10号	(1942年10月)	
	村明細帳に現れたる農村生活……………野村兼太郎	1
	近代産業史研究の成果に就いて——『中小工業』論の視角から——……………豊田 四郎	26



	社会政策の再検討——最近の若干の新刊書を顧みて——……………藤林 敬三	60
	久保田明光著『近世経済学の生成過程』……………高橋誠一郎	74
<b>第36巻第11号</b>	(1942年11月)	
	中世チューリヒ市の統治者と政策……………高村 象平	1
	労働移動問題に対する明治末期に於ける吾が国政府の関心に就いて……………藤林 敬三	26
	古版経済書解題 一千八百三十三年版ジョージ・ポーレット・スクロープ著	
	『経済学の諸原理』……………高橋誠一郎	61
	岡田温著『農業経営の再検討』……………小池 基之	84
<b>第36巻第12号</b>	(1942年12月)	
	現代統制経済政策の理論的分析……………気賀 健三	1
	経済圏支払決済制度に関する若干の考察……………金原賢之助	41
	菊池勇夫著『日本労働立法の発展』……………藤林 敬三	56
	日本貿易産業叢書第一輯『輸出ブラシ工業』上巻を読む……………豊田 四郎	62
<b>第37巻第1号</b>	(1943年1月)	
	生産指数の諸問題……………寺尾 琢磨	1
	工場管理論序説……………小高 泰雄	24
	古版経済書解題 一千八百十五年版ロバート・トーレンズ大佐著	
	『対外穀物交易論』……………高橋誠一郎	48
	大山敷太郎著『農兵論』……………野村兼太郎	65
	鈴木安藏氏の『明治維新政治史』……………加田 哲二	69
	岩田似教授の長逝を悼む……………山本 登	72
<b>第37巻第2号</b>	(1943年2月)	
	時局指導に関する若干考察……………奥井復太郎	1
	農業労働に於ける協同組織——とくに「ゆひ」及び「むら仕事」について——…小池 基之	31
	徳川後期に於ける絵画の商品化と浮世絵師……………高橋誠一郎	57
	藤田武夫著『日本地方財政制度の成立』……………永田 清	70
	マッカーテイ著 横溝直二訳『アメリカ経済地理』……………小島 栄次	75
<b>第37巻第3号</b>	(1943年3月)	
	財政の源泉に関する考察……………永田 清	1
	貨幣理論と経済理論の結合——ミュルダール「貨幣的均衡」を中心として——…千種 義人	24
	経済学名著解題 一千八百四十八年版ブルノー・ヒルデブランド著	
	『現在及び将来の国民経済学』第一巻……………高橋誠一郎	83
	『大量生産管理と統計の方法』E・S・ピアソン著 石田保士・北川敏男訳……………寺尾 琢磨	96
<b>第37巻第4号</b>	(1943年4月)	
	生産経済思想史概観……………高橋誠一郎	1
	「エード」(Aides)に就いて——フランス旧制度下の間接税研究——……………下田 博	47
	南方資源研究の諸課題……………山本 登	78
	矢口孝次郎著『イギリス帝国主義史論』……………加田 哲二	105

第37卷第5号	(1943年5月)		
	戦力論——その静態的考察——	加田 哲二	1
	統制経済における計画	気賀 健三	43
	厚生問題に関する最近の若干の文献に就いて	藤林 敬三	85
	東晋太郎著『太宰春台の経済倫理』	野村兼太郎	97
第37卷第6号	(1943年6月)		
	W・S・ジェヴォンスの「石炭問題」	寺尾 琢磨	1
	東独逸植民達成の諸条件	高村 象平	32
	宮本又次著『フランス経済史概説』	下田 博	57
	山田雄三氏『計画の経済理論』	気賀 健三	69
	労務管理に関する経営学者の諸見解に就いて	藤林 敬三	77
第37卷第7号	(1943年7月)		
	幕末農間渡世調査の意義	野村兼太郎	1
	明治十年代に於けるわが紡績業労働者の移動現象に就いて	藤林 敬三	44
	欧洲西北部の農業事情と農業政策——高水準経済の農業諸問題——	小島 栄次	78
	小葉田淳著『史説日本と南支那』	高村 象平	104
第37卷第8号	(1943年8月)		
	戦力政策の進展	加田 哲二	1
	農工調整問題の展望	奥井復太郎	42
	古版経済書解題 一千八百二十三年トマス・ロバート・マルサス著『価値の尺度』	高橋誠一郎	68
	島恭彦著『財政政策論』	永田 清	95
	帝国農会編 昭和十六年度『農作業慣行調査』	小池 基之	100
第37卷第9号	(1943年9月)		
	消費経済思想史概観	高橋誠一郎	1
	原単位計算制度に関する若干の考察	小高 泰雄	47
	翻訳『国富論』——国富論書誌統篇——	三辺清一郎	69
	菊池勇夫著『労働法の主要問題』	藤林 敬三	100
第37卷第10号	(1943年10月)		
	農業経営に於ける家族労働と雇傭労働	小池 基之	1
	流動性選択説と信用需要説供給説	千種 義人	27
	田後の海割制と謂はゆる漁村共同体	羽原 又吉	54
	古版経済書解題 一千八百四十年版ウィリアム・アトキンソン著『経済原理』	高橋誠一郎	87
第37卷第11号	(1943年11月)		
	所謂アダム・スミス問題の一齣——財政思想史の立場から——	永田 清	1
	独逸ハンザと都市同盟	高村 象平	19
	公定価格と統制的均衡	気賀 健三	40
	予科教授下田博君を悼む	伊東弥之助	64

第37卷第12号	(1943年12月)		
	東亜建設の自然的条件に関する若干の考察——殊に気候を中心として——	小島 栄次	1
	配給概念と商業の本質	鈴木 保良	27
	貨幣均衡理論の再検討	鈴木 諒一	53
	「拾芥甫記」について (社会経済史資料)	野村兼太郎	85
第38卷第1号	(1944年1月)		
	統計学者としての W・S・ジェヴォンス	寺尾 琢磨	1
	朝鮮経済「基地的性格」の一断面	山本 登	28
	入会地と新田開発 (社会経済史資料紹介)	野村兼太郎	51
	戦争文献二三 酒井鑄次中将・大野信三教授の著作	加田 哲二	61
第38卷第2号	(1944年2月)		
	経済活動動機思想史概観	高橋誠一郎	1
	経済表の生成発展	渡辺 建	47
	藤本実也著『富岡製糸所史』	高村 象平	90
	増井幸雄教授追悼	永田 清	97
第38卷第3・4号	(1944年3・4月)		
	人種問題の本質	加田 哲二	1
	統制経済における価格政策の課題	気賀 健三	36
	農業経営適正規模論についての若干の考察	小池 基之	62
	経済表解註	渡辺 建	87
第38卷第5・6号	(1944年5・6月)		
	地代思想史概観	高橋誠一郎	1
	中世後期独英商館貿易について	高村 象平	54
	アダム・スミス書誌拾遺	三辺清一郎	80
	『内外政党事情』に就て——改進黨の一機関として——	西田 長寿	121
第38卷第7号	(1944年7月)		
	〈東亜経済の研究特集〉		
	東亜文化の再検討	野村兼太郎	1
	支那総人口の推定	寺尾 琢磨	14
	南方貿易の実態と特質	山本 登	35
	日本蠻族考	羽原 又吉	75
第38卷第8号	(1944年8月)		
	統制経済における資本の本質	千種 義人	1
	経済表の省略化と其範式	渡辺 建	27
	貨幣的均衡と生産計画	鈴木 諒一	74

第39巻第1号（1946年7月）			
	現代の苦悶——再刊に際して……………	野村兼太郎	1
[論 説]	利子動態説への回顧……………	気賀 健三	8
	資本主義経済か社会主義経済か……………	千種 義人	26
	国民所得の統計的解析……………	鈴木 諒一	55
[資 料]	地方主義による地方産業の編成問題……………	奥井復太郎	107
第39巻第2号（1946年8月）			
[論 説]	都市・農村問題の現在と将来……………	奥井復太郎	1
[資 料]	西洋経済古書解題 一千六百四十年度版サー・ラッフ・マディソン著 『英国の瞥見展望』……………	高橋誠一郎	27
	江戸材木仲買仲間記録（社会経済史資料紹介）……………	野村兼太郎	36
[書 評]	ダービンの『民主的社会主義論』……………	気賀 健三	50
第39巻第3号（1946年9月）			
[論 説]	世界経済はどうなるか……………	永田 清	1
	計画経済への道……………	気賀 健三	23
[資 料]	問屋と仲買——江戸材木商（社会経済史資料紹介）……………	野村兼太郎	42
[書 評]	ヴァルガ『戦後世界工業発展の動向』……………	山本 登	58
第39巻第4号（1946年10月）			
[論 説]	企業の自律的性格と経営法則……………	小高 泰雄	1
	マルクスの人性論……………	平井 新	11
[資 料]	北欧学派利子論の分析……………	鈴木 諒一	35
	エンゲル法則の動態的意義……………	中鉢 正美	53
第39巻第5号（1946年11月）			
[論 説]	過剰人口の概念……………	寺尾 琢磨	1
	外地経営の根本的性格……………	山本 登	28
[資 料]	経営不平等系数……………	鈴木 諒一	40
	昭和十二年以降の国鉄の輸送に関する統計……………	増井 健一	49
第39巻第6号（1946年12月）			
[論 説]	徳川封建制度の特質……………	野村兼太郎	1
	中世後期独逸都市の意義……………	高村 象平	25
[資 料]	西洋経済古書解題 一千八百十六年版ジェーン・マーセット夫人著 『経済学に関する会話』……………	高橋誠一郎	39
	マルクスの思想の系譜……………	平井 新	49
	連雀町、連雀座、連雀商人……………	伊東弥之助	61

第40巻第1号 (1947年1月)		
[論 説]	重商主義と絶対王政……………高橋誠一郎	1
	小売商再建の課題……………鈴木 保良	16
[資 料]	呉服問屋と絹買指宿(社会経済史資料紹介)……………野村兼太郎	34
	機械疲労度の経済的意味……………鈴木 諒一	41
[書 評]	ヴァルガ著 広島定吉訳『ドイツ帝国主義の歴史的特殊性』……………山本 登	47
第40巻第2号 (1947年2月)		
[論 説]	戦争と金融——日清戦役における金融情勢……………野村兼太郎	1
	経営民主化に関する若干の考察……………小高 泰雄	19
[資 料]	動態経済学と物価指数……………鈴木 諒一	39
	昭和十二年以降の国鉄の輸送に関する統計……………増井 健一	46
第40巻第3号 (1947年3月)		
[論 説]	大都市人口の規制……………奥井復太郎	1
	計画経済の一極限……………千種 義人	18
[資 料]	南鐮二朱銀の流通について……………野村兼太郎	39
	貨幣経済に於ける均衡の性質……………鈴木 諒一	52
第40巻第4号 (1947年4月)		
[論 説]	社会の進化と倫理……………気賀 健三	1
	唯物史観に於ける「生産方法」・「生産力」の問題……………平井 新	27
[資 料]	荏戸政以の「邇言」……………野村兼太郎	55
第40巻第5号 (1947年5月)		
[論 説]	現代公債政策の発展過程(序論)……………高木 寿一	1
	リカルドの国際貿易理論——古典学派貿易理論研究——……………白石 孝	17
[資 料]	アメリカの貿易政策と世界経済……………山本 登	39
第40巻第6号 (1947年6月)		
[論 説]	戦後における農業理論の展開……………小池 基之	1
	マニユファクチュア論争について……………伊東 岱吉	18
[資 料]	江戸瀬戸物問屋仲間の規定(社会経済史資料紹介)……………野村兼太郎	39
[書 評]	高橋幸八郎著『近代社会成立史論』……………宇尾野 久	47
	アメリカ経済に関する三小著……………山本 登	55
第40巻第7・8・9号 (1947年7・8・9月)		
〈慶應義塾創立九十年記念号 第一輯〉		
	福澤先生の学問論……………野村兼太郎	1
	基督教的共産団体……………高橋誠一郎	23
	フランス革命と社会主義……………平井 新	60
	社会的自由主義……………気賀 健三	86
	ホームステッド法定前……………高村 象平	105
	農業における資本主義……………小池 基之	123
	「大塚」史学における「二つの道」……………豊田 四郎	144

第40巻第10・11・12号 (1947年10・11・12月)

〈慶應義塾創立九十年記念号 第二輯〉

企業再建と経営分析	三辺 金蔵	1
企業批判の基準	小高 泰雄	19
国民優生法改造私案	寺尾 琢磨	32
米国経済の一側面——その地域的構造	小島 栄次	48
無額面株	町田義一郎	79
卸商業論	鈴木 保良	105
累積過程の変則	千種 義人	127
戦後世界植民地問題の所在点	山本 登	149

第41巻第1・2合併号 (1948年1・2月)

〔論 説〕 労働の二重性とその展開	遊部 久蔵	1
〔資 料〕 俵ふるひ (内藤光備著)	解題 幸田 成友	19
日本真珠志 (上)	羽原 又吉	60
『価値法則と社会主義社会』の問題に寄せて	中山 三郎	84
〔書 評〕 戸田慎太郎著『日本資本主義と日本農業の発展』	島崎 隆夫	98

第41巻第3号 (1948年3月)

〔論 説〕 中世西欧の国家構造	高村 象平	1
アダム・スミス「地代論」の一考察	島崎 隆夫	15
〔資 料〕 日本真珠志 (下)	羽原 又吉	37
〔書 評〕 E・H・ノーマン著『日本における近代国家の成立』	金丸 平八	56

第41巻第4号 (1948年4月)

〔論 説〕 財政学に於ける経費論の問題 (一)	高木 寿一	1
バスターブルの国際貿易理論——古典学派貿易理論研究——	白石 孝	18
〔資 料〕 戦後中小工業の実態		
——茨城県下妻地方中小機械器具工場実態調査報告 (上)——	伊東 岱吉	35
〔書 評〕 カール・レヴィット『ウェーバーとマルクス』	青沼 吉松	62

第41巻第5号 (1948年5月)

〔論 説〕 奈良時代の商業及び商人	伊東弥之助	1
財政学に於ける経費論の問題 (二)	高木 寿一	21
〔資 料〕 戦後中小工業の実態		
——茨城県下妻地方中小機械器具工場実態調査報告 (下)——	伊東 岱吉	40
〔書 評〕 オスカー・ランゲ『セイの法則と一般均衡理論』	福岡 正夫	59

第41巻第6号 (1948年6月)

〔論 説〕 財政学に於ける経費論の問題	高木 寿一	1
計量経済学の現状について	鈴木 諒一	27
〔資 料〕 明治初期の地価変動について 田地を中心として	金丸 平八	46
〔書 評〕 佐波宣平著『交通概論』	増井 健一	59

第41卷第7号 (1948年7月)			
[論 説]	三浦梅園の経済論……………	野村兼太郎	1
	コミュニティーとしての都市……………	奥井復太郎	24
[資 料]	生糸恐慌と製糸業労働者の労働条件……………	金子 八郎	39
第41卷第8号 (1948年8月)			
[論 説]	わが社会保障制度と生活保障体制		
	——わが国における生活保障体制の特質について——……………	藤林 敬三	1
	民主主義と社会主義——気賀健三教授著『現代社会主義思想』を読みて——……………	伊東 岱吉	22
	伊東岱吉君の批評に答へる……………	気賀 健三	47
[書 評]	「アジア的生産様式」について		
	——マルクス草稿『資本制生産は先行する諸形態』を中心として——……………	松尾 謙介	56
第41卷第9号 (1948年9月)			
[論 説]	英国経済の地域的構造……………	小島 栄次	1
	わが社会保障制度と生活保障体制(下)		
	——わが国における生活保障体制の特質について——……………	藤林 敬三	22
[資 料]	生糸恐慌と製糸業労働者の労働条件(下)……………	金子 八郎	35
[書 評]	藤井茂著『国際貿易論』……………	白石 孝	58
第41卷第10号 (1948年10月)			
〈価値論特集〉			
[論 説]	価値表現の両極について……………	遊部 久蔵	1
	経済価値の概念——価値論序説——……………	千種 義人	19
[学 界 展 望]	近代価値理論の展開……………	福岡 正夫	30
	再び「価値法則と社会主義問題によせて」……………	中山 三郎	45
[資 料]	生活研究の発生——「イーデンの貧民状態について」——……………	中鉢 正美	53
第41卷第11・12号 (1948年11・12月)			
[論 説]	貨幣利子率と資本の限界効率……………	千種 義人	1
	数学線について……………	安川 正彬	31
[資 料]	享保期を中心とする幕府徴租様式の変質について……………	新保 博	53
	米穀商業の性格(上)——東京に於ける米穀業界の変遷——……………	宇治順一郎	75
[書 評]	山中篤太郎教授『中小工業の本質と展開』——国民経済構造矛盾の一研究——……………	黒川 俊雄	96
第42卷第1号 (1949年1月)			
[論 説]	シュマーレンバッハの経営経済学研究方法について(一)……………	小高 泰雄/古沢 源刀	1
	マルクスの階級論について——一つの覚書——……………	平井 新	15
[資 料]	英国近代社会の生成と賃銀理論——賃銀学説史序説(一)——……………	黒川 俊雄	32
	価格体系の変化の法則に関する覚書……………	福岡 正夫	56
第42卷第2号 (1949年2月)			
[論 説]	シュマーレンバッハの経営経済学研究方法について(二)……………	小高 泰雄/古沢 源刀	1
	アジア経済復興への展望……………	山本 登	20
[資 料]	重商主義解体期における科学的賃銀理論の諸萌芽		

	——賃銀学説史序説(二)——	黒川 俊雄	37
	数学線導出の簡便法	安川 正彬	53
[書 評]	アダム・スミス研究の展開——スミス理解とマルクス——	島崎 隆夫	59
第42巻第3号 (1949年3月)			
[論 説]	江戸時代における人口調査	野村兼太郎	1
[資 料]	わが国に於ける資本主義の発達と鉄道	増井 健一	20
	資本主義の合理性	青沼 吉松	36
[書 評]	貨幣流通上の諸問題 ——遊部久蔵著『インフレーションの基礎理論』を中心として——	城座 和夫	60
第42巻第4号 (1949年4月)			
[論 説]	商品の二要因の対立について——反省規定の論理学——	遊部 久蔵	1
[資 料]	旧幕期の水産献上品と維新後の推移	羽原 又吉	22
	会津藩の漆生産について	松尾 謙介	50
[書 評]	増田四郎著『ヨーロッパ社会の誕生』	宇尾野 久	64
第42巻第5・6号 (1949年5・6月)			
[論 説]	公共経費の効果の可測性について	高木 寿一	1
	比較静学・極値条件と安定条件——理論経済学の若干の基礎——	福岡 正夫	18
[資 料]	支出拡張線について	辻村江太郎	40
[研究指針]	会計学	小高 泰雄	60
	日本農業問題	島崎 隆夫	72
[書 評]	Bruno Lasker, Asia on the move 1945.	山本 登	84
第42巻第7・8号 (1949年7・8月)			
[論 説]	銀行の支払準備の意義——アメリカの準備制度を中心として——	町田義一郎	1
[資 料]	アメリカ植民地財政の一齣——マサチューセッツ植民地について——	金丸 平八	24
	ジェファスンと農業	木村喜久弥	45
	アメリカ産業資本の形成——鉄工業の性格と系譜——	中村 勝己	60
[書 評]	イーヴンズ著『アメリカ炭礦業史』	高村 象平	90

~~~~~  
 休刊(1949年9月~1950年6月)  
 ~~~~~

第43巻第1号 (1950年7月)			
	復刊の辞	金原賢之助	1
〈特集・経済学者と世界像〉			
	ヨーゼフ・A・シュンペーター——革新の経済学——	福岡 正夫	3
	ジョン・M・ケインズ——予言者ケインズの未来像——	千種 義人	24
	カール・マルクス——人間の自己疎外と商品の物神性——	遊部 久蔵	41
	ケインズ経済学の発達	鈴木 諒一	57



第43巻第2号 (1950年8月)	
	「均衡財政」の理論と合目的性……………高木 寿一 1
	重商主義解体期における科学的賃銀理論の諸萌芽——賃銀学説史序説——……………黒川 俊雄 26
	会計の本質と機能……………高橋吉之助 40
<hr/>	
[書 評]	都留重人『戦後日本のインフレーション』……………安井 孝治 59
第43巻第3号 (1950年9月)	
	アジア貿易の分析と展望……………山本 登 1
	『物質主義的定義』と『稀少性定義』の思考様式に於ける差異……………富田 重夫 23
	ケネーの社会思想史的一考察……………植木 憲二 41
[書 評]	五島茂著『イギリス産業革命社会史研究』
	——“Dorchester Labourers, 1834-1840”の事件の研究——……………飯田 鼎 62
	清水三男著『中世荘園の基礎構造』……………服部謙太郎 68
第43巻第4号 (1950年10月)	
	外資導入と国民所得の構造……………鈴木 諒一 1
	アジア貿易の形態とその変貌……………白石 孝 16
	紀伊国潮岬会合……………羽原 又吉 31
	両組木綿問屋仲間の成立過程より見たる初期の江戸商業組織……………伊東弥之助 48
[書 評]	藤田五郎著『近世農政史論』……………新保 博 63
第43巻第5号 (1950年11月)	
	わが国失業現象の特質について……………藤林 敬三 1
	社会事業の本質に関する二つの見解……………小島 栄次 37
	我国における労務管理論の史的考察……………森 五郎 55
[紹 介]	Maurice Dobb; Wages. London, 1948.……………黒川 俊雄 74
[書 評]	東京大学社会科学研究所編『戦後労働組合の実態』……………中鉢 正美 80
第43巻第6号 (1950年12月)	
	中小工業労働の基本問題……………伊東 岱吉 1
	戦後における地主制の変貌——神奈川県中郡金目村の場合——……………島崎 隆夫 35
	ハロルド・ラスキー『現代革命の省察』を読む——Harold J. Laski; Reflections on the Revolution of our Time, 1943.——……………飯田 鼎 67
[書 評]	古島敏雄著『近世における商業的農業の展開』
	——社会構成史大系第八回配本——……………服部謙太郎 83
第44巻第1号 (1951年1月)	
	アダム・スミスと社会主義者……………高橋誠一郎 1
	「社会保障制度に関する勧告」の成立……………園 乾治 25
	アメリカの見た日本人口問題……………寺尾 琢磨 49
[書 評]	ヒックス『景気循環論』 J. R. Hicks; A Contribution to the Theory of Trade Cycle, Oxford, 1950.……………福岡 正夫 67
	ハーベルモー『計量経済学における確立論的接近』 The Probability Approach in Econometrics by Trigve Haavelmo.……………辻村江太郎 74

第44巻第2号 (1951年2月)

〈関東農村の史的研究(第一集)——武蔵国葛飾郡樋籠村——〉

樋籠村の協同研究……………	高村 象平	1
樋籠村の歴史——地主の成立とその発展——……………	服部謙太郎	10
樋籠村とその周辺の治水問題——庄内古川を中心として——……………	島崎 隆夫/金丸 平八	21
樋籠村の土地問題——地守制を繞って——……………	宇治順一郎/新保 博	37

第44巻第3・4号 (1951年3・4月)

〈経営経済学特集〉

労務管理論における基本問題……………	小高 泰雄	1
配給費用の諸問題……………	鈴木 保良	21
経営管理と損益分岐図表……………	国弘 員人	35
東京地方における機械工業労働事情の研究……………	森 五郎	49
棚卸資産の算定……………	高橋吉之助	64
標準原価計算に於ける「標準」の意義……………	白神 俊彦	78
内部統制とその監査……………	関口 操	83
生産管理の新なる局面に就いて……………	田中 英明	89

〔書 評〕

コール著『コルベールとフランス重商主義百年史』 Charles Woolsey Cole. “Colbert and a Century of French Mercantilism”……………	渡辺 国広	100
小高泰雄・高橋吉之助共著『簿記概論』……………	西垣 富治	102

第44巻第5号 (1951年5月)

唯物史観と自由……………	気賀 健三	1
古典学派トランスファー理論の再検討……………	安井 孝治	25
ロンドン株式取引所会員の機能分離……………	小竹 豊治	46
〔資料〕 白耳義・和蘭経済史に関する近時の業績……………	高村 象平	66
〔紹介〕 ジョージ・W・ロビンス『商業の起源に関する諸見解』……………	片岡 一郎	71
ゴットシャーク、クラックホーン、エンジェル共著 『歴史学・人類学・社会学における個人記録の利用』……………	渡辺 国広	74

第44巻第6号 (1951年6月)

エコノメトリックスの本質——誘導形法に関する若干の疑問——……………	鈴木 諒一	1
ピグウ教授の国民所得評価論……………	福岡 正夫	20
シヤウプの国民所得論における政府部門の評価……………	大熊 一郎	39
〔紹介〕 G・D・H・コール『英国労働者階級の政治政策』……………	飯田 鼎	54
T・ウィルソン『近代資本主義と経済的進歩』……………	加藤 寛	58

第44巻第7号 (1951年7月)

雇傭をめぐる財政政策の展開——ベヴァリッジ=カルドアの線に沿うて——……………	永田 清	1
社会思想史上のフランシス・ベーコン……………	植木 憲二	19
インターナショナルリズムとソ連邦の民族政策……………	矢内原 勝	38
〔学 界 展 望〕 経済史学の新展開……………	服部謙太郎	51
〔論文紹介〕 ポール・H・ベイク著『旧制度の批判書』……………	渡辺 国広	61
フランソワ・L・ガンソーフ『カール大帝』……………	宇尾野 久	64
ダニエル・C・デネット『ピレンヌ教授とマホメット』……………	宇尾野 久	66

第44卷第8・9号	(1951年8・9月)		
	リカードの不变の価値尺度論……………	遊部 久蔵	1
	戦後わが国民生活の変動過程……………	中鉢 正美	28
	稀少性原理と先験主義……………	富田 重夫	43
	「線型選好場模型」の近似検定に関する一試論……………	辻村江太郎	58
[学 界 展 望]	日本経済史研究の一動向——「経済史学の新展開」続稿——……………	服部謙太郎	68
[書 評]	クライン『合衆国における経済変動』……………	鈴木 諒一	75
	マックネア、ハンセン共著『配給論上の若干問題』……………	片岡 一郎	80
第44卷第10号	(1951年10月)		
	生産者財配給の特異性……………	鈴木 保良	1
	配給費と配給過程合理化の問題……………	片岡 一郎	20
	価格と企業行為——主として売手が少数である市場について——……………	山部 徳雄	39
[学 界 展 望]	封建社会成立史論をめぐって——続「日本経済史研究の一動向」——……………	服部謙太郎	58
[資 料]	貿易政策の効果分析を中心として……………	白石 孝	63
第44卷第11号	(1951年11月)		
	戦後における工業労働事情の研究——東京地方機械工業を事例として——……………	森 五郎	1
	戦時共産主義時代の工業組織……………	加藤 寛	45
[紹 介]	ハンス・コーン『ナショナリズムの理念』……………	矢内原 勝	63
	E・F・フレージャー『アメリカに於ける黒人家族』……………	飯島 瑞子	67
第44卷第12号	(1951年12月)		
	講話と日本経済——わが国産業構造の当面する基本問題——……………	伊東 岱吉	1
	第十六世紀アンヴェルスにおける商業と道徳……………	渡辺 国広	47
	英国功利主義の社会思想的意義——J・B・ミルの社会観に関連して——……………	服部成三郎	57
[書 評]	大島藤太郎『国有鉄道の史的発展』……………	増井 健一	70
	島恭彦『日本資本主義と国有鉄道』……………	増井 健一	70
第45卷第1号	(1952年1月)		
	領土制発展過程の一考察——備後国太田庄に於ける一例——……………	服部謙太郎	1
	シドニー・ウェツプ夫妻、その生涯と業績——英国社会史の一断面——……………	飯田 鼎	26
	王領植民地下のマサチューセッツ財政……………	金丸 平八	47
[書 評]	小倉武一著『土地立法の史的考察』……………	小池 基之	57
[紹 介]	L・A・ミルズ編『東南アジアの新しい世界』……………	山本 登	62
第45卷第2号	(1952年2月)		
	財政学に於けるケインズ革命の結果——新しい財政学体系の可能性——……………	高木 寿一	1
	流動均衡と期間分析法……………	鈴木 諒一	16
	賃銀指数の意味と算定……………	小尾恵一郎	35
[紹 介]	貿易政策の効果分析を中心として……………	白石 孝	48
	ロバート・バトルズ『配給論の発展に及ぼせる諸影響』……………	片岡 一郎	57
第45卷第3号	(1952年3月)		
	独逸ハンザ貿易と諾威経済の衰退……………	高村 象平	1

	地頭領主と庄園体制……………	服部謙太郎	19
	カール大帝治下の <i>Conventus generalis</i> の性格……………	宇尾野 久	37
[書 評]	新刊のアメリカ入門経済学叢書 (THE ECONOMICS HANDBOOK SERIES) より 本叢書について……………		56
	ライト『資本主義』……………	千種 義人	58
	ラーナー『雇傭の経済学』……………	福岡 正夫	64
	シェリング『国民所得解析』……………	大熊 一郎	71
第45巻第4号 (1952年4月)			
	アリストテレスの社会思想……………	平井 新	1
	均衡為替理論の展開……………	安井 孝治	21
	家計項目における耐久財の意味……………	中鉢 正美	49
[紹 介]	ユルゲン・クチンスキー『フランス労働史』……………	飯田 鼎	63
	モーリス・ジンキン『アジアと西洋』……………	矢内原 勝	68
	ロバート・バートルズ『配給論は科学たりうるか』……………	片岡 一郎	73
第45巻第5号 (1952年5月)			
	思想史研究の諸問題……………	野村兼太郎	1
	「生産的労働」について……………	遊部 久蔵	19
[資 料]	鉄道運賃の性格に就ての論争 (一) ——タウシグ対ビゲ——……………	増井 健一	49
[紹 介]	二つの商業史……………	服部謙太郎	57
第45巻第6号 (1952年6月)			
	経営労資関係に関する基本的考察……………	森 五郎	1
	明治初年の殖産政策と在来産業……………	尾城太郎丸	29
[資 料]	貢租に関する農民訴訟の一資料……………	新保 博	56
[紹 介]	ジョン・コートマン『英連邦の家族的結合』……………	矢内原 勝	65
第45巻第7号 (1952年7月)			
	東南アジア経済開発問題に関する一考察……………	山本 登	1
	絶対消費の図式とその具体化……………	辻村江太郎	17
[資 料]	馬場辰猪小伝 (上)……………	西田 長寿	43
	米国南部の経済に対する TVA の影響……………	飯島 瑞子	58
第45巻第8号 (1952年8月)			
	地主層の構成……………	小池 基之	1
	資本主義技術の史的構造……………	野口 祐	35
[資 料]	日本林業発達史序説……………	服部謙太郎	46
	馬場辰猪小伝 (下)……………	西田 長寿	53
[紹 介]	クープマンズ編『動態的経済模型に関する統計的研究』……………	小尾恵一郎	69
第45巻第9号 (1952年9月)			
	改革後の自作農の性格——地主の存在形態——……………	島崎 隆夫	1
	国際収支の所得分析と J・E・ミード……………	白石 孝	19
	動的貸借対照表の構成……………	高橋吉之助	35

[資料]	鉄道運賃の性格に就ての論争(二)——タウシグ対ビグー——	増井 健一	56
[紹介]	G・D・H・コール『社会主義経済学』	加藤 寛	63
	W・アーサー・ルイス『経済計画の原理』	加藤 寛	63
<b>第45巻第10号 (1952年10月)</b>			
	具体的消費函数の発達について	鈴木 諒一	1
	「バシレイア」と古ゲルマンの「グランドヘルシャフト」の異同性について		
	——ホーメロス、タキトウスを中心として——	宇尾野 久	21
	経済分析と経済予測の方法論	武村 忠雄	51
[紹介]	G・ティントナー『エコノメトリクス』	辻村江太郎	65
<b>第45巻第11号 (1952年11月)</b>			
	協同組合配給の本質とその限界	鈴木 保良	1
	「小農論」批判の一視点——とくにEd. David; Sozialismus und Landwirtschaft, Zweite umgearbeitets und vervollständigts Auflage, Leiozing 1922. について——	常盤 政治	19
[資料]	作業職能と人間関係(其の一)——工場における協同関係の分析——	関口 操	49
[書評]	フリードリヒ・ルツ夫妻著『企業投資の理論』	鈴木 諒一	62
[紹介]	メツラー『レオンチェフの投入—産出模型に於ける租税と補助金』	福岡 正夫	68
<b>第45巻第12号 (1952年12月)</b>			
	メシア思想の起源と発展	平井 新	1
	均衡予算の乖数効果に関する理論の現実的妥当性		
	——膨脹効果が収縮効果か——	高木 寿一	29
[資料]	作業職能と人間関係(其の二・完)——工場における協同関係の分析——	関口 操	48
[紹介]	W・シュタルク『経済思想の根底に在る諸理想』	服部成三郎	58
<b>第46巻第1号 (1953年1月)</b>			
	価値判断に関するわが国の学説について	気賀 健三	1
	独占と競争——シュムペーターについて——	山部 徳雄	29
[学界展望]	伸縮為替相場と交易条件	白石 孝	53
[書評]	経済研究委員会編『景気変動の諸問題』	鈴木 諒一	56
[紹介]	経済哲学の根本問題(一)	服部成三郎	65
	ソヴェト政策——権力のダレンマ	加藤 寛	68
<b>第46巻第2号 (1953年2月)</b>			
	〈関東農村の史的研究(第二集)〉		
	武蔵国埼玉郡麦倉村——大庄屋小室家をめぐるとの問題——	服部謙太郎	1
	武蔵国児玉郡傍示堂村——名主内野家の経営を中心として——	島崎 隆夫	23
	上総国市原郡不入斗村	金丸 平八/中村 勝己	63
<b>第46巻第3号 (1953年3月)</b>			
	中小工業危機の実態とその特質(上)	伊東 岱吉	1
	限界生産力説における若干の問題点	鈴木 諒一	23
[資料]	エジプト農業のギリシヤ化に対する通説への反省		

	——M・シュネーベルのパピルス研究を中心として——	宇尾野 久	42
[書評]	林業地代論の一考察——石渡貞雄著『林業地代論』によせて——	常盤 政治	54
[紹介]	経済哲学の根本問題 (二)	服部成三郎	61
<b>第46巻第4号 (1953年4月)</b>			
	販売予算編成の実証的一考案	和田木松太郎	1
	企業生産函数の分析——Linear Programmingの立場から——	尾崎 巖	17
[資料]	輸送手段発達の地域性について	増井 健一	47
	リングジャティ協定について (1) ——東南アジアのナショナリズム問題の 一例としてのインドネシアの独立とオランダとの関係——	矢内原 勝	66
	故マルク・ブロック教授の歴史理論について ——遺著・『歴史学のための弁明』の紹介その一——	渡辺 国広	78
[紹介]	ロシアとアメリカ合衆国	加藤 寛	90
<b>第46巻第5号 (1953年5月)</b>			
	産業と地域社会——M市の金物業について——	青沼 吉松	1
	経済法則の論理的性格及びその妥当性に関する若干の考察	富田 重夫	38
[資料]	リングジャティ協定について (2) ——東南アジアのナショナリズム問題の 一例としてのインドネシアの独立とオランダとの関係——	矢内原 勝	72
[紹介]	W・コッホ『共産主義と個人主義』	加藤 寛	86
	J・S・バーリナ『ソ連企業のインフォーマルな組織』	加藤 寛	86
<b>第46巻第6号 (1953年6月)</b>			
	明治・東京の性格——都市生活史についての覚書——	奥井復太郎	1
	中小工業危機の実態とその特質 (下)	伊東 岱吉	23
[資料]	人文地理学に対する大学入試受験生の考え方に就いて	小島 栄次	52
	故マルク・ブロック教授の歴史理論について ——遺著・『歴史学のための弁明』の紹介その二——	渡辺 国広	57
	リングジャティ協定について (3) ——東南アジアのナショナリズム問題の 一例としてのインドネシアの独立とオランダとの関係——	矢内原 勝	64
[紹介]	ドイツチャー『計画経済下のソ連労働組合』	加藤 寛	76
<b>第46巻第7号 (1953年7月)</b>			
	厚生経済学の基礎についての若干の吟味	千種 義人	1
	プロコピウス「アネクドータ」経済記事	宇尾野 久	20
	「ロックの社会思想史的一考察」——所有権について——	植木 憲二	40
[資料]	近世における漁村の移住と漁場の利用、支配の関係について	速水 融	61
	ヴェイル・グレザー・コックス共著『アメリカ経済における配給』	片岡 一郎	71
<b>第46巻第8・9号 (1953年8・9月)</b>			
	S県S郡K町漁業実態調査報告——漁業経済の一研究—— ……伊東 岱吉/小池 基之/尾城太郎丸/常盤 政治/平野 絢子/高山 隆三	1	
[書評]	近藤康男編『日本漁業の経済構造』	島崎 隆夫	175

第46巻第10号 (1953年10月)			
	社会思想としてのヘブライズム……………	平井 新	1
	蓄積、生産要素相対価格及び利用度の構造的関係 ——生産函数の測定と分配率の再考を含めて——……………	小尾恵一郎	31
	ゲーム理論の銀行貸出政策への適用……………	村井 俊雄	61
[資 料]	外科医ヴィレルメの眼に映じたフランス織物労働者……………	渡辺 国広	82
	大麻経済に於ける労働力の存在形態……………	野口 祐	98
[書 評]	ロバート・ドルフマン著『線型計画論の企業理論への適用』……………	尾崎 巖	28
第46巻第11号 (1953年11月)			
	会計の管理機能について……………	小高 泰雄	1
	アメリカ植民地工業の歴史的形態……………	中村 勝巳	23
[資 料]	最近のソ連賃金……………	加藤 寛	44
	中世における金融取引……………	渡辺 国広	55
[書 評]	松井清著『商業経済学概論』……………	片岡 一郎	66
	池内信行著『経営経済学総論』……………	関口 操	73
第46巻第12号 (1953年12月)			
	地理学の課題と領域に就いて……………	小島 栄次	1
	巨視的動学理論における成長率の問題……………	鈴木 諒一	17
	配給における能率測定の問題点……………	片岡 一郎	36
[資 料]	近世における一漁村の人口動態——紀伊国牟婁郡須賀利浦——……………	速水 融	63
[紹 介]	中世の金融業者——メディチ銀行に関する近著の紹介——……………	渡辺 国広	72
[書 評]	富永祐治著『交通における資本主義の発展』——日本交通業の近代化過程——……………	増井 健一	80
	福武直編『アメリカ村』……………	青沼 吉松	83
第47巻第1号 (1954年1月)			
	スターリン論文における経済法則論……………	気賀 健三	1
	地代論に関する一研究——リチャード・ジョーンズの階級調和論——……………	平野 絢子	42
[資 料]	私有林に関する試論(一)——一山林地主の生態について——……………	金丸 平八	71
[書 評]	クライン『計画経済学概論』……………	鈴木 諒一	91
第47巻第2号 (1954年2月)			
	再販売価格維持政策……………	鈴木 保良	1
	製品計画に関する若干の考察……………	田中 英明	24
[資 料]	私有林に関する試論(二)——一山林地主の生態について——……………	金丸 平八	38
	主成分分析の経済分析への応用……………	佐藤 保	52
[書 評]	財政学全書の新版について……………	高木 寿一	66
	アッシャー著『地中海ヨーロッパにおける預金銀行業務の初期の歴史』……………	渡辺 国広	73
第47巻第3号 (1954年3月)			
〈関東農村の史的研究(第三集)〉			
	都市近郊村の諸問題——武蔵国豊嶋郡角管村——……………	速水 融	1
	村落連合一組合村について——武蔵国足立郡染谷村——……………	島崎 隆夫	39
	夫銭出入一件——武蔵国葛飾郡藤塚村——……………	金丸 平八	60

	新田開発と惣村持田地——上総国市原郡菊間村——	宇尾野 久	89
	利根川筋河岸場紛争——本庄宿外港としての一本木河岸および山王堂河岸——	島崎 隆夫	103
	武州一揆と農兵	安沢 秀一	115
	天保年間深谷宿助郷出入	速水 融	120
<b>第47巻第4号 (1954年4月)</b>			
	大坂信用制度の基盤——紙問屋小嶋屋七兵衛の例——	野村兼太郎	1
	スミスのいわゆる「初期未開の社会状態」について	遊部 久蔵	36
[資料]	労働者意識についての若干の問題(上)——四工場の調査を素材として——	青沼 吉松	71
	『コーデックス・ラウレスハメンシス』におけるマンキピア	宇尾野 久	81
	戦後失業対策と都市日雇労働者	黒川 俊雄	98
	ルウトゲ著『社会経済史における第十四・五世紀』	渡辺 国広	112
[書評]	吉岡金市著『日本農業の近代化』	常盤 政治	120
<b>第47巻第5号 (1954年5月)</b>			
	労働時間問題の現代的意義	藤林 敬三	1
	南北戦争・再建期(一八六〇—七二年)における労働運動(一)	川田 寿	18
[資料]	林業史研究(一)——明治四〇年の森林法改正を中心として——	金丸 平八	41
	村明細帳を通じてみた伊勢の農村と都市——四日市宿を中心として——	速水 融	74
	農地改革をめぐる諸見解と「地主的土地所有」	平野 絢子	83
	ヒューマニスト・ギヤスケルと産業革命期の英国労働者階級 ——ギヤスケルの『英国の産業人口』一八三三年、を読んで——	飯田 鼎	93
[書評]	藤田五郎著『近世経済史の研究』	尾城太郎丸	103
<b>第47巻第6号 (1954年6月)</b>			
	中世リユーネブルク井塩の取引について	高村 象平	1
	南北戦争・再建期における労働運動(二)	川田 寿	13
[資料]	絹織業に於ける生産形態の発展と賃労働の形成過程	野口 祐	38
	林業史研究(二)——森林組合の性格とその成果について——	金丸 平八	64
	最近のソ連鉄道の現状と政策	加藤 寛	83
[書評]	ドゥ・ルーヴァ著『フロレンスの一織物会社』	渡辺 国広	97
[紹介]	E・H・カー著『浪漫的亡命者たち』	飯田 鼎	104
<b>第47巻第7号 (1954年7月)</b>			
	経営合理化とそれの労務諸関係への影響に関する一研究	森 五郎	1
[資料]	労働者意識についての若干の問題(中)——四工場の調査を素材として——	青沼 吉松	18
	英連邦の統一についての覚え書(上)	矢内原 勝	35
	村明細帳を通じてみた近世中期の一漁村——志摩国英虞郡船越村——	速水 融	51
[書評及び紹介]	カレッキー『経済動態理論』	鈴木 諒一	59
	A・C・ピグー著『アルフレッド・マーシャルと現代思想』	山部 徳雄	63
	安平哲二『社会主義経済理論の展開』	気賀 健三	64
	W・G・バチエット著 山田坂仁・小川修訳『纏足を解いた中国』	飯田 鼎	66
	石渡貞雄著『農業恐慌論』	常盤 政治	68
	F・J・ド・ヨンク『ケインズ経済学における供給函数』	大熊 一郎	72
	カール・A・フォックス『構造的分析法と農産物需要の測定』	辻村江太郎	75



	R・M・ブレイス『ボルドーにおける食糧問題とフランス革命』……………	渡辺 国広	79
	シェパード・B・クラフ『フランスの経済発展における阻止的要因』……………	渡辺 国広	81
<b>第47巻第8号</b> (1954年8月)			
	家族計画とその人口政策的意義……………	寺尾 琢磨	1
	恐慌の資本制的性格といわゆる „Der letzte Grund“ について ——「過少消費説」克服のために——……………	常盤 政治	18
[資料]	英連邦の統一についての覚え書(下)……………	矢内原 勝	46
[書評及び紹介]	山田雄三著『日本経済の計画論的考察』……………	気賀 健三	63
	醐醜作三著『労務管理論序説』——労務管理の本質——……………	森 五郎	64
	ロイ・ハロッド 東銀調査部訳『ポード・スターリング』……………	白石 孝	66
	和田木松太郎著『予算統制制度』……………	高橋吉之助	67
	石渡貞雄著『農地改革の基本構造』……………	平野 絢子	70
	ハーバート・フランケル 『未開発社会への経済的接衝——国際投資と社会変化に関する論文』……………	矢内原 勝	71
	リチャード・R・ステイル『シヤトル市食料雑貨卸商業の死亡率に関する研究』……………	片岡 一郎	73
	A・シャトラン『労働力と第十九世紀における鉄道敷設』……………	渡辺 国広	78
<b>第47巻第9・10号</b> (1954年9・10月)			
	独占と中小企業をめぐる理論的諸問題……………	伊東 岱吉	1
	実践的価値判断の論理的基礎——M・ウェーバーの没価値性理論を中心として——……………	富田 重夫	24
	再販売価格維持制度の効果分析——合衆国醸造業の場合——……………	片岡 一郎	54
[資料]	杉本茂十郎の研究——菱垣廻船積株仲間の成立——……………	伊東弥之助	84
[書評及び紹介]	R・W・シェパード『費用函数と生産函数』……………	小尾恵一郎	111
	『アメリカ綿業史の一研究』……………	中村 勝己	115
	マーガレット・コール著『革命のなかに成長して』……………	飯田 鼎	117
	U・K・ヒックス著 巽博一・肥後和夫訳『財政学』……………	古田 精司	118
	古島敏雄・永原慶二著『商品生産と寄生地主制』……………	平野 絢子	120
	『経済発展、職業再配分及び交易条件』……………	白石 孝	122
<b>第47巻第11号</b> (1954年11月)			
	投入—産出模型について……………	千種 義人／大熊 一郎	1
	ローマの農政—— <i>Cicero, de lege agraria</i> を中心として——……………	宇尾野 久	14
[資料]	労働者意識についての若干の問題(下)——四工場の調査を素材として——……………	青沼 吉松	41
[書評及び紹介]	羽鳥卓也『近世日本社会史研究』……………	尾城太郎丸	62
	新沢嘉芽統著『農業剰余価値形態論』……………	常盤 政治	64
	古川栄一著『財務管理組織』……………	和田木松太郎	66
	国際決済銀行篇 首藤清訳『スターリング地域』……………	白石 孝	67
	A・H・ハンセンイ『貨幣理論と財政政策』……………	安井 孝治	68
	イ・ロクシン著 ソヴェト工業書刊行会訳『ソヴェト工業発展史』……………	加藤 寛	73
	J・ネイマン『確率・統計学の第一歩』……………	佐藤 保	74
	J・ロビンソン『マルクス再読』……………	大熊 一郎	77
<b>第47巻第12号</b> (1954年12月)			
	聖トーマスの財産論について……………	平井 新	1

	産業生産性の計測——製紙産業への適用——	尾崎 巖	32
[資料]	イギリス労働党の国有化理論——国有化政策の背後にひそむもの——	飯田 鼎	52
	宗門改帳より壬申戸籍へ（一）——維新期の人口調査とその一例——	速水 融	63
[書評及び紹介]	『社会改革の新構想』——新フェビアン論集	気賀 健三	75
	関嘉彦著『英国労働党の社会主義政策』	飯田 鼎	76
	ベルトラン・ド・ジュウヴネル『再分配の倫理』	富田 重夫	78
	モーリス・ドップ著 京大近代史研究会訳『資本主義発展の研究 I』	尾城太郎丸	80
	近藤康男監修 大谷省三編集『農地改革』	平野 絢子	82
	小出博編『日本の水害』	金丸 平八	84
	モルゲンシュテルン『実験と大規模計算』	小尾恵一郎	86
	ジョン・D・ホーン『スーパーマーケットによる非食料商品の販売』	片岡 一郎	89
	パウロ・D・コンヴァース『配給における雇傭、賃銀及び労働関係』	片岡 一郎	91
	ユージン・ステアリー『未開発諸国の将来——経済発展の政治的意義』	飯島 瑞子	95
<b>第48巻第1号</b> （1955年1月）			
	生活保護法関係の社会事業に関する諸問題	小島 栄次	1
	イギリス労働党成立の思想史的背景（上）——労働党史研究序説——	飯田 鼎	22
[資料]	日本電気通信産業の構造（一）		
	——有線通信機器工業実態調査報告——	伊東 岱吉／尾城太郎丸	41
	カール大帝のテストメントウム	宇尾野 久	58
[書評及び紹介]	クラウス・メーネルト『スターリン対マルクス』	気賀 健三	68
	ペーター・ザーゲル『スターリン主義の理論的基礎とソ連の経済政策に対するその影響』	気賀 健三	69
	野々村一雄『ソヴェート経済論』	加藤 寛	70
	石村善兵衛著『経済政策の解明』	加藤 寛	72
	印南博吉著『保険経済』	庭田 範秋	74
	市村真一著『経済循環の構造』	大熊 一郎	76
	ヤコブ・マルシャック『政策と予測の為の経済測定』	尾崎 巖	77
	リチャード・N・オーウェンズ著『工企業の経営管理』	森 五郎	80
<b>第48巻第2号</b> （1955年2月）			
	〈関東農村の史的研究（第四集）〉		
	商人意識の一考察——北関東における一在郷商人の家訓を中心として——	島崎 隆夫	1
	旗本領における支配の変化について——上総国市原郡妙香村——	金丸 平八	16
	都市近郊村の農業経営に関する一考察	速水 融	27
	近世村落形成期における新開と入会——武蔵国多摩郡連光寺村の場合——	安沢 秀一	44
	幕末期における村落窮乏の一例——武蔵国多摩郡沢井村——	志田 節子	82
<b>第48巻第3号</b> （1955年3月）			
	ヒックスの「厚生国家に於ける租税政策」について	高木 寿一	1
	推定値の性質と許容限界	佐藤 保	14
	ホップズ経済思想の一考察（一）		
	——自然法とイギリス重商主義研究への序説——	梅谷 泰雄	34
[資料]	イタリヤにおける社会民主主義とファシスト運動	飯田 鼎	53
[書評及び紹介]	ワーレン・C・スコヴィル『フランス経済におけるユグノー教徒』	渡辺 国広	63

	G・ルカーチ著、城松登 生松敬三訳『実存主義かマルクス主義か』……………	飯田 鼎	65
	R・ヌルクセ『未開発諸国における資本形成の問題』……………	白石 孝	68
	堀江英一著『明治維新の社会構造』……………	尾城太郎丸	70
	久留間鮫造 玉野井芳郎著『経済学史』……………	遊部 久蔵	73
<b>第48巻第4号</b> (1955年4月)			
	マルクスとスターリン……………	気賀 健三	1
	経済学の保険論——古典学派およびマルクス主義経済学の保険観——……………	庭田 範秋	20
[資料]	日本電気通信産業の構造(二) ——有線通信機器工業実態調査報告——……………	伊東 岱吉/尾城太郎丸	37
[書評及び紹介]	エルンスト・ケルター『黒死病期の十四・五世紀ドイツにおける経済生活』…	渡辺 国広	61
	『アメリカ自由放任主義の発展』……………	中村 勝己	66
	ジョルジニ・コニオ『新経済学教科書に寄せて』……………	平野 絢子	71
<b>第48巻第5号</b> (1955年5月)			
	〈経営学特集〉		
	生産性向上運動の経営学的意義……………	小高 泰雄	1
	商業経営の機能的分化……………	鈴木 保良	19
	労務監査の理論……………	森 五郎	31
[資料]	内部監査論覚え書……………	高橋吉之助	47
	McGarry 教授の配給観……………	片岡 一郎	61
[書評及び紹介]	ジェー・オー・マッキンサー著『予算統制』……………	和田木松太郎	72
	占部都美著『近代経営学』……………	関口 操	74
<b>第48巻第6号</b> (1955年6月)			
	投入産出分析(一)——基礎理論——……………	福岡 正夫	1
	一八三〇年代におけるイギリス労働運動——労働党史研究序説(中)——……………	飯田 鼎	25
[資料]	方法論史上におけるカール・メンガーの役割……………	服部成三郎	40
[書評及び紹介]	H・サイル『経済関係の線型の総計法』……………	鈴木 諒一	53
	ベクア『社会主義の経済法則とソビエト国家の経済政策』……………	加藤 寛	56
	E・コールネル『農村の毛織業、都市の毛織業』……………	渡辺 国広	58
	高村象平著『西洋経済史』……………	宇尾野 久	61
	大林良一著『保険』……………	庭田 範秋	64
	オスカ・ランゲ著 都留重人監修訳『社会主義体制における統計学入門』…	佐藤 保	66
<b>第48巻第7号</b> (1955年7月)			
[論説]	地主制再編成の一形態——とくに農地移動について——……………	小池 基之	1
	投入産出分析(二)——逐次解法その他——……………	福岡 正夫	34
[書評及び紹介]	篠原三代平著『所得分配と賃銀構造』……………	鈴木 諒一	45
	白杉三郎著『保険学総論』……………	庭田 範秋	47
	古川栄一編『財務管理』……………	関口 操	51
	碓正夫著『農業経済学原理』……………	常盤 政治	54
	塩田庄兵衛編『幸徳秋水の日記と書簡』……………	飯田 鼎	57
	N・H・エンゲル著『配給における費用と利潤』……………	片岡 一郎	61
	ウィリアム・S・サクス著『独立戦争前の北部植民地農業の状態』……………	中村 勝己	71

第48巻第8号 (1955年8月)			
[論 説]	理論経済学の性格と日本経済……………鈴木 諒一	1	
	投入産出分析(三)——動学的レオンティエフ体系——……………福岡 正夫	13	
	厚生経済学と倫理的価値判断……………富田 重夫	22	
	ベヴァン主義とイギリス労働党——労働党左派の発展過程とその意義——……………飯田 鼎	38	
[書評及び紹介]	W・L・スミス著『為替相場の調整と生活水準』……………白石 孝	50	
	印南博吉著『生命保険論』……………庭田 範秋	52	
	D・デュラン著『多元回帰係数に対する同時信頼領域』……………佐藤 保	56	
	バーゲス・カメロン著『生産の決定』……………尾崎 巖	59	
	L・M・コイク著『ラグの分布と投資行為』……………鈴木 諒一	64	
	E・V・ホフステン著『品質変化と物価指数』……………鈴木 諒一	68	
第48巻第9号 (1955年9月)			
[論 説]	アルフレッド・マーシャルにおける交通論……………増井 健一	1	
[資 料]	ソ連の農業問題……………気賀 健三	25	
	現代ドイツ社会学の思考状況に関するノート		
	——その人間中心主義的志向をめぐって——……………石坂 巖	36	
	宗門改帳より壬申戸籍へ(二)——維新期の人口調査とその一例——……………速水 融	47	
	農地改革後における山林地主の一存在形態——割山慣行の実態とその本質——……………平野 絢子	56	
[書評及び紹介]	クズネッツ著『高額所得者における所得と貯蓄の割合』……………鈴木 諒一	69	
	M・フリードマン著『実証経済学の方法論』……………富田 重夫	73	
	ユルゲン・クチンスキー著 高橋正雄・中内通明訳『ドイツ経済史』……………飯田 鼎	76	
	スコット・A・グリーア著『社会組織』……………関口 操	79	
	栗原百寿著『農業問題入門』……………平野 絢子	82	
第48巻第10号 (1955年10月)			
[論 説]	社会保険の現状とその改正計画……………園 乾治	1	
	「同一労働同一賃金」の原則と婦人労働問題……………黒川 俊雄	34	
[資 料]	西ドイツ中世における“Bauerntum”の形成		
	——Codex Laureshamensisを中心として——……………宇尾野 久	47	
	保険商品説の研究……………庭田 範秋	63	
[書評及び紹介]	勝部元著『現代のファシズム』……………飯田 鼎	77	
	W・C・ベホーテガイ『自動車タイヤ業界における再販売価格維持制度』……………片岡 一郎	81	
	ポール『社会主義社会の国民所得』……………加藤 寛	85	
	社会政策学会編『賃労働における封建性』……………北原 勇	88	
第48巻第11号 (1955年11月)			
[論 説]	人口政策の概念を規定する……………寺尾 琢磨	1	
	生産性の変化と所得分布——アグレゲーション解決のために——……………鈴木 諒一	15	
	古典学派に於ける「賃労働」問題の分析視覚——アダム・スミス——……………井村喜代子	29	
[書評及び紹介]	勝呂弘著 改訂新版『海上保険』……………園 乾治	46	
	ロビンソン——ギルマン——ドゥニの労働価値説に関する討論……………遊部 久蔵	47	
	宮下忠雄著『中日貿易の研究』……………白石 孝	56	
	高橋長太郎著『所得分布の変動様式』……………鈴木 諒一	59	
	Studies in Income and Wealth, Vol.15, National Bureau of		

	Economic Research. . . . .	鈴木 諒一	61
	ハリス編『社会科学者シムペーター』 . . . . .	山部 徳雄	64
<b>第48巻第12号</b> (1955年12月)			
[論 説]	西独鉄鋼業の復興過程 . . . . .	山本 登	1
	社会政策と労働の人的構造——いわゆる「賃労働の理論」によせて—— . . . . .	中鉢 正美	15
[資 料]	モンゴル遊牧民の男女分業——その社会的な地位との関係—— . . . . .	後藤 富男	30
[書評及び紹介]	久武雅夫著『数理経済学原理』 . . . . .	鈴木 諒一	47
	F・バーレンス著 石津英雄訳『近代経済学の生誕』——ゴッセンへの批判—— . . . . .	中鉢 正美	49
	エルスナー著 千葉秀雄訳『経済恐慌』 . . . . .	常盤 政治	52
	市原季一著『ドイツ経営学』——ドイツ的経営学の生成と発展—— . . . . .	小島 三郎	55
<b>第49巻第1号</b> (1956年1月)			
[論 説]	線形計画論・Simplex Method . . . . .	福岡 正夫	1
	日本綿業における中小機業の地位——地方体制の崩壊と問屋制の再編成—— . . . . .	青沼 吉松	17
	チャーチスト運動の特質とその歴史的意義について . . . . .	飯田 鼎	37
[書評及び紹介]	今野源八郎著『道路交通政策』 . . . . .	増井 健一	52
	W. Hamburger, The Relation of Consumption to Wealth and Wage Rate. (Econometrica, Jan. 1955.) . . . . .	鈴木 諒一	54
	有沢広巳編『統計』(毎日ライブラリー) . . . . .	佐藤 保	57
	平田富太郎著『社会政策論研究』 . . . . .	中鉢 正美	61
	石渡貞雄著『農民分解論』 . . . . .	常盤 政治	64
	鈴木讓一 市川久仁共著『損害保険経営論』 . . . . .	庭田 範秋	68
	家永三郎著『数奇なる思想家の生涯』 . . . . .	飯田 鼎	72
<b>第49巻第2号</b> (1956年2月)			
	〈関東農村の史的研究(第五集)〉		
	関東地方一農村に成立をみた農書——田村吉茂著『農業自得』を中心として—— . . . . .	島崎 隆夫	1
	私有林を繞る争論の一例——下野国都賀郡大久保村—— . . . . .	金丸 平八	18
	近世村落形成期に於ける年貢について(一) ——武蔵国多摩郡連光寺村の場合—— . . . . .	安沢 秀一	26
	近世初期の検地と本百姓身分の形成——慶長六年紀州検地帳の研究—— . . . . .	速水 融	50
[書評及び紹介]	古島敏雄編『日本林野制度の研究』 . . . . .	金丸 平八	82
	今井林太郎 八木哲治著『封建社会の農村構造』 . . . . .	速水 融	84
<b>第49巻第3号</b> (1956年3月)			
[論 説]	線形計画論・双対性定理 . . . . .	福岡 正夫	1
	経済計画と価値法則の利用 . . . . .	加藤 寛	11
[資 料]	デュウゼンベリの投資理論 . . . . .	大熊 一郎	25
[特別寄稿]	安藤昌益の身元と遺稿につきて . . . . .	渡辺 大濤	35
	Japanese Economic Thought——A Foregner's-Eye View—— . . . . .	M. Bronfenbrenner	P.1 (逆丁)
[書評及び紹介]	加藤由作著『海上保険講義』 . . . . .	庭田 範秋	46
	ロバートソンをめぐる「効用」論争 . . . . .	加藤 寛	49

	通商産業省編『わが国の産業連関表について』……………鈴木 諒一	54
	ホーヴェルモー著 山田勇訳編『計量経済学的确立的接近法』……………鈴木 諒一	58
	C・W・フェルプス『アメリカの月賦購入金融』——販売金融会社の機能——…片岡 一郎	61
<b>第49巻第4号</b> (1956年4月)		
[論 説]	価値論からみたケインズ『一般理論』……………遊部 久蔵	1
	D・リカードの「賃労働」問題の分析視覚……………井村喜代子	24
[書評及び紹介]	田中惣五郎著『幸徳秋水——一革命家の思想と生涯』……………飯田 鼎	43
	山極圭司著『木下尚江——一先覚者の闘いと悩み』……………飯田 鼎	43
	武田隆夫・遠藤湘吉・大内力著『近代財政の理論』……………大島 通義	48
	プレハーノフ著 西牟田久雄・直野敦訳『歴史における個人の役割』……………寺尾 誠	51
	ハーサナイイ『基数的厚生・個人主義的倫理・効用のインタパーソナルな比較』……………加藤 寛	55
	U・K・ヒックス著『英国財政、その構造と発展、一八八〇年——一九五二年』……………古田 精司	57
	W・S・ヴォロディン『ケインズ——独占資本のイデオログ』……………井村喜代子	63
<b>第49巻第5号</b> (1956年5月)		
	〈計量経済学特集〉	
	アグレゲーションと分布の問題……………鈴木 諒一	1
	動的消費者行動理論確立のために	
	——時間的変位を含む構造推定の試み——……………佐藤 保/辻村江太郎	14
	生産構造の計測と与件	
	——生産函数計測における工学的資料の援用について——……………小尾恵一郎	37
	経済学的生産函数の計測——産業内規模別企業の異質性に関する考察を含めて——…尾崎 巖	56
[資 料]	遊戯問題の若干の特殊な解法について……………福岡 正夫	70
	産業連関表と社会勘定……………大熊 一郎	77
[書評及び紹介]	森田優三著『経済変動の統計的分析法』……………鈴木 諒一	85
	Klein and Goldberger, An econometric model of the United States, 1929-52. ……………鈴木 諒一	88
<b>第49巻第6号</b> (1956年6月)		
[論 説]	“De ministerialibus” ——C. L. における展開——……………宇尾野 久	1
	線形計画論・遊戯論との関係……………福岡 正夫	14
	現金準備率と信用創造——多数銀行に於ける乗数の理論——……………村井 俊雄	30
	「封建的社会構成体の基本的経済法則」に関する覚え書	
	——土地所有の性格規定のための序説——……………常盤 政治	40
[資 料]	ドイツ・ファシズムにかんする覚え書——オットー・ウインツァ	
	「ファシズムと戦争にたいする十二年の闘争」によせる——……………飯田 鼎	57
[書評及び紹介]	W. W. Cooper, A proposal for extending the theory of the firm. ……………鈴木 諒一	70
	木下和夫著『国民所得分析』……………鈴木 諒一	73
	平竹伝三著『ソヴィエト経済発展の分析』……………加藤 寛	76
	中世末フランスの賃銀研究の諸前提……………渡辺 国広	78
<b>第49巻第7号</b> (1956年7月)		
[論 説]	経済心理学における同型理論 I……………中鉢 正美	1
	十八世紀末期のイギリスにおける急進主義運動と労働者階級……………飯田 鼎	15

[資料]	ケインズ理論と古典派理論の比較——ルッツの所論に鑑みて——	鈴木 諒一	28
[書評及び紹介]	ミトラニイ著 的場・斉藤・深沢訳『マルクスと農民』	渡辺 国広	38
	フランス革命と民衆運動	渡辺 国広	41
	ストルミリン論文をめぐるドップ対ガボール	加藤 寛	44
	H. Goris, Price-determining factors in american tobacco markets.	鈴木 諒一	48
	L. Juréen, Long-term trends in food consumption.	鈴木 諒一	52
	日本財政経済研究所編『西ドイツの経済復興』	山本 登	55
<b>第49巻第8号 (1956年8月)</b>			
[論説]	貿易政策の価格調整効果の分析——四つのケース——	白石 孝	1
	ソ連における重工業優先論	加藤 寛	11
	経営生産組織形態の史的展開	野口 祐	23
[書評及び紹介]	Hollis B. Chenery: The Application of Investment Criteria.	鈴木 諒一	36
	Walter Galenson & Harvey Leibenstein: Investment Criteria, Productivity and Economic Development.	鈴木 諒一	42
	シュムペーター著 東畑精一訳『経済分析の歴史 I』	山部 徳雄	47
	アブッシュ著 道家忠道・成瀬治訳『ドイツ——歴史の反省——』	飯田 鼎	51
	明礬取引小史	渡辺 国広	55
<b>第49巻第9号 (1956年9月)</b>			
[論説]	労資関係の歴史的発展とわが国の労資関係の特質	藤林 敬三	1
	経済理論の歴史性——M・ウェーバーの理念型理論を中心として——	富田 重夫	12
	アメリカ労働組合の理論——コモンズ理論について——	川田 寿	25
	L・シュタインにおける国家と財政学	大島 通義	38
[資料]	資財帳範例雑記——Brevium Exempla-Miszellen——	宇尾野 久	50
[書評及び紹介]	山岡亮一・木原正雄編『封建社会の基本法則』 ——ソ同盟歴史学界の論争と成果——	平野 絢子/寺尾 誠	62
[学界展望]	アメリカ経営学再検討の課題	関口 操	68
<b>第49巻第10号 (1956年10月)</b>			
[論説]	現代財政学に関する若干の疑問——一つの覚書——	高木 寿一	1
	労働供給に関する覚書	辻村江太郎	15
	『保険と価値形成の問題』について	庭田 範秋	27
	所得税と消費税の厚生効果	古田 精司	46
[書評及び紹介]	J・A・C・ブラウン著『産業の社会心理』——工場における人間関係——	中鉢 正美	60
	M・サコフ『社会主義の経済的カテゴリーとしての原価』	加藤 寛	63
	経済史発展の現段階	渡辺 国広	66
	物価史の研究について	渡辺 国広	68
<b>第49巻第11号 (1956年11月)</b>			
[論説]	競争と計画	気賀 健三	1
	スターリング地域の植民地通貨制度	矢内原 勝	15
	再販売価格維持制度と公正競争	片岡 一郎	30
[資料]	「自由な農民的土地所有」に関する覚書	平野 絢子	43
[学界展望]	ソ連学界における若干の論争	加藤 寛	51

[書評及び紹介]	ジョン・サヴィル編 ドナ・トール女史記念論文集『民主主義と労働運動』…飯田 鼎	57
	E・カルナウホーヴァ『ブルジョア革命と土地変革』……………常盤 政治	62
	F・バーレンス著『労働生産性・価値及び生産原価』……………井村喜代子	66
<b>第49巻第12号</b> (1956年12月)		
[論 説]	国鉄運賃についての一考察——その市場経済的側面——……………増井 健一	1
	科学的管理法の総体的考察……………野口 祐	14
	経営政策論展開への一試論——アメリカにおける経営学の形成——……………関口 操	27
	黎明期のイギリス労働組合運動——団結禁止法と労働者階級——……………飯田 鼎	39
[資 料]	マルク・ブロックと歴史……………渡辺 国広	54
[書評及び紹介]	D. Hamberg, <i>Economic Growth and Instability</i> .……………鈴木 諒一	63
	武藤光朗著『経済倫理』……………気賀 健三	66
	ヤコフツェフスキー著 石川郁男訳『封建農奴制ロシアにおける商人資本』…常盤 政治	70
<b>第50巻第1号</b> (1957年1月)		
[論 説]	経済心理学における同型理論 II……………中鉢 正美	1
	地方産業の現状と問題——遠州綿織物業を事例として——……………青沼 吉松	18
	アメリカの土地投機に関する一研究——Holland Land Companyの場合——……………中村 勝己	39
[資 料]	最近における物価史研究の動向……………渡辺 国広	53
[書評及び紹介]	D・ハンフレイ著『アメリカの輸入』……………白石 孝	59
	三菱経済研究所『世界貿易——自由化問題の背景』……………白石 孝	61
	岡稔著『ソヴェト工業生産の分析』……………加藤 寛	62
	T・W・ハチスン『経済学者としてのベンサム』……………服部成三郎	65
<b>第50巻第2号</b> (1957年2月)		
[論 説]	世界為替政策の動向と若干特徴——第二次大戦後の世界為替研究序説——……………金原賢之助	1
	生産性指数と分配の問題……………鈴木 諒一	18
	古典学派の崩壊と「賃労働」分析の転換——J・S・ミル——……………井村喜代子	29
[資 料]	安定均衡の経済表に就て ——ウーグ博士の『フランソワ・ケネーの経済表』を中心として——……………渡辺 建	46
[学 界 展 望]	一九五六年下半期の国際経済学における二つの問題……………白石 孝	61
[書評及び紹介]	穂積文雄著『英国産業革命史の一断面』——ラダイツの研究——……………飯田 鼎	67
	有沢広巳編『統計学の対象と方法』——ソヴェト統計学論争の紹介と検討——……………佐藤 保	70
<b>第50巻第3号</b> (1957年3月)		
〈経済史特集 (第六集)〉		
	近世後期における農書と物価……………島崎 隆夫	1
	近世関東における農村奉公人賃銀の研究……………速水 融	15
	近世村落形成期における年貢負担者について——武州多摩郡連光寺村——……………安沢 秀一	31
	ドイツ農民戦争の歴史的意義 (上)……………寺尾 誠	57
<b>第50巻第4号</b> (1957年4月)		
[論 説]	「医療保障制度に関する勧告」の批判……………園 乾治	1
	経済政策の目的と価値判断……………加藤 寛	27



	農業恐慌理論の一省察——十九世紀末農業恐慌の性格について（一）——	常盤 政治	43
	ドイツ社会民主党初期の財政論	大島 通義	67
	F・シェーンプルークをめぐる若干の基本的問題	小島 三郎	82
[書評及び紹介]	S・A・アバスによる東南アジア発展所要資金の算定	白石 孝	97
	ピレンス著 高村象平他訳『中世ヨーロッパ経済史』	渡辺 国広	100
	ウィリヤム・Z・フォスター著『世界労働組合運動史概観』	飯田 鼎	101
	堀経夫著『イギリス社会思想史概説』	白井 厚	105
	水田洋著『社会思想小史』	白井 厚	105
	水田洋著『社会思想史の旅——イギリス——』	白井 厚	105
<b>第50巻第5号 (1957年5月)</b>			
[論 説]	欧州共同市場成立の世界経済的意義	山本 登	1
	ナポレオン戦争後の恐慌期における労働運動と急進主義運動		
	——ウィリヤム・コベットの時代——	飯田 鼎	11
	経済学における精密法則の論理的妥当性と現実適用可能性	富田 重夫	28
	産業再編成の最近の特徴と問題点		
	——戦後日本の産業再編成による独占支配強化の諸形態について——	尾城太郎丸	44
[資 料]	いわゆる中世的自由について	宇尾野 久	62
	W・ゴドウィン「政治的正義」——初版と三版との差異について——	白井 厚	69
[学 界 展 望]	均衡点の存在定理——最近の理論経済学界の一動向——	福岡 正夫	80
[書評及び紹介]	ピータ・F・ドラッカー著『現代の経営（上、下）』	野口 祐	86
	三菱経済研究所著『綿と化繊の産業構造』——日本経済構造の分析——	尾城太郎丸	90
	ゼー・アトラス『社会主義における貨幣流通法則の作用について』	加藤 寛	95
<b>第50巻第6号 (1957年6月)</b>			
[論 説]	経済分析における地方経済観察の意義に関する若干の考察	小島 栄次	1
	「老農」形成の基盤についての若干の考察	島崎 隆夫	16
	ロルシュ帝国貸子帳——Lorscher Reichsurbar——	宇尾野 久	28
	ドイツ農民戦争の歴史的意義（中）	寺尾 誠	44
[資 料]	本邦経済資料解説（一）	辻村江太郎	68
	ケネー経済表（原表）の疑義に就て		
	——坂田太郎教授の『ケネー経済表』の「訳者解説」を中心として——	渡邊 建	80
[書評及び紹介]	長守善著『経済政策の理論』	気賀 健三	97
	ハロッド著 塩野谷九十九訳『ケインズ伝 I』	山部 徳雄	100
<b>第50巻第7号 (1957年7月)</b>			
[論 説]	日本産業構造の問題点	鈴木 諒一	1
	成長モデルにおける財政政策の扱い方について	大熊 一郎	29
	労働需要の機構——生産函数・生産者行為・賃金格差の関係を含めて——	尾崎 巖	38
	資本の集積・集中と分裂・分散——中小工業論序説——	北原 勇	63
[資 料]	マルク・ブロック——人と業績——	渡辺 国広	79
	本邦経済資料解説（二）	片岡 一郎	92
[書評及び紹介]	ロンルド・ミック著『労働価値説研究』——一九五六年——	遊部 久蔵	102
	クロンロード『社会主義的再生産』	加藤 寛	111
	杉原四郎著『ミルとマルクス』	井村喜代子	114

第50巻第8号 (1957年8月)	
[論 説]	戦後における日本労務管理の構造……………森 五郎 1
	一八三二年の選挙法改正の歴史的意義——チャーチスト運動史序説——……………飯田 鼎 15
	化繊産業に於ける中小機業の分析——その発展に於ける問題性について——……………藍原 豊作 30
	十八世紀英仏社会思想の発展とウィリアム・ゴドウィン……………白井 厚 46
[資 料]	本邦経済資料解説(三)……………村井 俊雄/古田 精司 62
[学 界 展 望]	日本農業問題と農民の階層区分——農業問題の回顧と展望——……………常盤 政治 76
[書評及び紹介]	鎌の歴史——フランス農業技術の発展に関する一つの研究に寄せて——……………渡辺 国広 85
	松本雅男 畠山芳雄編『ポリシー・メーカー——経営方針と利益計画』……………和田木松太郎 91
第50巻第9号 (1957年9月)	
[論 説]	独占の功罪……………千種 義人 1
	クロス・セクション消費線の非直線性と習慣仮説……………辻村江太郎 19
	リカードの外国為替論……………安井 孝治 38
	転換期に立つ経営経済学——A・リゾプスキーを中心とする試論——……………小島 三郎 58
[資 料]	社会主義的再生産と価値法則……………加藤 寛 74
	本邦経済資料解説(四)……………飯田 鼎/鈴木 諒一 82
[書評及び紹介]	中国における農業生産協同組合の発展
	毛沢東編、小川豊明・野間清訳『中国の村づくり——農業協同組合の発展——』
	によせて……………平野 絢子 96
第50巻第10・11合併号 (1957年10・11月)	
〈第五十巻記念論文集〉	
	ポリネシア人のハワイ移住について……………野村兼太郎 1
	為替相場と国際収支に関する若干問題——第二次大戦後の世界為替研究——……………金原賢之助 23
	人口老化を巡る諸問題……………寺尾 琢磨 47
	経営学における価値論と職能論の統一について……………小高 泰雄 74
	学校社会事業について——社会事業の概念の問題と関連して——……………小島 栄次 91
	社会主義と生産手段の公有論……………気賀 健三 117
	バブーフの共産主義理論……………平井 新 142
	わが国における労使協議制の問題……………藤林 敬三 187
	リュウベック市民の土地購入
	——第十四世紀後半のザクセン＝ラウエンブルク公領——……………高村 象平 212
第50巻第12号 (1957年12月)	
[論 説]	生産的労働とサーヴィス……………遊部 久蔵 1
	産業における社会関係——わが国労働者の社会意識について——……………青沼 吉松 22
	ドイツ農民戦争の歴史的意義(下の一)……………寺尾 誠 41
	現代経済機構における労働組合——市場の組織化——……………佐野 陽子 64
[資 料]	アメリカ合衆国における農業問題——農業恐慌研究のノートの一齣——……………常盤 政治 78
[書評及び紹介]	昭和三十二年『通商白書』……………白石 孝 93
	パウル・ホニヒスハイム『アメリカ精神生活におけるマックス・ウェーバー』……………石坂 巖 95
	庄司吉之助著『米騒動の研究』……………飯田 鼎 100

第51巻第1号 (1958年1月)	
[論 説]	日本経済の基盤……………鈴木 諒一 1
	予算統制の成立要件……………和田木松太郎 23
	小売商業における競争の側面……………片岡 一郎 42
	資本利子と統一原価計算制度——資本利子の会計学的研究——……………坂本 藤良 62
	棚卸資産評価論の一研究——標準原価をめぐって——……………会田 義雄 78
第51巻第2号 (1958年2月)	
[論 説]	社会保障と社会階層の理論……………中鉢 正美 1
	農民層分解に関する一考察
	——水田二毛作地帯における下向分解＝農家兼業化について——……………平野 絢子 16
	古典学派の崩壊と「賃労働」分析の転換——リカード学派——……………井村喜代子 42
	W・トムソンの分配論——資本主義批判史の展開によせて——……………白井 厚 63
[資 料]	マーケティング・リサーチの現状……………佐藤 保 79
[書評及び紹介]	A・L・モートン ジョージ・テート共著『イギリス労働運動史』……………飯田 鼎 89
第51巻第3号 (1958年3月)	
[論 説]	世界経済体制の再調整期……………山本 登 1
	政策決定プロセスの一考察……………加藤 寛 17
	沿岸漁業の構造——「漁民層不透明分解」の根拠について——……………高山 隆三 26
	独占と集中——政策論的考察——……………原 豊 41
[資 料]	紀州北山地方の検地帳……………速水 融 52
	ケネー経済表範式の疑義に就て
	——坂田太郎教授の『ケネー経済表』の「訳者解説」を中心として——……………渡邊 建 66
[書評及び紹介]	C・W・フェルプス著『企業金融の一段としての売掛金金融』……………片岡 一郎 82
	ジャン・マルシャル著『人間観、世界観一般としてのマルクス主義』……………白井 厚 85
第51巻第4号 (1958年4月)	
[論 説]	現代日本の国家支出の構造分析
	——財政資金の処分と国家給付の諸形態について——……………高木 寿一 1
	十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その一)
	——労働組合運動における日和見主義の発生——……………飯田 鼎 18
	西アフリカ・マーケティング・ボードの安定政策と基金……………矢内原 勝 35
	租税の効率性に関する覚書——所得税と消費税の厚生効果再論——……………古田 精司 54
[資 料]	再販売価格維持制度の経済的側面……………片岡 一郎 69
[書評及び紹介]	パウル・ホニヒスハイム著『ゲオルク・イエリネクとマックス・ウェーバー』
	——イエリネク生誕百年記念のために——……………石坂 巖 79
	岩波講座 現代思想 別巻『歴史・人間・思想』……………寺尾 誠 81
第51巻第5号 (1958年5月)	
[論 説]	本多利明の農政論——その前提——……………島崎 隆夫 1
	アメリカ産業革命の歴史的特質——商業資本転化の歴史的意義をめぐって——……………中村 勝己 13
	集積・集中と独占……………北原 勇 30
	メンガーの「Bedürfnisの理論」について……………持丸 悦朗 47
[資 料]	中華人民共和国土地改革法「富農経済」保存政策……………平野 絢子 62

[書評及び紹介]	山崎功著『イタリア社会運動史』……………	飯田 鼎	78
	関山直太郎著『近世日本の人口構造』……………	速水 融	82
<b>第51巻第6号</b> (1958年6月)			
[論 説]	ソ連の計画経済における均衡……………	気賀 健三	1
	ドイツ農民戦争の歴史的意義(下の二)……………	寺尾 誠	14
	現代経済機構における労働組合——生産構造と費用配分率——……………	佐野 陽子	46
[資 料]	ドイツ三月革命における労働者階級の役割——カール・オーベルマン 『一八四八年の革命におけるドイツ労働者』を読んで——……………	飯田 鼎	59
	J・L・シュミットの恐慌理論——戦後景気循環の体系的研究の一齣——……………	常盤 政治	75
[書評及び紹介]	エドワード・ネヴィン著『国家債務の問題』……………	古田 精司	90
<b>第51巻第7号</b> (1958年7月)			
[論 説]	農業集落の性格規定について……………	小池 基之	1
	紀州熊野一揆について……………	速水 融	20
	所得—余暇嗜好場の測定(一)……………	尾崎 巖	37
[資 料]	資本主義的拡大再生産の歴史的考察——ドイツ科学アカデミー・経済科学研究所年報 第I巻(一九五七年)所収・Jürgen Kuczynski; Zur Geschichte der erweiterten Reproduktion unter dem Kapitalismus.——……………	常盤 政治	59
	相関係数と multicollinearity……………	佐藤 保	72
[書評及び紹介]	パンカースト著 『サン・シモン主義者ミルおよびカーライル——近代思想序説』……………	飯田 鼎	87
<b>第51巻第8号</b> (1958年8月)			
[論 説]	グループワークの社会事業における位置——社会事業の概念の問題と関連して——……………	小島 栄次	1
	フランク時代における comitatus の展開……………	宇尾野 久	15
	賃金・雇用分析の計量的基礎——家計の労働供給機構の計測と理論——……………	小尾恵一郎	29
[資 料]	不均衡の経済表に就て ——ウーグ博士の『フランソワ・ケネーの経済表』を中心として——……………	渡邊 建	57
[書評及び紹介]	住谷悦治著『日本経済学史』……………	飯田 鼎	78
	ねづ・まさし著『批判日本現代史』……………	寺尾 誠	83
<b>第51巻第9号</b> (1958年9月)			
[論 説]	リューベック市の生誕……………	高村 象平	1
	十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その二) ——労働者階級と政治運動、とくに一八六七年の第二次選挙法改正の意義に ついて——……………	飯田 鼎	11
	トマス・ホジスキンの「労働擁護論」 ——その自然法思想と経済学について——……………	白井 厚/野地 洋行	31
	グッドウインの非線型景気循環理論 ——その微分・定差混合方程式モデルの新図式解法——……………	森 敬	49
	トランスファー理論……………	大宮 俣一	69
[書評及び紹介]	Chester I. Barnard, The Functions of the Executive……………	青沼 吉松	83
	モーリス・フォーク著 木村栄一・高木秀卓共訳『保険』……………	庭田 範秋	86

第51巻第10号 (1958年10月)			
[論 説]	本多利明の農政論(続)——その経済政策の性格——	島崎 隆夫	1
	成長理論と分配——カルドア・モデルに関する若干の論評——	大熊 一郎	17
	産業国有化政策の意義とその限界		
	——英国労働党の直面した問題を中心として——	丸尾 直美	27
[資 料]	社会主義的所有の二つの形態と価値法則——顧準の所説について——	平野 絢子	41
	ケネーの経済表とマルクスに就て		
	——越村信三郎教授の『ケネー経済表研究』を中心として——	渡邊 建	56
[書評及び紹介]	ドナ・トーア著『トム・マンとその時代』	飯田 鼎	76
	岡部寛之著『保険学新講』	庭田 範秋	81
	武山泰雄著『アメリカ資本主義の構造——寡占経済とその社会意識——』	原 豊	86
第51巻第11号 (1958年11月)			
[論 説]	管理の機構と人間関係	青沼 吉松	1
	経済学史上における最低賃金制論の形成	黒川 俊雄	31
	vaine pâture 考	渡邊 國廣	45
[資 料]	仮説の選択と相関係数	佐藤 保	61
[書評及び紹介]	田中惣五郎著『吉野作造——日本のデモクラシーの使徒——』	飯田 鼎	67
	W. Kalweit 著『現代資本主義における物価騰貴の諸原因について』	北原 勇	71
	飯田鼎著『イギリス労働運動の生成』(有斐閣)によせて	小川 喜一	78
第51巻第12号 (1958年12月)			
[論 説]	古ハワイにおける漁業	野村兼太郎	1
	「科学的経営」の機構と原理	青沼 吉松	14
	寡占と価格決定	原 豊	30
[資 料]	De “ceteris liberis hominibus quos vocant bharigildi”	宇尾野 久	51
	ジョン・フランシス・プレーの「ユートピアからの航海」について	飯田 鼎	65
[書評及び紹介]	K・E・ボールディング『経済政策の原理』	加藤 寛	81
	L・W・アイルズ著 本城俊明訳『団体保険の研究』	庭田 範秋	85
第52巻第1号 (1959年1月)			
[論 説]	疎外論の経済学的意義	遊部 久蔵	1
	一八七九年の関税および財政改革		
	——帝国主義形成期におけるドイツの財政政策(1)——	大島 通義	20
	独占と競争(一)——産業資本主義段階——	北原 勇	38
	チャーチズムにおける労働者の性格とその思想	野地 洋行	60
[資 料]	ギルマン『利潤率の低落』をめぐって	井村喜代子	81
[書評及び紹介]	フィリップ・P・ポイリア著『労働党の出現』	飯田 鼎	96
第52巻第2号 (1959年2月)			
[論 説]	労使協議に関する問題	藤林 敬三	1
	社会的厚生(選択)と政策プロセス	加藤 寛	19
	スチュアート・マルサス・ケインズ——貨幣分析の系譜——	松浦 保	29
[資 料]	J・メンデリソンの農業恐慌理論	常盤 政治	43
[書評及び紹介]	木下和夫 藤田晴 橋本徹著『現代財政政策の理論』	古田 精司	66

	坂田吉雄編『明治前半期のナショナリズム』……………	白井 厚	71
	A・R・ショイエン『チャーチストの挑戦』……………	野地 洋行	76
	『戦後英国における独占規制政策の効果』……………	丸尾 直美	81
<b>第52巻第3号</b> (1959年3月)			
[論 説]	十九世紀後半におけるイギリス資本主義の変貌と労働組合運動の変転(その三)		
	——一八七一年の労働組合法をめぐって——……………	飯田 鼎	1
	インド小工業政策の理論的基盤——低開発国の産出量と雇用問題——……………	矢内原 勝	21
	現代経済機構における労働組合——労働供給構造と賃金格差——……………	佐野 陽子	36
[資 料]	アメリカ経済における零細企業		
	——J. D. Philips: Little Business in American Economy, The University of Illinois Press, Urbana, 1958.——……………	佐藤 芳雄	53
[書評及び紹介]	フリーダ・ナイト著『トーマス・ウォーカーの奇妙な裁判』……………	飯田 鼎	69
	石上良平著『英国社会思想史研究』……………	白井 厚	74
	故金原賢之助博士略歴……………		83
	故金原賢之助博士の生涯……………	高木 寿一	84
	同主要著訳書目録……………		91
<b>第52巻第4号</b> (1959年4月)			
[論 説]	日本中小企業問題の国際比較……………	伊東 岱吉	1
	農業における調整的生産価格の「限界原理」と「平均原理」		
	——差額地代第二形態論の一考察——……………	常盤 政治	27
	現代ナショナリズム理論の課題		
	——“民族”の歴史的展開とその担い手について——……………	白井 厚	48
[資 料]	ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(その一)		
	——ユルゲン・クチンスキー「第一次世界大戦の勃発とドイツ社会民主主義		
	——記録と分析」における日和見主義の評価をめぐって——……………	飯田 鼎	64
	大正末期より昭和恐慌期までの沿岸漁業政策……………	高山 隆三	80
[書評及び紹介]	林栄夫著『戦後日本の租税構造』……………	大島 通義	92
<b>第52巻第5号</b> (1959年5月)			
[論 説]	近世農政思想の一考察——幽谷の場合——……………	島崎 隆夫	1
	国有化産業における価格・産出量政策……………	丸尾 直美	21
	産業別・規模別分配率の分析——産業スペクトル論序説——……………	西川 俊作	38
[資 料]	A・グラントの中間階級論……………	白井 厚	58
	寡占と加入の条件——大規模の経済を中心に——……………	原 豊	67
[書評及び紹介]	安藤精一著『近世在方商業の研究』……………	速水 融	74
	エリーカ・ケーニッヒ著『ドイツ社会民主党と経済独占の到来』……………	正田庄次郎	78
	ドナルド・リード著『ピータールー——虐殺とその背景』……………	飯田 鼎	83
<b>第52巻第6号</b> (1959年6月)			
[論 説]	社会政策と使用価値の循環……………	中鉢 正美	1
	農業革命の原因分析のための一視点……………	渡邊 國廣	17
	財政支出の経済的効率性——「財政支出の純粹理論」によせて——……………	古田 精司	29

[資料]	社会主義的所有の二つの形態と価値法則(二)……………平野 絢子	46
[書評及び紹介]	A・シュトルムタール著 神川信彦、神谷不二共訳 『ヨーロッパ労働運動の悲劇』……………飯田 鼎	62
	宇野弘蔵著『「資本論」と社会主義』……………寺尾 誠	69
	文部省『社会的要請に基く教育計画立案のための調査』……………青沼 吉松	78
<b>第52巻第7号 (1959年7月)</b>		
[論 説]	啓蒙期の社会主義と道徳哲学——特にモレリイとマプリーを中心として——…平井 新	1
	イギリスにおける社会民主主義の形成過程(その一) ——ヴィクトリア中期—資本主義の相対的安定期—における社会民主主義の 性格形成について——……………飯田 鼎	17
	一八九一—三年のプロイセン税制改革 ——帝国主義形成期におけるドイツの財政政策(2)——……………大島 通義	35
	動学的国際資本移動理論……………大宮 俣一	53
[資料]	英国六産業における企業合併の諸効果 ——P. L. Cook and R. Cohen; “Effects of Mergers”——……………北原 勇	72
[書評及び紹介]	A・H・ラヂーシチエフ著 渋谷一郎訳『ペテルブルグからモスクワへの旅』……………野地 洋行	89
	ジャック・ドウニー著『競争的過程』……………原 豊	94
<b>第52巻第8号 (1959年8月)</b>		
[論 説]	昭和年代始期の財政学の転換過程に於ける若干の疑問 ——現代財政学の前提段階の回顧——……………高木 寿一	1
	Liberi homines, centena et centenarius……………宇尾野 久	15
	産業別・規模別分配率再論——産業スペクトル論序説——……………西川 俊作	38
[学 界 展 望]	太閤検地をめぐる最近の研究動向……………速水 融	54
[書評及び紹介]	B・C・ロバーツ著『労働組合会議——一八六八—一九二一』……………飯田 鼎	69
<b>第52巻第9号 (1959年9月)</b>		
[論 説]	わが国対東南アジア経済協力の新段階……………山本 登	1
	経済余剰と経済成長……………大西 昭	12
	社会民主主義と労働階級窮乏化理論……………丸尾 直美	30
[資料]	デーツェル=ボェム論争(一)……………持丸 悦朗	44
[書評及び紹介]	平出宣道著『近代資本主義成立史論』……………中村 勝己	52
	麻生久伝刊行委員会『麻生久伝』……………飯田 鼎	55
	ハンス・ヴィルグラー著『古典学派批判者としてのマルサス』……………白井 厚	62
	儀我壮一郎著『現代中国の企業形態』……………平野 絢子	67
	高村象平監修『日本塩業史』……………宇治順一郎	71
<b>第52巻第10号 (1959年10月)</b>		
[論 説]	現代社会における大企業……………青沼 吉松	1
	余暇・所得選好場と変位の計測……………小尾恵一郎	16
[資料]	ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(その二) ——社会主義鎮圧法の時期におけるドイツ社会民主党の闘争—帝国委員会の 活動—について——……………飯田 鼎	32
	一七世紀末ニュー・イングランドの一タウンについて	

	——サフィールド（マサチューセッツ）の場合——	中村 勝己	48
	マスメグレイヴの予算決定の綜合理論	古田 精司	60
	ウィリアム・ゴドウィン研究文献（一）	白井 厚	71
	ディーツェル＝ボエム論争（二）	持丸 悦朗	81
[書評及び紹介]	真実一男著『機械と失業——リカードゥ機械論研究——』	井村喜代子	91
	T・シトフスキー著『経済理論と西欧経済の統合』	原 豊	97
<b>第52巻第11号</b> （1959年11月）			
[論 説]	近世農政思想の一考察——幽谷を継承した人々——	島崎 隆夫	1
	鉄鋼業生産函数の計測	岩田 暁一	16
[資 料]	一九〇五——一九二一年のドイツ社会民主党史 ——Schorske, Berlau の二つの研究書より——	正田庄次郎	37
[書評及び紹介]	カール＝ハインツ・ライディヒカイト著『ドイツ労働運動における ウィルヘルム・リープクネヒトとアウグスト・ベーベル』	飯田 鼎	51
	エリザベス・アイゼンスタイン著『最初の職業的革命家、 フィリップポ・ミッシェル・ブオナロッティ——伝記的評論——』	飯田 鼎	55
	平田隆夫著『社会保障』	庭田 範秋	59
	ロジェ・ガロディ『疎外論』	白井 厚	64
	K・K・クリハラ著『経済発展のケインズ理論』	西野 義彦	69
<b>第52巻第12号</b> （1959年12月）			
[論 説]	『精神現象学』の疎外論	遊部 久蔵	1
	レウデス考	宇尾野 久	25
	封建領主制確立期における浅野氏	速水 融	40
[書評及び紹介]	ブランコ・プリビチェヴィッチ著 『職場委員会運動と労働者の管理、一九一〇——一九二二年』	飯田 鼎	63
	F・ゲー『十八世紀ベリにおける生産・価格・土地の収益性』	渡邊 國廣	69
<b>第53巻第1号</b> （1960年1月）			
[論 説]	インドの国際収支の型の変化について	矢内原 勝	1
	賃金変動と就業構造（一）——賃金最低水準の成立過程と零細自営業主及び 家族従業者群の存立条件——	尾崎 巖	24
[資 料]	一九〇五——一九〇七年の第一次ロシア革命のドイツに及ぼした影響 ——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料（三の一）——	飯田 鼎	64
	ウィリアム・ゴドウィン研究文献（二）	白井 厚	85
[書評及び紹介]	ハイマン・カプリン編著 『明治労働運動史の一齣——高野房太郎の生涯と思想——』	飯田 鼎	94
	A・B・コール『日本中小企業の政治動向』	佐藤 芳雄	99
	R・ケブナー『アダム・スミスと産業革命』	渡邊 國廣	110
<b>第53巻第2号</b> （1960年2月）			
[論 説]	共産主義移行論	気賀 健三	1
	賃金と労働時間較差の年齢別特性	小尾恵一郎／佐野 陽子	18
	「常数」と主観価値論——M・ドップの価値論観の一考察——	持丸 悦朗	43
[資 料]	第一次ロシア革命（一九〇五——一九〇七年）のドイツに及ぼした影響		



	——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料（三の二）——	飯田 鼎	59
[書評及び紹介]	E・ズルツ著『快樂の礼讃』	渡辺和一郎	77
	C・ウイルソン『重商主義——解釈の変遷——』	渡辺 国広	83
<b>第53巻第3号</b> （1960年3月）			
[論 説]	経済心理学における場の理論	中鉢 正美	1
	近代自然法の展開に関する一考察（一）	野地 洋行	26
	国有化産業における投資政策	丸尾 直美	42
[資 料]	最近における漁家層の動向	高山 隆三	60
[学 界 展 望]	最近における《自由》の研究をめぐって	白井 厚	73
[書評及び紹介]	F・ビーリー ヘンリー・ペリング共著『労働党と政治』	飯田 鼎	85
<b>第53巻第4号</b> （1960年4月）			
[論 説]	農業恐慌と独占資本主義の確立		
	——「一九世紀末農業恐慌」克服の条件と二〇世紀初葉の経済恐慌の性格——	常盤 政治	1
	マルクスの相対的過剰人口論にかんする一考察	井村喜代子	38
[資 料]	我が国における需要予測の現状——日本生産性本部需要予測研究会の推定——	佐藤 保	68
[学 界 展 望]	我が国における「社会主義制度下の商品生産と価値法則」論	平野 絢子	88
[書 評]	R. M. フォックス著『ジム・ラーキン』	飯田 鼎	94
	エムリス・ヒューズ著『ケア・ハーディ』	飯田 鼎	94
	ラーヤ・ドウナイエフスカヤ『マルクス主義と自由——一七七六年から今日まで』	野地 洋行	100
[新刊紹介]	『近代日本思想史講座』	島崎 隆夫	106
	A. C. L. デイ著『貨幣の経済学』	村井 俊雄	106
	地方史研究協議会編『日本産業史大系』	尾城太郎丸	107
	平井新『社会思想史研究』	白井 厚	108
	高村象平著『ドイツ・ハンザの研究』	渡辺 国広	109
<b>第53巻第5号</b> （1960年5月）			
[論 説]	古ハワイにおける土地制度の変遷	野村兼太郎	1
	イギリスにおける社会民主主義の形成過程（その二）		
	——帝国主義の時期におけるイギリス労働運動と労働代表委員会——	飯田 鼎	7
[資 料]	最適投資の計画——フランス電力の場合——	原 豊	29
[書 評]	田中惣五郎著『北一輝——日本のファシストの象徴』	飯田 鼎	43
	チェッコランド『発展と進歩』	渡辺 国広	49
	『講座 社会保障 2 日本経済と社会保障』	庭田 範秋	52
	国崎裕著『生命保険』	庭田 範秋	56
	S. バラバニス『計量経済学』	西川 俊作	62
	R. スルクセ著『貿易と発展の諸形態』	大西 昭	66
	シヨンフィールド著『戦後英国の経済政策』	丸尾 直美	72
[新刊紹介]	増淵龍夫著『中国古代の社会と国家』		
	——秦漢帝国成立過程の社会史的研究——	平野 絢子	78
	安永武巳著『消費経済学、日本の消費構造と需要予測』	佐藤 保	78
	『社会経済史大系』	寺尾 誠	79
	気賀健三著『ソビエト経済の研究』	丸尾 直美	80
	エウジェニオ・ガレン著 清水純一訳『イタリアのヒューマニズム』		

第53巻第6号 (1960年6月)

[論 説]	わが国の労使関係と労使協議制……………藤林 敬三	1
	日本漁業の階層構成に関する一考察……………高山 隆三	8
	初期作品にみるトマス・モアの社会思想……………渡辺和一郎	23
[資 料]	ウィリアム・ゴドウィン研究文献(三)……………白井 厚	37
[学 界 展 望]	経済変動と人口……………渡辺 国広	45
[書 評]	E. H. P. ブラウン著『イギリス産業関係の発展——一九〇六年から 一九一四年の立場からの研究』……………飯田 鼎	53
	ヴァンス・パッカー著 野田・小林訳『地位を求める人々』……………石坂 巖	59
	アブダル・カイアム著『最適価格の理論と政策』……………古田 精司	63
[新 刊 紹 介]	シムペーター著 東畑精一訳『経済分析の歴史6』……………福岡 正夫	72
	チョーミン・リー著 石沢元晴・前田寿夫訳『中共経済の成長分析』……………平野 絢子	72
	ソ連科学アカデミー版 山本正美・小野義彦訳『日本現代史』……………寺尾 誠	73
	産業経済研究会編『日本の産業と独占資本(上・下)』……………北原 勇	74
	コズルフ・ベルヴァーシン編 ソヴェト研究者協会訳『経済学小辞典』……………白井 厚	75

第53巻第7号 (1960年7月)

[論 説]	一四世紀後半リユーベック市会の構成……………高村 象平	1
	農家経済の再生産構造と農民層の分解 ——長野県諏訪市湖南地区真志野集落を素材として——……………常盤 政治	11
[資 料]	年齢別女子労働力率の変動要因……………尾崎 巖	37
[学 界 展 望]	いわゆる「年功賃金制度」論……………黒川 俊雄	64
[書 評]	津田真澄著『労働問題と労務管理』……………中鉢 正美	72
	アーサー・ブリッグス編『チャーチスト研究』……………飯田 鼎	78
	F. C. メーザー著『チャーチストの時代における公共秩序』……………飯田 鼎	78
	中山伊知郎 南亮進共著『適度人口』……………安川 正彬	82
	加藤寛 丸尾直美著『社会化と経済計画』……………原 豊	87
[新 刊 紹 介]	マシューズ著『景気循環』……………大熊 一郎	93
	国際経済学会編『論争・国際価値論』……………矢内原 勝	93
	島恭彦著『現代の国家と財政の理論』……………大島 通義	94
	『講座・社会保障・第三巻』……………藤沢 益夫	95
	加藤寛著『ソ連の経済成長と経済計画』……………丸尾 直美	96

第53巻第8号 (1960年8月)

[論 説]	一九五〇年代後期の日本の財政学における財政の本質および体系に関する問題 ——前進のための若干の疑問の提出——……………高木 寿一	1
	議会制度とエンゲルス……………正田庄次郎	16
	イギリス労働党における社会化思想の変遷……………村田 光義	33
[書 評]	ジェル・C. リーマスマ『オランダにおけるカルヴィニズムと資本主義』……………渡辺 国広	50
	森下二次也編『商業経済論体系』……………庭田 範秋	55
	佐々木俊次著『ロシア思想史——スラヴ思想の展開——』……………田中 明	59
[新 刊 紹 介]	米山桂三著『産業社会学序説』……………青沼 吉松	64
	日本生産性本部生産性研究所編『技術革新と日本経済』……………尾城太郎丸	65

中国研究所編『現代中国経済史』	平野 絢子	66
日本統計研究所編『日本統計発達史』	西川 俊作	67

第53巻第9号 (1960年9月)

〔論 説〕	「豊かな社会」と厚生経済学の三命題	千種 義人	1
	日本における国際的長期資本及び国際的短期資本の役割	大宮 俣一	18
〔資 料〕	G. D. H. コール、その人と業績——最近の追憶から——	飯田 鼎	39
	メテリの検出	渡辺 国広	49
〔書 評〕	マーベル・タイルコート著『一八五一年以前におけるランカシアおよび ヨークシアの機械工学校』	飯田 鼎	56
	巽信晴著『独占段階における中小企業の研究』	北原 勇	60
	山田孝雄著『ベンサム功利説の研究』	白井 厚	65
〔新刊紹介〕	林業発達史調査会編『日本林業発達史・上巻』——明治以降の展開過程——	島崎 隆夫	70
	ガルプレイス著 鈴木哲太郎訳『ゆたかな社会』	大熊 一郎	71
	戸原四郎著『ドイツ金融資本の成立過程』	大島 通義	71
	H. ルフェーヴル著 吉田静一訳『カール・マルクス——その思想形成史——』	白井 厚	72
	W. M. デイシー著 紅林茂夫訳『現代イギリス銀行論』	村井 俊雄	73

第53巻第10・11号 (1960年10・11月)

〔論 説〕	設備規模と市場競争——過剰能力説の展開——	大熊 一郎	1
	フランク社会における国家化と封建化の競合	宇尾野 久	13
	「転形問題」について	持丸 悦朗	28
〔資 料〕	顕現的選好の理論と積分可能性の問題——消費者行動論の基礎をめぐって——	神谷 伝造	40
〔書 評〕	大河内一男 籠山京共著『家庭経済学』	中鉢 正美	61
	アーサー・ブリッグス ジョン・サヴィル共編『労働運動史論』		
	——G. D. H. コールの思い出のために——	飯田 鼎	63
	『講座・中小企業・第一巻——歴史と本質——』	正田健一郎	68
	『講座・中小企業・第二巻——独占資本と中小企業——』	戸木田嘉久	71
〔新刊紹介〕	家永三郎著『植木枝盛研究』	飯田 鼎	77
	柴田三千雄著『フランス絶対王政論』	渡辺 国広	77
	農民運動研究会編著『農民運動の基本問題』	常盤 政治	78
	労働省賃金調査課編著『日本の賃金構造』	井村喜代子	79
	ソ連邦国立政治文献出版所編 日本共産党中央委員会宣伝教育部訳 『レーニン伝』I	野地 洋行	80

〈野村兼太郎博士追悼〉

〔書 評〕	三木与吉郎編『阿波藍譜』	野村兼太郎 (遺稿)	83
	野村教授の急逝を悲しむ	小島 栄次	85
	野村兼太郎博士年譜及び著作目録		86
	野村先生の哲学	石坂 巖	128
	イギリス経済史研究と野村先生	高村 象平	138
	日本経済史学界における野村教授の業績	速水 融	144
	日本経済思想史研究を回顧して	島崎 隆夫	153
	大垣藩領美濃国本巢郡神海村の戸口統計 ——延宝二年より明治五年まで——	野村研究会 神海村共同研究班	166

第53巻第12号 (1960年12月)			
[論 説]	アジアにおける地域的経済統合の可能性……………山本 登	1	
	十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義 (一) ——一八四八年以前のチャーティスト運動とマルクスおよびエンゲルス——……………飯田 鼎	9	
	近代自然法思想の展開に関する一考察 (二) ……………野地 洋行	23	
[資 料]	ウィリアム・ゴドウィン研究文献 (四) ——人口論争をめぐる——……………白井 厚	36	
[書 評]	フランス百科全書における農業技術——一つの覚え書のために——……………渡辺 国広	52	
	東畑精一編『農村過剰人口論』……………高山 隆三	60	
[新刊紹介]	中央調査会編『アジア・アフリカ民族運動の実態』……………矢内原 勝	65	
	アメリカ議会合同経済委員会編 時事通信社外信部訳『経済力の比較 (上)(下)』 ——合衆国とソビエト連邦——……………加藤 寛	65	
	野口祐著『日本資本主義経営史』(戦前篇) ……………尾城太郎丸	66	
	三枝博音 野崎茂 佐々木峻『近代日本産業技術の西欧化』……………野口 祐	67	
	藤田若雄著『第二組合』(増補版) ……………井村喜代子	68	
	福島正夫著『人民公社の研究』……………平野 絢子	69	
54 巻 1 号 (1961年1月)			
[論 説]	人口質をめぐる若干の考察……………寺尾 琢磨	1	
	ペティー労働価値説の一考察 (1) ……………茅野 泰夫	14	
	主要繊維産業に於ける設備投資の計量分析による一考察……………高橋 房二	28	
[資 料]	第一次世界大戦の勃発とドイツ社会民主党 ——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料 (四ノ一) ——……………飯田 鼎	49	
[書 評]	エリック・ウォルドマン著『スパルタクス団の蜂起』……………飯田 鼎	62	
	ルドルフ・コウパー著『革命の失敗』……………飯田 鼎	62	
	P. ホグリーフ著『トマス・モアをめぐる人々』……………渡辺和一郎	66	
[新刊紹介]	服部春彦『アンシャン・レジーム末期の分益小作農について』……………渡辺 国広	72	
	石田祐六著『火災保険の研究』……………庭田 範秋	72	
	菊池勇夫編・九州大学社会法講座三十周年記念 『社会法綜説 (上)・(下) ——労働法・社会保障法・経済法——』……………庭田 範秋	73	
	平林康之著『戸坂潤』……………野地 洋行	74	
	中山伊知郎監修・エコノミスト編集『日本経済の成長』……………佐藤 保	75	
54 巻 2 号 (1961年2月)			
[論 説]	資本主義における土地所有の一般的性質……………小池 基之	1	
	ソ連成長方式の意味するもの……………加藤 寛	18	
	現代資本主義における成長・インフレ・分配……………丸尾 直美	30	
[資 料]	サン・シモン主義に関する研究ノート (一) ……………野地 洋行	56	
[書 評]	S・R・グローバード著 『イギリス労働党とロシア革命——一九一七年～一九二四年——』……………飯田 鼎	65	
	Φ・B・コーニン著 笠原長寿訳 『ソ連邦の保険——生命保険と損害保険の理論と実際——』……………庭田 範秋	68	
	真野脩著『経営年金制度』……………庭田 範秋	72	
[新刊紹介]	山田盛太郎著『日本農業生産力構造』……………常盤 政治	77	
	『講座・日本の労働問題・(一) 賃金』……………井村喜代子	77	
	B・C・ネムチノフ編 岡稔訳『マルクス経済学の数学的方法・上巻』……………持丸 悦朗	78	

	長守善著『福祉国家イギリス』……………丸尾 直美 79	
	C・プリントン著 河原宏・浅沼和典共訳『近代精神の形成』……………村田 光義 80	
	大島清・斎藤晴造・加藤俊彦・玉野井昌夫著『金融論』……………飯田 裕康 81	
<b>54 卷 3 号</b>	(1961 年 3 月)	
[論 説]	ブランキに関する断片……………平井 新 1	
	「国民の職分」にかんする若干の考察——思想史の問題点——……………田中 明 20	
[資 料]	十九世紀末期から二十世紀初頭にかけてのドイツ帝国東部および 中部における農業季節労働者の状態……………飯田 鼎 32	
	巨視的計量経済模型の動学的性質に関するふたつの研究について……………西川 俊作 45	
[書 評]	ポルシェネフ著『フロンドの乱前のフランスにおける暴動』……………渡辺 国広 57	
	W・スターク著 杉山忠平訳『知識社会学——思想史の方法——』……………飯田 鼎 62	
	W・スターク著 杉山忠平訳『経済学の哲学的基礎』……………白井 厚 66	
	サン・シモンの歴史観に関する二つの論文——研究資料として——……………野地 洋行 72	
	国有化問題をめぐる最近の文献……………丸尾 直美 77	
[新刊紹介]	山田雄三著『国民所得論』……………大熊 一郎 85	
	鈴木諒一著『国民所得の基礎理論』……………大熊 一郎 85	
	大川一司編『国民所得』……………大熊 一郎 85	
	グリーン編『プロテスタンチズムと資本主義』……………渡辺 国広 86	
	石原忠男著『恐慌の経済理論』……………常盤 政治 87	
	今津晃著『アメリカ革命史序説』……………中村 勝己 88	
	今井則義(他)著『日本の国家独占資本主義』……………寺尾 誠 89	
	伊東勇夫著『現代日本協同組合論』……………高山 隆三 90	
	池内信行編『中小企業論』……………佐藤 芳雄 91	
<b>54 卷 4 号</b>	(1961 年 4 月)	
[論 説]	輸出経済の形成——ビルマの米輸出貿易——……………矢内原 勝 1	
	十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(二) ——一八四八年の革命以後におけるマルクスおよびエンゲルスとイギリス労働者階級——…飯田 鼎 19	
	有業率変動の分析——勤労者家計の労働供給構造の解明——……………尾崎 巖 35	
[資 料]	独占度測定の問題 I……………原 豊 60	
	現代資本主義と混合経済の論理……………丸尾 直美 70	
[書 評]	岸本英太郎・渡辺春男・小山弘健著『片山 潜』……………飯田 鼎 81	
	隅谷三喜男著『片山 潜——近代日本の思想家——』……………飯田 鼎 81	
	マッセ『亡命貴族の財産をめぐって』……………渡辺 國廣 85	
	田中惣五郎著『日本ファシズム史』……………白井 厚 89	
[新刊紹介]	グリーンロー編『フランス革命の経済的原因』……………渡辺 國廣 94	
	日高六郎著『現代イデオロギー』……………白井 厚 94	
	A・A・バーリ著 加藤寛・関口操・丸尾直美共訳『財産なき支配』……………中村 瑞穂 95	
<b>54 卷 5 号</b>	(1961 年 5 月)	
[論 説]	社会政策と生活構造……………中鉢 正美 1	
	第一次大戦後の農業恐慌の性格(上) ——一般的危機第一段階における農業恐慌の分析(一)——……………常盤 政治 8	
[資 料]	経済活動の地理的側面に関する古典学派の所説……………高橋潤二郎 35	

〔研究ノート〕	信用形態にかんする覚え書——利子生み資本論の一論点——	飯田 裕康	50
〔学界展望〕	財政学研究の最近の動向	大島 通義	62
〔書評〕	吉岡金市著『森近運平——大逆事件の最もいたましい犠牲者の思想と行動——』	飯田 鼎	70
	『ラブルール』——一つの存在形態——	渡辺 國廣	73
	山田盛太郎著『日本農業生産力構造』	寺尾 誠	79
	アラム・ヴァルタニアン著『ラ・メトリーの間人機械論』	野地 洋行	81
〔新刊紹介〕	J・ヴィダランク『第一帝政の末期におけるノルマンディの農業』	渡辺 國廣	86
	宇尾野久著『西洋中世初期社会経済史研究』	寺尾 誠	86
	J. J. スペングラ W. R. アレン編『経済思想論文集』	白井 厚	88
	花井益一著『価値と貨幣』	持丸 悦朗	89
	楊井克己編『世界経済論』	深海 博明	90
54 卷 6 号 (1961 年 6 月)			
〔論説〕	江戸時代経世済民論の一考察——林子平の「富国」策を中心として——	島崎 隆夫	1
	第一次大戦後の農業恐慌の性格 (下)		
	——一般的危機第一段階における農業恐慌の分析 (一) ——	常盤 政治	17
〔資料〕	明治社会主義史料にあらわれた外国社会主義運動——「直言」を通じてみた——	飯田 鼎	39
	村の細民——十七世紀フランス農業史研究の一齣——	渡辺 國廣	46
〔書評〕	荒畑寒村著『寒村自伝』	飯田 鼎	57
	全国農業協同組合中央会編『共済事業の理論と実務』	庭田 範秋	60
	エリザベス・アイゼンシュタイン著『最初の職業的革命家、フィリッポ・		
	ミケル・ブオナロッティ (1761~1837) ——伝記的評論——』	野地 洋行	65
	E. ソロモン Z. G. ビルビヤ共著『大都市シカゴの経済分析』	高橋潤二郎	69
〔新刊紹介〕	J. C. リマスマ『マックス・ウェーバーの		
	《プロテスタンティズムの倫理》をめぐって』	渡辺 國廣	75
	ツェントロサユーズ編 協同組合経営研究所訳『ソ連邦の協同組合』	平野 絢子	76
	ウォルド著 森田優三監訳『需要分析』	西川 俊作	76
	片山謙二著『世界貿易の発展——発展過程の実証的分析——』	深海 博明	77
	日本生産性本部生産性研究所編『消費革命とレジヤ産業』	佐藤 保	79
54 卷 7 号 (1961 年 7 月)			
〔論説〕	いわゆる「従者制と恩貸制の史的一体性」について	宇尾野 久	1
	一八九〇年から一九一四年にかけてのドイツ労働運動における若干の問題		
	——W・バルテルの批判——	飯田 鼎	25
〔資料〕	十七世紀フランスの領主制——一つの事例——	渡辺 國廣	44
〔学界展望〕	協同組合理論をめぐる問題点	平野 絢子	55
〔書評〕	マズグレイヴ『財政理論』	大熊 一郎	64
	W・シャイラー著 井上勇訳『第三帝国の興亡——ヒットラーの抬頭——』	飯田 鼎	67
	松田智雄著『宗教改革』	寺尾 誠	71
	R. S. ハウエイ著『限界効用学派の生成——一八七〇~一八八九年——』	持丸 悦朗	77
	土屋六郎著『経済成長と国際収支』	深海 博明	81
〔新刊紹介〕	F・エヴラル『大規模な《ファルム》について』	渡辺 國廣	91
	石沢元晴著『現代米ソ経済論』	加藤 寛	91
	永原慶二著『日本封建制成立過程の研究』	速水 融	92
	小林昇著『経済学の形成時代』	白井 厚	93

	鈴木鴻一郎編『経済学原理論 上』……………	飯田 裕康	94
54 卷 8 号 (1961 年 8 月)			
[論 説]	一九六〇年度の国税構造が持つ税収の所得弾力性および限界租税函数……………	高木 寿一	1
	社会的価値判断と政策プロセス……………	加藤 寛	25
[資 料]	十七世紀フランス農村の構成——一つの事例——……………	渡辺 國廣	45
	武蔵国東部における藍業——武蔵国葛飾郡西大輪村白石家の場合——……………	佐々木陽一郎	56
[研究ノート]	イギリス産業革命史研究についての覚え書 ——産業革命史学へのひとつの提言——……………	飯田 鼎	84
[書 評]	海道進著『社会主義企業経済学』……………	平野 絢子	101
	白杉庄一郎著『独占理論の研究』……………	井村喜代子	106
	小林謙一著『就業構造と農村過剰人口』……………	高山 隆三	113
[新刊紹介]	渡部正一著『日本近世道徳思想史』……………	島崎 隆夫	118
	モラゼ著 湯村・竹岡訳『経済史入門』……………	渡辺 國廣	119
	大原總一郎著『化学繊維工業論』……………	佐藤 芳雄	120
	カール・マルクス著 マルクス=エンゲルス全集刊行会訳『資本論』(第一分冊)……………	飯田 裕康	120
	コッター社版『マルクス著作集』(全八巻)……………	飯田 裕康	122
54 卷 9 号 (1961 年 9 月)			
[論 説]	両大戦間の時期の資本主義と財政——問題点整理のための序論——……………	大島 通義	1
	複雑労働と簡単労働……………	持丸 悦朗	22
	企業系列に関する一考察……………	原 豊	39
[資 料]	ワイマール体制下におけるドイツ独占資本とユンカー (B. プフタ「ユンカーとワイマール共和国」を読んで)……………	飯田 鼎	68
	農民身分の解体(一つの事例)……………	渡辺 國廣	86
[書 評]	シドニー・ポラード著『シェフィールドにおける労働の歴史』……………	飯田 鼎	96
	ジョン・ウェイス著『モーゼス・ヘス——空想的社会主義者——』……………	野地 洋行	100
[新刊紹介]	講座・国際経済・第2巻『国際収支』……………	矢内原 勝	105
	W. W. ロストウ著 木村健康・久保まち子・村上泰亮共訳『経済成長の諸段階』……………	富田 重夫	105
	波多野善大著『中国近代工業史の研究』……………	平野 絢子	106
	久留間鮫造・宇野弘蔵他編輯『資本論辞典』……………	井村喜代子	107
	フレドリック・ベナム著『後進諸国への経済援助』……………	深海 博明	108
	大阪市政研究所設立十周年記念論文集『大都市の研究』……………	高橋潤二郎	110
54 卷 10 号 (1961 年 10 月)			
[論 説]	東南アジア経済開発上の問題点……………	山本 登	1
	地金論争に関する一考察——リカードオと地金報告——……………	中西 充子	20
[資 料]	第一次世界大戦中におけるドイツ社会民主党とプロレタリア国際主義 ——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(四ノ二)——……………	飯田 鼎	42
	独占度測定の問題 II……………	原 豊	57
[書 評]	建林正喜著『外国貿易と産業循環』……………	井村喜代子	66
	小松春雄著『イギリス保守主義史研究——エドマンド・パークの思想と行動——』……………	白井 厚	73
	コズロフ著『初期商品生産——商品生産理論序説——』……………	飯田 裕康	79
[新刊紹介]	農林漁業基本問題調査事務局監修 『西ヨーロッパ諸国における農業基本問題と基本対策』……………	常盤 政治	86

	北村次一著『初期資本主義の基本構造』……………	寺尾 誠	87
	講座『現代のイデオロギー』第一巻……………	野地 洋行	88
	馬場正雄著『景気予測と企業行動』……………	藤枝 省人	89
54 卷 11 号 (1961 年 11 月)			
[論 説]	階層分解の不透明性——外房総漁業についての事例的研究——……………	青沼 吉松	1
	検地帳登録人をめぐって (一)……………	速水 融	21
	中国における初級合作社の基本的性格 ——生産協同組合の社会主義的特質をめぐって——……………	平野 絢子	41
[資 料]	村の商人——十七世紀フランス農業史研究の一齣——……………	渡辺 国廣	75
[書 評]	小川喜一著『イギリス社会政策史論』……………	飯田 鼎	89
	ワルトラウド・ザイデル・ホエップナー著『ウィルヘルム・ヴァイトリング ——ドイツ共産主義の最初の理論家および煽動者』……………	飯田 鼎	94
[新刊紹介]	中島健一著『稲作社会の発展構造』……………	島崎 隆夫	100
	カール・A・ウィットフォーゲル著 アジア経済研究所訳『東洋的専制主義』……………	平野 絢子	101
	務台理作著『現代のヒューマニズム』……………	白井 厚	101
	平沢豊著『漁業生産の発展構造』……………	高山 隆三	102
	日本生産性本部生産性研究所編『国民のくらしと第三次産業』……………	佐藤 保	103
54 卷 12 号 (1961 年 12 月)			
[論 説]	『豊かな社会』の経済的欠陥とその克服……………	千種 義人	1
	設備規模と市場競争——産業需要増大と潜在的価格競争についてのノート——…	大熊 一郎	30
	十九世紀末におけるドイツ独占資本と保護関税政策 ——ロルフ・ゾンネマン著「1879 年から 1892 年までの ドイツ鉄鋼業の独占化にたいする保護関税の成果」の紹介——……………	飯田 鼎	41
	江戸近郊農村の農民負担に関する一考察 ——武蔵国葛飾郡東葛西領の場合——……………	佐々木陽一郎	51
[学 界 展 望]	インフレーション理論の展望……………	福岡 正夫	71
[書 評]	エリー・アレヴィ著『トーマス・ホジスキ』……………	飯田 鼎	77
	ミシェル・フォントネ著『バイザンと農村のマルシャン』……………	渡辺 国廣	82
	川元英二著『アメリカ退職金制度』……………	庭田 範秋	87
[新刊紹介]	野々村一雄著『ソヴェトの経済力』……………	加藤 寛	93
	土屋喬雄監修 全国地方銀行協会編『地方銀行小史』……………	尾城太郎丸	93
	米花稔著『経営立地政策』……………	高橋潤二郎	94
	内田義彦著『経済学史講義』……………	飯田 裕康	96
55 卷 1 号 (1962 年 1 月)			
[論 説]	輸出による強制貯蓄——ガーナのココア輸出の例——……………	矢内原 勝	1
	ソ連・東欧の貿易関係……………	加藤 寛	28
[資 料]	ジョン・フランシス・プレイ (一)……………	遊部 久蔵	48
[研究ノート]	法人税転嫁の諸問題 (一)……………	古田 精司	62
[書 評]	ジョージ・カトナ著『経済を動かす消費者』……………	中鉢 正美	78
	ルーベール著『ルイ・ブラン』……………	野地 洋行	86
[新刊紹介]	ヘンダースン、クォント共著 小宮隆太郎訳『現代経済学』——価格分析の理論——…	福岡 正夫	91
	篠原三代平著『日本経済の成長と循環』……………	大熊 一郎	91



	宮本又次著『フランス経済史学史』……………渡辺 國廣	93
	越村信三郎著『マルクス主義計量経済学』……………持丸 悦朗	93
	W. アイサード J. H. カンバーランド共編『地方経済計画』……………高橋潤二郎	94
	ヘルベルト・マルクーゼ著 榊田啓三郎・中島盛夫・向來道男共訳『理性と革命』……………飯田 裕康	96
55 卷 2 号 (1962 年 2 月)		
[論 説]	第一インターナショナルとイギリス労働組合運動	
	——十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(その三)——……………飯田 鼎	1
	経済発展段階と所得分配——均衡成長と均衡分配の条件——……………丸尾 直美	23
	設備投資函数に関する基礎的考察……………高橋 房二	52
[資 料]	ジョン・フランシス・ブレイ(二)……………遊部 久蔵	75
	絶対王政の土地問題——ノルマンディにおける農業改革の展開——……………渡辺 國廣	92
[書 評]	S. B. リンダー著『貿易と経済構造変化に関する一試論』……………深海 博明	102
[新刊紹介]	梅村又次著『賃金・雇用・農業』……………西川 俊作	110
	上野裕也著『日本経済の計量経済学的分析』……………西川 俊作	110
	講座・国際経済・第3巻『国際貿易』……………深海 博明	111
	国民生活研究会編『10年後の国民生活』……………佐藤 保	112
55 卷 3 号 (1962 年 3 月)		
[論 説]	若きマルクスとサン・シモニスム	
	——マルクシズムとフランス社会主義との関係に関する研究の一節——……………平井 新	1
	アダム・スミスとエドマンド・バーク(一)	
	——その社会観と経済思想をめぐって——……………白井 厚	27
[資 料]	ジョン・フランシス・ブレイ(三)……………渡部 久蔵	49
	初期マルクス研究におけるひとつの問題——フェルダール「一八四八年の革命前夜に おけるマルクスとエンゲルス」における“真正社会主義”の解釈について——……………飯田 鼎	61
	マルクシズムのフランス流入に関する一考察	
	——ジュール・ゲードの思想的展開——……………村田 光義	77
[書 評]	坂本慶一著『フランス産業革命思想の形成』……………野地 洋行	92
	マンフレッド・フリードリッヒ著『若きマルクスにおける哲学と経済学』……………金原 実	97
[新刊紹介]	尾藤正英著『日本封建思想史研究』……………島崎 隆夫	105
	武田清子編『思想史の方法と対象』——日本と西欧——……………中村 勝己	106
	丸山真男著『日本の思想』……………石坂 巖	108
	田村秀夫著『イギリス革命思想史』——ピューリタン革命期の社会思想——……………寺尾 誠	109
	E・フロム著『マルクスの人間概念』……………由良 君美	111
55 卷 4 号 (1962 年 4 月)		
[論 説]	生産力の発展と資本制生産の「内的諸矛盾の開展」	
	——『資本論』第三部第三篇第十五章をめぐって——……………井村喜代子	1
	擬制資本の論理——資本の「商品」化過程——……………飯田 裕康	44
[資 料]	ジョン・フランシス・ブレイ(四)……………遊部 久蔵	70
	十八世紀フランスの分益制……………渡辺 國廣	81
	東独における宗教改革と農民戦争の研究の現状……………寺尾 誠	91
[書 評]	O. D. ダンカン他著『統計地理学』……………高橋潤二郎	103
[新刊紹介]	篠原三代平著『高度成長の秘密』——日本経済一五講——……………大熊 一郎	108

	富田重夫著『正統学派・限界主義およびマルクシズムの体系的理解』……………加藤 寛	108
	馬場啓之助著『マーシャル』……………富田 重夫	109
	末松玄六著『中小企業成長論』……………佐藤 芳雄	110
	社会政策学会編『労働市場と賃金』……………石田 英夫	111
55 卷 5 号 (1962 年 5 月)		
[論 説]	わが国 1890—1920 の出生数と総出生率 (General Fertility Rate) の推計 ——『人口転換』法則との関連によせて——……………安川 正彬	1
	県別の労働力流出と賃金・所得……………西川 俊作	31
	男女間・県間・産業間賃金変動の相似性——毎月勤労統計調査による——……………佐野 陽子	50
[資 料]	九州地方の炭鉱労働市場……………西川 俊作	64
[書 評]	佐野稔著『産業合理化と労働組合——イギリス労働運動史の一断面——』……………飯田 鼎	82
	S. アアロノヴィチ著『支配階級——イギリス金融資本の研究——』……………飯田 裕康	87
[新刊紹介]	篠原三代平・舟橋尚道編『日本型賃金構造の研究』……………井村喜代子	92
	清水義弘著『二〇年後の教育と経済』……………佐藤 保	93
	岸本英太郎編『現代のホワイトカラー』——その地位と労働と生活——……………白井 厚	94
55 卷 6 号 (1962 年 6 月)		
[論 説]	<sup>ホルホーズ</sup> 集团的企業の下における農業生産力構造の変化と拡大再生産方式……………平野 絢子	1
	表式的均衡と生産価格——転形問題の一論点——……………持丸 悦朗	38
	いわゆる「啓蒙の概念」について——国家論と思想史方法論の問題点——……………田中 明	54
[資 料]	フェルムをめぐる若干の問題——十七世紀フランス農業史の研究——……………渡辺 國廣	70
[書 評]	入江節次郎著『独占資本イギリスへの道——現代への序曲——』……………飯田 鼎	80
[新刊紹介]	堀江正規著『日本の労働者階級』……………黒川 俊雄	85
	リチャド・パイプス編 気賀健三・和田敏雄訳『ロシア・インテリゲンチア』……………加藤 寛	85
	笠信太郎著『花見酒の経済』……………大熊 一郎	86
	E・H・カー著 清水幾太郎訳『歴史とは何か』……………寺尾 誠	87
	宇野弘蔵著『経済学方法論』……………飯田 裕康	89
55 卷 7 号 (1962 年 7 月)		
[論 説]	独立戦争期ニュー・ヨークの土地問題——王党派財産の売却をめぐって——……………中村 勝己	1
	いわゆる西洋封建制度について……………宇尾野 久	23
	検地帳登録人をめぐって (二)……………速水 融	44
[資 料]	イギリス帝国主義と社会民主主義——バーナード・ゼンメル「帝国主義と社会改革 = 1895 年から 1914 年までのイギリス社会帝国主義思想」の批判——……………飯田 鼎	60
[学 界 展 望]	「重工業優先発展」原則・「農業基礎」理論と社会主義的再生産……………平野 絢子	71
[新刊紹介]	板垣与一著『アジアの民族主義と経済発展』——東南アジア近代化の起点——……………山本 登	80
	副島種典著『社会主義経済学の研究』……………平野 絢子	80
	高桑純夫編『人権の思想』……………白井 厚	81
	西村孝夫著『経済学体系と歴史』……………松浦 保	82
	エリ・ギンズバーク著 大来佐武郎訳『人間能力の開発』……………佐藤 保	83
55 卷 8 号 (1962 年 8 月)		
[論 説]	カルドア氏の成長理論……………福岡 正夫	1
	経済動学化の一起点——パンタレオーニの経済動学とその影響——……………松浦 保	15

[資料]	モーゼス・ヘスにおけるフランス社会主義 ——「社会主義と共産主義」をめぐって——……………野地 洋行 35
	需給均衡と所得分配——厚生経済学的視点からの考察——……………丸尾 直美 49
[書評]	D. リード, E. グラスゴウ共著『アイルランド人および チャーティストとしてのファーガス・オコンナー』……………飯田 鼎 66
[新刊紹介]	春秋社編集部編『日本経済の基礎構造』……………安川 正彬 70
	J. ストレイチャー著 関嘉彦他訳『帝国主義の終末』……………飯田 鼎 70
	飯田経夫著『経済成長と二重構造』……………加藤 寛 71
	吉野俊彦著『日本銀行制度改革史』……………飯田 裕康 72
55 卷 9 号 (1962 年 9 月)	
[論説]	財政学の基本的課題に関する疑問と解釈——財政学の前進拠点の再検討——…高木 寿一 1
	日本の法人税負担とその転嫁……………古田 精司 29
[資料]	十六・七世紀フランス農業史研究の問題点若干……………渡辺 國廣 48
	一八九五～九九年の国際情勢に対するドイツ社会民主党の認識……………正田庄次郎 60
[書評]	中村吉浩・島田隆・矢木明夫・村長利根朗著『解体期封建農村の研究』……………速水 融 73
[新刊紹介]	広田司朗著『ドイツ社会民主党と財政政策』……………大島 通義 78
	近藤康男著『北洋漁業の経済構造』……………高山 隆三 79
	L・ヨハンセン著 西川俊作訳『経済成長の多部門分析』……………浜田 文雅 80
	木村保重著『貿易と分配』……………深海 博明 80
	江沢譲爾著『産業立地論と地域分析』……………高橋潤二郎 82
55 卷 10 号 (1962 年 10 月)	
[論説]	コミュニティオーガナイゼーションの諸側面 ——社会事業の概念の問題と関連して——……………小島 栄次 1
	地方公共団体の「立地政策」——その基本的諸問題——……………高橋潤二郎 29
[資料]	西南ドイツの局地市場——ロベルト・グラッドマンの所論を中心に——……………寺尾 誠 53
[研究ノート]	社会政策研究と社会経済史学 ——岡田与好著「イギリス初期労働立法の歴史的展開」によせて——……………飯田 鼎 67
	恐慌理論にかんする一論点——固定資本の再生産をめぐる諸論議について——…井村喜代子 78
[書評]	永井義雄著『イギリス急進主義の研究——空想的社会主義の成立——』……………白井 厚 94
[新刊紹介]	小島清著『世界経済と日本貿易』……………矢内原 勝 99
	高島善哉・水田洋・平田清明著『社会思想史概論』……………野地 洋行 99
	田口憲一著『大企業は暗躍する』……………佐藤 芳雄 100
	向坂逸郎著『マルクス伝』(『マルクス・エンゲルス選集』13)……………飯田 裕康 101
	下村治著『日本経済成長論』……………丸尾 直美 102
55 卷 11 号 (1962 年 11 月)	
[論説]	アンジャンヌ・フランスにおける土地問題……………渡辺 國廣 1
	経済統合の理論と実態——経済統合理論の確立に関して——……………深海 博明 21
	建築労働者の実質賃金——1830 年—1894 年——……………佐野 陽子 49
[書評]	国際連合経済社会局編『世界経済白書』(1961 年度)……………川島 楊子 77
[新刊紹介]	森喜一著『日本労働者階級状態史』……………飯田 鼎 81
	水野正一著『日本の物価変動』……………加藤 寛 82
	福本和夫著『日本工業の黎明期』……………

55 卷 12 号 (1962 年 12 月)

[論 説]	転機に立つ失業対策……………黒川 俊雄	1
	アダム・スミスとエドマンド・バーク (二) ——その社会観と経済思想をめぐって——……………白井 厚	21
[研究ノート]	ケインズ経済学における階級——その社会思想的考察——……………村田 光義	42
[資 料]	『神と人間との統一』——ジョン・フランシス・ブレイ主著研究 (1) ——……………遊部 久蔵	63
[書 評]	天野元之助著『中国農業史研究』……………平野 絢子	79
[新刊紹介]	森喜一著『続日本労働者階級状態史』……………飯田 鼎	84
	国際経済学会編『世界経済と国際通貨』(国際経済第十三号)……………深海 博明	85
	宮本義男著『金融資本への道』……………飯田 裕康	87
	吉野俊彦編『経済成長と物価問題』……………丸尾 直美	88

56 卷 1 号 (1963 年 1 月)

[論 説]	Manor と Grundherrschaft……………宇尾野 久	1
	アメリカ中西部における小作制——十九世紀後半・イリノイ州の例——……………岡田 泰男	23
[資 料]	離島からの出稼と地域社会への影響……………西川 俊作	44
[研究ノート]	資本係数と分配率の趨勢変動……………加藤 寛/丸尾 直美	66
[書 評]	池田清著『政治家の未来像——ジョセフ・チェムバレンとケア・ハーディ』……………飯田 鼎	80
[新刊紹介]	加藤寛・原豊・丸尾直美共著『現代経済政策の理論——成長・安定・平等——』……………富田 重夫	85
	鯖田豊之著『封建支配の成立と村落共同体』……………渡辺 國廣	85
	J・モリエウ著 坂本慶一訳『フランス経済理論の発展』……………松浦 保	86
	ジャン・ゴットマン著『メガロポリス』……………高橋潤二郎	88
	福地崇生著『計量経済学入門』……………西川 俊作	89

56 卷 2 号 (1963 年 2 月)

〈世界経済特集〉

[論 説]	東南アジアの新情勢と北ヴェトナム経済……………山本 登	1
	経済統合理論の体系について……………深海 博明	20
	東南アジア第一次商品輸出の問題点……………川島 楊子	46
[資料・ 研究ノート]	共産圏の国際分業とコメコン……………氣賀 健三	73
	国際的金ドル為替本位制度と計画的な国際流動性の供給 ローザ構想およびニューヨーク連邦準備銀行と西ヨーロッパ七中央銀行・ 国際決済銀行間の相互通貨持合い協定を中心として……………大宮 俣一	82
[書 評]	ハリー・ジョンソン著『貨幣、貿易および経済成長』……………福島 義久	94
[新刊紹介]	H・ガース、ライト・ミルズ共著 山口和男、大伏宣宏共訳 『マックス・ウェーバー——その人と業績——』……………中村 勝己	104
	野々村一雄著『ソヴェト学入門』……………加藤 寛	104
	玉野井芳郎編著『マルクス価格理論の再検討』……………持丸 悦朗	105
	吉田静一著『フランス重商主義論』……………野地 洋行	106

56 卷 3 号 (1963 年 3 月)

[論 説]	厚生経済学と民主主義プロセス……………加藤 寛/丸尾 直美	1
	近世初頭中部ドイツの農村都市、市場町について (一)……………寺尾 誠	16

	イギリスにおける兌換停止下の地方銀行——地金論争との関連において——……中西 充子	37
[資料・研究ノート]	「初期マルクス」研究のための一資料 ——杉原四郎・重田晃一訳 マルクス『経済学ノート』を読んで——……飯田 鼎	61
	アメリカ南西部における西漸運動——テキサス・オースティン開拓地——……岡田 泰男	72
[書評]	アルブレヒト・ハインツェ他著『国家独占資本主義の現実的諸問題』……飯田 裕康	86
[新刊紹介]	富塚良三著『恐慌論研究』……井村喜代子	90
	二野瓶徳夫著『漁業構造の史的展開』 (古島敏雄監修・近代土地制度史研究叢書・第四卷) ……高山 隆三	91
	小島清著『EECの経済学』……深海 博明	92
	F. A・ルッツ著 城島国弘訳『利子論』……松浦 保	93
	磯部喜一編『中小企業の経済・経営・労務』——中小企業叢書 VIII——……佐藤 芳雄	94
56 卷 4 号 (1963 年 4 月)		
[論説]	十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義 (四) ——共産主義者同盟の分裂について——……飯田 鼎	1
	幕末期在方市場の諸問題——武蔵国忍領崎玉村湯本家の例——……佐々木陽一郎	24
[資料・研究ノート]	「信用制度」と「株式会社」——マルクスの場合——……飯田 裕康	50
	生産の理論に関する覚え書……神谷 伝造	66
[書評]	玉野井芳郎編著『マルクス価格理論の再検討』……持丸 悦朗/飯田 裕康	70
[新刊紹介]	住谷一彦著『共同体の史的構造論——比較経済社会学的試論——』……中村 勝己	80
	ルートヴィヒ・ボイティン著 大岩信太郎・林達訳『経済史学概論』……渡辺 國廣	80
	スコット・ニアリング著『東欧の社会主義』……平野 絢子	81
	C. N. パーキンソン著 福島正光訳 『かねは入っただけ出る——パーキンソンの第二法則——』……古田 精司	82
	小野朝男著『国際通貨制度』……深海 博明	83
56 卷 5 号 (1963 年 5 月)		
[論説]	経済成長と中小企業の構造変化 (上) ……伊東 岱吉	1
	租税政策と企業の活動……古田 精司	19
[資料・研究ノート]	中小企業問題認識の国際的・歴史的・構造的視角 ——山中篤太郎編「経済成長と中小企業」(「日本経済の現状と課題」 第三集によせて) ——……尾城太郎丸	42
	「協同組合の理論」について……平野 絢子	53
[書評]	H・モテック, H・ブルンバーク, H・ウッツマー, W・ベッカー共著 『ドイツ産業革命史研究』……飯田 鼎	64
	J・ティンバーゲン著『世界経済の形成』……深海 博明	71
[新刊紹介]	小池和男著『日本の賃金交渉——産業別レベルにおける賃金決定機構——』……井村喜代子	82
	森宏著『青果物流通の経済分析』……高山 隆三	83
	ヴェラ・ルッツ著『イタリー——経済発展の研究』……松浦 保	83
	政治経済計画委員会『ヨーロッパ経済共同体における地域開発』……高橋潤二郎	85
	『現代帝国主義の理論と構造』 (井汲・今井・宇高・江口・吉村編『現代帝国主義講座』第 I 卷) ……飯田 裕康	86
56 卷 6・7 号 (1963 年 6・7 月)		
〈藤林敬三博士追悼特集〉		

	藤林敬三博士年譜	1
[追悼の辞]	藤林敬三博士の逝去を悼む	小池 基之 3
	藤林君と電子計算機	寺尾 琢磨 7
	藤林敬三教授を偲ぶ	川田 寿 9
	藤林先生とその業績を想う	森 五郎 11
[論 説]	労働経済論における藤林教授の業績	中鉢 正美 16
	日本資本主義の成立と低賃金基盤の形成	黒川 俊雄 46
	第一インターナショナル形成過程にかんする一考察	
	——後期チャーティストの役割——	飯田 鼎 83
	日本における「企業集中の理論」	野口 祐 107
	「企業規模別賃金格差」論にかんする若干の疑点	
	——大企業における低賃金労働の再編・強化を中心として——	井村喜代子 141
	医療保障と結核問題	藤沢 益夫 196
	藤林敬三博士著作目録	208
56 卷 8 号 (1963 年 8 月)		
[論 説]	租税利益説に関する問題	
	——1950 年代末の段階におけるリンダールの解釈について——	高木 寿一 1
	わが国 1890—1920 年の出生数と総出生率の推計 (完)	
	——インフルエンザ死亡数の考慮——	安川 正彬 21
	近世初頭中部ドイツの農村都市、市場町について (二)	寺尾 誠 44
[研究ノート]	プルーダンの連邦主義の成立過程について——序説的な試み——	後藤 修三 80
[学 界 展 望]	イギリス労働運動史研究の最近の動向——労働史研究会の活動について——	飯田 鼎 93
[新 刊 紹 介]	ブロック著英訳版『封建社会』	渡辺 國廣 99
	高梨幸男著『自然法と民主主義の思想構造——ロック研究序説——』	野地 洋行 100
	西岡久雄著『立地と地域経済——経済立地政策論——』	高橋潤二郎 101
	宇野弘蔵著『経済学の方法』(経済学ゼミナール (1))	飯田 裕康 102
	高橋哲夫著『安積開拓史——ある偉大な遺産——』	小松 隆二 103
56 卷 9 号 (1963 年 9 月)		
[論 説]	近世経世済民論の生成について	島崎 隆夫 1
	ニュー・ディール財政の構造分析 (一)	大島 通義 23
[資料・研究ノート]	わが国製糸業の歴史的展望と戦前・戦後の構造変化 (一)	
	——製糸業の「体質改善」問題の歴史的背景——	尾城太郎丸 50
	「現代思想入門」における近代主義批判によせて	田中 明 68
[書 評]	守田志郎著『地主経済と地方資本』	高山 隆三 75
	『現代帝国主義講座』(全五卷)	
	——国家独占資本主義の理論問題をめぐって——	飯田 裕康 80
	[寄稿]『資本論』の方法と「伝統」	
	——飯田裕康氏の批評にたいする一つの反論——	桜井 毅 86
[新 刊 紹 介]	大河内一男著『労働組合』	飯田 鼎 92
	社会経済史学会編『近代企業家の発生』	渡辺 國廣 93
	宮川透・中村雄二郎・古田光編『近代日本思想論争』	野地 洋行 94
	大河内一男編集・解説『社会主義』——現代日本思想大系 15——	小松 隆二 95

56 卷 10 号 (1963 年 10 月)	
[論 説]	再論『現代大都市論』……………奥井復太郎 1
	近世初頭中部ドイツの農村都市, 市場町について (三) ……寺尾 誠 18
	アメリカ中西部における商業的農業の展開……………岡田 泰男 61
[資料・ 研究ノート]	戦後ヨーロッパ経済史の基本性格……………渡辺 國廣 86
	戦前における企業別労働組合の発生要因をめぐって……………小松 隆二 96
[書 評]	ディートリッヒ・アイヒホルツ著 『1848 年の鉄道史におけるユンカーとブルジョアジー』……………飯田 鼎 107
[新刊紹介]	山中篤太郎著『イギリス労働運動小史——労働運動の理解のために——』……………飯田 鼎 112
	岡稔著『計画経済論序説——価値論と計画化——』……………加藤 寛 113
	川田侃著『世界経済入門』……………矢内原 勝 113
	A. ウィリアムズ著『財政と予算政策』……………古田 精司 114
	S. モルニエ他著 栗田勇, 浜田泰三訳 『コンミュンの炬火——ブランキとブルドン——』……………野地 洋行 115
	C. P. キンドルバーガー著『外国貿易と国民経済』……………深海 博明 116
56 卷 11 号 (1963 年 11 月)	
[論 説]	労働者政策と社会政策——藤林教授の社会政策論について——……………中鉢 正美 1
	独占・寡占下の価格設定と価格の運動 (一) ——独占価格研究第二篇——……………北原 勇 22
	東南アジア諸国における二重経済構造と 1950 年代の工業化の進展……………川島 楊子 80
[資料・ 研究ノート]	1864 年から 1866 年に至る第一インターナショナルの総務委員会にかんする 史料 (その一) ……飯田 鼎 112
	わが国製糸業の歴史的展開と戦前・戦後の構造変化 (二) ——製糸業の「体質改善」問題の歴史的背景——……………尾城太郎丸 125
[書 評]	デエイビッド・ワイトマン著『アジアにおける経済協力への歩み』 ——国際連合アジア極東経済委員会——……………深海 博明 140
[新刊紹介]	小林昇編『経済学史小辞典』……………飯田 鼎 151
	吉野俊彦著『日本銀行』……………飯田 裕康 152
56 卷 12 号 (1963 年 12 月)	
[論 説]	ガリアにおけるコロヌス制度……………宇尾野 久 1
	経済統合 (とくに EEC の) 通貨・金融的側面と内外均衡……………深海 博明 21
	武蔵国埼玉郡における地主経営——統幕末期在方市場の諸問題——……………佐々木陽一郎 51
[資 料]	東南アジア諸国における資本形成の動向……………川島 楊子 76
[書 評]	島崎晴哉著『ドイツ労働運動史——根源と連続性の研究——』……………飯田 鼎 88
[新刊紹介]	館稔著『人口分析の方法』……………安川 正彬 93
	両角良彦・御園生等・古藤利久三・正田彬・千種義人著『産業体制の再編成』……………古田 精司 93
	H・シャハト著 川鍋正敏訳『イギリス重商主義理論小史』……………野地 洋行 94
	武藤光朗・加藤寛編集『日本福祉国家の条件』……………松浦 保 96
57 卷 1 号 (1964 年 1 月)	
[論 説]	二部門モデルにおける分配率の決定……………富田 重夫 1
	二部門経済モデルにおける均衡成長について——展望と一つの積極的分析——…川又 邦雄 21
	ヒルファディングの株式会社論にかんする一考察 ——とくに信用論との関連において——……………飯田 裕康 43

[資料]	1864年から1866年に至る第一インターナショナルの総務委員会にかんする史料(その二) .....	飯田 鼎	72
[書評]	C. N. ワード・パーキンス著『一八四七年の商業恐慌』 .....	寺尾 誠	85
[新刊紹介]	中木康夫著『フランス絶対王制の構造』 .....	渡辺 國廣	100
	古島敏雄著『資本制生産の発展と地主制』 (古島敏雄監修・近代土地制度史研究叢書・第一巻) .....	高山 隆三	100
	見田石介著『資本論の方法』 .....	金原 実	102
<b>57 卷 2 号 (1964年2月)</b>			
[論説]	企業の信用に対する需要 .....	村井 俊雄	1
	日本の法人税負担の評価(一) .....	古田 精司	14
	地金論者としてのマルサス——リカードオとの比較において—— .....	中西 充子	35
[研究ノート]	経済統合(とくにEEC)における計画性と分業原理 .....	深海 博明	60
[書評]	小竹豊治訳『株式市場の変動要因——合衆国上院銀行・通貨委員会専門調査官報告書——』 .....	飯田 裕康	75
[新刊紹介]	H・ルフェーブル著 大崎平八郎訳『レーニン——生涯と思想』 .....	飯田 鼎	80
	高須裕三著『福祉国家の動向』 .....	加藤 寛	81
	山岡亮一 福富正美訳編『資本主義への移行論争』 .....	中村 勝己	81
	副島種典編著『ソヴェト経済の歴史と理論』 .....	平野 絢子	83
<b>57 卷 3 号 (1964年3月)</b>			
[論説]	戦後世界経済の諸特徴 .....	山本 登	1
	寡占企業間協調の基本的問題点 ——独占価格研究第二篇 独占・寡占下の価格設定と価格の運動(二)—— .....	北原 勇	13
[研究ノート]	独占資本形成期における労働組合運動研究をめぐる若干の問題 ——社会政策学会第二八回大会報告によせて—— .....	飯田 鼎	58
[書評]	ハーリヒ『カロリング時代のマンスス』 .....	渡辺 國廣	67
	南原繁・大内兵衛・大塚久雄他監修・編纂『矢内原忠雄全集』 (経済学篇, 第1~5巻) .....	中村 勝己	72
[新刊紹介]	川田侃著『帝国主義と権力政治』 .....	矢内原 勝	81
	佐伯尚美著『日本農業金融史論』 .....	高山 隆三	82
	渡辺佐平著『現代の金融政策』 .....	飯田 裕康	83
<b>57 卷 4 号 (1964年4月)</b>			
[論説]	一九世紀初頭におけるアメリカ工業 ——テンチ・コックス「工業調査」を中心にして—— .....	中村 勝己	1
	我が国農業における生産函数の計測——経済発展と農家の労働供給機構—— .....	鳥居 泰彦	26
[資料]	ウィスコンシンの一進取的農民 .....	岡田 泰男	59
[書評]	ヘンリー・ベリング著『イギリス労働組合運動史』 .....	飯田 鼎	77
	ジャンヌ・ブイスヌーズ著『コンドルセ——大革命の中の啓蒙哲学者——』 .....	野地 洋行	81
[新刊紹介]	大河内暁男著『近代イギリス経済史研究』 .....	寺尾 誠	87
	岡田純一著『経済学における人間像』 .....	野地 洋行	88
	土屋六郎著『国際金融の構造と理論』 .....	深海 博明	89
	ブライアン・テュー著 傍島省三監修, 永島清・片山貞雄訳 『国際金融入門——国際通貨協力の理論と現状——』 .....	深海 博明	90



57 卷 5 号 (1964 年 5 月)			
[論 説]	経済的自由についてのケインズとフリードマンの思想……………千種 義人	1	
	正義者同盟成立の歴史的意義 (その一) ——黎明期におけるドイツ労働運動の国際的性格にかんする考察——……………飯田 鼎	31	
[研究ノート]	農業生産函数に関する整理……………鳥居 泰彦	53	
[書 評]	ベラン『マンス考』……………渡辺 國廣	65	
	ミン・シュン・リー『1696 年から 1699 年までの貨幣大改鑄』……………飯田 裕康	70	
[新刊紹介]	インケレス バウアー共著 生田正輝訳『ソヴェトの市民』……………加藤 寛	78	
	塚本健著『ナチス経済——成立の歴史と論理——』……………寺尾 誠	78	
	松村善太郎著『国際通貨ドルの研究』……………深海 博明	80	
57 卷 6 号 (1964 年 6 月)			
[論 説]	産業社会における昇進の諸条件——年齢・出生地・学歴——……………青沼 吉松	1	
	新古典派定理と最適分配率……………富田 重夫	21	
[資料・ 研究ノート]	信用形態の展開と「利子生み資本」の前期的性格 ——『資本論』第三部第五篇の一論点——……………飯田 裕康	41	
	主要先進国の対アフリカ機械輸出——アフリカの経済発展と対先進国貿易——……………田中 拓男	55	
[新刊紹介]	現代アジア社会思想研究会編『現代共産主義の思想と経済』 ——変貌する共産圏社会の研究——……………加藤 寛	71	
	五井一雄・柏崎利之輔・加藤寛・丹羽春喜共著『厚生経済学と経済政策』……………古田 精司	72	
	吉田仁風編『日本のカルテル』……………野口 祐	73	
	家永三郎編『福澤論吉』(現代日本思想体系 2)……………田中 明	73	
57 卷 7・8 号 (1964 年 7・8 月)			
〈小島栄次教授追悼特集〉			
	小島栄次教授年譜……………	1	
	小島栄次教授著作目録……………	3	
	弔詞……………高村 象平	6	
	弔詞……………平井 新	8	
[論 説]	リージョナリズム……………奥井復太郎	10	
	経済地理学における法則性の問題——小島栄次教授の業績を顧みて——……………青沼 吉松	21	
	マルコフ連鎖としての立地過程……………高橋潤二郎	40	
	西漸運動と非農業人口……………岡田 泰男	58	
	公共輸送における“公共”性について……………藤井弥太郎	88	
	環境の概念と環境分析の方法——環境研究序説——……………岡田 真	106	
	大都市過集積の地域構造からの考察……………高羽 康二	146	
57 卷 9 号 (1964 年 9 月)			
[論 説]	人口の発展潜在力……………安川 正彬	1	
	企業の投資配分——一つの実証的研究——……………浜田 文雅	26	
[資料・ 研究ノート]	ヨーロッパ社会の比較史——マルク・ブロックの提言に寄せて——……………渡辺 國廣	47	
[書 評]	ロバート・オウエン関係文献と研究の動向……………白井 厚	55	
	ミカエル・ハリントン著 『もう一つのアメリカ——アメリカ合衆国に於ける貧困——』……………中鉢 正美	67	
	E. J. ホップスバウム著		

	『革命の時代——1789年から1848年までのヨーロッパ——』……………	飯田 鼎	72
〔新刊紹介〕	宇野弘蔵著『経済原論』……………	飯田 裕康	77
	小島清著『低開発国の貿易——貿易開発会議への提案——』……………	深海 博明	77
57 卷 10 号 (1964年10月)			
〔論 説〕	社会事業の概念——小島栄次教授の業績を顧みて——……………	青沼 吉松	1
	第一インターナショナルと民族問題 (一) ——マルクス主義とポーランドの解放——……………	飯田 鼎	19
	国内物価と輸出価格の変動……………	川島 楊子	43
〔資 料〕	企業成長と市場構造……………	原 豊	66
〔書 評〕	ケール『バルタン——重農学派の大臣——』……………	渡辺 國廣	75
	ロイ・ハロッド編『発展途上にある世界における国際貿易理論』……………	深海 博明	79
〔新刊紹介〕	M・ウェーバー著 大久保和郎訳『マックス・ウェーバー』I……………	飯田 鼎	85
	E・ルンドベルク著 吉野俊彦訳 『景気変動と経済政策——経済統制か金融政策か——』……………	古田 精司	86
	J・ティンベルヘン著 清水幾太郎訳『新しい経済』……………	古田 精司	87
57 卷 11 号 (1964年11月)			
〔論 説〕	フランク社会における土地所有の動態について……………	宇尾野 久	1
	法人利潤, 付加価値および売上高の変動……………	浜田 文雅	23
	アジア低開発地域の経済成長と域内貿易の展望 (1960~1970年)……………	大西 昭	51
〔書 評〕	ゲルハルト・ベッカー著 『1848年から1849年にかけてのケルンにおけるカール・マルクスと フリードリッヒ・エンゲルス——ケルン労働者協会の歴史によせて』……………	飯田 鼎	71
	M・ベナル『ラブルールの動静——十七世紀パリ南域の事例——』……………	渡辺 國廣	75
〔新刊紹介〕	岡倉古志郎・蠟山芳郎編著『新植民地主義』……………	矢内原 勝	81
	Z. K. プージェジンスキー著 山口房雄訳『ソビエト・ブロック』……………	加藤 寛	81
	R. ハイムブローナー著 浜田清夫訳『100万人の経済学』……………	松浦 保	82
	白井厚著『ウィリアム・ゴドウィン研究』……………	飯田 裕康	84
57 卷 12 号 (1964年12月)			
〔論 説〕	日本資本主義の再生産構造分析試論 ——昭和35年「産業連関表」を手がかりとして (一) ——……………	井村喜代子/北原 勇	1
	転形問題の帰結——労働価値説の理論的意義——……………	持丸 悦朗	77
〔研究ノート〕	十八世紀フランスにおける開墾と干拓……………	渡辺 國廣	102
〔学 界 展 望〕	世界貿易の進路——国際経済学会第23回全国大会・覚書——……………	大山 道広	111
〔書 評〕	P. H. J. H. ゴスデン著 『1815年から1875年までのイギリスにおける共済組合』……………	飯田 鼎	118
〔新刊紹介〕	アジア経済研究所 研究参考資料 第68集『アジア経済の長期展望』……………	山本 登	123
	片山謙二・狭間源三共著『自由化とブロック化』……………	矢内原 勝	123
	大熊一郎編『財政読本』……………	古田 精司	124
	篠原三代平著『経済成長の構造』……………	松浦 保	125
58 卷 1 号 (1965年1月)			
〔論 説〕	ソ連経済政策の予測……………	加藤 寛	1

	ロバート・オウエンとウィリアム・ゴドウィン（上）……………	白井 厚	20
	集团的厚生の大概念の一形成過程（一） ——パンタレオーニ、パレート、パロネをめぐって——……………	松浦 保	38
〔資料〕	十九世紀初頭のイングランドにおける労働移動の現象について ——アーサー・レッドフォードの研究「イングランドにおける労働移動、 1800年～1850年」を中心として——……………	飯田 鼎	60
〔書評〕	サンヤコブ『十八世紀フランスにおける王権と夫役』……………	渡辺 國廣	74
〔新刊紹介〕	鈴木鴻一郎編『帝国主義研究』……………	常盤 政治	78
	玉野井芳郎編著 『大恐慌の研究——1920年代アメリカ経済の繁栄とその崩壊——』……………	常盤 政治	79
	小泉仰著『ミル』……………	白井 厚	80
	菊地昌典著 『ロシア農奴解放の研究——ツァーリズムの危機とブルジョアの改革』……………	寺尾 誠	81
58 卷 2 号（1965年2月）			
〔論説〕	初期労働組合組織における国際的比較の問題 ——企業別組織の発生要因をめぐって 大河内・矢島両教授の理論の批判——……………	飯田 鼎	1
	ロバート・オウエンとウィリアム・ゴドウィン（中）……………	白井 厚	27
〔資料〕	日本産業革命期における漁業用生産手段生産部門の発展形態……………	高山 隆三	45
〔書評〕	ポール・マントゥ著 徳増栄太郎・井上幸治・遠藤輝明共訳『産業革命』……………	中村 勝己	63
	オスカー・ランゲ著 竹浪祥一郎訳『政治経済学1・一般的諸問題』 ——「広義の経済学」の視点——……………	飯田 裕康	67
〔新刊紹介〕	出口勇蔵著『ウェーバーの経済学方法論』……………	野地 洋行	72
	内田義彦・宮崎義一・小林昇・宮崎厚一編『経済学史講座』I ——経済学史の基礎——……………	飯田 裕康	73
58 卷 3 号（1965年3月）			
〔論説〕	現代財政学の支配的解釈に関する疑問について……………	高木 寿一	1
	社会主義経済建設における後進国型とその中国的展開（一）……………	平野 絢子	22
〔資料〕	副業的・季節的労働者の移動……………	西川 俊作	42
〔書評〕	日本労働組合総評議会編『総評十年史』……………	飯田 鼎	65
	岩田弘著『世界資本主義——その歴史的展開とマルクス経済学——』……………	飯田 裕康	70
	レンシス・ライカート著『新しい型のマネジメント』……………	堀内 昇	74
〔新刊紹介〕	富岡裕著『社会主義経済の理論』……………	平野 絢子	81
	増田四郎著『東と西』……………	寺尾 誠	81
	公正取引委員会事務局経済部編『日本の産業集中』……………	植草 益	84
58 卷 4 号（1965年4月）			
〔論説〕	社会主義経済移行の物質的基礎としての国家独占資本主義の概念 ——社会主義経済建設における後進国型とその中国的展開（二）——……………	平野 絢子	1
	エルベ以東・上ラウズイツ地方の農村市場町（一）……………	寺尾 誠	26
〔資料〕	1866年から1868年に至る第一インターナショナルの総務委員会に かんする史料（その一）……………	飯田 鼎	65
〔書評〕	ハイマン・カプリン著『アジアの革命家——片山潜の生涯』……………	飯田 鼎	79
	熊谷尚夫著『経済政策原理』——最近の類書も含めて——……………	加藤 寛	85

	ゴールドバーガー著『エコノメトリックセオリー』……………	佐藤 保	90
[新刊紹介]	前田清著『日本の社会開発』……………	原 豊	96
<b>58 卷 5 号</b> (1965 年 5 月)			
[論 説]	イギリス職能別組合の生成過程 (その一) ——産業革命前夜における労働者階級の組織形態について (毛織物業労働者)——…	飯田 鼎	1
	農家家計構成員の労働供給スケジュール (I) ——常住・男子家族の労働供給スケジュールの計測——……………	鳥居 泰彦	32
	一次産品貿易の市場構造——伝統的・政策的・地理的要因の検証——……………	田中 拓男	71
[資料・ 研究ノート]	「資本一般」の体系と「競争」論——『資本論』における信用論展開の前提——……………	飯田 裕康	102
[書 評]	アメリカ公有地と資本主義……………	岡田 泰男	121
	J・ティンバーゲン著『国際的経済統合』……………	深海 博明	136
	板垣与一・山本登監修『欧州経済統合の分析と展望』……………	大山 道広	143
[新刊紹介]	藤田敬三著『日本産業構造と中小企業』——下請制工業を中心にして——……………	植草 益	149
	外務省編著『国連貿易開発会議の研究』……………	大山 道広	150
<b>58 卷 6 号</b> (1965 年 6 月)			
[論 説]	近世前期における「経世済民」論の展開——山鹿素行の場合——……………	島崎 隆夫	1
	社会主義経済建設における後進国型とその中国的展開 (三)……………	平野 絢子	21
	農家家計構成員の労働供給スケジュール (II) ——常住世帯員男子・女子グループ別の計測——……………	鳥居 泰彦	48
[学 界 展 望]	日本の近代化……………	中村 勝己	82
[書 評]	高橋洗著『日本的労使関係の研究——「企業別組合」の構造と機能を 中心として——』……………	飯田 鼎	93
[新刊紹介]	沢崎堅造著『キリスト教経済思想史研究』 ——ルーテル、カルヴァン、聖トマス、アウグスチヌス研究——……………	中村 勝己	98
	J. ジョンストン著 竹内啓訳『計量経済学の方法』……………	佐藤 保	98
	F. ハービソン, C. A. マイヤーズ著 川田寿, 桑田宗彦訳 『経済成長と人間能力の開発』……………	佐藤 保	99
<b>58 卷 7 号</b> (1965 年 7 月)			
[論 説]	日本資本主義の再生産構造分析試論 ——昭和 35 年「産業連関表」を手がかりとして (二)——…	井村喜代子/北原 勇	1
	集团的厚生 of 極大化概念の一形成過程 (二) ——パンタレオーニ, パレート, パローネをめぐる——……………	松浦 保	61
[書 評]	杉原四郎著『マルクス経済学の形成』……………	飯田 裕康	77
	ロバート・ソロー著 福岡正夫・川又邦雄訳『資本理論と経済成長』……………	田中 宏	81
[新刊紹介]	野田稔・中村秀一郎編『経済政策入門』……………	加藤 寛	89
	永原慶二編『日本経済史大系 2 中世』……………	速水 融	89
	白石孝・土屋六郎編『国際協力と日本経済』……………	深海 博明	90
<b>58 卷 8 号</b> (1965 年 8 月)			
[論 説]	Neogemeinfrein-Theorie について……………	宇尾野 久	1
	エルベ以東・上ラウズイツ地方の農村市場町 (二)……………	寺尾 誠	21
	中立的技術進歩と経済成長——C.E.S. 生産函数を中心として——……………	高橋 房二	56

[書評]	儀我莊一郎著『中国の社会主義企業』……………平野 絢子 84
	野崎幸雄著『現代中国の経営管理』……………平野 絢子 84
	日本経済調査協議会『南北問題と日本経済』
	——国連貿易開発会議を中心として——……………深海 博明 88
[新刊紹介]	木下和夫編『財政政策入門』……………古田 精司 97
	大野信三著『現代経済学史』……………松浦 保 98
	宮川浩一・平尾光司著『資本交流と国際金融』……………原 豊 99
58 卷 9 号 (1965 年 9 月)	
[論説]	第一インターナショナル形成期におけるマルクスとエンゲルス (その一)
	——マルクス主義における民族、階級および体制の問題——……………飯田 鼎 1
	日本資本主義の再生産構造分析試論
	——昭和 35 年「産業連関表」を手がかりとして (三) —— ……井村喜代子/北原 勇 27
	アダム・スミスとエドマンド・バーク (三)
	——その社会観と経済思想をめぐって——……………白井 厚 105
[書評]	小島清著『日本貿易と関税引下げ』——ケネディ・ラウンドの効果——……………深海 博明 129
[新刊紹介]	岩崎允胤著『現代社会科学方法論の批判』……………持丸 悦朗 139
	桑野仁著『現代管理通貨論』……………飯田 裕康 140
58 卷 10 号 (1965 年 10 月)	
[論説]	社会政策論序説——労働経済論への一批判として——……………黒川 俊雄 1
	第一インターナショナル形成期におけるマルクスとエンゲルス (その二)
	——イギリス労働運動とマルクス主義——……………飯田 鼎 19
	日本資本主義の再生産構造分析試論
	——昭和 35 年「産業連関表」を手がかりとして (四) —— ……北村喜代子/北原 勇 45
	コールリッジとミル (一) ………………由良 君美 114
[資料・研究ノート]	最近のゴドウィン研究文献
	——特に <i>Godwin's Letters of Verax</i> by B. R. Pollin について—— ……白井 厚 125
	低開発国問題に関する最近の展開について
	——国連貿易開発会議をめぐる論議を中心として——……………深海 博明 139
[書評]	シードマン他著『労働者の組合観』……………二瓶 恭光 160
[新刊紹介]	ロジャ・モーガン著
	『1864 年から 1872 年までのドイツ社会民主主義者と第一インターナショナル』…飯田 鼎 165
	大山敷太郎著『鉱業労働と親方制度』——「日本労働関係論」鉱業篇——……………飯田 鼎 166
	鎌倉昇著『日本経済論』……………松浦 保 167
	滝沢菊太郎著『日本工業の構造分析』——日本中小企業の一研究——……………佐藤 芳雄 169
58 卷 11・12 号 (1965 年 11・12 月)	
〈奥井復太郎博士追悼特集〉	
	奥井復太郎博士年譜…………… 1
	奥井復太郎博士著作目録…………… 4
[追悼の辞]	奥井教授をいたむ……………平井 新 11
	学を楽しんだ人……………寺尾 琢磨 13
	奥井さんを偲ぶ……………有賀喜左衛門 16
	奥井先生と都市社会学——都市社会学に残された大きな足跡——……………大道安次郎 20

[論 説]	生活水準国際比較の問題点……………	中鉢 正美	30
	奥井博士と北九州市マスタープラン……………	小古間隆蔵	62
	都市の生活と都市の構造……………	山岸 健	74
	都市社会学研究と奥井復太郎博士の業績……………	佐藤 仁威	106
[書 評]	J・フリードマン W・アロンゾ編『地域開発と計画』……………	高橋潤二郎	135
59 卷 1 号 (1966 年 1 月)			
[論 説]	コールリッジとミル (二)……………	由良 君美	1
	経営政策に対する決定理論的アプローチの試み……………	藤枝 省人	20
[資料・ 研究ノート]	徳川後期尾張一農村の人口統計——海西郡神戸神田の宗門改帳分析——……………	速水 融	58
	所謂立地型の識別について……………	高橋潤二郎	78
[書 評]	前川嘉一著『イギリス労働組合主義の発展——新組合主義を中心に——』……………	飯田 鼎	94
	大野吉輝著『巨視的分配理論』……………	富田 重夫	97
	金哲著『韓国の人口と経済』……………	原 豊	101
[新刊紹介]	山崎功著『バルミーロ・トリアッティ——その生涯と業績——』……………	飯田 鼎	106
	湯村武人著『フランス封建制の成立と農村構造』……………	渡辺 國廣	107
	柴垣和夫著『日本金融資本分析』……………	飯田 裕康	108
	P・B・ケネン著 天野明弘訳『国際経済学』……………	大山 道広	109
59 卷 2 号 (1966 年 2 月)			
[論 説]	マルクス主義とポーランド問題		
	——マルクス「ポーランド問題にかんする手稿」を中心として——……………	飯田 鼎	1
	集团的厚生 of 極大化概念の一形成過程 (三)		
	——バンタレオーニ、バレット、パローネをめぐって——……………	松浦 保	22
	解散修道院の土地処分——特にデヴォンシャの場合——……………	今関 恒夫	43
[学 界 展 望]	資本主義精神論——サムエルスン「宗教と経済活動」を中心に——……………	中村 勝己	77
[書 評]	アイリーン・B・トイバー著 毎日新聞社人口問題調査会訳『日本の人口』……………	安川 正彬	85
	C. P. キンドルバーガー著 山本登監訳『外国貿易と国民経済』……………	矢内原 勝	90
	E. ゴーメン著 貝塚啓明訳『国際金融と外国為替』……………	大宮 佚一	96
[新刊紹介]	市村真一著『世界のなかの日本経済』……………	大山 道広	104
	山鹿誠次編『都市発展の理論』……………	高橋潤二郎	105
	東畑精一・高橋泰蔵監修 金融経済研究所編		
	『明治前期の銀行制度——日本金融市場発達史 I——』……………	飯田 裕康	106
	大野英二著『ドイツ資本主義論』……………	常盤 政治	107
	C. M. マイヤー著 麻田四郎・山宮不二人訳『国際貿易と経済発展』……………	深海 博明	108
	宮本又次・合田裕著作『経済変動の歴史的研究』……………	渡辺 國廣	109
59 卷 3 号 (1966 年 3 月)			
[論 説]	小倉藩人畜改帳の分析と徳川初期全国人口推計の試み……………	速水 融	1
	消費者余剰の理論——展望……………	長名 寛明	37
[資料・ 研究ノート]	日本におけるゴドウィン研究史……………	白井 厚	72
	幕末——明治初期武蔵国人口趨勢に関する一考察——……………	佐々木陽一郎	85
	同時方程式体系による生産函数の推定……………	黒田 昌裕	101
[書 評]	R・R・ネイルド著『景気変動下の物価と雇用』		
	——英国製造業に関する研究・1950 年～1961 年——……………	鳥居 泰彦	114

	柴垣和夫著『日本金融資本分析』……………植草 益	121
[新刊紹介]	中川友長著『経済統計の方法』……………佐藤 保	130
59 卷 4 号 (1966 年 4 月)		
〈国際経済論特集〉		
[論 説]	南北問題と東南アジア経済——一つの政策論的アプローチ——……………山本 登	1
	購買力平価説と賃金水準……………佐々波楊子	14
[資料・研究ノート]	経済発展と二重経済……………矢内原 勝	32
	関税同盟理論の新展開——J・ヴァネックの近著をめぐって——……………大山 道広	42
	低開発国の貿易拡大の諸方策 ——日本経済研究センター南北問題コンファレンスにおける論議に 基づいて——……………深海 博明	60
[書 評]	矢内原勝著『低開発国の輸出と経済開発』……………川田 侃	78
	米国内務省地域再開発局『西欧諸国に於ける地域再開発』……………高橋潤二郎	83
[新刊紹介]	J. U. ネフ著 宮本又次他訳『工業文明の誕生と現代世界』……………渡辺 國廣	88
	H. G. ジョンソン著『岐路に立つ世界経済』……………深海 博明	89
	山本登・加藤寛・井口東輔編集 『世界経済の新段階——協力と統合へ 日本の進路——』……………唐木 園和	90
59 卷 5 号 (1966 年 5 月)		
[論 説]	小作関係の成立——フランス地主制史論——……………渡辺 國廣	1
[資料・研究ノート]	所謂立地型の識別について(続)……………高橋潤二郎	19
	昭和 40 年国勢調査「速報」にみられる人口集中現象について……………鳥居 泰彦	31
[書 評]	隅谷三喜男著『労働経済論』……………飯田 鼎	56
	安藤英治著『マックス・ウェーバー研究』……………中村 勝己	61
[新刊紹介]	大塚久雄編『マックス・ヴェーバー研究——生誕百年記念シンポジウム——』……………飯田 裕康	67
	村野孝編『国際通貨制度——問題点と将来——』……………深海 博明	68
	南亮三郎・館稔編『人口都市化の理論と分析』……………鳥居 泰彦	69
	根岸隆著『価格と配分の理論』……………川又 邦雄	70
	稲田献一著『新しい経済学——ビジョンと実証——』……………川島 康男	72
59 卷 6 号 (1966 年 6 月)		
[論 説]	日本資本主義の再生産構造分析試論 II ——昭和 30 年以降の拡大再生産過程(1)——……………井村喜代子/北原 勇	1
[資 料]	日本におけるゴドウィン研究史(続)……………白井 厚	101
[書 評]	田中生夫著『イギリス初期銀行史研究』……………飯田 裕康	114
[新刊紹介]	湯村武人・小島恒久・遠山馨共著『西洋経済史』……………渡辺 國廣	118
	ダンバーク、マクドウガル著 大熊一郎、宇田川璋仁訳 『マクロ経済学——国民所得の測定・理論および安定政策——』……………松浦 保	118
59 卷 7 号 (1966 年 7 月)		
[論 説]	財政学方法論に関する問題 ——カール・メンガーおよび岡野鑑記博士の解釈に対する疑問の提出——…高木 寿一	1
	独占資本主義段階と社会政策研究 ——大河内一男教授還暦記念論文集「社会政策学の基本問題」によせる——……………飯田 鼎	25

	「後進国における国家資本主義」について		
	——社会主義経済移行の“物質的基礎としての”国家独占資本主義と		
	国家資本主義——	平野 絢子	52
	立地過程の反応分析——立地行動に関する一仮説——	高橋潤二郎	74
[研究ノート]	「賃労働の理論」への疑問——隅谷三喜男著『労働経済論』を中心に——	小松 隆二	104
[書 評]	ソロ著『フランス農業史』	渡辺 國廣	117
	藤田晴著『財政政策の理論』	飯野 靖四	122
	デューセンベリー著 馬場正雄訳『景気循環と経済成長』	田中 宏	127
[新刊紹介]	田中敏弘著『マンデウィルの社会・経済思想——イギリス 18 世紀初期社会・		
	経済思想——』	飯田 鼎	134
	原覚天編『経済援助の研究』	深海 博明	135
	隅谷三喜男著『日本労働運動史』	小松 隆二	136
	南亮三郎著『マルサス評伝——その生誕 200 年の記念に——』	白井 厚	138
59 卷 8 号 (1966 年 8 月)			
[論 説]	形成期のマルクスとその周辺——その一、「プロレタリア」観——	平井 新	1
	社会政策学研究与労働経済論——隅谷三喜男、氏原正治郎両教授の批判——	飯田 鼎	34
[資料・	回帰線導出の方法 (一)	佐藤 保	55
研究ノート]	「体化された」技術進歩に関する諸論点	田中 宏	74
[学 界 展 望]	貿易史の展開	渡辺 國廣	85
[書 評]	安平哲二著『米ソ経済成長の比較』	加藤 寛	93
	丹羽春喜著『ソ連計画経済の研究』	加藤 寛	93
	宮川公男著『計量経済学入門』	杏掛 暁	97
[新刊紹介]	マリアンネ・ウェーバー著 大久保和郎訳『マックス・ウェーバー II』	飯田 鼎	103
	西岡孝男著『日本の労使関係と賃金』	飯田 鼎	104
	J. ロビンソン著 宮崎義一訳『経済学の考え方』	松浦 保	105
	P. A. サムエルソン著 都留重人訳『サムエルソン経済学 (上)』	宮尾 尊弘	106
59 卷 9 号 (1966 年 9 月号)			
[論 説]	産業社会学の動向とその課題	青沼 吉松	1
	ヴィクスーヴィラの転換について	宇尾野 久	19
	規模の経済性とレオンティエフ投入係数の変化	尾崎 巖	42
[研究ノート]	回帰線導出の方法 (二)	佐藤 保	84
[書 評]	戸塚秀夫著『イギリス工場法成立史論——社会政策論の歴史的再構成』	飯田 鼎	99
	M. ガロ『18 世紀ガティヌにおける土地制度と農民』	渡辺 國廣	103
[新刊紹介]	大来佐武郎著『アジアの中の日本経済』	深海 博明	109
	西村孝夫著『インド木綿工業史』	三宅 昱子	110
	越智武臣著『近代英国の起源』	安元 稔	111
	天川潤次郎著『デフォー研究——資本主義経済思想の一流流』	原田 敏彦	112
	J. D. チェンバーズ著 宮崎犀一・米川伸一訳		
	『世界の工場——イギリス経済史 1820—1880』	栗本慎一郎	113
59 卷 10 号 (1966 年 10 月)			
[論 説]	日本資本主義の再生産構造分析試論 II		
	——昭和 30 年以降の拡大再生産過程 (2) ——	井村喜代子／北原 勇	1



	わが国主要寡占産業における競争と独占 (一) ……………	植草 益	99
[書 評]	良知力著『ドイツ社会思想史研究』……………	飯田 鼎	122
	P. A. バラン P. M. スウィージー著 『独占資本——アメリカ経済及び社会秩序にかんする試論——』……………	飯田 裕康	126
[新刊紹介]	猪谷善一著『西洋経済史』……………	渡辺 國廣	132
	H・クラメル著 大石泰彦訳『確率論入門』……………	佐藤 保	133
	小林端五著『工場法と労働運動』……………	小松 隆二	133
<b>59 卷 11 号 (1966 年 11 月号)</b>			
〈小泉信三博士追悼特集〉			
[追悼の辞]	小泉信三君追想……………	高橋誠一郎	1
[論 説]	小泉経済学とマルクス労働価値説……………	伊東 岱吉	26
	小泉先生と理論経済学……………	寺尾 琢磨	48
	社会思想学者としての小泉信三先生……………	平井 新	70
	ソ連の中央集権的計画経済と利潤率中心の企業経営の体制……………	気賀 健三	104
	小泉先生と唯物史観……………	小竹 豊治	135
	小泉信三博士年譜および著作目録……………		157
<b>59 卷 12 号 (1966 年 12 月)</b>			
[論 説]	「世界恐慌期におけるドイツの財政過程」分析・序説……………	大島 通義	1
	ロバート・オウエンとウィリアム・ゴドウィン (下) ……………	白井 厚	21
	ルソー「社会契約論」の理論構造と資本主義 (上) ……………	野地 洋行	45
	日本近代社会経済思想史研究の方法と対象にかんする若干の考察 (一) ——丸山思想史学の批判的再評価——……………	田中 明	76
[研究ノート]	第一インターナショナル研究にかんする最近の動向……………	飯田 鼎	103
[書 評]	飯田鼎著『マルクス主義における革命と改良』 ——第一インターナショナルにおける階級、体制および民族の問題——……………	玉井 茂	116
	安川正彬著『人口の経済学』……………	矢崎 武夫	120
[新刊紹介]	サイモン・クズネッツ著 山田雄三・長谷部亮一共訳『戦後の経済成長』……………	安川 正彬	126
	井上幸治・入交好脩編『経済史学入門』……………	飯田 鼎	127
	鈴木諒一著『くらしの中の物価』……………	佐藤 保	128
<b>60 卷 1 号 (1967 年 1 月)</b>			
[論 説]	ソ連の対東欧政策再論……………	加藤 寛	1
	戦前日本の労働組合——石川島造船所における労資関係をめぐって (一) ——……………	小松 隆二	19
	国民所得の Welfare Implications について……………	長谷 寛明	54
[資料・ 研究ノート]	プルーダンのウィーン体制観 (上) ……………	後藤 修三	87
	成長経済に於ける最適税率の決定……………	川島 康男	99
[書 評]	H. C. ボス著『経済活動の空間的配置』……………	高橋潤二郎	106
	日高普著『商業信用と銀行信用』……………	飯田 裕康	110
[新刊紹介]	大西昭著『低開発国の経済開発』……………	大山 道広	117
	J. S. ベイン著『産業構造の国際比較』……………	植草 益	118
	小林昇著『フリードリッヒ・リスト論考』……………	福原 好喜	119

60 卷 2 号 (1967 年 2 月)	
[論 説]	労働供給理論における恒常所得仮説の経験的有効性に関する問題点……小尾恵一郎 1 低開発国問題への一つの基本的視角 ——経済援助の経済学の最近の展開を手がかりにして——……深海 博明 20 戦前日本の労働組合——石川島造船所における労資関係をめぐって(二)——…小松 隆二 51
[研究ノート]	地域区分のための主成分分析……高橋潤二郎 93
[書 評]	大前朔郎・池田信共著『日本労働運動史論——大正 10 年の川崎・三菱神戸 両造船所争議の研究——』……飯田 鼎 107 大熊一郎・浜田文雅著『国民所得論』……鳥居 泰彦 112
[新刊紹介]	藤本武著『各国の労働安全対策』……飯田 鼎 115 1966 年上期『中国産業貿易半年報』……平野 絢子 116 日本リサーチセンター編『10 年後の国民生活』……佐藤 保 117 木下尚江編『田中正造の生涯』(復刻版)……小松 隆二 117 加藤寛編『公企業の経済学』……鈴木 守 118 天野明弘著『貿易と成長の理論』……川島 康男 120
60 卷 3 号 (1967 年 3 月)	
[論 説]	「社会主義経済学」の対象と方法(一)——「過渡期の理論」について……平野 絢子 1 レオン・ワルラスの「資本形成および信用のモデル」について ——定常均衡および成長均衡の存在証明——……宮尾 尊弘 24
[資料・ 研究ノート]	工業化と十九世紀のフランス, ドイツ……渡辺 國廣 64 最適消費の理論についてのノート……川又 邦雄 74
[書 評]	大河内一男先生還暦記念論文集第 2 集『労働経済と労働運動』……飯田 鼎 81 P. A. サミュエルソン著『経済学』……田中 宏 86
[新刊紹介]	大河内一男・松尾洋著『日本労働組合物語』……飯田 鼎 98 大河内一男先生還暦記念論文集第 3 集『古典経済学の伝統』……飯田 鼎 99 宮崎義一著『戦後日本の経済機構』……藤枝 省人 101
60 卷 4 号 (1967 年 4 月)	
[論 説]	「社会主義経済学」の対象と方法(二)——「過渡期の理論」について……平野 絢子 1 パタン・バークニングと賃金の平準化……佐野 陽子 25 ノイマン径路と技術進歩……市石 達郎 49
[資料・ 研究ノート]	Frohnden について……宇尾野 久 65 プルーダンのウィーン体制観(下)……後藤 修三 78
[書 評]	高島善哉著『現代日本の考察——民族・風土・階級——』……飯田 鼎 87 H. H. マッカーティ J. B. リンドバーク著『経済地理学序説』……高橋潤二郎 91 板東 慧著『現代の労働組合——その機能と政策——』……小松 隆二 96
[新刊紹介]	氏原正治郎著『日本労働問題研究』……飯田 鼎 104 テ・イ・オイゼルマン著 森宏一訳『マルクス主義哲学の形成』……飯田 鼎 105 内田忠夫・栗林世・矢鳥昭・渡部経彦著『経済予測と計量モデル』……佐藤 保 106 浜林正夫著『イギリス革命の思想構造』……安元 稔 107 エミール・ジヤム著 久保田明光・山川義雄訳『経済思想史』……原田 敏彦 109 堀江保蔵編『海事経済史研究』……栗本慎一郎 111

60 卷 5 号 (1967 年 5 月)			
[論 説]	「社会主義経済学」の対象と方法 (三) ——「過渡期の理論」について——	平野 絢子	1
	日本資本主義の再生産構造分析試論 II		
	——昭和 30 年以降の拡大再生産過程 (3) ——	井村喜代子/北原 勇	28
[研究ノート]	回帰線導出の方法 (補足)	佐藤 保	79
	擬制資本について (上) ——信用論の基本問題との関連において——	飯田 裕康	103
[書 評]	隅谷三喜男・小林謙一・兵藤釗著『日本資本主義と労働問題』	飯田 鼎	118
[新刊紹介]	服部英太郎著『国家独占資本主義社会政策論』		
	——〈服部英太郎著作集〉第五巻——	飯田 鼎	123
	足利末男著『社会統計学史』	佐藤 保	124
60 卷 6 号 (1967 年 6 月)			
[論 説]	M・ウェーバーの方法論における「主観性」の現代的意義	富田 重夫	1
	比較経済史学とアメリカ資本主義	中村 勝己	12
	資源転換の租税政策——離陸期における地租の役割——	古田 精司	26
[研究ノート]	ヒックス『景気循環論』の一問題点	市石 達郎	49
	資本形成の一般均衡モデルについて	宮尾 尊弘	56
[新刊紹介]	松尾弘著『工業経済の理論と政策』	加藤 寛	68
	一河秀洋著『財政学ノート』	古田 精司	68
	小島清著『世界経済入門——日本貿易の環境——』	深海 博明	69
	クリストファ・ターナード ボリス・プスカレフ共著 鈴木忠義訳編		
	『国土と都市の造形』	高橋潤二郎	70
	J・E・ミード著 北野熊喜男・木下和夫訳『経済学入門——分析と政策——』	鈴木 守	72
60 卷 7 号 (1967 年 7 月)			
[論 説]	企業における専門職業者——中間層の問題——	青沼 吉松	1
	日本資本主義の再生産構造分析試論 II		
	——昭和 30 年以降の拡大再生産過程 (4) ——	井村喜代子/北原 勇	25
	経済政策と国際協力	大山 道広	76
	わが国主要寡占産業における競争と独占 (二)		
	——部門内諸資本の生産規模=費用格差構成——	植草 益	111
[書 評]	矢島悦太郎著『社会政策社会理論研究』	飯田 鼎	148
	宮鍋幟著『ソヴェト農産物価格論』	平野 絢子	152
[新刊紹介]	石渡貞雄著『現代資本論 I ——方法論的考察——』	飯田 鼎	158
	加藤一郎・阪本楠彦編『日本農政の展開過程』	高山 隆三	159
	原覚天著『世界経済の変革と発展』	深海 博明	160
60 卷 8 号 (1967 年 8 月)			
[論 説]	鉄工組合と黎明期の日本労働運動——日本的クラフト・ユニオンの興亡——	飯田 鼎	1
	低開発国住民の経済的行動	矢内原 勝	35
	日本資本主義の再生産構造分析試論 II		
	——昭和 30 年以降の拡大再生産過程 (5) 完——	井村喜代子/北原 勇	58
	ルソー「社会契約論」の理論構造と資本主義 (下)	野地 洋行	99
[資料・研究ノート]	日本におけるゴドウィン研究史 (続)	白井 厚	135
	擬制資本について (下)	飯田 裕康	144

〔新刊紹介〕	服部英太郎著作集 VI『社会政策総論』……………	飯田 鼎	153
	森田鉄郎著『ルネサンス期イタリア社会』……………	松浦 保	154
	大来佐武郎編 都市開発講座 1『地域社会と都市』……………	高橋潤二郎	156
60 卷 9 号 (1967 年 9 月)			
〈『資本論』刊行百年記念特集〉			
〔論 説〕	『資本論』における土地所有の論理——研究序説——……………	小池 基之	1
	商品論の成立……………	遊部 久蔵	28
	『資本論』とヨーロッパ労働運動……………	飯田 鼎	62
	信用と恐慌との連繫について——一つの覚え書——……………	飯田 裕康	93
60 卷 10 号 (1967 年 10 月)			
〔論 説〕	製鋼労働組合の組織と活動 (上)		
	——戦前における労働協約締結組合の事例として——……………	小松 隆二	1
	家計の貨幣需要とポートフォリオセレクション……………	井原 哲夫	30
〔資料・研究ノート〕	徳川後期尾張一農村の人口統計続篇——Family Reconstruction 法の適用——……………	速水 融	53
	戦後炭鉱労働運動史の一齣		
	——三池炭鉱労働組合編「みいけ 20 年」を読んで——……………	飯田 鼎	71
	安定政策と成長政策の Policy Implication——財政政策理論研究おぼえがき——……………	深谷 昌弘	85
	外部経済論——回顧と整理——……………	鈴木 守	99
〔学 界 展 望〕	日本の人口問題と人口研究の動向……………	安川 正彬	120
〔書 評〕	岩田暁一著『経済分析のための統計的方法』……………	小尾恵一郎	133
〔新刊紹介〕	法政大学大原社会問題研究所『太平洋戦争下の労働運動』		
	——日本労働年鑑特集版——……………	飯田 鼎	139
	法政大学大原社会問題研究所『太平洋戦争下の労働者状態』		
	——日本労働年鑑特集版——……………	飯田 鼎	140
	町田義一郎監修 安井孝治・田村茂著『金融経済の基礎理論』……………	古田 精司	141
60 卷 11 号 (1967 年 11 月)			
〈町田義一郎教授退任記念特集号〉			
	町田義一郎名誉教授略歴……………		1
	町田義一郎名誉教授著・訳書……………		3
〔論 説〕	イングランド銀行はいつ中央銀行になったか……………	町田義一郎	5
	公共欲望および公共財に関連する問題——一つの覚え書——……………	高木 寿一	26
	ジョン・ローの信用創造論——その「貨幣と商業」について——……………	吉田 啓一	46
	福沢諭吉の取引所投機・投資論……………	小竹 豊治	62
	国際流動性問題に関する若干の考察……………	安井 孝治	81
	商業銀行における革新について……………	村井 俊雄	98
	都市銀行の現金準備保有についての実証的考察……………	田村 茂	112
	預金水準のベルヌーイ試行型変動と銀行資金の配分……………	鈴木 貞彦	142
60 卷 12 号 (1967 年 12 月)			
〔論 説〕	戦後西ドイツ農業構造の一分析……………	高山 隆三	1
	低開発国経済発展における対外接触の意義と効果		
	——分析の枠組と若干の基本的アイデア——……………	深海 博明	30

	わが国主要寡占産業における競争と独占 (三)		
	——参入障壁 (その一) 必要資本量——	植草 益	50
[研究ノート]	丸山思想史学の批判的再評価		
	——日本近代社会経済思想史の対象と方法にかんする若干の考察 (一) の (1) ——	田中 明	78
<b>61 卷 1 号</b>	(1968 年 1 月)		
[論 説]	労働供給の理論——その課題および帰結の含意——	小尾恵一郎	1
	日本資本主義と農業構造	常盤 政治	26
	社会主義経済における「価値」・「価格」と「地代」(一)	平野 絢子	44
	製鋼労働組合の組織と活動 (下)		
	——戦前における労働協約締結組合の事例として——	小松 隆二	58
[研究ノート]	Anti-Inflation 政策への一提案——租税政策理論研究おぼえがき——	深谷 昌弘	87
[書 評]	リッター著 出口純夫訳『ヘーゲルとフランス革命』	野地 洋行	102
<b>61 卷 2 号</b>	(1968 年 2 月)		
[論 説]	近世信州諏訪地方の人口趨勢	速水 融	1
	設備投資の変動と最適資本ストック	浜田 文雅	28
	鉄鋼大手五社の団体交渉——交渉戦術の考察——	石田 英夫	55
	有効需要、過剰設備および物価水準	田中 宏	82
[資 料]	女子労働供給函数変位の効果に関する数値実験 (I)	小尾恵一郎	108
[書 評]	宮下孝吉著『西洋古代・中世経済史』	宇尾野 久	136
	徳永重良著『イギリス賃労働史の研究』		
	——帝国主義段階における労働問題の展開——	飯田 鼎	141
	糸屋寿雄著『幸徳秋水研究』	小松 隆二	145
<b>61 卷 3 号</b>	(1968 年 3 月)		
[論 説]	産業構造の変化と技術構造	尾崎 巖	1
	技術進歩、貿易差額、交易条件、実質所得	高橋 房二	22
[資料・研究ノート]	戦後の教育労働運動についての一素描		
	——日本教職員組合編「日教組 20 年史」の批判的考察を通じて——	飯田 鼎	86
	消費部分の分離による高等教育投資の過少性	林 英明	99
[書 評]	H. G. ジョンソン著『低開発国に対する経済政策』	渡辺 利夫	112
<b>61 卷 4 号</b>	(1968 年 4 月)		
[論 説]	資本移動と対外政策	大山 道広	1
	年功制の史的形成について——戦前八幡製鉄所の事例研究——	島田 晴雄	40
	対外投資理論の再検討——対外投資函数の採用——	宮尾 尊弘	76
[書 評]	経済学史学会編『「資本論」の成立』	飯田 鼎	103
	R・キャメロン編『工業化初期段階の銀行業』	飯田 裕康	112
	御園生等・新田俊三共著『独占価格』	増田 寿男	118
<b>61 卷 5 号</b>	(1968 年 5 月)		
[論 説]	機械労働組合連合会の組織と活動——戦前における産業別連合体の事例として——	小松 隆二	1
	わが国賃金決定機構の計量分析 (一)	島田 晴雄	34
[研究ノート]	資本移動と対外政策 (続) ——宗主国—植民地型モデルによる分析——	大山 道広	65

	ニュー・エコノミクスの経済政策……………	藤田 至孝	75
	トマス・ホジスキンの生産力論——トマス・ホジスキンの経済学研究（一）——……………	神代 光朗	90
[書 評]	田中真晴著『ロシア経済思想史の研究——プレハーノフとロシア資本主義論史——』……………	飯田 鼎	112
	犬塚昭治著『日本における農民分解の機構』……………	高山 隆三	118
61 卷 6 号 (1968 年 6 月)			
[論 説]	労働運動論研究にかんする一試論——比較労働運動論序説——……………	飯田 鼎	1
	社会主義経済における「価値」・「価格」と「地代」(二)……………	平野 絢子	23
[研究ノート]	アメリカ公有地史研究の史料について……………	岡田 泰男	47
	賃金比較行動と賃金波及の構造 (1)……………	島田 晴雄	56
[学 界 展 望]	西ドイツにおける都市発生の段階規定論争 (上) ——C. ハーゼ「ヴェストファーレン諸都市の発生」をめぐって——……………	寺尾 誠	71
[書 評]	入江節次郎著『帝国主義論序説』……………	飯田 裕康	81
61 卷 7 号 (1968 年 7 月)			
[論 説]	市場から組織への移行……………	青沼 吉松	1
	独占確立期の AFL——1900~1914——……………	川田 寿	23
	わが国賃金決定機構の計量分析 (二)……………	佐野 陽子	51
[研究ノート]	賃金比較行動と賃金波及の構造 (2)・完……………	島田 晴雄	81
	マルクスの諸法則と新古典派理論……………	宮尾 尊弘	99
[書 評]	大島清著 大内兵衛・森戸辰男・久留間鮫造監修『高野岩三郎伝』……………	飯田 鼎	114
61 卷 8 号 (1968 年 8 月)			
[論 説]	戦後日本労働組合運動史における問題点——組織問題に関連して——……………	飯田 鼎	1
	ニュー・エコノミクスの経済政策における政策手段……………	藤田 至孝	22
[資料・研究ノート]	わが国の地方税制 (1) ——その問題点——……………	古田 精司	46
	トマス・ホジスキンの資本観——トマス・ホジスキンの経済学研究 (二) ——……………	神代 光朗	75
[書 評]	E. J. ホップスボーム著 安川悦子, 水田洋訳 『市民革命と産業革命——二重革命の時代——』……………	飯田 鼎	87
	新野幸次郎著『現代市場構造の理論』……………	原 豊	91
61 卷 9 号 (1968 年 9 月)			
[論 説]	イタリアにおけるローザンヌ学派経済学 ——その基本的性格と学史上の位置について——……………	松浦 保	1
	戦前における企業別組合の展開——実態分析と歴史的検討——……………	小松 隆二	23
[資 料]	わが国の地方税制 (2) ——その問題点——……………	古田 精司	51
[書 評]	都築忠七著『エリーナー・マルクスの生涯 (1855~1898 年) ——ひとりの 社会主義者の悲劇——』……………	飯田 鼎	64
	丹羽春喜著『共産圏の貿易構造』……………	加藤 寛	68
	都留重人編『現代資本主義と公害』……………	鈴木 守	72
61 卷 10 号 (1968 年 10 月)			
[論 説]	独占形成期における労資関係と労働組合運動 (その一) ——イギリス鉄鋼業を中心として——……………	飯田 鼎	1
	ラーニング効果と誘発革新の理論……………	宮尾 尊弘	30

[研究ノート]	外部効果の特質とその政策的含意について……………鈴木 守	50
	英国大不況期研究の一視角……………栗本慎一郎	65
[学界展望]	西ドイツにおける都市発生の段階規定論争(中) ——C・ハーゼ「ヴェストファーレン諸都市の発生」をめぐって——……………寺尾 誠	81
[書評]	パートン・R・ポリン編『ゴドウィン論評書——総文献目録——』……………藤川 正信/白井 厚	96
	フリッツ・クムプフ著『レーニンの帝国主義分析における弁証法の諸問題 ——弁証法的論理学のための一研究——』……………倉田 稔	104
61 卷 11 号 (1986 年 11 月)		
[論説]	「総評」運動史における国鉄労働組合 ——「国鉄二〇年史」によせる——……………飯田 鼎	1
	世界貿易拡大のための諸政策——関税一括引下げを中心として、その一——……………佐々波楊子	20
	わが国における労働組合の組織と機能(上) ——大正・昭和初期における展開——小松 隆二	49
[学界展望]	世界恐慌期におけるドイツの財政過程に関する戦後の研究動向……………大島 通義	77
[書評]	バーバラ・ウォード, P. T. バウアー著 山岡喜久男, 鐘ヶ江彰訳 『低開発国援助論争』……………矢内原 勝	96
	田村秀夫著『イギリス・ユートピアの原型——トマス・モアと ウィンスタンリ——』……………白井 厚	101
61 卷 12 号 (1968 年 12 月)		
[論説]	被爆者生活の構造的特質 ——広島地域における面接調査を中心として——……………中鉢 正美	1
	独占形成期における労資関係と労働組合運動(その二) ——イギリス綿工業——……………飯田 鼎	29
	近世初頭東都イングランドにおけるウーステッド毛織物工業……………安元 稔	57
[研究ノート]	初期マルクスにおける「理念」(上)……………野地 洋行	107
[学界展望]	マーケティング地理学(I) ——その系譜と展望——……………高橋潤二郎	120
62 卷 1 号 (1969 年 1 月)		
[論説]	経済理論の検証について(再論) ——特に K. R. ポパーに関連して——……………富田 重夫	1
	臨界核所得分布による勤労家計の労働供給の分析……………小尾恵一郎	17
	最適成長理論における耐久財の用途配分問題……………宮尾 尊弘	46
[資料]	明治 10 年代における製糸資本の生成と村落構造の変化(I)……………高山 隆三	69
	戦前八幡製鉄所における労働事情——面接聴取記録——……………島田 晴雄	79
[学界展望]	西ドイツにおける都市発生の段階規定論争(下) ——C. ハーゼ「ヴェストファーレン諸都市の発生」をめぐって——……………寺尾 誠	92
[書評]	G. ウッドコック著 白井厚訳『アナーキズム』……………飯田 鼎	106
62 卷 2 号 (1969 年 2 月)		
[論説]	アドルフ・ワグナーの「財政学」における主要課題の解釈……………高木 寿一	1
	AFL 組合主義への挑戦——1900~1914 年における対立と斗争——……………川田 寿	29
	わが国における労働組合の組織と機能(下) ——大正・昭和初期における展開——……………小松 隆二	46
	コングロマリット企業の市場支配力——独占価格にかんする一考察——……………増田 寿男	63
[研究ノート]	デ・ピエトリートネリによる『パレートの経済均衡』の位置づけ……………松浦 保	82
	ヴィクセルの財政理論について(I)……………飯野 靖四	87

〔書評〕	パウル・フレーリヒ著 伊藤成彦訳 『ローザ・ルクセンブルク——その思想と生涯——』……………	飯田 鼎	96
62 卷 3 号 (1969 年 3 月)			
〔論説〕	産業社会における組織の問題……………	青沼 吉松	1
	アメリカ西部公有地処分の実態——ネブラスカ州ゲイジ郡の例——……………	岡田 泰男	17
	不確実性と均衡分析……………	市石 達郎	36
	1535 年におけるイギリス修道院の経済状態——Valor Ecclesiasticus——……………	今関 恒夫	61
〔研究ノート〕	低開発国の型ないし分類……………	矢内原 勝	82
〔学界展望〕	イギリス労働運動史研究の動向 ——ホップスポウム「イギリス賃労働史研究」によせる——……………	飯田 鼎	93
〔書評〕	吉武清彦著『イギリス産業国有化政策論』……………	丸尾 直美	101
62 卷 4 号 (1969 年 4 月)			
〔論説〕	1920 年代におけるアメリカ労使関係の展開……………	川田 寿	1
	新古典派的成長と貨幣——その 1・貨幣の中立性について——……………	宮尾 尊弘	24
	最近におけるわが国の労働移動と賃金変動……………	島田 晴雄	32
〔資料・研究ノート〕	「スミスとリスト」の問題と「マルクスとヴェーバー」の問題 ——住谷一男氏の「『スミスとリスト』から『マルクスとヴェーバー』へ」によせて——……………	飯田 鼎	67
	明治 10 年代における製糸資本の生成と村落構造の変化 (II)……………	高山 隆三	83
〔書評〕	佐藤金三郎著『『資本論』と宇野経済学』……………	飯田 裕康	95
62 卷 5 号 (1969 年 5 月)			
〔論説〕	投資行動にかんするマルクス理論 (1)……………	井村喜代子	1
	信用制度と株式会社——信用論における「株式会社」——……………	飯田 裕康	34
	新古典派的成長と貨幣——その 2・定差方程式による分析——……………	宮尾 尊弘	59
	高等教育投資の利潤地代と企業内教育からの社会的収益の推計……………	林 英明	76
〔書評〕	羽仁五郎著『都市の論理——歴史的條件=現代の闘争——』……………	飯田 鼎	94
62 卷 6 号 (1969 年 6 月)			
〔論説〕	独占資本主義段階における社会政策と労働力政策 ——1920 年「労働組合法案」をめぐって——……………	飯田 鼎	1
	法人税帰着の実証分析——マークアップ・時系列モデル: Gordon モデル——……………	古田 精司	23
	投資行動にかんするマルクス理論 (2)……………	井村喜代子	41
	寡占企業の投資行動——独占資本主義段階における資本蓄積 (1)——……………	北原 勇	77
〔資料〕	明治 10 年代における製糸資本の生成と村落構造の変化 (III)……………	高山 隆三	111
〔書評〕	ピエール・フージェイロラ著『人間の近代化——セネガルの例』……………	矢内原 勝	126
	ジェームス・I・ナカムラ著 宮本又次監訳『日本の経済発展と農業』……………	穂本 洋哉	129
62 卷 7 号 (1969 年 7 月)			
〈平井新教授退任記念特集号〉			
〔論説〕	国家独占資本主義形成期における社会政策と労働力政策 ——「労働者災害扶助法案」および「退職手当積立法案」をめぐって——……………	飯田 鼎	1
	女性解放思想史上におけるメアリ・ウルストンクラフト……………	白井 厚	22
	初期マルクスにおける貨幣の批判——宗教批判から経済学批判へ——……………	野地 洋行	53



ヒルファディング経済学における理論と歴史

——『金融資本論』の学説史的評価をめぐって——	飯田 裕康	67
ジャン・ジョレス——経済思想を中心に——	村田 光義	85
平井新名誉教授略歴および著作目録		103

62 卷 8 号 (1969 年 8 月)

〈寺尾琢磨教授退任記念特集号〉

〔論 説〕	日本の人口の現在と将来	寺尾 琢磨	1
	南北問題と太平洋経済圏	山本 登	14
	最近わが国における生産性・賃金・物価	鈴木 諒一	26
	人口転換をめぐる若干問題	安川 正彬	40
	産業連関表と国民所得統計の斉合性		
	——産業別マクロ・モデル作成と資料上の問題点——	黒田 昌裕／辻村江太郎	51
	賃金決定要素としての労働市場	佐野 陽子	69
	国内純移動人口の性・年齢階層別推計	西川 俊作	87
	世界貿易拡大のための諸政策——関税一括引下げを中心として(そのII)——	佐々波楊子	105
	農村物価指数の測定——理論と試算——	鳥居 泰彦	120
	企業の貨幣需要行動	井原 哲夫	139
〔研究ノート〕	家計の労働供給の一般図式について	小尾恵一郎	150
	レオンティエフ体系における技術構造	尾崎 巖	166
	回帰線導出の方法(続)	佐藤 保	176
	価格形成の計量分析	浜田 文雅	184
	板ガラス産業における企業行動	岩田 暁一	191
	分布ラグとアーモン・ウェイト	藁谷千鳳彦	201
	寺尾琢磨名誉教授略歴・著作目録		210

62 卷 9 号 (1969 年 9 月)

〔論 説〕	生産者均衡の純粹理論	福岡 正夫	1
	法人税帰着の計量分析——市場構造別・時系列モデル：試論モデル——	古田 精司	8
	企業内労働市場の構造について	井上 詔三	26
〔研究ノート〕	ヴィクセルの財政理論について〔II〕	飯野 靖四	44
〔学 界 展 望〕	マーケティング地理学(II)——その系譜と展望——	高橋潤二郎	53
〔書 評〕	R. チョーリナー, B. リプリー著		
	『炭坑夫組合——チャーターイストの時代におけるある労働組合』	飯田 鼎	68
	アラン・バーチ著『イギリス鉄鋼業経済史——1784年～1879年』	栗本慎一郎	71

62 卷10・11号 (1969 年 10・11 月)

〈宇尾野久教授追悼特集号〉

	宇尾野久君を憶う	高村 象平	1
	植民地ニュー・イングランドの一タウンについて		
	——サフィールド(マサチューセッツ)の場合——	中村 勝己	3
	近世諏訪地方における世帯規模の人口史的研究	速水 融	15
	近世前期における百姓夫役と家中普請役——美濃国大垣藩領を事例として——	安澤 秀一	47
	中世史家とアメリカ西部	岡田 泰男	76
	テューダー・スチュワート朝の都市経済		

	——ノリッジ市における新種毛織物工業——	安元 稔	84
	15・16世紀の工業発展上の経済・社会問題		
	——西独・社会経済史学会報告 I——	寺尾 誠	108
	13世紀イングランド軍制史上の一史料		
	——Inquest of Service in Time of the War of Wales, 1288		
	(Cheshire) について——	森岡敬一郎	134
	宇尾野久教授略歴・主要著書および論文		157
62 卷 12 号 (1969年12月)			
[論 説]	1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係		
	——1868年の「労働組合総評議会」(Trades Union Congress)の成立を		
	中心として〔1〕——労働組合運動内部の矛盾——	飯田 鼎	1
	生産と消費の矛盾(1)——恐慌論研究のために——	井村喜代子	18
	地理学的方法に関する一考察	高橋潤二郎	42
	コブーダグラス型生産函数のデュアルとしての利潤函数について	鳥居 泰彦	56
[研究ノート]	ヌルクセの均整成長命題について——多部門化の効果——	中沢 敏明	67
[書 評]	(同志社大学社会科学研究所『社会科学』別冊)		
	『帝国主義論の方法——諸理論の分析と展望』	飯田 裕康	76
	J. S. デューゼンベリ, G. フロム, L. R. クライン, E. クー編		
	『ブルッキングス・モデル』(第3部)——若干の追加研究報告——	鳥居 泰彦	78
63 卷 1 号 (1970年1月)			
[論 説]	1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係		
	——労働組合総評議会の成立について〔2〕——1867年の第2次選挙法改正をめぐって	飯田 鼎	1
	法人税帰着のクロス・セクション分析		
	——集中度・利潤率比モデル: Kilpatrick モデル——	古田 精司	17
	生産と消費の矛盾(2)——恐慌論研究のために——	井村喜代子	45
	鋼鉄への転換点におけるイギリス製鉄・鉄鋼業の一分析	栗本慎一郎	76
[研究ノート]	株式会社における所有と機能	飯田 裕康	99
[書 評]	リチャード・N・クーバー著『相互依存の経済学』		
	——大西洋共同体における経済政策——	深海 博明	106
63 卷 2 号 (1970年2月)			
	〈高木寿一教授退任記念特集号〉		
[論 説]	J. S. ミルの財政学説における若干の重要課題に関する解釈	高木 寿一	1
	ブリューニク政権における財政政策の指導	大島 通義	15
	法人税の短期的転嫁		
	——転嫁計量分析の先駆的作業としての K-M モデルのわが国産業への適用——	古田 精司	36
	財政モデルによる政策シミュレーション	西野 義彦	67
	マズグレイヴによるヴィクセルの租税帰着理論の定式化について	飯野 靖四	86
	高木寿一名誉教授略歴および著作目録		103
63 卷 3 号 (1970年3月)			
[論 説]	アメリカ労働運動の経済への影響	川田 寿	1
	1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係		

	——1868年の労働組合総評議会 (Trades Union Congress) の成立を中心 として〔3〕——「合同」主義 ('Amalgamated' principle) の意義について …… 飯田 鼎 20	
	国内純移動人口の検討 …… 西川 俊作 37	
〔研究ノート〕	アメリカ西漸運動 …… 中村 勝己 49	
	極大利潤追求の終焉と新しい企業目標 ——ガルブレイスの「新しい産業国家」における売上高最大成長率説の ひとつの解釈—— …… 小嶋 光昭 53	
〔ノート・ コメント〕	有効需要、過剰設備および物価水準——補充と訂正—— …… 田中 宏 59	
63 卷 4 号 (1970年4月)		
〔論 説〕	社会政策論の「再構成」の問題 ——再び『独占資本主義段階における社会政策と労働力政策』に関連して、 大河内一男、服部英太郎両氏の『戦時社会政策論』の再検討と批判—— …… 飯田 鼎 1	
	「社会主義経済法則論」について I ——「社会主義経済学」体系化の論理—— …… 平野 絢子 16	
	東南アジアの輸出伸長——東南アジア諸産業の比較優位—— …… 佐々波楊子 30	
	均衡点存在問題の新局面 …… 宇佐美泰生 46	
〔書 評〕	ダンカン・バイゼン著 『手織工——産業革命期におけるイングランド綿工業の一研究』 …… 飯田 鼎 70	
63 卷 5 号 (1970年5月)		
〔論 説〕	『経済学批判要綱』における商品論 …… 遊部 久蔵 1	
〔資料・ 研究ノート〕	1769年のAdam Smith ——Adam SmithのSir David Dalrymple, Lord Hailes宛未刊の手紙について—— …… 小池 基之 26	
	メアリ・ウルストンクラフトの伝記について …… 白井 厚 35	
	海外における法人税転嫁の実証分析 ——K-Mモデルの西ドイツとインドにおける適用—— …… 古田 精司 45	
〔書 評〕	土井正興著『スパルタクス反乱論序説』 …… 飯田 鼎 58	
	游仲勲著『華僑経済の研究』 …… 平野 絢子 61	
	滝好英著『日本の経済指数——理論と実際——』 …… 鳥居 泰彦 64	
63 卷 6 号 (1970年6月)		
〔論 説〕	1860年代におけるイギリス労働運動と労使関係 ——1868年の「労働組合総評議会」(Trades Union Congress) の成立を 中心として〔4〕——炭鉱労働組合、綿業労働組合の動向 …… 飯田 鼎 1	
	経済の基本的構造の決定 (一) ——投入・産出分析の手法による—— …… 尾崎 巖/石田 孝造 15	
	独占段階における停滞傾向——独占資本主義段階における資本蓄積 (2) —— …… 北原 勇 36	
	日本帝国主義下における「満州」への朝鮮人移動について …… 松村 高夫 61	
〔研究ノート〕	現代組織についての試論 …… 青沼 吉松 88	
〔書 評〕	ピアソン委員会報告 大来佐武郎監訳『開発と援助の構想』 …… 深海 博明 96	
	R. ヒルファディング著『金融資本論』(1968年版) …… 飯田 裕康 101	
	ジョン・ヒックス著『経済史の理論』 …… 岡田 泰男 104	

63 卷 7 号 (1970 年 7 月)			
[論 説]	アジアの新情勢と日本の経済協力の志向……………山本 登	1	
	利潤率と市場構造諸要因——日米に関する実証研究——……………植草 益	11	
[資料・研究ノート]	法人税転嫁の K-M 分析に対する批判と反批判……………古田 精司	55	
	明治 10 年代における養蚕・製糸村落の構造……………高山 隆三	71	
[書 評]	加藤祐治著『日本帝国主義下の労働政策』……………黒川 俊雄	82	
	『サミュエル・ゴンバース自伝——70 年の生涯と労働運動——』……………飯田 鼎	87	
63 卷 8・9 号 (1970 年 8・9 月)			
[論 説]	1860 年代におけるイギリス労働運動と労使関係 ——1868 年の「労働組合総評議会」(Trades Union Congress) の成立を 中心として [5] ——TUC の成立……………飯田 鼎	1	
	生産と消費の矛盾 (3) ——恐慌論研究のために——……………井村喜代子	15	
	南北問題の新展開と再反省——国連第 2 次開発の 10 年をめぐる根本的再検討——……………深海 博明	57	
[研究ノート]	能力主義と日本の特質……………青沼 吉松	77	
[書 評]	山崎功著『イタリア労働運動史』……………飯田 鼎	85	
	ゴードン・リード著『財政統制の政治学——下院の役割』……………大島 通義	88	
	諸田実著『クルップ——ドイツ兵器王国の栄光と崩壊』……………寺尾 誠	92	
	江波戸昭著『蚕糸業地域の経済地理学的研究』……………高山 隆三	97	
63 卷 10 号 (1970 年 10 月)			
[論 説]	生産と消費の矛盾 (4) ——恐慌論研究のために——……………井村喜代子	1	
	新生産部門形成と拡大再生産の進展 ——独占資本主義段階における資本蓄積 (3) ——……………北原 勇	30	
[資料・研究ノート]	イギリス労働組合の現状 (1) ——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairman: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として——……………飯田 鼎	57	
	国際経済学における資源問題 (その 1) ——国際資源学設立のころみ——……………深海 博明	67	
[学 界 展 望]	ゲイツ教授とアメリカ公有地史……………岡田 泰男	74	
[書 評]	中村通義著『株式会社論』……………飯田 裕康	84	
63 卷 11 号 (1970 年 11 月)			
[論 説]	戦後日本労働運動史の研究方法について ——戦後労働組合運動の戦前との連続性の問題に関連して——……………飯田 鼎	1	
	新古典派的経済成長モデルにおける競争均衡……………長名 寛明	17	
[研究ノート]	カナダモデル RDX1 の分析……………蓑谷千風彦	28	
	インフレ財政の Welfare Cost を考慮に入れた最適成長理論……………山田 太門	42	
[学 界 展 望]	最近の「マックス・ヴェーバー研究」を読む (内田芳明「ヴェーバー社会科学の基礎研究」、住谷一彦「リストとヴェーバー」、 林道義「ヴェーバー社会学の方法と構想」、安藤英治、内田芳明、住谷一彦 「マックス・ヴェーバーの思想像」)……………飯田 鼎	51	
[書 評]	B. H. スリッヘル・ファン・バート著 速水融訳『西ヨーロッパ農業発達史』……………梅村 又次	60	
	鎌倉孝夫著『資本論体系の方法』……………飯田 裕康	63	

63 卷 12 号 (1970 年 12 月)			
[論 説]	性別労働需要模型 (1) ——自律的労働市場模型の研究——	小尾恵一郎／平田 浩稔	1
[研究ノート]	国際経済学における資源問題 (その 2) ——国際資源学設立のころみ——	深海 博明	17
	イギリス産業革命期の生活水準		
	——ハートウェル=ホブズボーム論争を中心として——	松村 高夫	25
	亡命者同盟について——『共産党宣言』前史の一断片——	蔦木 能雄	38
[書 評]	北島正元編『製糸業の展開と構造——幕末・維新时期諏訪についての調査報告——』	高山 隆三	50
	クラメル著『計量経済学の応用』	浜田 文雅	52
64 卷 1 号 (1971 年 1 月)			
[論 説]	ソビエト経済成長の型——日本との比較——	加藤 寛	1
	農産物価格の測定	鳥居 泰彦	17
	投資財生産と最適貿易	中沢 敏明	29
[資 料]	イギリス労働組合の現状 (2)		
	——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairman: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として——	飯田 鼎	41
[書 評]	『総同盟五十年史』第三卷 (総同盟五十年史刊行委員会)	飯田 鼎	49
	『新産別の二十年史』I, II (新産別二十年史編纂委員会)	飯田 鼎	49
64 卷 2・3 号 (1971 年 2・3 月)			
[論 説]	性別労働需要模型 (2) ——自律的労働市場模型の研究——	小尾恵一郎／平田 浩稔	1
	「生産と消費の矛盾」と産業循環 (1)	井村喜代子	20
[研究ノート]	フランス語版『資本論』第一巻第一章「商品」の研究		
	——ドイツ語本文との比較対照——	遊部 久蔵	54
	セカンド・ベスト定理と経済政策	鈴木 守	66
	近世農村社会における人口増加と経済——長州藩の場合——	穂本 洋哉	70
[書 評]	J. ハバーマス著『イデオロギーとしての技術と学問』	寺尾 誠	81
64 卷 4 号 (1971 年 4 月)			
[論 説]	価格調節関数と存在定理——一つの注解——	福岡 正夫／宇佐美泰生	1
	独占資本主義段階における労働組合運動と労使関係, 社会主義運動と労働者政党		
	——1890~1914 年の時期のイギリス (その 1) ——	飯田 鼎	8
	主成分分析の地理学的応用——都市化による地域区分——	高橋潤二郎	25
	明治年間の静岡県における農村労働市場	斎藤 修	46
[研究ノート]	国際経済学における資源問題 (その 3) ——国際資源学設立のころみ——	深海 博明	79
[書 評]	東畑精一監修, 矢野誠也編『アジアの経済成長』	深海 博明	93
64 卷 5 号 (1971 年 5 月)			
[論 説]	日本のモデル生命表	安川 正彬	1
	「販売努力」と再生産——独占資本主義段階における資本蓄積 (4) ——	北原 勇	38
	技術生産と研究企業	北川 浩二	74
[資料・研究ノート]	イギリス労働組合の現状 (3)		
	——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairman: The Rt. Hon.		

	Lord Donovan) の紹介と分析を中心として——	飯田 鼎	98
	手塚富雄, 千田是也, 岩淵達治監修		
	『ゲオルク・ビューヒナー全集全一卷』に寄せて	葛木 能雄	105
[書評]	ジョン・ラヴェル著		
	『1870年から1914年に至るまでの波止場労働者とドック労働者』	飯田 鼎	113
	ロイ・グリーゴリー著『1906年から1914年までの炭坑夫とイギリスの政治』	飯田 鼎	113
	ドナルドスン著『公有地史』	岡田 泰男	116
	池田信著『日本機械工組合成立史論』	小松 隆二	119
64 卷 6 号 (1971 年 6 月)			
[論説]	パレート最適と競争均衡	福岡 正夫	1
	パリ・コミュニケーションとその現代における歴史的意義		
	——パリ・コミュニケーション 100 年記念に想う——	飯田 鼎	9
[研究ノート]	「政治的正義」の成立過程	白井 厚	29
	有効需要と経済成長	川島 康男	37
[書評]	E. A. リグリー著 速水融訳『人口と歴史』	寺尾 誠	43
	E. L. ジョーンズ, S. J. ウルフ編		
	『農業の変化と経済発展——その歴史的諸問題——』	斎藤 修	53
64 卷 7 号 (1971 年 7 月)			
[論説]	コアと競争均衡	福岡 正夫	1
	「生産と消費の矛盾」と産業循環 (2)	井村喜代子	11
	プライス・リーダーシップ	植草 益	51
[資料・研究ノート]	明治初期における労働者階級の状態にかんする資料		
	——「明治前期の都市下層社会」および「職工および鉱夫調査」について——	飯田 鼎	75
	ヴィクセルの財政理論について [Ⅲ]	飯野 靖四	84
[書評]	竹前栄治著『アメリカ対日労働政策の研究』	飯田 鼎	90
	大原社会問題研究所『日本労働年鑑』第 22 集——戦後特集——	飯田 鼎	90
	斎藤真・永井陽之助・山本満編『戦後資料・日米関係』	飯田 鼎	90
	ドライムス著『計量経済学——統計的基礎と応用』	蓑谷千風彦	93
	徳永重良著『労働問題と社会政策論』	野口 建彦	97
64 卷 8 号 (1971 年 8 月)			
	〈高村象平教授退任記念特集号〉		
	あこのころの高村先生	服部謙太郎	1
	経済史四十年	高村 象平	3
[論説]	幕末経済論の一研究——経世家としての広瀬淡窓——	島崎 隆夫	261
		(逆丁)	
	イギリス産業革命とアメリカ資本主義	中村 勝己	16
	御金蔵為替の成立についての一考察	新保 博	29
	工業化と国際関係の変容	琴野 孝	40
	自主地 分与地 世襲地	渡辺 國廣	53
	徳川後期人口変動の地域的特性	速水 融	67
	大名領国の経済分析——徳島藩を素材として——	安澤 秀一	81
	近世後期における百姓分散について	安澤 みね	95

	針金工業町アルテナ——その発生史的研究——	寺尾 誠	113
	一農民の日記より見たるニュー・ヨーク農業の変遷	岡田 泰男	154
	エリザベス朝におけるピューリタン運動	今関 恒夫	169
	イングランドの中世都市——デヴォンシャーにおける borough——	安元 稔	180
	19世紀前半ブラックカンントリー製鉄業における技術改革の導入について	栗本慎一郎	199
	報徳社運動のクロノロジ		
	——19世紀後半における経済的变化への農民の対応——	斎藤 修	219
	高村象平名誉教授年譜		262
	高村象平名誉教授著作目録		265
64 卷 9 号 (1971 年 9 月)			
[論 説]	独占資本主義段階における労働問題と社会政策		
	——社会政策論の再構成にかんして、徳永氏の社会政策論の批判——	飯田 鼎	1
	消費財および金融資産の同時選択の理論	白井 功	15
[研究ノート]	アメリカにおけるオウエンとオウエン主義者たち		
	——オウエン生誕 200 年に寄せて——	白井 厚	25
	回帰分析の方法——主成分分析の応用——	佐藤 保	33
	日本帝国主義下における「満州」への中国人移動について		
	——「満州国」成立以降における対満中国人移動政策史——	松村 高夫	39
	教育と経済成長	川島 康男	51
	新古典派的経済成長と国債	大杉 一郎	60
64 卷 10 号 (1971 年 10 月)			
	〈川田寿教授退任記念特集号〉		
	労使関係国際比較研究	川田 寿	1
	川田寿君と私——若き日の思い出——	伊東 岱吉	11
[論 説]	生活構造論おぼえがき	中鉢 正美	23
	産業民主主義と労働者管理の思想	飯田 鼎	32
	産業循環と相対的過剰人口・賃金	井村喜代子	47
	全国労働組合自由連合会小史——全国大会(第 1~4 回)を中心に——	小松 隆二	79
	社会変動の理論に関するおぼえがき	二瓶 恭光	100
	イギリス旧救貧法——「定住法」——にかんするノート	松村 高夫	110
	川田寿前教授略歴および著作目録		130
64 卷 11 号 (1971 年 11 月)			
	〈限界革命百年記念特集〉		
[論 説]	オーストリア学派の経済学方法論	気賀 健三	1
	メンガー財論の基本的問題	遊部 久蔵	18
	価格決定における需要の役割	福岡 正夫	44
	ワルラスとパレート	松浦 保	51
64 卷 12 号 (1971 年 12 月)			
[論 説]	利用と所有	渡辺 國廣	1
	ヴィクセルの租税帰着理論について		
	——マスケレイヴによる定式化の検討を中心にして——	飯野 靖四	16

	労使関係および経済における民主主義プロセス		
	——高度工業社会における参加、共同決定ならびに産業民主主義——	永山 泰彦	35
[研究ノート]	ビュロークラシーとプロフェッショナルリズム	青沼 吉松	57
	丸山思想史学の批判的再評価		
	——日本近代社会経済思想史の方法と対象にかんする省察と提言(一)の(2)——	田中 明	65
	ヴィクセルの財政理論について〔IV〕	飯野 靖四	72
[書評]	大河内一男解説『職工事情』(生活古典叢書4)	飯田 鼎	79
	籠山京解説『女工と結核』(生活古典叢書5)	飯田 鼎	79
<b>65 卷 1 号</b>	(1972 年 1 月)		
[論説]	「生産と消費の矛盾」と産業循環(3)	井村喜代子	1
	賃金市場の制度的側面	井上 詔三	41
[研究ノート]	日立従業員組合をめぐって——戦前における企業別組合の事例として——	小松 隆二	65
[書評]	関谷耕一解説『月島調査』(生活古典叢書6)	飯田 鼎	74
	中鉢正美解説『家計調査と生活研究』(生活古典叢書7)	飯田 鼎	74
	氏原正治郎解説『余暇生活の研究』(生活古典叢書8)	飯田 鼎	74
	村上敦著『開発経済学』	深海 博明	76
<b>65 卷2・3号</b>	(1972 年 2・3 月)		
[論説]	明治・大正年間の人口推計と人口動態	安川 正彬/広岡桂二郎	1
	近世イングランドの都市工業——エクセター市における毛織物工業——	安元 稔	29
	「労働力商品の特殊性」と「労働問題」研究の方法について——試論——	野口 建彦	63
[研究ノート]	ヨーロッパ労働運動史の研究状況		
	——オーストリア国リンツにおける国際労働運動歴史家会議第7回大会に出席して——	飯田 鼎	110
[書評]	安藤良雄・山本弘文解説『興業意見他前田正名関係資料』(生活古典叢書1)	飯田 鼎	118
<b>65 卷 4 号</b>	(1972 年 4 月)		
[論説]	独占資本主義段階における労働問題と社会政策(その2)		
	——最低賃金制と社会保険との関係を中心として(I)——	飯田 鼎	1
	我国の法人税政策の変更に対する限界企業の利益流出ビヘイビア		
	——M. S. フェルドスタインの検証の我国への適用——	堀内 昇	19
	ヴィクセルの租税帰着理論について(I)	飯野 靖四	43
[研究ノート]	アメリカ自動車産業における労使関係の事例—I—	二瓶 恭光	59
	日本労働組合総連合運動をめぐって(1)		
	——アナ・ボル論争の意味するもの——	小松 隆二	66
[書評]	二瓶恭光著『草の根の団結——三池における人間の記録』	飯田 鼎	75
	佐野稔著『イギリス産業別組合成立史』	大塚 忠	77
<b>65 卷 5 号</b>	(1972 年 5 月)		
[論説]	南北問題の進展とアジアの地域主義	山本 登	1
	社会政策研究の現代的課題		
	——社会政策学会年報「社会政策と労働経済学」に関連して、社会政策論の再構成を想う——	飯田 鼎	14
	フランス革命と地役権	渡辺 國廣	26
	ヴィクセルの租税帰着理論について〔II〕	飯野 靖四	41
[研究ノート]	日本労働組合総連合運動をめぐって(2)		



	——アナ・ボル論争の意味するもの——	小松 隆二	66
[書 評]	三木興吉郎編『阿波藍譜・精藍事業篇』	小池 基之	74
	満州史研究会編『日本帝国主義下の満州』		
	——「満州国」成立前後の経済研究——	平野 絢子	77
65 卷 6 号 (1972 年 6 月)			
[論 説]	KORF モデル I による乗数分析——戦後日本経済の財政・金融政策の効果——	浜田 文雅	1
	イングランド北東部解散修道院の土地処分	中野 忠	32
[資 料]	ニュー・ヨーク農民の日記, 1850 年	岡田 泰男	65
[書 評]	隅谷三喜男編著『日本職業訓練発展史——先進技術土着化の過程——』(上下)	飯田 鼎	80
	アーヴィン B. クレイビス ロバート E. リプシイ著		
	『世界貿易における価格競争力』	佐々波楊子	82
65 卷 7 号 (1972 年 7 月)			
[論 説]	コアによる競争均衡の近似について	福岡 正夫	1
	政策目標としての経済成長	北川 浩二	9
[資 料]	イギリス労働組合の現状 (4)		
	——いわゆる「ドノヴァン報告」(Royal Commission on Trade Unions and Employers' Associations, 1965-1968, Chairman: The Rt. Hon. Lord Donovan) の紹介と分析を中心として——	飯田 鼎	34
[書 評]	安澤秀一著『近世村落形成の基礎構造』	速水 融	43
	安田三郎著『社会移動の研究』	斎藤 修	45
	T. C. スミス著, 大塚久雄監訳『近代日本の農村的起源』	大貫 朝義	48
65 卷 8 号 (1972 年 8 月)			
[論 説]	フランス革命の土地所有	渡辺 國廣	1
	独占資本主義の対外膨張と資本蓄積 (上)	北原 勇	17
	社会経済システムの公平性	安田八十五	36
[研究ノート]	最適システム論の形成をめざして——比較経済体制論の新しい方向——	島 和俊	50
[書 評]	タイル著『計量経済学の原理』	蓑谷千風彦	59
65 卷 9 号 (1972 年 9 月)			
[論 説]	黎明期の経済学研究と福沢諭吉 (その一) ——日本経済学史研究序説——	飯田 鼎	1
[研究ノート]	発展計画と外国貿易	大山 道広	18
	自然環境保全のための経済政策	鈴木 守	25
[学 界 展 望]	ロバート・オーエン研究にかんする最近の動向——'Robert Owen, Prophet of the Poor, Essays in Honour of the Two Hundredth Anniversary of his Birth', edited by Sidney Pollard and John Salt, with an Introduction by Sidney Pollard, 1971, London を中心として——	飯田 鼎	34
[書 評]	赤羽裕著『低開発経済分析序説』	矢内原 勝	42
	中西市郎, 岩野茂道著『国際金融論の新展開』	深海 博明	44
	米川伸一著『イギリス地域史研究序説』	安元 稔	49
65 卷 10 号 (1972 年 10 月)			
[論 説]	生活構造変化の現代的課題	中鉢 正美	1

	地租改正と村落構造の変化(一)……………	高山 隆三	19
	ホームステッド法の効果——ネブラスカ州ゲイジ郡の場合——……………	岡田 泰男	38
[資 料]	ルードルフ・ヒルファディングの伝記的新資料……………	倉田 稔	54
[書 評]	E. バウムガルテン著 生松敬三訳『マックス・ヴェーバー, 人と業績』……………	飯田 鼎	61
	パウル・ホーニヒスハイム著 大林信治訳『マックス・ヴェーバーの思い出』……………	飯田 鼎	61
	安藤英治著『ヴェーバー紀行』……………	飯田 鼎	61
	市川弘勝, 岩尾裕純編著『70年代の日本中小企業』……………	大林 弘道	63
65 卷 11 号 (1972年11月)			
[論 説]	黎明期の経済学研究と福沢諭吉(その二)——日本経済学史研究序説——……………	飯田 鼎	1
	設備投資と外部資金調達(1)——一つの予備的分析——……………	浜田 文雅	14
	市場のゆがみと経済厚生(I)……………	川又 邦雄	37
[研究ノート]	地理的イメージと人間行動……………	高橋潤二郎	52
	「正義者同盟」の理論的基礎……………	蔦木 能雄	63
65 卷 12 号 (1972年12月)			
[論 説]	発展途上国経済発展の二部門モデル……………	矢内原 勝	1
	国有地とフランス革命……………	渡辺 國廣	22
	産業構造と貿易構造の変化——産業連関分析の手法による——……………	尾崎 巖/相良 隼二	38
[資 料]	Trade and Development ——Cambridge Conference on Development, 1972——……………	深海 博明	63
66 卷 1 号 (1973年1月)			
[論 説]	1905年のロシア革命と日本の社会主義 ——ヨーロッパ労働運動の日本の社会主義への影響——……………	飯田 鼎	1
	設備投資と外部資金調達(2)……………	浜田 文雅	20
	企業の行動目標と企業課税……………	古田 精司	42
[研究ノート]	フォルスト考——所謂「フォルスト問題」についての素描——……………	影山 久人	59
	試論: イタリア資本主義の発達と大衆運動 ——19世紀末の農民問題を中心に——……………	横山 隆作	68
[書 評]	ヴィルヘルム・アーベル著 寺尾誠訳『農業恐慌と景気循環——中世中期 以来の中欧農業及び人口扶養経済の歴史——』……………	斎藤 修	82
66 卷2・3号 (1973年2・3月)			
[論 説]	市場均衡の安定性 I——序論的考察——……………	福岡 正夫	1
	財政政策と賠償問題——プリューニク財政の一考察——……………	大島 通義	19
	紙パルプ産業の在庫・生産決定モデル——産業モデル序説——……………	鳥居 泰彦	53
	市場のゆがみと経済厚生(II)……………	川又 邦雄	83
66 卷 4 号 (1973年4月)			
[論 説]	独占資本主義段階における労働組合運動と労使関係, 社会主義運動と労働者政党(その2)……………	飯田 鼎	1
	パレート研究の現代的意義……………	松浦 保	22
[資 料]	ギロチン社とその人々(その一)——日本アナキズム運動史料(1)——……………	小松 隆二	33
[学 界 展 望]	近世鉄山業の研究動向と展望(一)		

	——武井博明『近世製鉄史論』を中心として——	大貫 朝義	41
	売上高極大化仮説	三枝 幸文	58
66 卷 5 号 (1973 年 5 月)			
[論 説]	独占資本主義の対外膨張と資本蓄積 (下)	北原 勇	1
	第 1 次大戦前におけるイギリス社会政策成立の政治・経済的背景		
	——自由党政権下の失業政策展開の必然性について——	大塚 忠	37
[研究ノート]	大逆事件における「近代」と「前近代」		
	——浜畑栄造「大石誠之助小伝」によせて——	飯田 鼎	82
	東欧社会主義経済における「経済改革」政策の基盤 I		
	——公式統計よりみたその特質と課題——	平野 絢子	88
[資 料]	ギロチン社とその人々 (その二) ——日本アナキズム運動史料 (1) ——	小松 隆二	107
66 卷 6 号 (1973 年 6 月)			
[論 説]	西アフリカの 아프리카人商人と市場 (上)	矢内原 勝	1
	資源と経済発展 (その 1) ——発展戦略の一つの再検討——	深海 博明	19
[研究ノート]	独占資本主義段階における労働運動の諸問題		
	——「労働運動史論集」(Essays in Labour History 1886-1923, edited by Asa Briggs and John Saville 1971, London) を読んで——	飯田 鼎	42
	東欧社会主義経済における「経済改革」政策の基盤 II		
	——公式統計よりみたその特質と課題——	平野 絢子	52
	市場機構と政治機構——外部性を中心に——	関谷 登	67
66 卷 7 号 (1973 年 7 月)			
[論 説]	日本労働運動の転換——春闘方式の歴史的意義とその再検討——	飯田 鼎	1
	西アフリカの 아프리카人商人と市場 (下)	矢内原 勝	17
	社会政策思想家による労働運動論の展開 (上)		
	——明治 38 年から大正 5 年まで——	池田 信	33
[研究ノート]	1920 年以前の人口移動——中部 4 県の寄留統計を使って——	斎藤 修	56
[資 料]	近世農民家族の規模と形態		
	——西濃, 浅草中村, 根古地新田の宗門人別改帳を素材として——	穂本 洋哉	65
[書 評]	深町郁弥著『所有と信用——貨幣・信用論の体系——』	飯田 裕康	85
66 卷 8 号 (1973 年 8 月)			
[論 説]	産業化の社会的背景	青沼 吉松	1
	フランス革命と入会部分	渡辺 國廣	18
	社会政策思想家による労働運動論の展開 (下)		
	——明治 38 年から大正 5 年まで——	池田 信	33
[研究ノート]	人間・環境系研究会の中間報告	中鉢 正美	47
	ヒルファディングの取引所論	倉田 稔	53
[資 料]	近世農民の行動観察		
	——西濃, 浅草中村, 根古地新田の宗門人別改帳を素材として——	穂本 洋哉	64
[書 評]	横山源之助全集第 1 卷——『日本の下層社会』	飯田 鼎	77
	ハイマン・カプリン著, 辻野功, 高井寿美子, 鈴木則子訳		
	『アジアの革命家, 片山潜』	飯田 鼎	77

66 卷 9 号 (1973 年 9 月)	
〔論 説〕	ドイツ新歴史学派の導入と日本資本主義 ——明治前期における労働問題認識と新歴史学派経済学—— …… 飯田 鼎 1 先進国型国際分業のメカニズム——工業製品貿易についての一試論—— …… 佐々波楊子 16 短期中期長期貸出をもつ現物経済における「一時的均衡」の存在 …… 瀬古 美喜 36 効用函数の論理的基礎 …… 丸山 徹 69
〔研究ノート〕	東欧社会主義経済における「経済改革」政策の基盤Ⅲ …… 平野 絢子 82
〔書 評〕	ハナ・アーレント著 大島通義, かおり訳『全体主義の起源 2. 帝国主義』 …… 大塚 忠 91
66 卷 10 号 (1973 年 10 月)	
〔論 説〕	フランス革命の土地問題 …… 渡辺 國廣 1 家計調査における所得分布と世帯成員数の関連 …… Ross E. Mouer 16 耐久消費財の需要分析——飽和点と多様化の問題について—— …… 森泉 陽子 35
〔研究ノート〕	日本資本主義像への反省——その現代像から歴史像へ—— …… 尾城太郎丸 48 「局地的市場」仮設の方法的検討 …… 寺尾 誠 58 公共財の理論——制度的側面からの再検討—— …… 黒川 和美 72
〔学 界 展 望〕	近世鉄山業の研究動向と展望 (二) ——武井博明『近世製鉄史論』を中心として—— …… 大貫 朝義 85
〔書 評〕	フリッツ・フィッシャー著 村瀬興雄監訳 『世界強国への道 I——ドイツの挑戦, 1914—1918 年——』 (Griff nach der Welt-Macht——Die Kriegszielpolitik des Kaiserlichen Deutschland 1914/1918, von Fritz Fischer, Düsseldorf, 1961) …… 飯田 鼎 100
66 卷 11 号 (1973 年 11 月)	
〔論 説〕	日本の設備投資関数：展望 …… 浜田 文雅 1 外部性と競争均衡の最適性 …… 長名 寛明 19 経済発展と社会指標 …… 鶴野 公郎 36
〔書 評〕	K. E. ボルン著 鎌田武治訳『ビスマルク後の国家と社会政策』 (Karl Erich Born, Staat und Sozialpolitik seit Bismarcks Sturz) …… 飯田 鼎 76 熊谷一男『ドイツ帝国主義論』 …… 飯田 鼎 76 中村貞二『マックス・ヴェーバー研究』 …… 飯田 鼎 76 勝田龍夫著『中国借款と勝田主計』 …… 斎藤 寿彦 80
66 卷 12 号 (1973 年 12 月)	
〔論 説〕	明治の社会主義 (1) ——明治初期における社会主義思想の影響とくに東洋社会党をめぐる—— …… 飯田 鼎 1 フランスにおける土地所有と領主 …… 渡辺 國廣 15
〔研究ノート〕	フランス語版『資本論』第一巻第二章「交換過程」の研究 ——ドイツ語本文との比較対照—— …… 遊部 久蔵 30 公共財の最適供給と多数決原理 …… 山田 太門 38 公共投資の選択プロセス——伝統的モデルへの批判—— …… 大岩雄次郎 44
〔書 評〕	J. M. ブキャナン著『費用と選択——経済理論における探究——』 COST AND CHOICE An Inquiry in Economic Theory by J. M. Buchanan, Markham Publishing Company, Chicago, 1969, pp. 104, xv. …… 山田 太門 52

67 卷 1 号 (1974 年 1 月)	
[論 説]	「社会主義経済における計画化の構造と方法」について I……………平野 絢子 1 次善解の性質について……………川又 邦雄 14
[研究ノート]	独占資本主義段階における労働運動の諸問題 (続) ——「労働運動史論集」(Essays in Labour History 1886-1923, edited by Asa Briggs and John Saville 1971, London) を読んで——……………飯田 鼎 26 投票の矛盾 (Voting Paradox) の可能性と多数決原理に関するノート ——Arrow の一般可能性定理の現実的意味——……………関谷 登 33
[資 料]	公共経済の活動領域に関する覚書 [I] ……………古田 精司 46
[書 評]	鈴木圭介編『アメリカ経済史』……………中村 勝己 60
67 卷 2・3 号 (1974 年 2・3 月)	
[論 説]	明治の社会主義 (2) ——明治初期における社会主義思想の影響——……………飯田 鼎 1 雇用創出政策の成立……………大島 通義 15
[研究ノート]	英米経済史学界の動向……………中村 勝己 45 経済学 その新しい流れ (1) ——J. M. ブキャナンを中心に——……………黒川 和美 52
67 卷 4 号 (1974 年 4 月)	
[論 説]	社会政策の理論にかんする若干の覚書——概念と体系を中心に——……………小松 隆二 1 労働市場の一般均衡理論——産業・職種別賃金格差の分析——……………鳥居 泰彦 15
[研究ノート]	集合財と公共的供給財……………川野辺裕幸 41 計画問題における影の価格とその計算可能性について (その 1) ……………細野 助博 53
[書 評]	森田勉『初期社会主義思想の形成』……………蔦木 能雄 64
67 卷 5 号 (1974 年 5 月)	
[論 説]	続フランスにおける土地所有と領主……………渡辺 國廣 1 貿易と成長の理論——2 部門 3 要素モデルによる——……………大山 道広 16 外部性と競争均衡の存在……………長名 寛明 41 遊休設備, 失業及び異質的資本財……………田中 宏 52
[資 料]	木曾湯舟沢村の人口統計——1675~1796 年——……………鬼頭 宏 62
67 卷 6 号 (1974 年 6 月)	
〈小池基之教授退任記念特集号〉	
[論 説]	アダム・スミスにおける農業・土地問題……………小池 基之 1 スミスにおける「価値の源泉」 ——『国富論』第 2 版の改訂箇所をめぐって——……………羽鳥 卓也 26 独占価格と物価——現代資本主義下の利潤分配替えのメカニズム——……………常盤 政治 43 社会主義経済の再生産構造と農業……………平野 絢子 66 元禄一享保期町人倫理の考察——西鶴以降の浮世草紙を中心として——……………島崎 隆夫 106 『文明論之概略』にいたる「風俗」の思想について ——丸山思想史学の批判的再評価——……………田中 明 127 維新変革と村落構造の改変……………高山 隆三 143 山村社会の成立・解体と親族組織——長野県下伊那郡松川入の事例——……………坂井 達朗 166 農業機械化の現段階的性格……………井上 完二 186 戦後地方財政改革と貧弱団体……………中山 精一 205

	アジアにおける食糧危機の構造——新植民地主義との関連のもとに——	中村 卓	219
	小池基之名誉教授略歴および著作目録		237
67 卷 7 号 (1974 年 7 月)			
[論 説]	ニュー・ヨークからアイオワへ (上) ——ある農民の西部移住——	岡田 泰男	1
	クーン=フーリエの定理と線型経済学	川又 邦雄	22
	Continuous Selection と不動点定理	丸山 徹	31
[研究ノート]	インドの経済開発政策——南アジア地域開発研究の一斑——	小島 真	38
[資 料]	17 世紀前半ヨークシャーにおける混合農業		
	——ヘンリー・ベストの農業経営文書の分析——	酒田 利夫	51
67 卷 8 号 (1974 年 8 月)			
[論 説]	日本の発展途上国に対する直接投資企業と国民化政策——アフリカの事例——	矢内原 勝	1
	ニュー・ヨークからアイオワへ (下) ——ある農民の西部移住——	岡田 泰男	21
[研究ノート]	余暇社会における労働問題	青沼 吉松	38
	公害の産業連関分析と一般均衡論	関 哲雄	48
[資 料]	クラークソン著「前工業化イングランドの経済 1500—1750」(一)		
	——第 1 章 経済の構造 1500—1750——	大貫 朝義/酒田 利夫	62
[書 評]	ジュディス・ハート『援助と解放——社会主義者の援助政治学研究』	平田 章	69
67 卷 9 号 (1974 年 9 月)			
[論 説]	『金融資本論』における信用論		
	——ヒルファディングの帝国主義把握との関連において——	飯田 裕康	1
	OLS, TSLS の小標本分布論について	松野 一彦	15
[研究ノート]	輸出一次産品加工工業化政策——ASEAN 諸国について——	高梨 和紘	36
[資 料]	租税の帰着——その問題点の展望——	古田 精司	49
	足尾鉍毒事件の調停成立——公害第 1 号事件の転機——	小松 隆二	61
[書 評]	デヴィッド・ヘイ著『シェフィールド地域の農村鉄加工業者』		
	——産業革命以前における農村工業の研究——	大貫 朝義	71
67 卷 10 号 (1974 年 10 月)			
〈伊東岱吉教授退任記念特集号〉			
[論 説]	中小企業研究の回顧と展望——私の学問遍歴——	伊東 岱吉	1
	スミスの価値論と「初期未開の状態」	羽鳥 卓也	31
	徳川後期における貨幣市場——金相場と為替打銀をめぐって——	新保 博	49
	食肉の価格設定における基準市場価格方式の成立条件	高橋伊一郎	71
	日本の中小企業論の社会的責任について		
	——マルクス主義的経済構造分析の姿勢を反省する——	尾城太郎丸	88
	独占資本主義における諸矛盾の編成と展開——独占資本主義論総括——	北原 勇	105
	寡占と中小企業競争の理論構造 (II)		
	——同一部門内の寡占と非寡占 (製粉業) ——	佐藤 芳雄	145
	企業利潤率の決定要因	植草 益	168
	自動回復力の喪失について——投資集中の問題に関連して——	増田 寿男	186
	経営代行制度の一検討	小池 賢治	197
	カール・ポラニの政治経済学と歴史認識	野口 建彦	212

	日本のサービス産業	横山 徹	227
	小売業の産業組織分析序説（その1）小売業の市場構造の諸特徴	伊藤 公一	242
	零細規模経営の増加についての分析	渡辺 幸男	254
	伊東岱吉名誉教授略歴および著作目録		271
67 卷 11 号 (1974 年 11 月)			
[論 説]	マルクスにおける労働概念の展開——「理念」から「労働」へ——	野地 洋行	1
	新規上場株式の公開価格に関するディスカウントとその発生要因	鈴木 貞彦	17
[研究ノート]	産業主義から人間主義へ	青沼 吉松	36
[資 料]	トマス・ジェファソンの新しい解釈 ——Fawn M. Brodie, Thomas Jefferson, An Intimate History, 1974 をめぐって——	白井 厚	44
	クラークソン著「前工業化イングランドの経済 1500—1750」(二) ——第 2 章 変化を取りまく環境——	大貫 朝義/酒田 利夫	55
[書 評]	ダーウィン・ケルシイ編『新国家における農業, 1790 年—1840 年のアメリカ農業』	岡田 泰男	66
67 卷 12 号 (1974 年 12 月)			
[論 説]	続々フランスにおける土地所有と領主	渡辺 國廣	1
	地租改正と村落構造の変化 (二)	高山 隆三	16
	文政期芸備 16 郡における「商品」生産と流通 ——近世鉄山業史研究への一視角——	大貫 朝義	35
[資 料]	二つの大正デモクラシー論——その今日的意味——	尾城太郎丸	78
[書 評]	R. S. ベンソン & H. ウォルマン編『カウンター・バジェット——変動する 国家目標のための設計 1971 年度～1976 年度——』	古田 精司	84
	林竹二著『田中正造——その生と戦いの「根本義」——』	小松 隆二	89
68 卷 1・2 号 (1975 年 1・2 月)			
[論 説]	市場均衡の安定性 II——粗代替財体系と大域的安定性——	福岡 正夫	1
	研究・技術開発と小零細企業「問題」	松村 彰	47
	海外投資と中小企業問題	大林 弘道	63
[研究ノート]	フランス語版『資本論』第一巻第三章第一節「価値の尺度」の研究 ——ドイツ語本文との比較対照——	遊部 久蔵	87
	ヒルファディングからレーニンへ——「純」経済学上の発展——	倉田 稔	94
[資 料]	クラークソン著「前工業化イングランドの経済 1500～1750」(三) 第 3 章「農業」	大貫 朝義/酒田 利夫	104
68 卷 3 号 (1975 年 3 月)			
〈気賀健三教授退任記念特集号〉			
	最終記念講義 わたくしの自由主義	気賀 健三	1
	第 I 部 経済政策の理論		
	組織と社会	青沼 吉松	15
	気賀先生の政策方法論の展開	加藤 寛	27
	経済政策の決定機構と産業民主主義——労働者参加の問題を中心として——	丸尾 直美	43
	公共政策と価値判断	鈴木 守	64
	工業化と技術選択	岸 真清	75

第 II 部 比較経済体制論			
	各国独禁法の比較研究 (I) ——基準と運用——	原 豊	100
	公企業政策の産業組織論的一試論		
	——イギリスにおける「ナショナル・ビジネス」論を中心として——	赤沢 昭三	108
	わが国地域開発政策の一試論	藤枝 省人	119
	最適労使関係論序説	永山 泰彦	135
	ソ連農業のパフォーマンス——1950年～72年の生産関数を中心にして——	鶴野 公郎	141
	公的欲求と経済機構——財政システムの比較分析——	島 和俊	152
	比較経済体制論の展開について	香川 敏幸	163
	気賀健三名誉教授略歴および著作目録		174
68 卷 4 号 (1975 年 4 月)			
[論 説]	社会福祉の理論をめぐって (1) ——社会政策と社会福祉——	小松 隆二	1
	公企業の予算制約条件の下における最適税率について	川又 邦雄	14
	ミクロとマクロの経済理論 I ——家計行動の分析——	大山 道広	26
	マクロ消費関数の計測	蓑谷千風彦	53
[資 料]	クラークソン著「前工業化イングランドの経済 1500～1750」(四)		
	第 4 章 工業	大貫 朝義/酒田 利夫	78
[書 評]	入江節次郎著『帝国主義論への道』	飯田 裕康	100
	森川洋著『中心地研究——理論, 研究動向および実証——』	高橋潤二郎	103
	アルバート・ブレトン著『代議政府の経済理論——代議政府の下における 公共目的のための課税と支出形態に関する先導的分析及び説明——』	関谷 登	106
68 卷 5 号 (1975 年 5 月)			
[論 説]	首都及び近畿圏における都市類型	高橋潤二郎	1
	社会福祉の理論をめぐって (2) ——社会政策と社会福祉——	小松 隆二	23
	宇野「恐慌論」の問題点	水谷 良夫	41
[資 料]	ニュー・ハーモニーの現状	白井 厚	56
	「フランスにおけるマルクス主義の導入」をめぐるゼヴァエスとドマンジェ (一)	野地 洋行	66
	クラークソン著「前工業化イングランドの経済 1500-1750」(五)		
	第 5 章 商業と交通 (1)	大貫 朝義/酒田 利夫	75
[書 評]	L. E. デイヴィス, D. C. ノース共著『制度変革とアメリカの経済成長』	鳥田 晴雄	84
68 卷 6 号 (1975 年 6 月)			
[論 説]	市場均衡の安定性 III ——粗代替財体系と局所的安定性——	福岡 正夫	1
	経済学における統計的認識 (1) ——計量経済学的方法的基礎——	蓑谷千風彦	22
[研究ノート]	日本人口の将来推計——人口静止への試算——	安川 正彬	42
	経済分析におけるコンピューターの誤差問題 (1)		
	——誤差問題の重大性とその分析方法——	鳥居 泰彦/新井 益洋	53
	アメリカ合衆国の産業連関表について	石田 孝造	63
	環境問題と経済成長	関 哲雄	78
68 卷 7・8 号 (1975 年 7・8 月)			
[論 説]	発展途上国への技術移転 (上)	矢内原 勝	1
	日本の貨幣市場モデル: 一つの経験的結果	浜田 文雅	13



[研究ノート]	経済分析におけるコンピューターの誤差問題 (2) ——誤差累積の法則——	鳥居 泰彦/新井 益洋	33
[書 評]	大石嘉一郎編『日本産業革命の研究』上 ——確立期日本資本主義の再生産構造——	尾城太郎丸	40
	H・タイトル著『消費者需要の理論と計測』第1巻	蓑谷千風彦	43
	ポール・W・パークレイ, デビット・W・セクラー共著 『環境経済学入門——経済成長と環境破壊——』	清水 雅彦	44
<b>68 卷 9 号 (1975 年 9 月)</b>			
[論 説]	発展途上国への技術移転 (下)	矢内原 勝	1
	1840 年代三田尻宰判の経済計算 (1)	西川 俊作/石部 祥子	17
[研究ノート]	経済分析におけるコンピューターの誤差問題 (3) ——回帰分析における精度——	鳥居 泰彦/新井 益洋	39
	消費支出構造に与える実物資産の効果——住居保有形態別による分析——	森泉 陽子	50
[書 評]	H. B. マトロシロヴァ著 三浦和男訳 『認識と社会——17・18 世紀の哲学史から——』	野地 洋行	59
<b>68 卷 10 号 (1975 年 10 月)</b>			
[論 説]	1840 年代三田尻宰判の経済計算 (2)	西川 俊作/石部 祥子	1
	戦時体制移行期における日本鉄鋼業の労働力編成と労務統轄 ——八幡製鉄所における経営・労務管理機構の「合理化」とその客観的条件——	青山 茂樹	27
[研究ノート]	社会主義経済における「計画と市場」論覚え書 ——『ソ連経済政策とその批判者たち』——	平野 絢子	55
[資 料]	大阪卸売物価指数 1757-1915 年	斎藤 修	63
[書 評]	テレザ・イゼンブルグ『フェルラーラ地方の干拓地における資本投下と 階級組織』(1872-1901 年)	横山 隆作	71
<b>68 卷 11・12 号 (1975 年 11・12 月)</b>			
[論 説]	統合と参加	青沼 吉松	1
	国際投資と国家利益——ある逆説への覚書——	大山 道広	16
	19 世紀中葉周防大島宰判の消費関数	穂本 洋哉	31
[研究ノート]	「信用の基本規定」をめぐって——一つの覚え書——	飯田 裕康	51
	二つのローザ・ルクセンブルク論 (1)	神代 光朗	60
	輸出の代替弾力性の計測——日・米貿易構造分析への一アプローチ——	浜口 登	67
[書 評]	古賀秀男著『チャーティスト運動の研究』	飯田 鼎	77
<b>69 卷 1 号 (1976 年 1 月)</b>			
[論 説]	市場均衡の安定性 IV ——非模索過程の安定分析——	福岡 正夫	1
	フランスにおけるマンス	渡辺 國廣	18
	直接投資を含む貿易の純粹理論——小国ケース——	寺崎 克志	28
[研究ノート]	二つのローザ・ルクセンブルク論 (2)	神代 光朗	44
[書 評]	高島善哉『マルクスとヴェーバー, 人間, 社会および認識の方法』	飯田 鼎	56
	奥村宏著『法人資本主義の構造——日本の株式所有——』	飯田 裕康	59

69 卷 2・3 号 (1976 年 2・3 月)			
[論 説]	均衡体系の変化の法則……………	福岡 正夫	1
	明治 10 年代の日本における経済学研究の一断面 ——住谷悦治著「ラーネット博士伝一人と思想」を読んで——……………	飯田 鼎	11
	地域的公共財に関する人口配分の最適化について……………	山田 太門	28
	可測多価写像の性質—C……………	丸山 徹	47
[研究ノート]	設備投資行動と稼働率の影響——第 2 次産業における非線型推定の実験例——……………	浜田 文雅	63
[書 評]	谷田庄三著『現代日本の銀行資本——金融再編成の論理と現実——』……………	飯田 裕康	70
69 卷 4 号 (1976 年 4 月)			
[論 説]	イギリス国民保険制度の形成過程 (その 1) ——社会事業と社会政策——……………	飯田 鼎	1
	間接金融を支えるものについて……………	村井 俊雄	17
	証券市場と資本所有——証券市場基礎理論への一視角——……………	飯田 裕康	31
	需要の不確実性下における労働者自主管理企業の理論……………	中島 巖	49
	好況過程における資本の蓄積様式……………	清水 正昭	67
[書 評]	内藤則邦著『イギリスの労働者階級』……………	飯田 鼎	88
	間宏著『イギリスの社会と労使関係』……………	飯田 鼎	88
	ジョン・シュレバッカー著『アメリカ農業史』……………	岡田 泰男	91
	デイヴィッド・スコープ著『アメリカ中西部の農業労働者』……………	岡田 泰男	91
	J・S・ニカーソン著『マルサス礼賛 (“HOMAGE TO MALTHUS”)」……………	鶴岡 慶	94
69 卷 5 号 (1976 年 6 月)			
[論 説]	効用理論史のなかのワルラス ——『要論』公刊百年を記念して——……………	福岡 正夫/丸山 徹	1
	イギリス国民保険制度の形成過程 (その 2) ——19 世紀末における社会思想と労働運動——……………	飯田 鼎	21
	産業内分業と国際貿易……………	佐々波楊子/浜口 登	40
	ヒットラー・国防軍・会計検査院……………	大島 通義	68
	経済学における統計的認識 (2) ——計量経済学的方法的基礎——……………	蓑谷千風彦	89
[研究ノート]	OLS, TSLS の小標本分布導出の一方法……………	松野 一彦	107
[資 料]	初期マルクスの周辺——人類と階級の間—— (1) ——都築忠七編「オーエンとチャーティズム——イギリス初期社会主義」 (平凡社) 1975 年を読む——……………	飯田 鼎	116
[書 評]	Lawrence R. Klein 著 “A Textbook of Econometrics second edition” ……	佐藤 保	123
	大石嘉一郎編『日本産業革命の研究』下 ——確立期日本資本主義の再生産構造——……………	尾城太郎丸	126
	菅野正・田原音和・細谷昂共著『稲作農業の展開と村落構造——山形県 西田川郡旧京田村林崎の事例——』……………	高山 隆三	130
	M・ニコルソン著 “Oligopoly and Conflict: A Dynamic Approach” ……	宇佐美泰生	134
69 卷 6 号 (1976 年 8 月)			
〈『国富論』刊行 200 年記念特集号〉			
[論 説]	経済学の始祖……………	高橋誠一郎	1
	アダム・スミスの中国・インド論……………	小池 基之	13
	いわゆる『国富論草稿』について……………	羽鳥 卓也	36

	「国富論」における社会科学的認識の意義について……………	飯田 鼎	54
	スミス経済学におけるスコラの要素……………	松浦 保	70
	スミスにおける信用の把握について——信用論的考察——……………	飯田 裕康	91
	スミス分業論と初期マルクス		
	——労働分割論と労働疎外論の関連についての考察——……………	野地 洋行	104
	マルクスによるスミス批判の構造		
	——『経済学・哲学草稿』でのスミスとマルクス——……………	山辺 知紀	118
69 卷 7 号 (1976 年 10 月)			
〔論 説〕	比較静学と定性経済学 I……………	福岡 正夫	1
	わが国における児童救護事業の成立——児童福祉発達史の一齣——……………	小松 隆二	23
	17 世紀ピューリタニズムの労働観		
	——重商主義者および A. スミスとの比較において——……………	今関 恒夫	39
	一時的均衡分析 (その 1) ……………	丸山 徹	55
〔研究ノート〕	地理学の理論に関するノート (1) ……………	高橋潤二郎	74
〔資 料〕	複合経営と農業協同組合		
	——複合経営を支える二つの農協についての調査報告——……………	常盤 政治	81
	アメリカにおける共同体……………	白井 厚	91
〔書 評〕	J. M. ブキャナン著『自由の限界』		
	——アナーキーとリヴァイアサンの間で——……………	関谷 登/黒川 和美	100
	アンリ・アツェル著『貧困から社会保障へ』		
	——フランスにおける社会保障の起原に関する試論 1850 年—1940 年——……………	中上 光夫	103
69 卷 8 号 (1976 年 12 月)			
〔論 説〕	イギリス国民保険制度の形成過程 (その 3)		
	——1880 年代における社会改良のイデオロギーと社会政策——……………	飯田 鼎	1
	トマス・ジェファソンの経済思想 (1) ……………	白井 厚	19
	一時的均衡分析 (その 2) ……………	丸山 徹	33
	住宅需要分析……………	森泉 陽子	52
〔研究ノート〕	地理学の理論について (2) ……………	高橋潤二郎	68
〔資 料〕	良知力編『資料ドイツ初期社会主義人同盟とヘーゲル左派』によせて……………	葛木 能雄	75
	徳川時代農村の乳児死亡——懷妊書上帳の統計的研究——……………	鬼頭 宏	88
	19 世紀初頭武蔵国における「地域」形成の一原理		
	——文化 2 年 (1805 年) 吉田家金銀出入帳——……………	小室 正紀	96
〔書 評〕	C. W. レビイス, W. C. J. グランジャー 入江成雄訳		
	『商品価格予測——アメリカ商品市場の研究——』……………	佐藤 保	114
	御園喜博著『現代農業経済論——小農経営の発展と変質——』……………	佐藤 鉄郎/寺山 道雄	117
70 卷 1 号 (1977 年 2 月)			
〔論 説〕	比較静学と定性経済学 II……………	福岡 正夫	1
	明治の社会主義 (3) ……………	飯田 鼎	37
	明治国家の思想としての「文明開化の特権」について……………	田中 明	51
	分権的交換過程と支払手段としての貨幣……………	浜田裕一郎	69
	Convex Analysis の二, 三の進展について……………	丸山 徹	97
〔書 評〕	M. デサイ『応用計量経済学』……………	蓑谷千風彦	120

フランク・ブレックリング著『投資と雇用の決定』……………宇佐美泰生 123

70 卷 2 号 (1977 年 4 月)

〈千種義人教授退任記念特集号〉

〔論 説〕	存在問題の再考察……………	福岡 正夫	1
	長期財政乗数についての覚え書……………	大熊 一郎	12
	競争と独占……………	富田 重夫	17
	忘れ去られていた数理経済学者——Giovanni Battista ANTONELLI——…	松浦 保	30
	危険回避と企業の資金調達計画……………	神谷 傳造	53
	所得分配の平等とその評価……………	川又 邦雄	67
	市場経済の定式化について……………	長名 寛明	83
	新古典派的投資理論について……………	田中 宏	94
	公共財部門における不均斉成長……………	山田 太門	105
	調整費用と企業の投資行動……………	宇佐美泰生	118
	千種義人名誉教授略歴および著作目録……………		125

70 卷 3 号 (1977 年 6 月)

〔論 説〕	第 1 次大戦中のイギリスにおける労働政策と社会政策		
	——いわゆる「稀薄化」政策について——……………	飯田 鼎	1
	第三帝国における予算政策……………	大島 通義	21
	労働貴族の古典的時代におけるフリントガラス製造工 (その 1) ……	松村 高夫	41
	選好パラメタ「完全決定法」についての統計理論——古典的二財モデル——…	松野 一彦	55
	中間財・非貿易財を含む貿易モデルと輸入関税の諸効果……………	馬田 啓一	80
〔研究ノート〕	自由と組織……………	青沼 吉松	95
	独占資本主義と恐慌・産業循環		
	——レーニン『帝国主義論』を手がかりとして——……………	水谷 良夫	104
〔資 料〕	アメリカにおける共同体 (続) ……	白井 厚	117
	分配の外部性——パレート最適分配の意義——……………	横山 彰	128
〔書 評〕	F. Fekete, E. O. Heady 及び B. R. Holdren 著		
	『集団農場の経済学——ハンガリーにおけるその目標と最適条件——』…………	平野 絢子	140
	L. L. パシネッティ『成長と所得分配』……………	神谷 傳造	144
	満州移民史研究会編『日本帝国主義下の満州移民』……………	松村 高夫	147

70 卷 4 号 (1977 年 8 月)

〔論 説〕	初期労働運動における共済組合とストライキ団体		
	——労働組合期成会の意義と役割——……………	飯田 鼎	1
	農業集団化の現段階と「経営体間協業」・「工業式農業統合」 I ……	平野 絢子	22
〔研究ノート〕	スウェーデンの選挙と福祉 (I) ……	飯野 靖四	51
	宇野派恐慌論の一検討——伊藤誠『信用と恐慌』をめぐって——……………	清水 正昭	63
〔書 評〕	大原慧『幸徳秋水の思想と大逆事件』……………	飯田 鼎	77
	酒井一夫著『インフレーションと管理通貨制』……………	飯田 裕康	80
	Robert A. Kann, A History of the Habsburg Empire. 1526–1918……………	倉田 稔	83
	増山太助『読売争議』……………	猿田 正機	86

70 卷 5 号 (1977 年 10 月)	
[論 説]	明治 30 年代における労働運動と知識人 (上) …… 飯田 鼎 1 労働貴族の古典的時代におけるフリントガラス製造工 (その 2) …… 松村 高夫 22
[研究ノート]	揺籃期のフランス社会保険立法——1910 年労働者農民老齢年金法の制定——… 中上 光夫 40
[資 料]	英国商務省「産業民主主義調査委員会報告書」 ——いわゆる「バロック報告」について (I) —— …… 飯田 鼎 52
[書 評]	中村政則編『大系・日本国家史』第 4 卷 (近代 I)・第 5 卷 (近代 II) …… 尾城太郎丸 64 ハインリヒ・ワインシュトゥック著 檜山欽四郎・小西邦雄訳 『ヒューマニズムの悲劇——西洋の人間像における真と偽——』 …… 葛木 能雄 72 ジェームズ・ヒントン『最初のショップスチュワード運動』 …… 三井 逸友 75 入江昭著『アジアにおける冷戦——歴史的序説——』 …… 安原 洋子 79
70 卷 6 号 (1977 年 12 月)	
[論 説]	友愛会の成立の歴史的意義——その共済組合とストライキ団体の矛盾——… 飯田 鼎 1 ヒルファディングにおける貨幣と信用——『金融資本論』分析・序論——… 飯田 裕康 18 経済分析における時間要素——分布ラグの視点から——… 藁谷千鳳彦 32
[研究ノート]	確率測度の*弱収束——均衡分析への応用のために (一) ——… 丸山 徹 53 マルサス『人口論』に関する一考察——『人口論』から経済学へ——… 鶴岡 慶 67 ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察 ——1936 年秋から 1938 年 6 月まで——… 矢野 久 80 青年時代の鈴木文治——本間俊平とのかかわりを中心として——… 吉田 千代 94
[書 評]	小谷義次著『現代福祉国家論』 …… 飯野 靖四 106 ミカエル・ブリーニャー著『過少消費説——歴史と批判的分析——』 …… 中宮 光隆 109 戸塚秀夫、徳永重良編『現代労働問題——労資関係の歴史的動態と構造——』 …… 大森 真紀 113
71 卷 1 号 (1978 年 2 月)	
[論 説]	第 1 次世界大戦中における労働者階級と労働者意識 (その 1) …… 飯田 鼎 1 わが国における産業革命下の児童保護 …… 小松 隆二 23
[研究ノート]	犯罪と刑罰のゲーム論的分析 …… 山田 太門 38 確率測度の*弱収束——均衡分析への応用のために (二) ——… 丸山 徹 45 戦後民主変革期における「生産管理」闘争の役割 …… 猿田 正機 57
[資 料]	社会政策学会史料集成編纂委員会監修「工場法と労働問題」 (社会政策学会史料集成第一巻) …… 飯田 鼎 72
[書 評]	伊藤清三・小松彦三郎編『解析学の基礎』 …… 丸山 徹 88
71 卷 2 号 (1978 年 4 月)	
〈山本登教授退任記念特集号〉	
[論 説]	我が学問遍歴——世界経済研究の回顧と展望——… 山本 登 1 発展拠点としてのイベリア経済の特質——国際経済発展史と類似性仮説——… 白石 孝 16 セネガルの落花生生産・輸出の成長要因 …… 矢内原 勝 28 世界経済の長期展望 (1977—1990 年) ——世界経済モデルによる予測——… 大西 昭 48 EEC における産業内分業の進展 (1962 年—1972 年) …… 佐々波楊子 67 アフリカ諸国における技術移転 …… 斎藤 優 85 資源危機論の諸挑戦とその評価——国際資源問題解明のための基礎認識——… 深海 博明 99 発展途上国における外国直接投資プロジェクトの

評価と国民経済的価値について……………	福島 義久	122
地域間労働移動と都市の失業——二重経済発展の分析——……………	大山 道広	141
貿易と二重経済の発展条件について……………	仁保 義男	158
開発途上国における工業化政策の諸類型と所得分配……………	渡辺 利夫	170
ヌルクセの均整成長論の現代的意義……………	唐木 園和	188
山本登名誉教授略歴および著作目録……………		202

71 卷 3 号 (1978 年 6 月)

〔論 説〕 「友愛会総同盟」運動における民主主義と社会主義		
——「友愛会」創立 8 周年大会を中心として——……………	飯田 鼎	1
『資本論』における紙幣分析 (上)		
——インフレーション分析のための予備的考察——……………	井村喜代子	20
企業の投資行動……………	宇佐美泰生	43
戦前における都市下層の展開 (上) ——東京市の場合——……………	中川 清	58
〔研究ノート〕 ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察		
——1938 年 6 月から 1939 年前半期まで——……………	矢野 久	105
〔資 料〕 慶應義塾大学図書館所蔵 Adam Smith の自筆書簡二通をめぐって		
——とくに小池基之教授と I. S. Ross 教授の転写の比較検討——……………	須藤 壬章	119
〔書 評〕 緒方富雄著『緒方洪庵伝』……………	飯田 鼎	127
御園喜博著『農産物価格形成論——農産物市場と価格形成——』……………	佐藤 鉄郎	129
W. エーレルト, D. フンシュトック, K. タンネルト編		
『社会主義計画経済における貨幣流通と信用』……………	的場 昭弘	133

71 卷 4 号 (1978 年 8 月)

〔論 説〕 労働市場のモデル——賃金較差の発生と変動機構の理論——……………	小尾恵一郎	1
『資本論』における紙幣分析 (下)		
——インフレーション分析のための予備的考察——……………	井村喜代子	32
ヨーロッパの富裕税——その理論と現実——……………	古田 精司	57
戦前における都市下層の展開 (下) ——東京市の場合——……………	中川 清	73
〔研究ノート〕 「都市伝統部門」および「農村部門」のモデル		
——二部門経済発展理論の修正のために——……………	鳥居 泰彦	120
調整費用モデルに基づく投資関数の計測：予備的考察……………	宇佐美泰生	130
化政・天保期における一經世論の農村的起源——佐藤信淵の場合——……………	小室 正紀	139
レオンティエフ体系における構造変化の分析——住宅生産を中心として——……………	荒木 義明	155
〔資 料〕 社会政策学会史料集成編纂委員会監修『関税問題と社会政策』		
(「社会政策学会史料集成」第 2 巻複製版)……………	飯田 鼎	167
徳川時代農村の人口再生産構造——武蔵国甲山村, 1777~1871 年——……………	鬼頭 宏	173
〔書 評〕 中村丈夫編『コンドラチェフ——景気波動論』……………	飯田 鼎	185

71 卷 5 号 (1978 年 10 月)

〈遊部久蔵教授追悼特集号〉

〔遺 稿〕 フランス語版『資本論』第一巻第三章第二節「流通手段」の研究		
——ドイツ語本文との比較対照——……………	遊部 久蔵	1
〔論 説〕 近世開物思想の一考察……………	島崎 隆夫	20
『西洋事情』と福沢諭吉の政治経済思想		

	——チェンバーズの経済書と福沢諭吉の思想形成——	飯田 鼎	43
	農業における垂直的統合と農工複合体		
	——農業集団化の現段階と「経営体間協業」・「工業式農業統合」II——	平野 絢子	60
	福沢諭吉評価をめぐる若干の問題	正田庄次郎	81
	価格変動の諸類型	井村喜代子	98
	「独占資本主義の理論」と宇野経済学・再論(1)		
	——伊藤誠氏の『反論』にこたえて——	北原 勇	126
	ジェファスンとフランス重農主義		
	——トマス・ジェファスンの経済思想(2)——	白井 厚	148
	「日本の経営」と経営学——「日本経営学」を介しての一考察——	中村 瑞穂	161
	手稿「バスティアとケアリ」について		
	——1850年マルクスの古典派批判への一視角——	飯田 裕康	174
	ハプスブルグ帝国と重商主義		
	——マリア・テレジアとヨーゼフ2世の経済政策——	倉田 稔	189
	ドイツ社会民主党のポーランド論争(1897年~1913年)における		
	ローザ・ルクセンブルクの立場	神代 光朗	204
	金流出と利子率騰貴——宇野派恐慌論の一検討——	清水 正昭	225
	シスモンディの信用論——銀行信用を中心として——	中宮 光隆	248
	社会主義における貨幣廃棄の諸問題		
	——労働時間紙幣と特殊な貨幣について——	的場 昭弘	261
	故遊部教授略年譜および著作目録		279
71 卷 6 号 (1978年12月)			
[論 説]	自由管理と市場経済(1)	青沼 吉松	1
	法人税制の型と経済効果	古田 精司	15
	わが国における感化救済事業下の児童保護(事業)	小松 隆二	34
	奨励契約の経済理論	中島 巖	48
[研究ノート]	シスモンディにおける無形資本の概念について——信用論の一側面——	中宮 光隆	71
	公正な分配と効率的な移転形態	横山 彰	81
	地方財政と補助金——その効果分析——	原田 博夫	91
	家計の資産保有と貯蓄率の変動(I)——流動資産仮説の再評価——	辻村 和佑	102
	中世後期ハンザ都市における経済構造の変質について		
	——ロストクの商人・手工業者の動向を中心に——	斯波 照雄	111
[資 料]	日本政策学会の成立と崩壊にかんする覚え書		
	——社会政策学会史料集成編纂委員会監修「社会政策学会史料」		
	(社会政策学会史料集成別巻I)によせて——	飯田 鼎	125
[書 評]	中村勝己『一般経済史』	鶴川 馨	132
	D・シェーンボウム著、大島通義・大島かおり訳『ヒットラーの社会革命		
	——1933~39年のナチ・ドイツにおける階級とステイタス——	藤山 宏	135
	鈴木鴻一郎『一途の人——東大の経済学者たち』	飯田 鼎	138
	水田洋『ある精神の軌跡』	飯田 鼎	138
72 卷 1 号 (1979年2月)			
[論 説]	自由管理と市場経済(2)	青沼 吉松	1
	戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割(その一)		

	——金井延の思想について——	飯田 鼎	19
	日本の福祉財政——とくに医療・年金財政の現状と将来——	古田 精司	36
	政策ラグのシステムへの影響	蓑谷千風彦	50
[研究ノート]	地理学の理論に関するノート (3)	高橋潤二郎	76
	家計の資産保有と貯蓄率の変動 (II)		
	——最近の我が国の貯蓄動向について——	辻村 和佑	84
[書 評]	白井厚著『社会思想史論集』	田村 秀夫	95
	飯田鼎著『労働運動の展開と労使関係』——国際比較研究のために——	安保 則夫	96
	池田信著『日本社会政策史論』	飯田 鼎	100
	Robert, J. Smith		
	“Kurusu——The Price of Progress in a Japanese Village 1951~1975”	高山 隆三	102
	A. デイトン『戦後イギリスにおける需要のモデルと計画』	蓑谷千風彦	105
	T. S. バーカー編『経済構造と政策』	蓑谷千風彦	105
72 卷 2 号 (1979 年 4 月)			
[論 説]	戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割 (その二)		
	——桑田熊蔵の社会政策論について——	飯田 鼎	1
	占領政策の展開——戦後日本資本主義論のために (1) ——	井村喜代子	21
	ヒルファディングにおける貨幣と信用 (II)		
	——『金融資本論』分析・序論——	飯田 裕康	52
	大都市における機械工業零細経営の機能と存立基盤		
	——東京都城南地域の場合——	渡辺 幸男	69
	〈生産と消費の矛盾〉について		
	——『I 部門の不均等的拡大』の意義を中心に——	水谷 良夫	102
[研究ノート]	開発政策における技術と商品	高梨 和紘	118
	地代の正常な形態について	寺出 道雄	128
	ピエツラ地方における毛織物業労働者の運動		
	——イタリア労働運動史の一局面, 1877~1901 年——	横山 隆作	139
	予想の分散と一時的均衡	吉田真理子	149
[書 評]	V. S. ナイポール著, 工藤昭雄訳『インド——傷ついた文明』	飯田 鼎	156
	“Trade Negotiation in the Tokyo Round——A Quantitative Assessment”		
	by William R. Cline, Noboru Kawanabe T. O. M. Kronsjo and		
	Thomas Williams, 1978.	佐々波楊子	158
72 卷 3 号 (1979 年 6 月)			
[論 説]	人口希薄国の労働余剰——黒アフリカの事例	矢内原 勝	1
	福祉財源としての租税と社会保険料の選択	古田 精司	18
	多意写像の凸性について (その 1)	渡部 隆一	36
	企業の貢献と参入の最適条件——効率価格と利潤——	川又 邦雄	63
[研究ノート]	回帰分析の性格	佐藤 保	75
	コンパクト集合族の位相に関する覚え書	丸山 徹	87
	多価写像の連続性	丸山 徹	98
[学 界 展 望]	アジア地域における労使関係の現状		
	——労使関係研究協会および日本労働協会主催, 1979 年「アジア地域労使		
	関係会議」(第 8 回) に出席して——	飯田 鼎	113



[書評]	安藤英治『マックス・ウェーバー』……………	飯田 鼎	122
	大内力著『信用と銀行資本』……………	飯田 裕康	124
	A. L. フリードマン 『産業と労働——生産点における階級闘争と独占資本主義——』……………	渡辺 幸男	127
72 卷 4 号 (1979 年 8 月)			
[論説]	第一次大戦後における労資関係の形成と労働運動の展開 ——ストライキ団体から労働組合への模索——……………	飯田 鼎	1
	Aumann-Perles の変分問題およびその拡張について……………	丸山 徹	18
	リカードウ分配理論と「不変の価値尺度」(I) ——1819-20 年の手紙を検討して——……………	羽島 卓也	26
	多意写像の凸性について (その 2) ……………	渡部 隆一	42
	19 世紀末におけるフランスの共済組合 (上) ……………	中上 光夫	63
[研究ノート]	劣微分と共役関数……………	渡部 隆一	94
	現段階における農民層分解についての一考察 ——畜産大規模経営の性格規定をめぐる——……………	佐藤 鉄郎	102
	テューダー・ステュアート前期のイギリス毛織物工業——研究史的考察——……………	米山 秀	119
[資料]	イギリス・ウォーリック大学の Modern Records Centre 所蔵資料……………	松村 高夫	133
[書評]	本郷隆盛・前坊洋・稲田雅洋著『近代日本の思想』(1) ——佐久間象山・福澤諭吉・植木枝盛——……………	飯田 鼎	145
	G. クロスイック著『ヴィクトリア社会のアルティザン・エリート』……………	松村 高夫	148
72 卷 5 号 (1979 年 10 月)			
[論説]	1920 年代における労働組合組織の変遷——横断組合から縦断組合へ——……………	飯田 鼎	1
	外部経済・公共財と企業の参入……………	川又 邦雄	17
	リカードウ分配理論と「不変の価値尺度」(II) ——1819-20 年の手紙を検討して——……………	羽島 卓也	28
	イギリス工場法思想の源流 (その 1) ——工場監督官レナード・ホーナーの思想について——……………	武田 文祥	45
	19 世紀末におけるフランスの共済組合 (下) ……………	中上 光夫	62
[研究ノート]	家計の資産保有と貯蓄率の変動 (III) ——所得・物価の上昇による効果——……………	辻村 和佑	80
[書評]	常盤政治『農産物価格政策』……………	花田 仁伍	89
	良知力著『向う岸からの世界史——一つの四八年革命史論』……………	飯田 鼎	96
	Royden Harrison, Gillian Woolven, Robert Duncan (eds.) The Warwick Guide to British Labour Periodicals 1790-1970 A Check List……………	松村 高夫	98
72 卷 6 号 (1979 年 12 月)			
[論説]	わが国の将来人口推計——昭和 53 年安川推計——……………	安川 正彬	1
	第一次大戦後から昭和恐慌期にかけての労働政策の変遷と労働運動(その一)……………	飯田 鼎	43
	家計の労働供給の一般理論について——供給確率と就業の型の決定機構——……………	小尾恵一郎	58
	経済発展の構造分析 (一) ——構造変化を含むレオンティエフ動学体系——……………	尾崎 巖	84
	多意写像の凸性について (その 3) ……………	渡部 隆一	113
[研究ノート]	鉄鋼産業における構造変化の分析……………	荒木 義明	143
	非基礎財の価格について……………	細田 衛士	155

[資料]	墨田区金属プレス加工零細経営の分析(上)——統計分析——	渡辺 幸男	167
[書評]	立花雄一著『評伝 横山源之助——底辺社会・文学・労働運動』	飯田 鼎	179
	アルバート・ブレトン, アンソニー・スコット著		
	『連邦国家の経済憲法』1978年	原田 博夫	181
	相沢与一著『イギリスの労使関係と国家』		
	——危機における炭鉱労働運動の展開——	海野恵美子	184
	ヴェアナ・スターク著, 杉山忠平・杉田泰一訳『宗教社会学』	早川 徹	187
73 卷 1 号 (1980年2月)			
[論説]	経済発展の構造分析(二)		
	——規模の経済性と設備の不可分割性の測定——	尾崎 巖/清水 雅彦	1
〈小特集:経済学と函数解析〉			
	不動点定理とその周辺	高橋 渉	32
	正作用素	渡部 隆一	69
	景気変動と周期解	川又 邦雄	93
	可測多価写像の理論——基礎と応用をめぐる総合報告——	丸山 徹	113
73 卷 2 号 (1980年4月)			
[論説]	日本人口と大都市集積——その展開過程と問題点——	濱 英彦	1
	日本都市の成長要因	坂下 昇	23
	日本の都市システム	高橋潤二郎	44
	首都圏の空間構造	金田 昌司/竹内 淳彦	57
	京阪神大都市圏の三極構造	小森 星児	77
	地域政策の展開と内陸地方都市		
	——盆地中心都市の産業構造比較を中心として——	伊藤 喜栄	96
[研究ノート]	地理学における情報処理	久保 幸夫	121
	近世初期イギリス「ピュウリタニズム」の研究		
	——近世イギリス思想史研究序説——	中村 勝己	133
[資料]	日本社会政策学会と移民問題		
	——社会政策学会史料集成第3巻『移民問題』を中心として——	飯田 鼎	144
[書評]	R. ローズ著, 犬童一男訳『現代イギリスの政治』	飯田 鼎	153
	Ben Fine and Laurence Harris, Rereading <i>Capital</i>	飯田 裕康	157
73 卷 3 号 (1980年6月)			
[論説]	戦前わが国経済学研究における社会政策学会の役割(その三)		
	——高野岩三郎と家計調査研究——	飯田 鼎	1
	西漸運動と東部農村——ニュー・ヨーク州の場合——	岡田 泰男	25
	地域的公共財の相互的溢出(入)効果と政治的決定過程	中島 巖	43
〈小特集:徳川貨幣史への新視角〉			
	編集者まえがき	斎藤 修	62
	徳川後期「インフレ的成長」論の再検討		
	——実物的アプローチとマネタリ・アプローチ——	斎藤 修	64
	徳川後期の「銭遣い」について	岩橋 勝	75
	藩札論再考:萩札・広島札を中心に	西川 俊作/谷村 賢治	91
	江戸後期の貨幣と物価に関する断章	新保 博	115

[研究ノート]	ピューリタニズムの検出——近世イギリス思想史研究序説（二）——	中村 勝己	131
	土地集積の利回りと地租改正——長野県高井郡東江部村山田家の場合——	横山 憲長	146
[資料]	『ラインの監視人』 <i>Der Wächter am Rhein. Ein deutsches Volksblatt.</i>		
	よせて——ハムバッハ祭典前夜——	葛木 能雄	161
[書評]	山澤逸平, 山本有造著『貿易と国際収支』	小浜 裕久	171
	イオワース・プロゼロー『19世紀初期ロンドンの職人たちの政治——ジョン・ガストとその時代——』	草光 俊雄	174
73 卷 4 号 (1980年8月)			
[論説]	自由, 平等, 公正——現代経済の道義的礎石を考える——	平 恒次	1
	Neumann 写像について	渡部 隆一	16
	差額地代の源泉についての一考察	寺出 道雄	44
	イギリスにおける労働組合の退職給付の形成と崩壊（上）		
	——老齢年金制度形成前史——	名嶋 和子	58
	イギリス工場法思想の源流（その2）		
	——工場監督官レナード・ホーナーの思想について——	武田 文祥	79
	公共財の最適供給について	塩沢 修平	106
[研究ノート]	ビルマにおける開発政策の転換と経済発展	小浜 裕久	129
[資料]	墨田区金属プレス加工零細経営の分析（下）——事例研究——	渡辺 幸男	140
[書評]	小田実『歴史の転換のなかで——21世紀へ——』	飯田 鼎	152
	杉原四郎著『J・S・ミルと現代』	飯田 鼎	155
73 卷 5 号 (1980年10月)			
[学界展望]	経済発展と貯蓄	鳥居 泰彦/積田 和/笹山 茂	1
[論説]	非ワルラス的交換過程と最適配分 I	福岡 正夫	52
	経済発展の構造分析（三）——経済の基本的構造の決定——	尾崎 巖	66
	“1949年秋～朝鮮戦争”における占領政策・講和政策	井村喜代子	95
	初期マルクスにおける欲求概念（上）		
	——個人的欲求と社会的欲求の弁証法——	的場 昭弘	117
	日本における世帯概念の形成と展開		
	——戸田貞三の家族概念との関連を中心に——	宇野 正道	136
	企業借入コストの危険構造について		
	——オプション評価モデルによる資本資産評価モデルの拡張——	大村 敬一	156
	戦前における性別労働需要の実証分析	三上美美子	177
	イギリスにおける労働組合の退職給付の形成と崩壊（下）		
	——老齢年金制度形成前史——	名嶋 和子	202
73 卷 6 号 (1980年12月)			
[論説]	櫛田民蔵と史的唯物論——日本におけるマルクス経済学研究（一）——	飯田 鼎	1
	拡大再生産表式分析の意義と方法——最近の諸論議の批判的検討——	井村喜代子	21
	輸入需要の理論と計測（1）	佐々波楊子/菊池 純一	44
	初期マルクスにおける欲求概念（下）		
	——個人的欲求と社会的欲求の弁証法——	的場 昭弘	72
	コーホート分析からみたわが国の出生力転換	渡辺真知子	88

[研究ノート]	日本農業の動向をめぐる農業経済学界的諸論点 ——自作農体制解体後の生産主体形成の論理を中心に——	佐藤 鉄郎	108
74 卷 1 号 (1981 年 2 月)			
〈特集：公共選択 (Public Choice)〉			
	公共選択をめざして	加藤 寛／黒川 和美	1
[論 説]	Public Choice における官僚行動 (序説)	加藤 寛	3
	公共選択としてみた法人税率の決定	古田 精司	20
	公共選択と参加システム	丸尾 直美	34
	公共選択論と社会的選択論——立憲契約国家の可能性と条件——	川野辺裕幸	51
	公共選択：理論・検証・制度設計	関谷 登	62
	相互依存関係における権利と義務の公共選択	大村 達弥	76
	リベラル・パラドックスの終焉：社会選択論批判	谷口 洋志	93
74 卷 2 号 (1981 年 4 月)			
[論 説]	日本における住宅需要の所得弾力性 クロスセクション分析と時系列分析	森泉 陽子	1
	非ワルラス的交換過程と最適配分 II	福岡 正夫	15
	公共的生産要素の最適供給について	塩沢 修平	24
	バクスターとスミス——宗教的人間と経済的人間のあいだ——	梅津 順一	45
	わが国における社会事業の時代と児童保護	小松 隆二	64
74 卷 3 号 (1981 年 6 月)			
[論 説]	社会の中流化と社会的公正——その日本的総合のアメリカ的展望——	平 恒次	1
	K. マルクスにおける 2 つのアソシエーション (上)		
	——ある 19 世紀人の概念と軌跡——	道盛 誠一	17
	地代論における「自然力」概念についての一考察	寺出 道雄	33
	ドイツ帝国財政の形成と展開 (上)	鈴木 純義	47
	再び徳川後期の「銭遣い」について	岩橋 勝	61
	交換媒体としての貨幣と取引過程の分権化	福岡 正夫	73
	大都市小零細工業簇生の一検討		
	——写真植字業小零細経営増加の実態と要因——	三井 逸友	96
	資本制個人企業における所有と決定		
	——現代巨大会社論のための理論基準 (1) ——	北原 勇	121
74 卷 4 号 (1981 年 8 月)			
[論 説]	経済史史料	渡辺 國廣	1
	輸入需要の理論と計測 (2)	佐々波楊子／菊池 純一	17
	K. マルクスにおける 2 つのアソシエーション (下)		
	——ある 19 世紀人の概念と軌跡——	道盛 誠一	32
	ドイツ帝国財政の形成と展開 (下)	鈴木 純義	47
[書 評]	D. C. ノース = R. P. トマス著 速水 融・穂本洋哉訳『西欧世界の勃興』		
	——新しい経済史の試み——	斎藤 修	75
	浜田宏一・岩田一政『金融政策と銀行行動』	田村 茂	78

74 卷 5 号 (1981 年 10 月)			
[学 界 展 望]	経済発展とインフォーマル・セクターの膨張……………	鳥居 泰彦/積田 和	1
[論 説]	ケネーにおける「価値」と「剰余価値」……………	小池 基之	47
	分権的情報ならびに物々交換制度の下における 均衡配分の達成不可能性定理について……………	福岡 正夫	62
	野呂栄太郎と『日本資本主義発達史』研究 ——日本におけるマルクス経済学研究(二)——……………	飯田 鼎	83
	株式会社における所有と決定——現代巨大会社論のための理論基準(2)——…	北原 勇	103
[研究ノート]	近世イングランド西部の毛織物工業——ウィルトシャーを中心として——…	米山 秀	123
[書 評]	安場保吉著『経済成長論』……………	牧 厚志	135
	根岸隆著『ケインズ経済学のミクロ理論』……………	奥野 正寛	138
74 卷 6 号 (1981 年 12 月)			
[学 界 展 望]	経済史研究の方向：理論と歴史……………	岡田 泰男	1
[論 説]	日本的経営における光と影……………	青沼 吉松	25
	最劣等地に生ずる差額地代についての一考察 ——土地所有の位置づけとの関連において——……………	寺出 道雄	43
	近代イギリスにおける職業エートスの展開——Weber 説をめぐって——…	今関 恒夫	57
	恐慌論研究の現状と課題……………	清水 正昭	76
[書 評]	鈴木守著『公共政策論』……………	山田 太門	97
	佐々波楊子著『国際分業と日本経済』……………	鳥野 卓爾	100
	R. W. フォーゲル= S. L. エンガマン著, 田口芳弘・榊原胖夫・渋谷昭彦訳 『苦難のとき：アメリカ・ニグロ奴隷制の経済学』……………	西川 俊作	104
75 卷 1 号 (1982 年 2 月)			
	〈小特集：フランシス・Y・エッジワース——『数理精神科学』公刊百年を記念して——〉		
	編者序文……………	福岡 正夫/丸山 徹	1
	フランシス・イシドロ・エッジワース……………	福岡 正夫	3
	「公正分配」論からみたエッジワースの『数理心理学』……………	根岸 隆	27
	不遇の統計学者エッジワース……………	蓑谷千風彦	39
[論 説]	人員・労働時間タムでの雇用調整の実証分析……………	山本 拓	65
	ヒューム正義論の特質と意義——所有権論と経済論——……………	坂本 達哉	92
[書 評]	山本潔著『自動車産業の労資関係』……………	黒川 俊雄	112
	保志恂著『日本農業構業の課題——農民的農業革命論』……………	寺出 道雄/佐藤 鉄郎	115
75 卷 2 号 (1982 年 4 月)			
[学 界 展 望]	フィリップス曲線と日本の労働市場機構……………	鳥田 晴雄	1
[論 説]	矢内原忠雄と日本帝国主義研究……………	飯田 鼎	35
	巨大企業における所有と決定……………	北原 勇	52
	職場における小集団活動の現実と性格……………	京谷 栄二	85
[書 評]	W・アーサー・ルイス著, 原田三喜雄訳『国際経済秩序の進展』……………	矢内原 勝	102
	アンソニー・ダウズ著, 古田精司監訳『民主主義の経済理論』……………	大村 達弥	106

75 卷 3 号 (1982 年 6 月)

〈島崎隆夫教授退任記念特集号〉

島崎君を送る	服部謙太郎	1
足尾鉍毒事件における潮田千勢子——キリスト教の問題を中心として——	工藤 英一	3
リカードウ地代論形成史の一局面		
——「農業投資の有利性」命題をめぐるマルサスとの論争——	羽鳥 卓也	17
17 世紀ケントの社会と経済 (上) ——近世イギリス思想史研究序説 (3) ——	中村 勝己	33
福沢諭吉における民権とナショナリズムの形成		
——『西洋事情』と『学問のすゝめ』を中心に——	飯田 鼎	55
近世奥羽地方人口の史的研究序論	速水 融	70
トマス・ジェファスンとアルプマール郡	白井 厚	93
都市と農村の抗争の近世的一類型		
——ザクセンのビール醸造業をめぐる——	寺尾 誠	107
フランクリン抄	渡辺 國廣	137
19 世紀アメリカ東部農民の生産と消費		
——ニュー・ヨーク州の一農場の場合——	岡田 泰男	152
19 世紀諏訪地方の農村経済と人口	斎藤 修	169
日本〈小国〉意識の防衛機制	前坊 洋	187
小河滋次郎の感化教育論	伊東 光明	200
幕末期越前藩藩政改革路線に関する一考察		
——横井小楠「国是三論」をめぐる——	高木 不二	215
福沢諭吉の学問観		
——ミル, バックル, スペンサーの諸著作へのノートを中心に——	安西 敏三	229
幕末, 一老農の税制分析——常陸国, 長島尉信の場合——	小室 正紀	243
島崎隆夫名誉教授略歴および著作目録		265

75 卷 4 号 (1982 年 8 月)

〔論 説〕	均衡配分の達成不可能性定理: 改訂と拡充	福岡 正夫/三浦 礼	1
	経済発展についての農業の役割——熱帯アフリカの事例—— (1)	矢内原 勝	25
	企業集団における所有と支配 (上)	北原 勇	41
	産業内分業と製品差別化	佐々波楊子/小野田欣也	70
	為替レートと国際収支の理論——2 国 2 財モデル——	大山 道広	98
	ピューリタニズムの「市民社会」論——W. Ames『良心論』の考察——	今関 恒夫	125
〔研究ノート〕	剰余生産物・剰余価値概念についての一考察	寺出 道雄	146
	ドイツ農民戦争研究の現状と課題	青山 孝	154

75 卷 5 号 (1982 年 10 月)

〈第 1 回経済学会大会講演〉

ケインズと現代経済学	福岡 正夫	1
数量経済史の人間化	新保 博	17

〔論 説〕	農工商聯合企業和生産資料的集体所有制		
	——关于东欧社会主义经济和中国社会主义经济——	平野 絢子	27
	経済発展についての農業の役割——熱帯アフリカの事例—— (2)	矢内原 勝	32
	企業集団における所有と支配 (下)	北原 勇	54

	ニュージーランドの障害者福祉——社会福祉体系の一齣——	小松 隆二	78
	コール市場と日本銀行信用の受動性	山田 健	93
[研究ノート]	土地所有の「派生的性格」についての一考察	寺出 道雄	116
[書評論文]	ゲーム理論と社会選択 鈴木光男編『中村健二郎遺稿集』	渡部 隆一	125
[書評]	芝原拓自『日本近代化の歴史的位罫——その方法論的研究——』	尾城太郎丸	139
	田代和生著『近世日朝通交貿易の研究』	速水 融	144
	岩橋勝著『近世日本物価史の研究』	速水 融	144
75 卷 6 号 (1982 年 12 月)			
[論説]	ポスト・ケインズ派の租税帰着論と法人税制	古田 精司	1
	産業別生産関数の直接推定	浜田 文雅/千田 亮吉	20
	1831 年のノッティンガム暴動(上)	松村 高夫	46
	資本の高蓄積過程における農村兼業労働市場の展開とその機能 ——高度経済成長後半期の低賃金労働力基盤としての農家兼業労働力の検討——	阿部 誠	65
[研究ノート]	F. エンゲルスの「下からの革命」概念と「上からの革命」概念 ——社会構成体移行論における「上からのブルジョア革命」概念の批判のために——	石川 治夫	85
	月島調査報告書第二輯『労働者及教員家計調査報告』 ——権田保之助手稿についての一検討——	寺出 浩司	94
75 卷 特別号 (1983 年 2 月)			
〈高橋誠一郎名誉教授追悼特集号〉			
[論説]	高橋誠一郎先生追憶	高村 象平	1
	サー・ジェイムズ・ステュアートと経済学における歴史主義	小林 昇	6
	「危機」の経済学としてのケネー「経済表」——「経済表」分析の基礎視点——	小池 基之	22
	社会主義と私有財産制度	気賀 健三	51
	トマス・ジェファスンとアダム・スミス	白井 厚	70
	A. スミスにおける資本蓄積と信用 ——貨幣蓄積・貨幣資本 monied capital の形成をめぐる——	飯田 裕康	82
	「現代資本主義」と消費関数	中村 卓	96
	A Brief History of the Japanese Merchant Marine Fleet	新堂 忠昭	118
	高橋誠一郎名誉教授年譜・著述目録	白井 厚/武者小路信和	141
76 卷 1 号 (1983 年 4 月)			
〈小特集：ウィリアム・S・ジェヴォンズ——没後 100 年を追悼して——〉			
	W. S. Jevons 没後 100 年	寺尾 琢磨	1
	ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ——没後 100 年——	福岡 正夫	18
[論説]	組織と環境	青沼 吉松	55
	わが国巨大企業における「所有と決定」の特徴 ——株式持合いの構造と意義——	北原 勇	71
	固定資本財と耐久期間	細田 衛士	110
	資本の流通過程と貨幣の還流運動 ——手稿「資本主義的再生産における貨幣の還流運動」を中心として——	大友 敏明	126
[研究ノート]	黒死病	渡辺 國廣	145
[資料]	ドイツ・ライヒの財政収支(1933~1944 年度)	大島 通義	151

〔書評〕	館龍一郎著『金融政策の理論』……………	村井 俊雄	175
	蓑谷千風彦著『経済分析における時間要素』……………	廣松 毅	178
	天野明弘著『貿易の対外投資の基礎理論』……………	和気 洋子	182
76 卷 2 号 (1983 年 6 月)			
〔論説〕	日本における児童福祉の成立……………	小松 隆二	1
	1831 年のノッティンガム暴動(下)……………	松村 高夫	21
	住宅の質の選択と価格関数……………	山田 太門	38
	下請企業の競争と存立形態(上)——「自立」的下請関係の形成をめぐって——……………	渡辺 幸男	52
	日本製糸業の発展と海外市場……………	杉山 伸也	68
	ドイツ・ライヒ財政の帝国主義的構造……………	鈴木 純義	89
〔書評論文〕	西欧近代「合理主義」の形式と実質(上)——山之内靖への批評的応答——……………	寺尾 誠	123
〔研究ノート〕	絶対地代の水準の一考察……………	寺出 道雄	144
	置塩信雄『現代資本主義分析の課題』の「スタグフレーション」論をめぐって……………	延近 充/栃木 晃	155
	西部公有地処分に関する一考察——ミネソタ州ワセカ郡の場合——……………	折原 卓美	166
〔書評〕	根岸隆著『古典派経済学と近代経済学』……………	丸山 徹	178
	岡田純一著『フランス経済学史研究』……………	中宮 光隆	182
76 卷 3 号 (1983 年 8 月)			
	〈特集：カール・マルクス——没後 100 年——〉		
〔論説〕	マルクス経済学の現代的意義……………	常盤 政治	1
	「宣言」と「資本論」の間より……………	寺尾 誠	21
	『資本論』の対象領域と残された課題……………	井村喜代子	37
	『資本論』第 3 部第 5 篇(上)——その成立と現代——……………	飯田 裕康	63
	マルクスにおける二つの労働分割……………	野地 洋行	83
	現代の ME 革命とマルクスの労働過程論……………	黒川 俊雄	98
〔研究ノート〕	軍需品生産の再生産表式分析にかんする一考察——従来の諸議論の検討を中心に——……………	延近 充	114
76 卷 4 号 (1983 年 10 月)			
	〈特集：ジョン・メイナード・ケインズ——生誕 100 年——〉		
〔論説〕	ジョン・メイナード・ケインズ——生誕 100 年にちなんで——……………	福岡 正夫	1
	ケインズ経済学とマクロ経済学……………	大熊 一郎	39
	ケインズの人口観……………	安川 正彬	54
	リカードゥとケインズ——自然価格と市場価格の関係を通じて——……………	富田 重夫	77
	ケインズ一般理論における失業の計測と賃金較差形成機構——労働市場の順位均衡モデルによる分析——……………	小尾恵一郎	93
76 卷 5 号 (1983 年 12 月)			
〔論説〕	マルクスと労働貴族(上)——ロイドン・ハリスンの所論との関連で——……………	松村 高夫	1
	下請企業の競争と存立形態(中)——「自立」的下請関係の形成をめぐって——……………	渡辺 幸男	17
	差額地代第二形態論の一考察——マルクスのリカード批判との関連において——……………	寺出 道雄	34
	17 世紀イングランドにおける Puritanism と社会		



	——Richard Baxter 研究序説——	今関 恒夫	51
	マルクス「省察」( <i>Reflection</i> , 1851)における恐慌・信用論		
	——マルクスとシスモンディ——	中宮 光隆	76
[書 評 論 文]	西欧近代「合理主義」の形式と実質 (下) ——山之内靖への批評的応答——	寺尾 誠	91
[書 評]	酒井泰弘著『不確実性の経済学』	桐谷 維	112
76 卷 6 号 (1984 年 2 月)			
〈小特集: ヨーゼフ・アロイス・シュンペーター——生誕 100 年——〉			
	ヨーゼフ・アロイス・シュンペーター——生誕 100 年——	福岡 正夫	1
	シュンペーターにおける科学とイデオロギー	塩野谷祐一	32
	分析と実践の峻別——シュンペーターの一断面——	蓑谷千風彦	62
<hr/>			
[論 説]	企業家精神と経営者資本主義	青沼 吉松	86
	『資本論』第 3 部第 5 篇 (下) ——その成立と現代——	飯田 裕康	105
	マルクスと労働貴族 (下) ——ロイドン・ハリスンの所論との関連で——	松村 高夫	119
	ポーランド王国の経済的発展をめぐる「東方市場」論争史序説 (1)	神代 光朗	134
[研究ノート]	製造業における産業間賃金波及効果の検証	中村 二郎	153
	限界生産力と要素価格の乖離について——企業規模別の推定——	千田 亮吉	158
	18・19 世紀前半, アイルランド経済史研究の史料		
	——ダブリン大学トリニティ・カレッジ所領を中心に——	斎藤 英里	165
77 卷 1 号 (1984 年 4 月)			
[論 説]	幕末知識人の西欧認識——佐久間象山と福沢諭吉を中心として (1) ——	飯田 鼎	1
	シュンペーターと計量経済学 (1)	蓑谷千風彦	18
	IS-LM パラダイム: ケインズ経済学とマクロ経済学 (その 2)	大熊 一郎	41
	生産関数の直接推定による限界生産力説のテスト	浜田 文雅/千田 亮吉	55
	複数雇用機会に対する労働供給モデルの解析及び		
	Polytomous Probit モデルの構成	松野 一彦	77
[研究ノート]	ケインズと社会会計	大熊 一郎	97
	地代表についての一考察	寺出 道雄	99
	日本帝国主義下の「満洲」鉄道問題		
	——「納付金」をめぐる関東軍と「満鉄」——	児嶋 俊郎	111
[書 評]	植田和男著『国際マクロ経済学と日本経済』	佐々波楊子	123
77 卷 2 号 (1984 年 6 月)			
〈青沼吉松教授退任記念特集号〉			
	現代の ME 革命と労働組織——電機労連の調査を利用して——	黒川 俊雄	1
	政府企業における政府規制	加藤 寛	24
	「ルドゥスの発見」ホモ・ルーデンス論考	高橋潤二郎	44
	タイにおける農民生活の実態		
	——閉ざされたカトリック村・ノン・サワンでの体験をもとに——	小松 隆二	69
	管理職への昇進スピードとアセスメント・スコアとの関係についての一考察	関本 昌秀	84
	〈見る眼〉と社会学	山岸 健	100
	日本の企業の組織社会学的分析	唐澤 和義	117
	高学歴化の効用	菅野 英孝	134

	コミュニケーション・ディスクレパンシー及びコミュニケーションの 唱導方向の意見変容に及ぼす効果……………榎 博文 149	
	現代社会主義と労働組合機能 ——ポーランドとユーゴスラビアにおけるストライキ——……………笠原 清志 163	
	青沼吉松名誉教授略歴および著作目録…………… 185	
77 卷 3 号	(1984 年 8 月)	
[論 説]	資産のアグリゲーション問題：ケインズ経済学とマクロ経済学（その 3）……………大熊 一郎 1	
	下請企業の競争と存立形態（下） ——「自立」的下請関係の形成をめぐる——……………渡辺 幸男 9	
	マルクス「経済表」の構造と意義……………大友 敏明 29	
	ドイツ帝国主義財政におけるプロイセン国鉄財政の位置……………鈴木 純義 48	
	昭和初期の無産者託児所運動——福祉運動と労働運動との最初の結合——……………村岡 悦子 73	
	第二次世界大戦前夜におけるドイツ製鉄業の労働力配分 ——ゲーテホフヌンクとクルップ製鋼工場の分析——……………矢野 久 93	
[研究ノート]	「アメリカ独立宣言」の邦訳について（1）……………白井 厚／田中 義一／原田 譲治 118	
	17 世紀ニュー・イングランド史——一つの研究史的考察——……………大井 幸子 128	
	ライプアイゲンシャフツローデルにあらわれた農民の要求について ——ケンプテン修道院領を例として——……………青山 孝 142	
[書 評]	『交詢社百年史』……………飯田 鼎 155	
77 卷 4 号	(1984 年 10 月)	
[論 説]	第一次世界大戦後の恐慌期における社会政策——社会保険から社会保障へ——……………飯田 鼎 1	
	西ドイツ中期財政計画の実験から学ぶ……………古田 精司 22	
	第三世界のエネルギー問題の所在と実態の分析……………深海 博明 37	
	共同体内利益と定住均衡……………山田 太門 59	
	オーギュスト・ブランキにおける革命の主体 ——「デクラセ」概念の再検討——……………高草木光一 73	
[研究ノート]	「アメリカ独立宣言」の邦訳について（2）……………白井 厚／田中 義一／原田 譲治 89	
77 卷 5 号	(1984 年 12 月)	
[論 説]	企業自主権・損益自己責任制の確立と農村における生産高連動請負制 ——中国における「経済改革の論理」と社会主義経済発展の「独自性」——……………平野 絢子 1	
	広告課税の政治経済学——序説……………古田 精司 28	
	ポーランド王国の経済的発展をめぐる「東方市場」論争史序説（2）……………神代 光朗 46	
	中国農業の生産関数分析……………施 礼 河／白砂堤津耶 69	
	信用制度と恐慌……………清水 正昭 93	
	ボエム＝バヴェルク「第一利子論草稿」（1876）における 利用説批判の基本思想……………塘 茂樹 119	
77 卷 6 号	(1985 年 2 月)	
[論 説]	変貌する日本の経済社会と労働問題（その一） ——医療保障制度と年金問題——……………飯田 鼎 1	
	輸出用 1 次産品の小規模対大規模生産——小農対プランテーション——……………矢内原 勝 17	
	徳川日本成立の世界史——フェリペ II 世と豊臣秀吉——……………速水 融 39	

	推測的変動と寡占均衡の存在について……………	川又 邦雄	62
[研究ノート]	「アメリカ独立宣言」の邦訳について (3) ……	白井 厚／田中 義一／原田 讓治	72
	公有地処分と農業発展——ミネソタ州ワセカ郡の例——	折原 卓美	80
[書 評]	北原勇著『現代資本主義における所有と決定』	奥村 宏	96
78 卷 1 号 (1985 年 4 月)			
[論 説]	推測的変動に関する寡占均衡の比較静学と予想の戦略的決定について……………	川又 邦雄	1
	明治初年農家世帯の就業構造——山梨県下 4 ヲ村『人別調』の分析 (1) ——	斎藤 修	14
[研究ノート]	中国農業の成長会計分析		
	——プール・データによる生産関数の計測を通じて——……………	施 礼 河／白砂堤津耶	33
	戦後における国内人口移動の新局面		
	——経済低成長時代への人口学的適応の一側面——……………	渡辺真知子	
	地方公共財配分の実証分析		40
	——その評価と展望 (I)・需要サイド分析の先駆——……………	長峰 純一	69
	フィニアン運動史研究の諸問題——1858 年～1873 年——……………	高神 信一	82
78 卷 2 号 (1985 年 6 月)			
[論 説]	変貌する日本の経済社会と労働問題 (その二) ——労働時間の問題——……………	飯田 鼎	1
	明治初年農家世帯の就業構造——山梨県下 4 ヲ村『人別調』の分析 (2) ——	斎藤 修	15
	ドイツ帝国主義とライヒ財政改革の展開……………	鈴木 純義	29
	敗戦直後における『善後措置』の意図とその展開過程		
	——1945 年 8 月後半期における陸軍の諸構想とその内政への影響——……………	兒嶋 俊郎	51
[研究ノート]	「アメリカ独立宣言」の邦訳について (4) ……	白井 厚／田中 義一／原田 讓治	69
	西ドイツ「社会史」研究の方法		
	——特に、シヨメルス、クルー、フェッテルリの研究に関して——……………	下田 健人	79
	非対称情報下の労働契約……………	竹島 正男	91
78 卷 3 号 (1985 年 8 月)			
[昭和 58 年度 会長講演]	生活構造論の提唱……………	中鉢 正美	1
[論 説]	日米貿易の構造分析……………	佐々波楊子／松村 敦子	17
	近世イギリスにおけるピューリタニズムと社会 (上)		
	——Sabbatarianism をめぐって——……………	今関 恒夫	36
	地代論における土地所有の地位……………	寺出 道雄	51
	フィiscal・ポリシーと超合理性仮説の有効性……………	長峰 純一	66
[研究ノート]	19 世紀のアイルランドにおける貧困と移民——研究史的考察——……………	斎藤 英里	82
	ユニバーサルバンクシステムの問題点……………	相沢 幸悦	93
78 卷 4 号 (1985 年 10 月)			
	〈小特集：レオン・ワルラス〉		
	レオン・ワルラス——生誕 150 年に因んで——……………	福岡 正夫	1
	ジャッフェ『ワルラス論集』に寄せて……………	早坂 忠	34
	需要理論と対称性……………	川又 邦雄	54
	高橋誠一郎教授の主観的価値学説前史……………	丸山 徹	79

〔論 説〕	土の叫び地の囁き——加藤一夫の生涯と思想——……………小松 隆二 100	
	近世イギリスにおけるピューリタニズムと社会（下）	
	——Sabbatarianism をめぐって——……………今関 恒夫 119	
78 卷 5 号（1985 年 12 月）		
〔学 界 展 望〕	経済統合と経済発展……………鳥居 泰彦／沈 承鎮／秋山 裕 1	
〔論 説〕	「脱亜論」以後福沢諭吉の清国および朝鮮観	
	——福沢諭吉におけるアジア認識の変遷——……………飯田 鼎 46	
	長島尉信の田制史研究と土地所持権思想——幕末の一村役人の太閤検地論——……………小室 正紀 62	
	ナチス期におけるルール労働市場……………矢野 久 85	
	アダム・スミスにおける二つの経済循環——再生産と通貨・信用構造——……………大友 敏明 109	
	東京大都市圏における家計の立地分布と住宅・土地需要行動……………森泉 陽子 134	
〔研究ノート〕	地方公共財配分の実証分析	
	——その評価と展望（II）・需要サイド分析の新展開——……………長峰 純一 156	
	講義『国民経済学』——初期ポエム＝バヴェルクの講義録について——……………塘 茂樹 168	
〔資 料〕	『原始』と加藤一夫——『原始』の位置と総目次——……………小松 隆二 178	
78 卷 6 号（1986 年 2 月）		
	〈中鉢正美教授退任記念特集号〉	
	労働組合運動と労働者協同組合……………黒川 俊雄 1	
	福沢諭吉と国会開設運動……………飯田 鼎 20	
	抽象的地表とその形成システム……………高橋潤二郎 37	
	労働者調査論の源流——藤林敬三博士の方法をめぐって——……………原田 勝弘 59	
	一在日韓国人の軌跡——65 年の在日生活の聞き書き——……………小松 隆二 72	
	イギリス暴動史研究に関するノート……………松村 高夫 87	
	労働供給行動の理論	
	——家計を単位とする分析枠組の展開と応用——……………島田 晴雄／早見 均 105	
	大正期生活調査の一齣——大阪市労働調査報告をめぐって——……………寺出 浩司 130	
	生活変動と生活研究への一視点——生活構造論を中心として——……………中川 清 140	
	中鉢正美名誉教授略歴および著作目録……………159	
79 卷 1 号（1986 年 4 月）		
〔学 界 展 望〕	輸出入関数の計量分析：方法論的展望（I）	
	……………佐々波楊子／浜口 登／千田 亮吉／松村 敦子／吉田 靖 1	
〔論 説〕	フランソワ・ケネーにおける土地問題……………小池 基之 33	
	第三帝国における軍事費の手形金融……………大島 通義 58	
	経済政策論における非市場分析	
	——レントシーキング理論の位置づけについて——……………山田 太門 91	
	ハイエクの個人主義論——メンガーとの関係を中心に——……………池田 幸弘 102	
〔研究ノート〕	「アメリカ独立宣言」の邦訳について（5）……………白井 厚／田中 義一／原田 譲治 118	
79 卷 2 号（1986 年 6 月）		
〔学 界 展 望〕	輸出入関数の計量分析：方法論的展望（II）	
	……………佐々波楊子／浜口 登／千田 亮吉／松村 敦子／吉田 靖 1	
〔論 説〕	信用論史におけるマルクス——流通論批判と信用論——……………飯田 裕康 36	

	戦前版『幸徳秋水全集』考——「幻の全集」の成り立ちと全体像——	小松 隆二	53
	産業組織と資源配分	大山 道広	68
	在庫変動の短期マクロ動学モデル	小野崎 保	84
	1921年の中部ドイツ武装蜂起(上)	細田 信輔	104
[研究ノート]	イギリス議会エンクロージャー研究の最近の動向	重富 公生	125
79 卷 3 号 (1986年8月)			
〈日本経済史特集〉			
[論 説]	明治前期統計にみる有配偶率と平均結婚年齢 ——もうひとつのフォッサ・マグナ——	速水 融	1
	近世後期日朝貿易史研究序説——『御出入積写』の分析を通じて——	田代 和生	14
	近世先進地帯、畿内における頼母子講の一考察——保険共済思想の源流——	小林 惟司	30
[研究ノート]	明治前期における郵便ネットワーク：〈情報〉の経済史 I	杉山 伸也	46
	徳川後期の農家経済と人口——武州新町村, 1777~1872年——	浜野 潔	57
[書 評]	W. Mark Fruin; <i>Kikkoman: Company, Clan and Community</i>	友部 謙一	66
79 卷 4 号 (1986年10月)			
[学 界 展 望]	輸出入関数の計量分析：方法論的展望(Ⅲ) ……………佐々波楊子/浜口 登/千田 亮吉/松村 敦子/吉田 靖		1
[論 説]	マクロ経済学についての若干の私見	佐藤 和夫	27
	福沢諭吉と条約改正運動(その一)——福沢諭吉と馬場辰猪——	飯田 鼎	49
	インフレーションと所得税減税	飯野 靖四/林 宏昭	64
	1921年の中部ドイツ武装蜂起(下)	細田 信輔	81
[研究ノート]	価値実体論についての一考察	寺出 道雄	102
79 卷 5 号 (1986年12月)			
[論 説]	〔遺 稿〕内部養成の条件：1. 主体均衡	浜田裕一郎	1
	技術革新と社会政策——日本労働総同盟の調査を中心として——	飯田 鼎	15
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動	松村 高夫	37
[研究ノート]	18世紀ナポリ王国における「政治経済学」の形成(上) ——アントニオ・ジェノヴェージ「商業汎論」とその周辺——	奥田 敬	58
	初期ボエーム＝バヴェルクの「資本」について ——『国民経済学』講義から『積極理論』へ——	塘 茂樹	73
[資 料]	『大地に立つ』と加藤一夫——『大地に立つ』の位置と総目次——	小松 隆二	81
79 卷 6 号 (1987年2月)			
[論 説]	企業税制と動学的要素需要	浜田 文雅	1
	剰余価値・利潤・地代	寺出 道雄	15
	大工業の自立と「資本の突発的膨脹力」	西澤 正彦	36
	イギリス議会エンクロージャーにおける困り込み委員の活動 ——ウェストン・ターヴィル教区の事例を中心に——	重富 公生	52
	19世紀第4四半期におけるイギリス女性労働と労働運動 ——Women's Protective and Provident Leagueの活動に関連して——	中村 伸子	70
[研究ノート]	18世紀ナポリ王国における「政治経済学」の形成(下) ——アントニオ・ジェノヴェージ「商業汎論」とその周辺——	奥田 敬	89

[書評]	Hisashi Yano: <i>Hüttenarbeiter im Dritten Reich</i> .....	後藤 俊明	103
80 卷 1 号 (1987 年 4 月)			
[論説]	貨幣と重複世代モデル.....	福岡 正夫/須田 伸一	1
	福沢諭吉と条約改正運動 (その二) ——福沢諭吉と同時代人——.....	飯田 鼎	24
	価値形態論についての一考察.....	寺出 道雄	41
	ハイエクとワルラス体系——評価と展望——.....	池田 幸弘	56
[研究ノート]	前近代イギリス家族史——1980 年代前半の研究史——.....	米山 秀	68
	住宅地価格論にかんする一検討——新沢・華山氏の見解を中心に——.....	栃木 晃	82
80 卷 2 号 (1987 年 6 月)			
[論説]	貨幣的重複世代モデルにおける競争均衡の存在について.....	福岡 正夫/須田 伸一	1
	生産価格論の一考察.....	寺出 道雄	14
	2 階級フォン・ノイマンモデルについて——線形計画法と不動点定理の応用——.....	細田 衛士	26
	『経済学批判要綱』貨幣章における世界史の三段階と交換, 流通把握 ——段階的差異を画する基準を中心に——.....	伊藤 述史	38
[研究ノート]	ある忘れられた社会運動家のこと——中名生幸力の生涯と事績——.....	小松 隆二	54
	近世農村市場の社会経済史的史料について ——東部スイスのアッペンツェル外ローデンの場合——.....	岩井 隆夫	67
	日本資本主義の「自立」と「従属」 ——山崎隆三の $\beta$ 型日本資本主義論をめぐって——.....	児嶋 俊郎	88
80 卷 3 号 (1987 年 8 月)			
[論説]	河上肇の初期経済思想——『日本尊農論』を中心として——.....	飯田 鼎	1
	英国工業中小企業の動向——中小企業政策の意味するもの——.....	渡辺 幸男	17
	一般的重複世代モデルにおける競争均衡の存在 ——生産と非順序選好をもつ経済——.....	塩沢 修平	37
	ステュアート『原理』における経済循環の把握について.....	大友 敏明	49
[研究ノート]	1801 年イングランド農地統計 ——Public Record Office 所蔵旧内務省資料についての一考察——.....	重富 公生	75
[書評]	小池基之教授と「経済表」の研究——小池基之著『ケネー「経済表」再考』——.....	羽鳥 卓也	85
80 卷 4 号 (1987 年 10 月)			
[論説]	矢内原忠雄の植民政策の理論と実証.....	矢内原 勝	1
	“1949 年秋～朝鮮戦争”と“合理化投資” (上).....	井村喜代子	26
	危機の時代の経済学——ジョージ・ラムジューの資本蓄積論——.....	鷲見 研作	52
	生産理論の発展における限界生産力理論の意義と役割.....	川俣 雅弘	70
[研究ノート]	自由人連盟と加藤一夫——連盟の創設過程を中心に——.....	小松 隆二	84
	独占価格インフレーション論の批判的検討.....	柳原 郁子	91
[書評]	日向寺純雄著『イタリア財政学の発展と構造』.....	古田 精司	105
80 卷 5 号 (1987 年 12 月)			
〈村井俊雄教授退任記念論文集〉			
	金融政策の新しい課題.....	浜田 文雅	1
	セキュリティタイゼーションと銀行経営.....	田村 茂	15

ヒルファーディング金融資本理論の一側面		
——銀行と証券市場の一体化の論理構造——	飯田 裕康	31
企業の資金制約と内生的利潤分配率	塩沢 修平	43
金融革新下におけるマネーサプライ中間目標政策の有効性	辻 幸民	52
組織金融市場と未組織金融市場の補完関係と代替関係		
——韓国・タイのケース——	岸 真清	69
アメリカにおける銀行業と商業の分離		
——グラス＝ステイガル体制成立過程の考察——	馬淵 紀壽	84
株式オプション取引の証拠金要件について——その危険パフォーマンス——	大村 敬一	105
わが国企業の資本構成——産業間の資本構成の違いを中心に——	山田 健	126
村井俊雄名誉教授略歴および著作目録		141

80 卷 6 号 (1988 年 2 月)

〈大熊一郎教授追悼特集号〉

「危機」の年 (1938 年) の財政過程——国防軍財政を中心として——	大島 通義	1
動学的企業行動モデルと企業税制	浜田 文雅	32
スウェーデンの医療政策について	飯野 靖四	46
不完全情報と早期参入プラントの優位性	川島 康男	65
家計属性による選好場の変位について	黒田 昌裕	75
完全競争市場の長期均衡	長名 寛明	104
投資競争の導入による Mason-Bain 体系の補綴	中澤 敏明	114
都市における住宅立地と住宅生産及び住宅消費〈日本のケース〉	森泉 陽子	131
企業の借入需要関数のミクロ的基礎	金子 隆	143
公的保険の供給における課税の役割について	羽田 亨	161
故大熊一郎教授略年譜および著作目録		179

81 卷 1 号 (1988 年 4 月)

〔論 説〕	貨幣経済における一時的均衡	福岡 正夫	1
	レスターシャーのピュウリタニズム (I)	中村 勝己	18
	“1949 年秋～朝鮮戦争” と “合理化投資” (下)	井村喜代子	56
	ポーランド王国の経済的發展をめぐる「東方市場」論争史序説 (3)	神代 光朗	80
	名誉革命体制評価をめぐるヒュームとウォーレス (I)	坂本 達哉	105
〔研究ノート〕	「経済表」の悲劇——渡辺輝雄博士の「書評」に質す——	小池 基之	131
〔書 評〕	置塩信雄著『マルクス経済学 II 資本蓄積の理論』	寺出 道雄	139

81 卷 2 号 (1988 年 7 月)

〔論 説〕	貨幣経済における一時的均衡：補完的分析	福岡 正夫	1
	河上 肇の思想遍歴		
	——『社会主義評論』と「無我苑」の頃：「社会主義者」と「志士仁人」の間——	飯田 鼎	14
	次善最適点における経済厚生の変化の評価について	川又 邦雄	28
	資本移動と国際調整	大山 道広	43
	名誉革命体制評価をめぐるヒュームとウォーレス (II)	坂本 達哉	60
	外国人強制労働への道——「電撃戦」構想下のドイツにおける労働力動員——	矢野 久	84
	18 世紀東部スイスの市場制度		
	——アッペンツェル外ローデンの農村市場について——	岩井 隆夫	110

	Ferdinando Galiani の稀少性価値理論の歴史的 position について……………	川俣 雅弘	137
	労働手段の発展段階に関する一考察……………	洪井 康弘	156
[研究ノート]	地方公共財配分の実証分析 ——その評価と展望(Ⅲ)・需要サイドから供給サイドの分析へ——……………	長峰 純一	177
	イギリス奴隷貿易研究の諸論点 ——産業革命期における経済的側面を中心として——……………	市橋 秀夫	198
[書評]	黒川俊雄編著『地域産業構造の変貌と労働市場の再編——新産業都市いわきの研究——』……………	加藤 佑治	213
<b>81 卷 3 号 (1988 年 10 月)</b>			
[論説]	貨幣の中立性……………	福岡 正夫	1
	ベトナム戦争と高度成長の再現・破綻(上)……………	井村喜代子	17
	共謀度と寡占均衡……………	川又 邦雄/下村 研一	46
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動(Ⅱ)……………	松村 高夫	59
	マルクスのアジア社会論——簡単な整合的理解の試み——……………	寺出 道雄	81
	利潤率均等化と古典派の競争概念について……………	細田 衛士	100
	離散的選択の理論による家計労働供給モデルの解析と実証……………	松野 一彦	116
[研究ノート]	小農家族経済論とチャヤノフ理論：課題と展望(上)……………	友部 謙一	145
[書評]	二村一夫著『足尾暴動の史的 analysis——鉱山労働者の社会史』……………	松村 高夫	170
	藤田幸一郎著『都市と市民社会——近代ドイツ都市史——』……………	矢野 久	175
<b>81 卷 4 号 (1989 年 1 月)</b>			
[論説]	規模の経済性と構造変化(一)……………	尾崎 巖/池田 明由	1
	ベトナム戦争と高度成長の再現・破綻(下)……………	井村喜代子	22
	アメリカにおける森林保護前史——ニューイングランドを中心に——……………	岡田 泰男	48
	参入と寡占均衡……………	川又 邦雄/下村 研一	72
	マクロ動学モデルにおける静態的期待と完全予見……………	大山 道広	84
	ヴッパータール(ウンター・バルメン)における地域信条と社会構成(1816年)……………	村山 聡	89
	税制の観点からみた公共財経済における誘因問題——単純な税制の場合——……………	池田 高信	110
	メンガー『国民経済学原理』の哲学的基礎……………	武藤 功	121
	イギリス奴隷貿易廃止運動の史的 analysis(1787-1788年)……………	市橋 秀夫	142
[研究ノート]	占有の原理と配置相の縮小……………	高橋潤二郎	164
	小農家族経済論とチャヤノフ理論：課題と展望(下)……………	友部 謙一	175
[書評]	置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦著『経済学』……………	伊藤 幹夫	184
	渡辺尚著『ラインの産業革命——原経済圏の成立過程——』……………	村山 聡	189
<b>82 卷 1 号 (1989 年 4 月)</b>			
[論説]	明治末期における経済学研究と保護主義 ——河上肇の農業保護論と国民国家論を中心に——……………	飯田 鼎	1
	日本金融連関の解剖(1)……………	浜田 文雅	20
	Central Labour College, 1909 年-1929 年(上) ——イギリスにおける労働者コレッジ運動と労働組合——……………	松村 高夫	37
	変分不等式による競争均衡の存在証明……………	丸山 徹	55
	土地問題と社会資本……………	大村 達弥	65
	アメリカの軍事力増強と軍事支出増大の恒常化について		



	——NSC68 のもつ意味——	延近 充	85
	政策目標としての完全雇用政策についての一考察	川俣 雅弘	107
	扇形作用素と Hahn-Banach の定理	立石 寛	118
	リチャード・ウェイトリーの「交換の学」とその思想的背景		
	——近代経済学における交換理論のミクロ的視点の萌芽——	中野 聡子	137
[研究ノート]	大戦期ナチス・ドイツにおける『近代化』と『統合』問題		
	——労働と社会に関する最近の研究史を中心に——	矢野 久	164
[書 評]	小松隆二『大正自由人物語——望月桂とその周辺——』	池田 信	177
	佐々波楊子・浜口登・千田亮吉共著		
	『貿易調整のメカニズム：輸出入のミクロ的基礎』	浦田秀次郎	180
	桜井毅『イギリス古典経済学の方法と課題』	飯田 裕康	186
82 卷 2 号 (1989 年 7 月)			
[論 説]	日本金融連関の解剖 (2)	浜田 文雅	1
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動 (Ⅲ)	松村 高夫	20
	〈歴史犯罪学〉の成果と展望 (上)		
	——西欧における犯罪の社会史研究を中心に——	矢野 久	40
	文久 2 年における三井横浜店の経営転換とその貿易金融展開の動向	石川 治夫	57
	限界効用理論の歴史における Wieser の自然価値理論の意義について	川俣 雅弘	87
	Ekeland の $\epsilon$ -変分原理とその応用	立石 寛	109
	寡占市場における製品差別化行動の厚生分析——同時決定ゲーム——	石橋 孝次	131
	ジェヴォンズの交換理論の再評価 I——ワルラス均衡との関係——	中野 聡子	145
[研究ノート]	イギリス産業革命期における生活水準論争再訪 (上)	松村 高夫	165
	イギリス海外交易研究史	堀 元子	185
[書 評 論 文]	アダム・スミス研究の新展開		
	田中正司『アダム・スミスの自然法学 スコットランド啓蒙と経済学の生誕』	水田 洋	198
[書 評]	矢内原勝・深海博明・大山道広編著『世界経済のニュー・フロンティア』	川田 侃	206
	島田晴雄著『ヒューマンウェアの経済学』	仁田 道夫	210
	磯野直秀著『モースその日その日：ある御雇教師と近代日本』	杉浦 章介	214
	八木紀一郎著『オーストリア経済思想史研究——中欧帝国と経済学者——』	池田 幸弘	220
82 卷 3 号 (1989 年 10 月)			
[論 説]	計量経済学における頑健推定 (1)	藁谷千風彦	1
	日本機械工業の社会的分業構造 (上) ——下請制研究の新たな視座を求めて——	渡辺 幸男	44
	マルクスの剰余理論	寺出 道雄	63
	日本の金融連関の解剖 (3)	浜田 文雅	78
	Central Labour College, 1909 年-1929 年 (下)		
	——イギリスにおける労働者コレッジ運動と労働組合——	松村 高夫	93
	名誉革命体制評価をめぐるヒュームとウォーレス (Ⅲ)	坂本 達哉	118
	〈歴史犯罪学〉の成果と展望 (下)		
	——西欧における犯罪の社会史研究を中心に——	矢野 久	144
	ミニマックス定理に関する考察	小宮 英敏	163
	Ekeland の $\epsilon$ -変分原理とその応用 II	立石 寛	169
	ジェヴォンズの交換理論の再評価 II——ヴィクセルの貨幣認識との関係——	中野 聡子	191
[研究ノート]	「七三一」部隊の研究における中国研究者の動向について		

	——最近の中国に現れた研究の成果に寄せて——	田中 明／江田いづみ	207
	国際産業連関分析における基礎的問題		
	——これまでの理論と実証のアプローチをめぐって——	池田 明由	217
	C. メンガーの「欲望」概念をめぐる一考察		
	——カント『実践理性批判』と関わらしめて——	武藤 功	232
[書 評]	白井厚著『社会思想史断章』	土方 直史	248
	岩田暁一著『先物とオプションの理論』	吉田真理子	253
82 卷 4 号 (1990 年 1 月)			
[論 説]	福地桜痴と福沢諭吉——『懐往事談』と『福翁自伝』をめぐって——	飯田 鼎	1
	“戦後 IMF 体制の崩壊”と“1971 年～74・5 年”	井村喜代子	26
	インフォーマルセクターにおける家計行動		
	——主体的均衡理論と実証分析——	鳥居 泰彦／小保内弘子	50
	計量経済学における頑健推定 (2)	蓑谷千風彦	73
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動 (IV)	松村 高夫	124
	日本機械工業の社会的分業構造 (下)		
	——下請制研究の新たな視座を求めて——	渡辺 幸男	151
	装置的労働手段の現段階——「制御」を基軸にすえて——	洪井 康弘	174
	「朝鮮産米増殖計画」における肥料の経済効果研究	朴 永九	195
[研究ノート]	工業化と外国資本——韓国繊維産業への直接投資——	高梨 和紘	218
	パートタイム労働にかんするイギリスの研究動向	中村 伸子	232
[批判・応答]	アダム・スミス研究の模索主題——水田洋氏の批判に答える——	田中 正司	248
	寺出道雄「マルクスの剰余理論」：批判	細田 衛士	255
	「マルクスの剰余理論」応答	寺出 道雄	258
[書 評]	井上茂子・木畑和子・芝健介・永岑三千輝・矢野久著		
	『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』	田村 栄子	263
82 卷特別号—I (1990 年 3 月)			
〈福岡正夫教授退任記念論文集〉			
	献 辞	神谷 傳造／川又 邦雄	1
	有効需要原理と価格理論	神谷 傳造	3
	労経交渉とマクロ経済	大山 道広	24
	税率の比例的变化の経済分析	川又 邦雄	40
	社会的無差別曲線の基礎	長名 寛明	48
	公共部門の短期および長期均衡分析	山田 太門	71
	無限次元空間における絶対連続関数の収束	丸山 徹	89
	床面積需要関数と質需要関数——公庫融資をめぐって——	瀬古 美喜	105
	経済発展と労働市場——タイの事例——	渡辺真知子	118
	貨幣的生産経済における過少雇用均衡についての予備的考察	池田 高信	134
	市場差別と不確実な需要	滝田 公一	153
	金融政策の公表と市場効率性	酒井 良清	170
	恒常状態における消費、成長、所得分配	細田 衛士	181
	金融政策の有効性と資金循環	塩澤 修平	189
	信用割当・長期貸出契約に関する理論的分析	竹島 正男	200
	流動性制約と異時点資産選択モデル	伊藤 幹夫／大平 哲	215

公共経済における競争均衡のナッシュ解による実行可能性について……………	中村 慎助	224
内生的景気循環とサン・スポット……………	須田 伸一	234
メンガー『国民経済学原理』の学史的位置付けについて ——ロツシャーとの関係を中心に——……………	池田 幸弘	254
謝辞……………	福岡 正夫	271
福岡正夫名誉教授略歴……………		272
福岡正夫名誉教授著作目録……………		274

82巻特別号-II (1990年3月)

〈中村勝己教授退任記念論文集〉

《西洋経済史・思想史》

リチャード・バクスターにおける宗教と社会 ——『聖徒の永遠の憩い』を中心に——……………	今関 恒夫	1
近代的家族の形成とピューリタニズム——スネル説批判を手がかりとして——……………	米山 秀	16
ロンドンにおけるユグノー亡命者の定住とその職業構成についての一試論……………	須永 隆	31
イギリス議会エンクロージャーにおける費用の調達 ——ウェストン・ターヴィル教区の研究——……………	重富 公生	54
アイルランド人季節移民と19世紀のイギリス農業……………	斎藤 英里	73
Charles Gairdner, 1824-1899……………	玉置 紀夫	91
ロマン主義の精神構造——シュミット『政治的ロマン主義』に寄せて——……………	藤山 宏	103
表現される歴史……………	寺尾 誠	118

《東洋および日本経済史・思想史》

17~18世紀北インドにおける都城について……………	佐藤 正哲	136
近世都市の歴史人口学的観察——奈良東向北町：寛政5年~明治5年——……………	速水 融	156
ベアリング商会と日露戦時公債発行……………	鈴木 俊夫	176
太平洋戦争をめぐって……………	内山 秀夫	192
祓論ノート——平安京大祓の場の分析——……………	山本 幸司	203
水戸学藤田派農政論の認識と思想……………	小室 正紀	223
戸田家族理論の一つの理解の仕方——有賀・喜多野論争を手がかりとして——……………	坂井 達朗	241
宗教と国家——三谷隆正の政治思想——……………	柳父 園近	260
中村勝己名誉教授略歴……………		271
中村勝己名誉教授著作目録……………		272

83巻1号 (1990年4月)

[論 説]	貨幣生成モデルの展望……………	福岡 正夫	1
	福沢諭吉と武士道——勝海舟、内村鑑三および新渡戸稲造との関連において——……………	飯田 鼎	16
	大戦期ナチス・ドイツにおける女性労働動員(上)……………	矢野 久	34
	2人経済におけるワルラス均衡のナッシュ実行可能性について……………	中村 慎助	54
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動(V)……………	松村 高夫	63
	名誉革命体制評価をめぐるヒュームとウォーレス(IV)……………	坂本 達哉	88
[研究ノート]	計画と剰余……………	寺出 道雄	121
	イギリス産業革命期における生活水準論争再訪(下)……………	松村 高夫	133
	アナル学派の家族史研究 ——J. -L. フランドラン, M. セガレーヌの業績を中心として——……………	岡田あおい	156
[書 評 論 文]	歴史人口学におけるミクロとマクロ……………		

	——日本およびドイツ語文化圏における‘Historical Demography’の比較——	村山 聡	176
[書 評]	中村勝己著『経済的合理性を超えて』	田中 豊治	191
	矢内原勝・小田英郎著『アフリカ・ラテンアメリカ関係の史的展開』	服部 伸六	195
	Shinya Sugiyama, <i>Japan's Industrialization in the World Economy, 1859-1899: Export Trade and Overseas Competition</i>	古田 和子	202
	中村勝己編『受容と変容——日本近代の経済と思想』	飯田 鼎	206
	根井雅弘著『マーシャルからケインズへ——経済学における権威と反逆——』	丸山 徹	211

83 卷 2 号 (1990 年 7 月)

〈小特集：経済学会コンファレンス——市場機構と産業組織——〉

	「市場機構と産業組織」特集号について	川又 邦雄	1
	戦略的コミットメントと経済厚生	奥野 (藤原) 正寛／鈴木興太郎	6
	戦略的な品質選択と経済厚生	鈴木興太郎／常木 淳	21
	寡占市場における製品差別化行動の厚生分析——2 段階ゲーム——	石橋 孝次	30
	R&D 競争の理論と政策の再検討	白井 義昌	50
	企業の結託と経済厚生	川又 邦雄	71
	危険回避と情報伝達——クールノー複占市場のケース——	酒井 泰弘／吉住 昭彦	79
	企業内管理組織と不確実性	川島 康男	99
	推測変動の動学的解釈と Chamberlin 均衡	大山 道広	110
	コンテストビリティ理論とその政策的含意	南部 鶴彦	121
	日本企業における労働意欲と企業文化	奥野 (藤原) 正寛	131

---

[論 説]	回帰モデルの誤差項の正規性検定 (1)	蓑谷千風彦	148
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動 (VI)	松村 高夫	187
	一般均衡モデルの実証分析への応用：CGE モデルの発展過程と現状	浦田秀次郎	213
	イギリスにおける戦災都市再開政策の展開，1940 年-1945 年	長谷川淳一	239
[批判・応答]	歴史人口学におけるミクロとマクロ——方法論的リプライ——	斎藤 修	262
[書 評]	高須賀義博編『シンポジウム《資本論》成立史——佐藤金三郎氏を囲んで——』	飯田 裕康	265

83 卷 3 号 (1990 年 10 月)

[論 説]	理財科の 30 年：1890-1920 年	西川 俊作	1
	1980 年代における日米経済関係と日本経済	井村喜代子	30
	日本労働組合論事始	小松 隆二	54
	工業化の商品属性アプローチ	高梨 和紘	70
	マルクスの利潤率低下論	寺出 道雄	91
	第二次世界大戦下ドイツ民衆の外国人労働者像	矢野 久	106
	回帰モデルの誤差項の正規性検定 (2)	蓑谷千風彦	129
	アメリカの軍事力増強と軍事支出増大の恒常化について②		
	——アイゼンハワー政権期の冷戦・軍事戦略——	延近 充	165
	環境の経済学的評価の検討——富士スバルラインを例として——	島本美保子	194
	プリストルにおける戦災地再開政策の展開 1940 年-1945 年	長谷川淳一	216
[研究ノート]	擬クールノー型寡占市場における過剰参入定理に関するノート	竹島 正男	240
	ベトナム戦争と“ベトナム・周辺地域”向け輸出		
	——ベトナム戦争の日本経済への一影響——	井上 弘基	246
[資 料]	第二次世界大戦期の朝鮮人強制連行・強制労働	松村 高夫	264

[書 評 論 文]	近代日本 100 年の自己認識を振り返る 川合隆男編『近代日本社会調査史 (I)』, 江口英一編『日本社会調査の水脈——そのパイオニアたちを求めて』……………中川 清 283
[書 評]	ディルク・プラジウス著, 矢野久・矢野裕美訳 『歴史のなかの犯罪——日常からのドイツ社会史』……………室井 俊通 297
	ロバート・E・ライタン著 馬淵紀壽・塩沢修平訳 『銀行が変わる——グラス＝スティーガル体制後の新構図——』……………金子 隆 301
	関満博・加藤秀雄共著 『現代日本の中小機械工業——ナショナル・テクノポリスの形成——』……………渡辺 幸男 306
	宇沢弘文著『「豊かな社会」の貧しさ』……………細田 衛士 311

83 卷 4 号 (1991 年 1 月)

〈小特集：アダム・スミス没後 200 年〉

	アダム・スミスと輸出奨励金……………羽鳥 卓也 1
	アダム・スミス没後 200 年……………福岡 正夫 22
	スミスにおける貨幣・利子・公債——貨幣的経済の古典的・批判的認識——……………飯田 裕康 40
	『国富論』体系における「生産と消費の均衡」……………大友 敏明 56
	読まれざる『国富論』と可能性としてのスミス ——解体期ナポリ啓蒙の一断面——……………奥田 敬 88
	メンガー『方法論』におけるスミス解釈について ——歴史学派のスミス解釈との関係を中心に——……………池田 幸弘 110
[論 説]	ジャクソン期アメリカ ある東部農民の生活と思索……………岡田 泰男 126
	マルクスのな資本主義の長期動向論——試論——……………寺出 道雄 149
	ポーランド王国の経済的發展をめぐる「東方市場」論争史序説 (4)……………神代 光朗 162
	大戦期ナチス・ドイツにおける女性労働動員 (下)……………矢野 久 185
[資 料]	チャールズ・ブース『ロンドンの民衆の生活と労働』の手稿をめぐって……………高井 哲彦 203
[書 評 論 文]	常行敏夫『市民革命前夜のイギリス社会——ピューリタニズムの社会経済史——』……………寺尾 誠 218
[書 評]	浅田喬二『日本植民地研究史論』……………松村 高夫 229

83 卷特別号—I (1990 年 9 月)

〈飯田鼎教授退任記念論文集〉

	社会政策四〇年——わが社会政策研究の思い出——……………飯田 鼎 1
	《経済史・思想史》
	<i>The Yokohama Specie Bank</i> ——多国籍銀行業務分析, 1879-1931——……………玉置 紀夫 13
	日本における思想家の個人紙誌——1910 年代～20 年代を中心に——……………小松 隆二 27
	水戸学立原派における「民富論への模索」 ——小宮山楓軒と大内正敬を中心として——……………小室 正紀 38
	初期 J. S. ミルの統治改革論と政治経済学……………立川 潔 59
	《社会政策・労働運動史・労働問題》
	20 世紀初頭のイタリア労働組合運動 (1901 年～1911 年)……………横山 隆作 75
	西ドイツ労働市場論にむけて……………大塚 忠 86
	韓国労働運動史の一駒——1970 年代女子労働者の闘争と都市産業宣教活動——……………吉田 千代 104
	日本における職業紹介法 (1921 年) の成立過程 ——本格的な労働市場社会政策の登場——……………澤邊みさ子 122
	日本最初の健康保険法 (1922 年) の成立と社会政策

——救済事業から社会政策への転換——	西村万里子	138
パートタイム労働者の人事管理——大手スーパーを中心に——	青山悦子	155
出向・転籍の増大と大企業高齢者雇用	下田健人	173
都市銀行における第3次オンライン化と新人事政策	清山玲	188
飯田鼎名誉教授略歴		205
飯田鼎名誉教授著作目録		206

83巻特別号-II (1991年3月)

〈矢内原勝教授退任記念論文集〔国際経済学・地域研究〕〉

まえがき	深海博明／大山道広／高梨和紘	1
《発展途上経済——アフリカ・アジア——》		
ナイジェリアとザンビアの農業および都市・建設現場間の労働移動	矢内原勝	3
タンザニア, キリマンジャロ州の工業基盤	高梨和紘	19
現代中国における基本蓄積メカニズムの変容	渡辺利夫	37
中国の経済近代化と体制改革	唐木圀和	58
在タイ日本人社会生活調査	クントン・インタラタイ	72
インド鉄鋼業の発展過程	小島眞	86
ベトナム経済の自由化——その展開と問題点——	岩崎恵弘	108
韓国の銀行自由化と産業組織	首藤恵	125
フィリピンの労働者の海外送り出し政策	山形辰史	145
《国際経済——課題・理論・体制——》		
地球環境問題の重大化と持続的発展		
——特に発展途上国における両立・調和の可能性を中心に——	深海博明	167
冷戦後国際経済システムの方向性と日本の対応	首藤信彦	199
企業行動と国際貿易——Ricardo-Millモデルの再解釈と拡充——	大山道広	214
経済成長と国際外部経済	寺崎克志	229
ガットと新分野 (New Issues)	佐々波楊子	250
退任者のあとがき——謝意と研究の軌跡——	矢内原勝	261
矢内原勝教授略歴および業績		263

84巻1号 (1991年4月)

〈小特集：アルフレッド・マーシャル「経済学原理」刊行100年〉

マーシャル『経済学原理』再訪	福岡正夫	1
マーシャル的均衡理論の特質と意義	富田重夫	21
マーシャルの課税・補助金政策と生産者余剰	根岸隆	33
Walras 経済学の伝統と Marshall 経済学の展開	川俣雅弘	46
A・マーシャルと功利及び効用の思想	中野聡子	64

〔論 説〕	『チェンバース経済書』と福沢諭吉——幕末における西欧経済学研究の一齣——	飯田鼎	81
	三財モデルと独占的競争モデルにおける貿易政策の同等性	竹森俊平	100
	フォード・システム——人間の「機械化」に基づく大量生産方式——	渋井康弘	109
	開放経済マクロモデルによる政策効果の検討	山本美樹子	130
	多価写像に対するペロンーフロベニウスの定理	立石寛	151
	戦後イギリスにおける戦災地再開政策の展開		
	——1945年-1951年——プリストルを中心に——	長谷川淳一	165

〔研究ノート〕	マルクスのエンクロージャー論	寺出 道雄	185
〔資料〕	1920年代の足尾鋇毒事件——待矢場兩堰普通水利組合の渡良瀬川水源調査——	小松 隆二	196
〔批判・応答〕	歴史人口学の方法論的再検討	矢野 久	202
〔書評論文〕	アラン・S・ブラインダー著『ハードヘッド&ソフトハート』	吉野 直行	208
〔書評〕	杉山伸也・イアン・ブラウン編著『戦間期東南アジアの経済摩擦』	小林 英夫	214
	S. プラギンスキー, V. シュヴィドコー『ソ連経済の歴史的転換はなるか』	竹森 俊平	218

84 卷 2 号 (1991 年 7 月)

〈小特集：経済学会コンファレンス——金融の自由化と国際化——〉

	「金融の自由化と国際化」特集号について	大山 道広	1
	貨幣の機能と決済システム——理論的考察——	伊藤 元重/柳川 範之	7
	銀行取付けの波及過程の理論分析(金融恐慌の理論分析)	酒井 良清/金谷 貞男	32
	企業金融の多様化と支出先行指標としてのマネーサプライ	金子 隆	51
	利子率決定における「のれん」の役割	榊原 健一	67
	国際化と金融政策	塩澤 修平	80
	資本移動と国際収支——可変的時間選好率のケース——	高橋 青天	95
	産業構造の履歴現象と財政政策	大瀧 雅之	105
	国際貸借の戦略的側面——2 国ダイナミックゲームモデル——	深尾 京司	126
	預貯金金利自由化と財政投融资システム	吉野 直行	140
	流動性制約	牧 厚志	154
〔論説〕	ベナシー経済における貨幣の功罪	福岡 正夫	164
	1980年代における日米経済関係と日本経済(続)	井村喜代子	179
〔研究ノート〕	京浜の機械金属工業集積の実態——川崎機械金属工業中小企業実態調査報告——	渡辺 幸男	207
	近世都市ツールズについて——その都市機能の変化——	宮崎 洋	228
	ハンブルクにおける 1376 年の市民抗争について	斯波 照雄	241
〔資料〕	第三帝国の財政統計・増補改訂版(1)(1933~1944 年度)	大島 通義	256
	『ヒル・レポート』(上)——731 部隊の人体実験に関する アメリカ側調査報告(1947 年)——	松村 高夫/金平 茂紀	286
〔書評〕	F. -J. Brüggemeier/Th. Rommelspacher (Hrsg.): <i>Besiegte Natur. Geschichte der Umwelt im 19. und 20. Jahrhundert</i>	矢野 久	305

84 卷 3 号 (1991 年 10 月)

〔論説〕	法人税帰着の一般均衡分析とその評価 ——ハーバーガー・モデルとその 30 年後——	古田 精司	1
	第二次世界大戦期ドイツにおけるソ連人労働者政策の転換(上)	矢野 久	19
	家計の労働供給の計量経済学的モデルとその検証	宮内 環	40
	合理的期待動学モデルの情報構造と検定方法に関する一考察	井出多加子	71
	公共投資支出のマクロ経済効果:再検討	中野 英夫	85
〔研究ノート〕	エンゲルスの「窮乏化」論	寺出 道雄	97
	日本における社会保険論の導入・展開過程	西村万里子	107
	中国沿海都市近郊農村の工業化・産業構造の変化と郷鎮企業の経営メカニズムに関する 一考察——天津市東郊区軍糧城鎮民生村・民生実業会社の事例にもとづいて——	駒形 哲哉	122
〔資料〕	第三帝国の財政統計・増補改訂版(2)(1933~1944 年度)	大島 通義	141
	幕末農政論争の一重要史料		

	——水戸藩郡方手代 大内正敬による『勸農或問』批評』の全貌……………小室 正紀	171
〔書評〕	白井厚監修・慶応義塾大学経済学部白井研究会編著『慶応義塾消費組合史』…富沢 賢治	192
	島田晴雄『日本企業・次なる変革——共存時代の新たな経営戦略とは』……………出口 正之	196
	富田重夫名誉教授略歴・著作目録……………	200
	矢内原勝名誉教授略歴・著作目録……………	202
	安川正彬名誉教授略歴・著作目録……………	207

84 卷 4 号 (1992 年 1 月)

〈小特集：経済学会コンファレンス——金融システムの国際比較——〉

	第 3 回：慶応義塾経済学会コンファレンス日程……………	1
	総括的コメント：金融システムの現在と将来…………… 浜田 文雅	2
	米国金融制度の「国際化」について——その実体は？——…パトリシア・ヘイガン・桑山	5
	「米国金融制度の「国際化」について」へのコメント……………C. テイト・ラトクリフ	22
	米国金融制度改革の問題点……………伊東 政吉	25
	東西ドイツの統一と金融再編……………相沢 幸悦	41
	ドイツの金融制度と金融政策……………島野 卓爾	57
	「東西ドイツの統一と金融再編」及び「ドイツの金融制度と金融政策」	
	へのコメント……………寺西 重郎	74
	フランスの金融構造と金融改革——金融の証券化、国際化、総合化をめぐる——…中川 辰洋	76
	「フランスの金融構造と金融改革」へのコメント……………小谷 雅貴	96
	「フランスの金融構造と金融改革」へのコメント……………細田 衛士／竹森 俊平	99
	イタリアの金融制度……………黒田 晁生	101
	カナダの金融システムとその改革……………林 直嗣	116
	「カナダの金融システムとその改革」へのコメント……………那須 正彦	138
	「カナダの金融システムとその改革」へのコメント……………首藤 恵	140
	銀行の競争力について……………鹿野 嘉昭	143
	「銀行の競争力について」へのコメント……………渡辺 幸男	162
〔論説〕	第二次世界大戦期ドイツにおけるソ連人労働者政策の転換（下）……………矢野 久	164
	ダブリンにおけるフィニアン蜂起（1867 年）……………高神 信一	181
	韓国経済へのベトナム戦争の影響	
	——韓国における「NIEs 的発展」の基礎形成——……………佐野 孝治	203
〔研究ノート〕	マルクスの所有批判……………寺出 道雄	231
	ヴィクトリア時代ロンドン・ハックニー地区における衛生改革の展開……………永島 剛	242
〔資料〕	第三帝国の財政統計・増補改訂版（3）（1933～1944 年度）……………大島 通義	257
	アメリカにおける女性労働——19 世紀末から 20 世紀初頭——…岡田 泰男／黒川 春子	298
〔書評〕	白井厚著『協同組合論集』……………飯田 鼎	319
	川越修・姫岡とし子・原田一美・若原憲和編著	
	『近代を生きる女たち——一九世紀ドイツ社会史を読む——』……………矢野 久	323
	渡辺國廣教授略歴・著作目録……………	327
	浜田文雅教授略歴・著作目録……………	329

84 卷特別号 I (1991 年 9 月)

〈富田重夫教授退任記念論文集〉

	私と経済学の研究……………富田 重夫	1
--	--------------------	---



	短・長期の消費関数……………	大山 道広	13
	個人間効用比較の問題をめぐって……………	川又 邦雄	24
	国家の理論……………	田中 宏	32
	Hilbert 空間上の Filippov 型発展方程式……………	丸山 徹	47
	世代重複経済における競争均衡について……………	吉田真理子	67
	多部門モデルにおける短期均衡……………	細田 衛士	77
	金融国際化の効果——均衡の安定性と比較静学分析——……………	塩澤 修平	91
	価格の伸縮性に関する実証分析……………	小野崎 保	103
	ワルラスとオーストリア学派の人々		
	——往復書簡を通じて見た相互関係について——……………	武藤 功/中野 聡子	111
	富田重夫名誉教授略歴および業績……………		150
<b>85 卷 1 号</b>	(1992 年 4 月)		
[論 説]	通貨膨張のメカニズム……………	浜田 文雅	1
	リカードウの一書簡(慶應義塾図書館所蔵)をめぐって……………	飯田 裕康	15
	部分均衡分析の基礎: 準線形選好関係と消費者余剰……………	長名 寛明	31
	多生産物寡占における製品選択と暗黙の結託……………	石橋 孝次	60
	保険契約と繰り返しゲーム……………	馬場 弓子	77
[研究ノート]	協同組合の基本的価値と原則改訂問題		
	——「レイドロー報告」と「マルコス報告」をめぐって——……………	白井 厚	89
[書 評 論 文]	ナチズムにおける〈民族同胞〉と〈共同体異分子〉		
	——デートレフ・ポイカート『ナチス・ドイツ—ある近代の社会史—』		
	木村靖二・山本秀行訳によせて——……………	矢野 久	102
[書 評]	竹内幸雄著『イギリス自由貿易帝国主義』……………	松村 高夫	111
	ジェームズ・P・ウォマック, ダニエル・ルース, ダニエル・T・ジョーンズ著		
	沢田博訳『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。』……………	渋井 康弘	115
<b>85 卷 2 号</b>	(1992 年 7 月)		
[論 説]	ガーナの構造調整計画……………	矢内原 勝	1
	家計労働供給の理論と検証(1)——理論の位置づけ——……………	小尾恵一郎	20
	金融システムの国際比較——方法論的考察——……………	浜田 文雅	46
	あるオレゴン移住者の記録——アメリカ極西部への西漸運動——……………	岡田 泰男	56
	企業の参入・退出と不完全雇用均衡……………	大山 道広	77
	第二次世界大戦期ドイツの東部占領地域での労働力調達(I)……………	矢野 久	91
	競争力ロビイングの理論——ロッキード事件の経済学——……………	竹森 俊平	106
	国際的所得移転と環境問題……………	吉岡 忠昭	122
	公害防止装置市場の展開とその限界——〈社会的費用〉論を適用して——……………	大森 正之	130
	ベトナム戦争における“軍需”と米国半導体産業の発展……………	井上 弘基	151
	トヨタ・システムの再検討——フォード・システムとの比較を通じて——……………	渋井 康弘	169
	チャールズ・ダヴナントにおける統治と経済……………	伊藤誠一郎	195
[資 料]	南部粵漢打通作戦における衛生関係部隊——第 20 軍『業務詳報』の紹介——……………	兒嶋 俊郎	217
<b>85 卷 3 号</b>	(1992 年 10 月)		
	〈特集: 経済学会コンファレンス——公共経済学の新展開——〉		
	「公共経済学の新展開」特集号について……………	長名 寛明	1

	販売競争と経済厚生	大山 道広	6
	国内第一種長距離通信市場と供給最大化仮設	小澤 太郎	19
	公的住宅ローンと民間住宅ローン	瀬古 美喜	30
	宅地レントに対する税の効果について	中神 康博	41
	環境悪化, マキシミン規準, および成長	大沼あゆみ	55
	資本所得課税と経済成長	柳川 範之	70
	自発的寄付メカニズム実験におけるスパイト・ディレンマ	西條 辰義/中村 英樹	80
	段階的交渉とゲームの解対応の整合性	蓼沼 宏一	100
	公共事業における自発的貢献	岡崎 哲郎	115
	公共財供給メカニズムの戦略的操作不可能性	大瀬戸真次	124
<hr/>			
[論 説]	第二次世界大戦期ドイツの東部占領地域での労働力調達 (II)	矢野 久	138
[研究ノート]	職業紹介法施行以後の職業紹介事業の展開 ——社会事業から社会政策への脱皮——	澤邊みさ子	153
[書 評]	野村隆夫編著『産業社会の変貌——国際比較の視点から——』	高梨 和紘	172
85 卷 4 号 (1993 年 1 月)			
〈小特集:環境と経済〉			
	小特集「環境と経済」について	細田 衛士	1
	「持続可能な発展論」の現状と課題	森田 恒幸/川島 康子	4
	成長経済における排出権売買と所得分配	細田 衛士	34
	建築基準緩和の経済分析	山崎 福寿/日引 聡	53
	EC 環境政策の新たな局面——エコラベル計画およびエコ監査計画を中心に——	大森 正之	62
	水田と風土	寺出 道雄	78
	地球環境的視点からの森林の公益的機能と国内林業政策	島本美保子	92
<hr/>			
[論 説]	第 1 種電気通信事業における寡占市場と事業規制 ——公的規制とレントシーキング——	大村 達弥	115
	企業戦略としてのフィランソロピー	塩澤 修平	134
	グッドウィン成長循環モデルの構造安定サイクル	伊藤 幹夫	153
	家計の労働供給の分析——雇用機会の諸否の選択とその確率——	宮内 環	171
	第二次世界大戦期ドイツの東部占領地域での労働力調達 (III)	矢野 久	195
	小尾恵一郎教授略歴・著作目録		207
	尾崎巖教授略歴・著作目録		211
	常盤政治教授略歴・著作目録		215
86 卷 1 号 (1993 年 4 月)			
[論 説]	生命保険法人税制の理論と実際	古田 精司	1
	入会と「公有地の悲劇」	寺出 道雄	26
	初期アダム・スミスの価格論の再検討 ——『法学講義』および『国富論草稿』——	佐藤 有史	42
	ウィーンの数理経済学とヒルベルト主義	武藤 功	70
	ハリストダロ経済における民間教育投資と内生的経済成長	大東 一郎	100
[研究ノート]	中国沿海都市近郊における農村経済の新動向 ——天津市東麗区 軍糧城鎮民生村におけるケーススタディ——	駒形 哲哉	122
[書 評]	村上泰亮著『反古典の政治経済学』	丸山 徹	135

86 卷 2 号 (1993 年 7 月)	
[論 説]	英国病……………アレック・ケアンクロス 1
	オズボーン判決 (1909 年) (I)
	——イギリス労働史におけるリベラリズムとソーシャリズム——……………松村 高夫 11
	ワルラスと「社会数学」の伝統……………武藤 功 29
	結合生産体系における廃棄物再生部門——ひとつの恒常経済模型——……………松波 淳也 65
	明治初年, 東京市街地における地価算定政策の展開……………森田 英樹 81
[研究ノート]	明治期社会主義の一考察——矢野文雄と『新社会』——……………葛木 能雄 122
[資 料]	ジョン・パトンの訪日日記 (1947 年) (上) ……………松村 高夫 137
[書 評]	吉川洋著『日本経済とマクロ経済』……………浜田 文雅 155
86 卷 3 号 (1993 年 10 月)	
〈特集: 社会史と文学〉	
	特集「社会史と文学」について——E. P. トムスンを追悼する——……………松村 高夫 1
	トマス・ハーディと歴史学——方法論的事例研究——……………フレッド・リード 8
	モップと騒擾法 (1715 年) ……………近藤 和彦 35
	〈文学的想像力〉から〈歴史的想像力〉へ
	——ハウプトマン『織工』と 1844 年の同時代人の〈織工〉像をめぐって——……………矢野 久 52
	フィニアン蜂起 (1867 年) と J・デヴォイの回想録……………高神 信一 78
	ヴィクトリア時代の引越し……………富山太佳夫 93
	イギリスの「フォークソング・ムーヴメント」にみる文化的屈折
	——L. ブロードウッドの収集活動を中心にして——……………遠藤 美幸 115
	鷗外の史伝と社会史……………草光 俊雄 131
	社会史の言語論的アプローチをめぐって
	——ステドマン・ジョーンズ『チャーティズム再考』を再考する——……………松村 高夫 143
[書 評]	デイヴィッド・ダビディーン著
	『大英帝国の階級・人種・性——W・ホガースにみる黒人の図像学』……………杉原 達 162
	ロイ・ポーター著『狂気の社会史』……………松村 高夫 166
86 卷 4 号 (1994 年 1 月)	
[会長講演]	日本経済分析の基礎視角……………井村喜代子 1
[論 説]	哲学者ケインズ……………福岡 正夫 9
	都市ガス産業における市場条件と規制緩和をめぐって……………川又 邦雄/加藤 樹芳 30
	教育投資と経済成長……………津曲 正俊 47
[座 談 会]	社会主義体制の改革と経済学
	……………福岡 正夫/鳥居 泰彦/坂本 達哉/セルゲイ・ブラギンスキー/竹森 俊平 62
[資 料]	ジョン・パトンの訪日日記 (1947 年) (下) ……………松村 高夫 81
[書 評]	藤原保信著『自由主義の再検討』……………野地 洋行 100
	佐藤保教授略歴・著作目録……………107
	古田精司教授略歴・著作目録……………109
	高山隆三教授略歴・著作目録……………113
87 卷 1 号 (1994 年 4 月)	
[インタビュー]	現代マクロ経済学……………福岡 正夫/神谷 傳造 1
[読書案内]	初めてマクロ経済学を学ぶ人のために……………細田 衛士 20

〈小特集：数理経済学国際会議〉

	序	丸山 徹	24
	測度からなる空間の上で定義される積分汎函数のエピー収束について ——SWEEPING 過程への応用——	シャルル・カスタング／ヴィンセント・ジャルビ	27
	期待に起因する非線形景気循環	ジャン＝ミシェル・グランモン	63
	有限行動の Large Game について：総合的考察	M. アリ・カーン／イエヌグ・サン	73
	経済学における正の非線形システム	ウルリッヒ・クラウス	85
[論 説]	オーバーシュレージエン鉱山業における大貴族経営の近代化と発展	細田 信輔	98
	19 世紀後半プロイセン領ポーランドにおけるポーランド人民族運動家の経済観	松家 仁	124
[書 評]	井村喜代子著『現代日本経済論——敗戦から「経済大国」を経て——』	鶴田 満彦	146
	時政勲著『枯渇性資源の経済分析』	立石 寛	150

87 巻 2 号 (1994 年 7 月)

〈特集：コンファレンス「20 世紀末の資本主義」〉

	開題	北原 勇	1
	20 世紀末の資本主義	北原 勇	8
	ME = 情報革命の基本的性格——「ポスト冷戦」段階への基礎視覚——	南 克巳	26
	20 世紀末のアメリカ資本主義	佐藤 定幸	45
	ソ連経済の「ベレストロイカ」と崩壊	二瓶 剛男	60
	[論点補足] 情報革命と資本主義の矛盾	二瓶 敏	70
	[論点補足] ME 化・情報化について	北村 洋基	82
	20 世紀末の資本主義——EC 統合とヨーロッパ資本主義——	田中 素香	91
	“経済大国” 日本と世界	伊藤 正直	113
	20 世紀末の資本主義——アジアと日本——	中川 信義	136
	[論点補足] 日本とアジア ——製造業企業の東アジア展開と国内工業基盤の変化——	渡辺 幸男	164
	国際通貨制度と国際金融——国際的ファンド・フローの変化——	深町 郁彌	176
	金融構造の国際的連繋——わが国金融市場の国際化と関連して——	飯田 裕康	207
	[論点指摘] 「20 世紀末の資本主義」についての重要な問題	井村喜代子	216

87 巻 3 号 (1994 年 10 月)

[論 説]	「フロンティア理論」100 周年——ターナー学説の批判と評価——	岡田 泰男	1
	最適政策の理論——2 国 2 財モデル——	大山 道広	18
	損害保険市場の特徴と規模の経済性に関する実証分析	吉野 直行／郭 賢泰／沖田 剛一	26
	国際資本移動と金融政策	塩澤 修平	49
	ルイ・ブラン『労働の組織』と七月王政期のアソシアシオニスム (上) ——普通選挙と「社会的作業場」——	高草木光一	64
	ドイツにおける信条の時代と教区簿冊 ——エルバーフェルトの改革派ゲマインデの場合——	村山 聡	85
	韓国の中東進出と重化学工業化 ——オイルショック～世界的不況下の韓国経済——	佐野 孝治	99

87 巻 4 号 (1995 年 1 月)

[論 説]	比較静学と経済均衡のアルゴリズム	ステイーヴン・スモール	1
-------	------------------	-------------	---

	収獲増と一般的均衡理論	福岡 正夫	5
	タフ・ヴェイル判決とイギリス鉄道労働運動 (VII)	松村 高夫	18
	ルイ・ブラン『労働の組織』と七月王政期のアソシアシオニスム (下)		
	——普通選挙と「社会的作業場」——	高草木光一	38
	市場経済移行と企業	セルゲイ・ブラギンスキー	60
	チャールズ・ダブナントの「信用」論——その特徴と変容——	伊藤誠一郎	92
〔書評〕	J.-L. ムキエリ=佐々波楊子編著『日欧 競争と協調の新時代』	嘉治佐保子	113
	古田精司著『法人税制の政治経済学』	西野 万里	117
	杉山伸也著『明治維新とイギリス商人——トマス・グラバーの生涯——』	山本 有造	121
	井村喜代子教授略歴・著作目録		124
	大島通義教授略歴・著作目録		128

88 卷 1 号 (1995 年 4 月)

〈小特集：The First Decentralization Conference in Japan〉

	序	長名 寛明	1
	戦略的操作不可能な費用分担について	エルヴェ・ムーラン	3
	最善のベイズ的私有化メカニズム	タイスン・キム/ジョン・O. レジャード	25
	厚生水準の個人間比較可能下での不可能性定理について		
	——拡張された同情アプローチ再考——	長久 領彦/須賀 晃一	45
	小さな独裁者, 大きな独裁者		
	——2つの選択の問題がある場合の分権的な決定の可能性——	広川みどり	62
	複数対複数マッチングルールの実現可能性と操作不可能性について	グレーヴァ香子	75
〔論説〕	離散空間におけるコア, 疑似競争価格及びワルラス的配分の		
	近似的最適性	レオニッド・ハーヴィッツ	86
	景気変動・社会変化と労働組合の組織化		
	——イギリス銀行業における事例研究 1918-45——	中野 聡	106
〔書評論文〕	イカリア主義の歴史と歴史の中のイカリア主義		
	——Robert P. Sutton, <i>Les Icaris: The Utopian Dream in Europe and America</i> , (Urbana: University of Illinois Press, 1994) に寄せて——	高草木光一	125
〔書評〕	森嶋通夫著『思想としての近代経済学』	坂本 達哉	140
	森嶋通夫著『思想としての近代経済学』	中野 聡子	143

88 卷 2 号 (1995 年 7 月)

〈小特集：「国際協調体制の再構築」について〉

	序	塩澤 修平	1
	最適な経済統合——サロップ型製品差別化モデルに基づく考察——	木村 福成	4
	埋没費用, リスク・シェアリング, 及び経済成長	大瀧 雅之	25
	直接投資と貿易政策	竹森 俊平/津曲 正俊	61
	国際公共財と経済厚生	寺崎 克志	77
	なぜロシア経済においてルーブルが消滅しないか?		
	——超インフレ通貨の非消滅性——	酒井 良清	100
	アンチダンピング政策の経済分析	藤田 康範	117
	貿易政策の内生的決定と産業利益	清野 一治	136
〔論説〕	独占的競争と製品差別化の程度	川又 邦雄	155
	公債累積問題と財政政策の政策協調	古川 徹也	160

〔研究ノート〕	マルクスの相対的過剰人口論	寺出 道雄	177
<b>88 卷 3 号</b> (1995 年 10 月)			
〔会長講演〕	経済学と人間の労働——「労働」から「活動」へ——	野地 洋行	1
〔論 説〕	収穫逓増と限界費用価格形成原理	福岡 正夫	15
	銀行規制体系の再検討 (上)		
	——情報・インセンティブ・規制コスト——	池尾 和人／谷 直樹	31
	非線形景気循環理論の実証	伊藤 幹夫	53
	需要不確実性と垂直的統合	玉田 康成	84
	「コントロールされた金融自由化」における公的金融の経済分析	藤田 康範	112
	ヴィクトリア時代ロンドンの篤志病院——セント・ジョージ病院を中心として——	永島 剛	131
〔書 評〕	鈴木淑夫著『不況克服後日本経済の将来像——悪循環からの脱却』	丸山 徹	154
	鈴木淑夫著『円デフレとドルインフレ——畏にはまった経済大国』	丸山 徹	154
	鈴木光男著『新ゲーム理論』	須田 伸一	160
	白井厚・小松隆二監修『現代の経済と消費生活——協同組合の視点から——』	伊東 勇夫	163
	飯田裕康・川波洋一編著『現代信用論の基本課題』	中宮 光隆	167
<b>88 卷 4 号</b> (1996 年 1 月)			
〔論 説〕	収穫逓増と厚生経済学の基本定理	福岡 正夫	1
	現段階の日本の生産様式について——トヨタ生産方式の一考察——	北村 洋基	21
	銀行規制体系の再検討 (下)		
	——情報・インセンティブ・規制コスト——	池尾 和人／谷 直樹	44
	東京府下における「市街地」の成立——1870 年代の土地政策と地方制度——	森田 英樹	60
	電気電子産業発展における韓国的特徴		
	——「重化学工業化」政策期の韓国電気電子産業——	金 鍾杰	81
〔座 談 会〕	経済学。何を学ぶのか	飯田 裕康／清水 雅彦／杉山 伸也／吉野 直行	106
〔読 書 案 内〕	経済学とその歴史の理解のために	飯田 裕康	120
	経済史って何だろう	杉山 伸也	122
	1 年生のための経済原論	吉野 直行	124
	計量経済学を学ぶ	河井 啓希	126
〔書 評〕	岡田泰男著『フロンティアと開拓者——アメリカ西漸運動の研究——』	大森雄太郎	130
	北村勇教授略歴・著作目録		137
	白井厚教授略歴・著作目録		141
	寺尾誠教授略歴・著作目録		149
	野地洋行教授略歴・著作目録		153
<b>89 卷 1 号</b> (1996 年 4 月)			
〔会長講演〕	50 年目の大学評価	白井 厚	1
	〈小特集：社会的選択とゲームにおける協力関係〉		
	序	川又 邦雄	14
	無限個の商品をもつ経済におけるコアの収束		
	……………ロバート・M・アンダーソン／ウィリアム・R・ゼイム		17
	利潤最大化、相対価格、および株主の実質資産の最大化：要約		
	……………エグベルト・ディアカー／ブリジット・グローダル		29
	穏当な提案	ルイス・C・コルチョン／カルメン・ヘレーロ	38

労働者が毎期離職可能な時の報酬のタイミングについて：

	——外部オファーが一様分布のケース——	グレーヴァ香子	42
	二者間交渉モデルにおけるカルテル形成	フランシス・ブロック／サヤンタン・ゴースル	56
	非凸問題についてのナッシュ交渉理論と顕示選好理論	リン・ジョウ	64
〔論 説〕	グローバリゼーション 国際化とその政策課題	ミッシェル・カムデシュ	69
	英国ピーターリー・ニュータウンにおける都市計画とその限界 ——1945年—1955年——	菅 一城	75
〔研究ノート〕	総力戦と労働者	寺出 道雄	97
〔資 料〕	広島・長崎の原子爆弾に関する初期調査	松村 高夫	108
〔書 評〕	永岑三千輝著『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』	矢野 久	127
	竹森俊平著『国際経済学』	小田 正雄	132
	池尾和人著『金融産業への警告——金融システム再構築のために』	翁 百合	137

89 卷 2 号 (1996 年 7 月)

〈小特集：国際貿易と経済成長〉

	序	大山 道広	1
	要素集約度の三側面	ハミッド・ベラディ／ロナルド・ジョーンズ／スガタ・マージット	8
	国際寡占市場・最適課税——補助金政策・新ベルトラン均衡	下村 耕嗣	23
	垂直統合企業と関税	石川 城太／李 基 東	35
	資本移動と貿易政策 ——ヘクシャー・オリーン・モデルによる分析——	竹森 俊平／津曲 正俊	46
	平価切り下げと失業	ラジャト・アチャリア／スガタ・マージット	56
	学習効果と貿易構造の変化	柳川 範之	63
	経済統合における移行動学と内生的経済成長	高橋 青天／坂上 智哉	71
	内外価格差と貿易障壁： 価格データを用いた実証分析	木村 福成／河井 啓希／田中 巖	85
〔論 説〕	戦時期におけるナチス強制収容所	矢野 久	101
	世代重複モデルと協調的均衡	遠藤 妙子	130
	ヴィクトリア時代のガヴァネスと女子教育改革	山口みどり	158
〔研究ノート〕	再生産表式要論	寺出 道雄	181
	利率に関する危険増加と貯蓄行動 ——異時点間の代替の弾力性 vs 危険回避度——	藤田 康範	187
〔書 評〕	高梨和紘編著『タイ経済の変容と政策課題』	秋山 裕	194

89 卷 3 号 (1996 年 10 月)

〔論 説〕	加工貿易の理論——リカード型モデル——	大山 道広	1
	情報化と資本主義的生産様式・序説——道具と機械段階の労働過程——	北村 洋基	14
	アジア諸国における低金利政策の GDP 拡大効果	藤丸 麻紀	37
	外国企業は貿易政策に影響を及ぼすのか？ ——情報の非対称性のもとでの分析——	蓬田 守弘	63
	アメリカにおけるフリンジ・ベネフィットと税制	五嶋 陽子	84
	星亨のインフラストラクチュア構想	北原 聡	109
〔研究ノート〕	中国鉄鋼業における宝山鋼鉄総廠建設の意義と限界		

	——技術導入を中心として——	王 建鋼	131
	未知変数の存在が経済システムの計測にもたらす問題	秋永 利明	148
[資料]	スウェーデンの環境政策（経済的手段）	飯野 靖四	157
[書評論文]	貨幣資本と現実資本の構造		
	——川波洋一著『貨幣資本と現実資本』を読んで——	大友 敏明	186
89 卷 4 号（1997 年 1 月）			
[会長講演]	現代資本主義を見る目	北原 勇	1
[論説]	現代資本主義分析の基礎視角	井村喜代子	16
	高齢化社会と年金保険システム	塩澤 修平	30
	非線形性のテスト：多変量の場合	伊藤 幹夫	44
	貨幣と成長——修正 Sidrauski Model と景気変動への Implication——	瀬下 博之	52
	研究開発投資のインセンティブと垂直的統合	玉田 康成	77
	刈分小作制度の内在的優等性の理論的解明	藤田 康範	107
	ヴィクトリア期陶工の労働組合——なぜ「新型組合」とならなかったのか——	加藤 道也	119
[研究ノート]	英国の「計画」構造とはどのようなものであったのか：1931-1951 年	菅 一城	143
[書評]	大島通義著『総力戦時代のドイツ再軍備——軍事財政の制度論的考察——』	神野 直彦	160
	持丸悦朗教授略歴		167
90 卷 1 号（1997 年 4 月）			
[論説]	『瘦我慢の説』と『氷川清話』——勝海舟と福澤諭吉の間——（その一）	飯田 鼎	1
	経済ネットワークの効率と安全性をめぐって	川又 邦雄	18
	日本機械工業の範囲と統計的推移の解明——社会的分業構造把握のために——	渡辺 幸男	30
	混雑現象と競争均衡	中村 慎助	59
	オズボーン判決（1909 年）(II)		
	——イギリス労働史におけるリベラリズムとソーシャリズム——	松村 高夫	72
	政治算術の継承に関する一考察——ベイコン、ペティ、ダヴナント——	伊藤誠一郎	89
	企業金融としての後払い賃金——雇用水準と日本の雇用慣行——	瀬下 博之	110
	中国の農工間労働移動における分断化した労働市場の実証研究	李 旭	135
	明治前期における交通インフラストラクチャの形成		
	——山形県における三島通庸——	北原 聡	168
[研究ノート]	利潤について (I)	寺出 道雄	188
90 卷 2 号（1997 年 7 月）			
	〈小特集：直接投資の理論研究，実証研究の新展開〉		
	序	竹森 俊平	1
	(1) MNE の参入と退出		
	電機メーカーの立地選択	深尾 京司／岳 希明	11
	日本企業の直接投資：市場要因と企業特殊的要因の実証分析	若杉 隆平	40
	高い地価は対日直接投資の阻害要因か？	竹森 俊平／中野 英夫	59
	参入・退出と組織の再編成		
	——アメリカにおける日系多国籍企業の事業継続と組織的進化——	洞口 治夫	84
	(2) 直接投資と通商政策		
	ダンピング規制と暗黙の共謀	清野 一治／古沢 泰治	115
	ローカルコンテンツ政策とアンチダンピング政策の複合効果	藤田 康範	135



	内生的貿易政策と直接投資……………津曲 正俊／柳川 範之	151
	移転価格と海外直接投資……………岩田 一政	168
	(3) MNE と国際連関	
	日系多国籍企業と経済統合：企業国籍アプローチの一応用……………木村 福成	191
	経済統合と価格の国際的連関：東アジアを例として……………加納 隆／福田 慎一	209
	経済成長に伴う世界的な生産パターンの変化に関する理論的考察……………高橋 孝明	235
	日本企業の東アジア現地法人における技術移転……………浦田秀次郎	257
90 卷 3 号 (1997 年 10 月)		
[会 長 講 演]	海外直接投資と貿易……………佐々波楊子	1
	〈小特集：貨幣の機能とその役割〉	
	序……………吉野 直行／塩澤 修平／須田 伸一	18
	探索、交渉および貨幣の動学的均衡モデル…メルヴィン・コールズ／ランドール・ライト	21
	流動性選好と金融仲介……………ジェアスリ・ドウッタ／サンディープ・カプー	31
	債務決済の仲介に関する小論……………エドワード・J・グリーン	40
	分割可能な貨幣と価格を持つサーチの基本モデル	
	……………エドワード・J・グリーン／ルイリン・ジョウ	46
	仲介者と私的情報……………イーティン・リー	55
	日銀の独立性と金融政策の運営……………吉野 直行	64
	賦課方式年金保険システムと人口成長率……………塩澤 修平	68
	貨幣の非中立性と金融政策の効率性……………須田 伸一	75
[論 説]	近世ロンドンの職業構造……………酒田 利夫	91
	社会問題研究会と矢野文雄……………蔦木 能雄	113
	社会的損失の評価からみた公害対策の限界について……………河原田麻衣子	137
[研究ノート]	経済学における理論研究と事実認識……………神谷 傳造	162
	スウェーデンの税転換検討委員会報告書 要旨……………飯野 靖四	179
[書 評 論 文]	文明社会とは何か——ヒュームにおける社会科学の特質とその形成——……………田中 秀夫	192
[書 評]	嘉治佐保子著「欧州経済通貨同盟」……………河合 正弘	214
90 卷 4 号 (1998 年 1 月)		
[論 説]	多数財オークションにおける結託行動……………川又 邦雄／馬場 弓子	1
	近世・近代日本農村における「家族労作」経営の分析	
	——「チャヤノフ法則」・副業就業化・小作化の相互連関をめぐって——……………友部 謙一	15
	環境制約下の経済成長：理論分析……………大平 哲	56
	マラウイにおける世銀・IMF 主導の構造調整計画	
	——実施状況、効果、資源移転——……………坂元 浩一	77
	アメリカにおける住宅政策〈1〉税制による住宅支援政策の再分配的評価……………五嶋 陽子	104
	社会科学方法論における初期ゴットルとマックス・ヴェーバー……………森川 剛光	135
	最適化行動とマクロ政策	
	——マンデル・フレミングモデルのミクロ的基礎付けの一例——……………飯野 光浩	155
	19 世紀末プロイセンの工業都市 デュースブルクにおける民衆学校……………梅原 秀元	176
	『瘦我慢の説』と『氷川清話』——勝海舟と福澤諭吉の間——(その二)……………飯田 鼎	201
[研究ノート]	近世ヨークの歴史人口学……………酒田 利夫	224
	利潤について (II)……………寺出 道雄	235

[書評]	寺出道雄著『資本蓄積論——歴史の中の経済』	伊藤 幹夫	244
	堀田誠三著『ベッカリーアとイタリア啓蒙』	奥田 敬	251
	佐々波楊子教授略歴・著作目録		257
91 卷 1 号 (1998 年 4 月)			
〈小特集：Post-II PF コンファレンス〉			
	序	飯野 靖四	1
	低所得水準における最適限界税率	ジェームズ・A・マーリーズ	3
	汚職，公共投資，成長	ヴィト・タンツイ	12
	集团的課税権限に関する分析：モデルと政策的問題		
	スタンレー・L・ワイナー／ウォルター・ヘッチ		27
	OECD15 カ国のシャドウ・エコノミーの規模に関する		
	時系列分析	フリードリッヒ・シュナイダー	39
	公共セクターの「見えざる手」	柴田 弘文	55
	金融ビッグバン，企業のライフサイクルと公的金融	藤田 康範	68
〈小特集：社会規範と進化についてのコンファレンス〉			
	序	グレーヴァ香子	83
	外部オファーのある繰り返しゲームについて：		
	ナッシュ切り替え戦略による均衡利得の特徴付け	グレーヴァ香子	86
	協力の創発	ティモシー・ケイソン／西條 辰義／大和 毅彦／横谷 好	97
	手続き的合理性，ナッシュ均衡，着目点	清水 崇／瀧澤 弘和	104
	手続き的合理性と帰納的学習：主観的ゲーム理論に向けて	松島 斉	107
<hr/>			
[論説]	長野県埴科郡坂城町の工業集積——中小零細企業を事例として——	糸野 博行	110
	公的年金に関する税制上の優遇措置について	松本 淳	138
91 卷 2 号 (1998 年 7 月)			
〈小特集：国際産業組織論の実証研究〉			
	序	佐々波楊子／木村 福成	1
	多国籍企業の垂直統合：日本における外資系企業の実証分析	山脇 秀樹	3
	欧州・アジア・北米における日本企業の海外事業展開	佐々波楊子／河井 啓希	18
	企業国籍アプローチに基づく CGE モデルの構築：予備的考察	木村 福成／堤 雅彦	31
	日本の多国籍企業の東アジアにおける所有形態と		
	その決定要因の実証分析	ウォン・ユー・チン	52
<hr/>			
[論説]	731 部隊と細菌戦——日本現代史の汚点——	松村 高夫	71
	戦後西ドイツにおける外国人労働者導入への道	矢野 久	93
	盧溝橋事件と華北石炭・鉄鋼産業	解 学 詩	113
	ヴィシー期・フランスのインドシナ統治をめぐる本国政府と植民地政府	難波ちづる	135
	明治中期における長野県の道路建設	北原 聡	161
[資料]	中世ロンドンの人口と経済	酒田 利夫	187
[書評]	池尾和人著『現代の金融入門』	吉野 直行	197
	佐々波楊子・中北徹編著		
	『WTO で何が変わったか——新国際通商ルールとは——』	高瀬 保	200
	渡辺幸男著『日本機械工業の社会的分業構造——階層構造・産業集積からの		

下請制把握——』……………港 徹雄 205

91 卷 3 号 (1998 年 10 月)

〔論 説〕	スレイター工場の周辺——アメリカ産業革命と問屋制——……………岡田 泰男	1
	品質改善型技術進歩と国際貿易……………大山 道広	31
	企業の垂直的分離・統合とその規制……………川又 邦雄／山方 竜二	44
	マンデル＝フレミング・モデルの再検討……………藤田 康範	70
	都市部における分断化した労働市場……………李 旭	84
	寡占市場における企業の株式保有——エージェンシー理論による分析——……………堀田 真理	106
	アメリカにおける住宅政策 〈2〉低所得層向け住宅政策と所得保障……………五嶋 陽子	131
〔研究ノート〕	順調な拡大再生産について……………寺出 道雄	154
	中世イングランドにおける小都市……………酒田 利夫	163
〔書 評〕	池田幸弘著 <i>Die Entstehungsgeschichte der "Grundsätze" Carl Mengers</i> ……………八木紀一郎	175

91 卷 4 号 (1999 年 1 月)

〔論 説〕	幕末知識人のヨーロッパ体験と社会科学の認識——導入期の経済学を中心に——……………飯田 鼎	1
	経済学者フランク・ラムゼー……………福岡 正夫	23
	ゲームと戦略の計算可能性について……………中山 幹夫	38
	わが国における NPO のマクロ的規模とその意義……………塩澤 修平	62
	西ドイツにおける労働移民健康政策の史的展開——1962 年から 1965 年——……………矢野 久	71
	不完全競争下の小国開放マクロ経済分析 ——アセットアプローチのミクロ的基礎付けに向けて——……………亀田 啓悟	82
	進化的ネットワーク形成に関する一考察……………山方 竜二	98
	産業化以降の日本社会に見る NPO の存在理由……………澤村 明	126
〔研究ノート〕	均衡蓄積軌道について……………寺出 道雄	145
〔書 評〕	瀬古美喜著『土地と住宅の経済分析——日本の住宅市場の計量経済学的分析』……………中神 康博	153

92 卷 1 号 (1999 年 4 月)

〈小特集：経済史シンポジウム——経済史における「停滞」と「没落」〉

	序……………岡田 泰男／古田 和子	1
	経済の停滞と没落——歴史的視点から——……………岡田 泰男	3
	仁川貿易をめぐる日中商人と上海ネットワーク ——1890 年代初期東アジア地域経済論——……………古田 和子	20
	在「満洲」日本人商工業者の衰退過程——1921 年大連商業会議所会員分析——……………柳沢 遊	47
	近世都市長崎における人口衰退について：その研究序説 ——桶屋町 1742-1851 年——……………友部 謙一	81
	移民・移民法と米国の盛衰……………加藤 洋子	104
	経済史シンポジウム：討論とコメント……………鷺崎俊太郎／杉山 伸也	129
〔論 説〕	アダム・スミスと真正手形学説……………佐藤 有史	135
	高齢者世帯に対する所得課税の実態——モデルケースによる比較——……………松本 淳	159
	アメリカ南部プランテーションにおける奴隷管理と奴隷資産 ——東部海岸地域のプランターの経営について——……………柳生 智子	191
	アダム・スミスにおける「立法者」と「政治家」 ——「判断力」の概念を中心に——……………竹内 創	217

[書評]	斎藤修著『賃金と労働と生活水準——日本経済史における 18-20 世紀』……………友部 謙一	229
	Wolfgang Schwentker 著 <i>Max Weber in Japan: eine Untersuchung zur Wirkungsgeschichte 1905-1995</i> ……………小林 純	236

92 卷 2 号 (1999 年 7 月)

〈小特集：低環境負荷型社会の構築に向けて〉

序……………	山口 光恒／細田 衛士	1
排出権取引と CDM (Clean Development Mechanism) の複合効果……………	藤田 康範	4
買手寡占排出権市場とクリーン開発メカニズム……………	横山 彰	16
地球環境統合モデル MARIA-7 による持続可能性の超長期評価……………	森 俊介	25
京都議定書達成のコスト分析……………	甲斐沼美紀子／森田 恒幸／松岡 譲	41
地球温暖化対策技術の評価……………	山地 憲治	56
デポジット・リファンド制度が消費者の廃棄行動に及ぼす効果……………	小出 秀雄	73
廃棄物循環の線形経済モデル……………	中村慎一郎	86
廃棄物処理費用の支払いルールと廃棄物処理政策……………	細田 衛士	108
我が国の廃棄物政策と拡大生産者責任 (EPR) ——OECD における論議を中心に——……………	山口 光恒	126

[論説]	ワルラス均衡とシャプレー値配分……………	福岡 正夫／須田 伸一	148
	動学的特定化におけるエラー修正モデルの意義 ——モンテカルロ実験による比較——……………	大津 泰介	175
	オーストラリア植民地への囚人移民史：1788 年-1840 年……………	竹内 真人	195

92 卷 3 号 (1999 年 10 月)

〈小特集：経済の数理分析〉

序……………	丸山 徹	1
完備資産市場における確率の異質性……………	L. カルヴェ／J.-M. グランモン／I. ルメール	7
製品差別化と市場支配力……………	E. デールカー／H. デールカー	21
デフォルトリスクモデルに対する一考察……………	楠岡 成雄	51
無限期間線形計画と経済動学におけるカオス解……………	西村 和雄／矢野 誠	67
実物リスクのない経済における貨幣的均衡の決定性……………	須田 伸一	79

[論説]	マーシャル型効用関数と社会的無差別曲線……………	大山 道広	87
	CDM 採用のための諸条件の検討……………	藤田 康範	105
	製品標準化の経済学的分析……………	遠藤 妙子／柳川 範之	117
	天保期八王子横山宿の人口移動……………	鷲崎俊太郎	137
[研究ノート]	近世における首都ロンドン成長の諸側面……………	酒田 利夫	171
[資料]	岡山県内の機械工業工場群の分析 1 ——概括的分析編——……………	渡辺 幸男	191

92 卷 4 号 (2000 年 1 月)

[会長講演]	ポール・ゲイツの夢——ある経済史家の肖像——……………	岡田 泰男	1
	〈小特集：NPO とフィランソロピーの経済学〉		
	序……………	塩澤 修平	17
	日本の NPO の機能と欠点……………	浅野 令子／岩田 誠／加福 共之／出口 正之	19
		服部 優子／平山健次郎／古館 晋／三島 祥宏	

	アメリカにおける NPO の教育と研究	田中 敬文	43
	グローバル・シティズンシップの可能性と NPO	山本 啓	63
	NPO の法と政策		
	——米国税制のパブリック・サポート・テストと悪用防止の中間的制裁制度——	雨宮 孝子	91
	非営利組織 (NPO) と資源提供者間のミスマッチ問題	田中 弥生	113
<hr/>			
[論 説]	複数生産物企業間の絶対優位と水平的な OEM 契約	大松 寛	141
	動学経済における最適課税と公共サービス	木村 正信	173
	高橋財政期における大蔵省統制	井手 英策	191
[資 料]	岡山県内の機械工業工場群の分析 2		
	——事例による存立状況と発展展望の分析——	渡辺 幸男	223
[書 評]	白井早由里著『検証 IMF 経済政策——東アジア危機を超えて』	佐々波楊子	243
	坂本正著『金融革新の源流』	飯田 裕康	247
	田中明教授略歴・主著作		251
<hr/>			
93 卷 1 号 (2000 年 4 月)			
〈小特集：公共選択——政策課題解決への試み——〉			
	序	大村 達弥	1
	構造改革の要因としての日米経済関係の変化	伊藤 穰	5
	スロット配分方式に関する研究——規制緩和の公共選択分析——	白木 智昭／中島 朋義	17
	補助金の地域配分における政治・官僚要因の検証	鷺見 英司	33
	ゴールドプラン政策の分析と評価	瀬名 浩一	51
	日本の都市財政におけるフライオーバー効果とスピルオーバー効果	土居 丈朗	75
	社会資本整備の効率化のための方策	吉野 直行／中田真佐男	91
	選挙区割りの最適化について	坂口 利裕／和田淳一郎	109
<hr/>			
[論 説]	ユーロはいかにして成ったか——アジア通貨体制への示唆——	嘉治佐保子	139
	夫婦家計における連続的・非連続的就業機会選択の分析 (その 1)	宮内 環	161
	理念型の再解釈	森川 剛光	189
	国際寡占競争と環境政策：動学ゲーム分析	柳瀬 明彦	219
	フランク・ナイトにおける市場経済の倫理的検討	佐藤 方宣	237
[研究ノート]	ナッシュ均衡のランダム性についての覚書	中山 幹夫	259
	東アジアの景気回復と情報技術革命	竹森 俊平	267
[書 評]	福岡正夫著『歴史のなかの経済学——一つの評伝集——』	若田部昌澄	275
	柳沢遊著『日本人の植民地経験——大連日本人商工業者の歴史——』	飯島 渉	279
	小室正紀著『草莽の経済思想——江戸時代における市場・「道」・権利——』	仁木 良和	285
<hr/>			
93 卷 2 号 (2000 年 7 月)			
[論 説]	幕末知識人の西欧認識と対外対策——吉田松陰と福沢諭吉の間——	飯田 鼎	1
	生き残りのための投資	大山 道広	27
	15 年戦争期における撫順炭鉱の労働史 (上)	松村 高夫	41
	高齢世帯の居住形態選択行動	瀬古 美喜	65
	クリーン開発メカニズム (CDM) の早期実現に向けて		
	——温暖化対策面での日中協力の可能性——	武田 信吾／山口 光恒	81
	満鉄社員会の設立と活動——会社経営への参画問題を中心に——	平山 勉	99

	ヴィシー期・フランスの帝國的結合政策とインドシナの「復権」	難波ちづる	127
	政府主導型の貿易政策決定過程	歌田亜弥子	149
[研究ノート]	動的計画における横断条件について	神谷 傳造	163
	洋務運動研究の現状と課題		
	——日清戦争以前の官営軍事工業の評価を中心に——	巫 碧秀	177
	インド経済史研究と「バザール経済」		
	——C. A. Bayly と Rajat K. Ray を中心に——	三木さやこ	189
	「吉野ヶ里効果」はあったのか?	澤村 明	207
[書 評]	塩澤修平著『熟年人生の経済学』	友部 謙一	221

93 卷 3 号 (2000 年 10 月)

〈小特集：情報とネットワークの経済〉

	序	川又 邦雄／中山 幹夫／須田 伸一／石橋 孝次	1
	自発的にのみ形成されるパートナーシップ間で情報伝達がない場合の 効率性について	グレーヴァ香子	3
	多国籍企業のネットワーク組織構造	津曲 正俊	11
	多人数囚人のジレンマにおける先見的行動と協調関係の維持	鈴木 明宏／武藤 滋夫	27
	システムリスクとネットワーク形態	館 健太郎	41
	結託構造を伴うコアの存在と寡占市場への応用	内海 幸久	57
	異質財のオークション	馬場 弓子	69
[論 説]	規制産業におけるアクセス料金について	川又 邦雄	83
	セカンドソーシングによる協調的投資の促進	北條 陽子	101
[研究ノート]	「長期の 18 世紀」 イングランドにおける都市成長について	酒田 利夫	119
	米国賃貸住宅市場モデルの再検討：計量経済学の観点から	隅田 和人	135
[書 評]	岡田泰男著『アメリカ経済史』	高橋 和男	151
	田代和生著『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』	鈴木 晃仁	155

93 卷 4 号 (2001 年 1 月)

[会長講演]	自由放任の復活?	神谷 傳造	1
[論 説]	均衡と時間 I——有限主体・無限計画期間モデルの場合——	福岡 正夫	19
	19 世紀中葉・アメリカ東部の農村構造——ニューヨーク州セネカ郡——	岡田 泰男	51
	平成不況期における日本企業の存続・退出と企業組織		
	——ハザード・モデルを用いた企業の生存分析——	藤井 孝宗／木村 福成	81
	100%出資とジョイントベンチャーの違いについて		
	——日系多国籍企業についての実証分析——	清田 耕造	107
	2 部門経済モデルにおける政府支出	木村 正信	141
	企業のレントシーキング行動と制度的比較優位による誘導可能性		
	……………山田 玲良／セルゲイ・ブラギンスキー		155
[研究ノート]	新技術の導入	寺出 道雄	177
[書 評]	野本京子著『戦前期バザンティズムの系譜——農本主義の再検討——』	友部 謙一	191
	井村喜代子著『現代日本経済論〔新版〕		
	——戦後復興、「経済大国」、90 年代大不況——	屋嘉 宗彦	195
	Kiichiro Fukasaku, Fukunari Kimura and Shujiro Urata 編著		
	<i>Asia and Europe: Beyond Competing Regionalism</i>	岩田 一政	203

深海博明教授略歴・著作目録	207
小松隆二教授略歴・著作目録	215

94 卷 1 号 (2001 年 4 月)

〈小特集：地球温暖化対策および循環型社会の形成〉

序	深海 博明／山口 光恒	1
廃棄物産業連関の理論と応用	中村愼一郎	5
家電・自動車リサイクルシステムの日本・韓国・台湾比較研究	外川 健一／村上 理映	23
廃棄物処理法の基本方針と自治体廃棄物行政の留意点	北村 喜宣	49
地球温暖化問題に対する産業界の考え方、取り組み	太田 元	65
地球温暖化とエネルギー政策——日本経済の多部門一般均衡モデルによる我が国エネルギー需給見通し——	黒田 昌裕／野村 浩二	85
温暖化国内政策手段の比較と評価——排出権取引の可能性——	岡 敏弘	105
地方環境税と政府行動	横山 彰	125
EPR に関する OECD ガイダンスマニュアルについて	山口 光恒	135

〔論 説〕	戦後西ドイツにおけるイタリア人労働者の組織的導入 ——1955 年独伊労働力募集協定の成立をめぐって——	矢野 久	157
	国際通貨制度の非対称性——国際通貨制度の理論と歴史的現実の乖離——	古川 純子	185
〔研究ノート〕	再生可能資源利用と買手独占力	後藤久美子	213

94 卷 2 号 (2001 年 7 月)

〔会長講演〕	人間関係の経済学	大山 道広	1
〔論 説〕	ニューヨーク州西部農業の変化——19 世紀中葉・セネカ郡——	岡田 泰男	19
	国際通貨としてのユーロ——導入二年後の評価——	嘉治佐保子	51
	排出権取引 vs. 技術移転——地球温暖化問題解決に向けての我国の役割——	藤田 康範	75
	地方交付税の「財政錯覚」に関する検証	宮本佳寿子	91
	経営者の評判と投資のタイミング	北條 陽子	113
〔書 評〕	Robert Woods 著 <i>The Demography of Victorian England and Wales</i>	友部 謙一	133
	飯田裕康編『現代金融危機の構造』	深町 郁彌	141

94 卷 3 号 (2001 年 10 月)

〔論 説〕	均衡と時間 II——重複世代モデルの場合——	福岡 正夫	1
	トマス・ロバート・マルサスの貨幣理論	佐藤 有史	39
	ヴィクトリア時代ブライトン市における衛生環境改革事業の展開	永島 剛	65
	清末中国における近代工業技術教育——福州船政学堂の史的研究——	巫 碧秀	85
	異質財市場における合併の効果 ——製品差別化のもとでの寡占モデルによる分析——	堀田 真理	105
〔研究ノート〕	中国浙江省温州市産業発展試論 ——温州市工業・企業発展把握の仮説的フレームワークの提示とその若干の検討——	渡辺 幸男	133
	マルクス生産価格論の一側面	寺出 道雄	153
	総需要関数の連続性と競争均衡の局所的非決定性について	中村 愼助	165
〔書 評 論 文〕	歴史学とポストモダン ——柿本昭人『健康と病のエピステーメー』 R. J. エヴァンズ『歴史学の擁護』		

	R. J. Evans: <i>Death in Hamburg</i> —	梅原 秀元	169
[書評]	中川清著『日本都市の生活変動』	有末 賢	183
	吉野直行・中島隆信編『公共投資の経済効果』	中里 透	187

94 卷 4 号 (2002 年 1 月)

〈小特集：マス・キリングの社会史〉

	マス・キリングの社会史—問題の所在	松村 高夫	1
	アルメニア人虐殺 1915-16 年	松村 高夫	17
	ナチス大量虐殺の構造的考察	矢野 久	31
	「クロアチア独立国家」におけるセルビア人抹殺政策	清水 明子	63
	インドネシアの 9・30 事件と住民虐殺	倉沢 愛子	81
	NATO によるコソボ空爆の実態と人道的介入をめぐる議論	饗場 和彦	101
	グアテマラにおける真実と正義に関する一考察	狐崎 知己	123
	医学の歴史的犯罪—戦争における医学の動員—	山口研一郎	139
	現代医療と他者の命の物象化	清水 透	151
[論説]	柴田敬のマルクス体系論	寺出 道雄	163
	マルコフ連鎖モンテカルロ法によるベイズ分析—回帰モデルへの応用—	中妻 照雄	181
[研究ノート]	「リカードの等価性定理」の膨張	神谷 傳造	209
	労働市場の順位均衡モデルにおける選択順位指標の測定 —労働供給確率関数の識別のために—	宮内 環	219
	“ボトム・アップ”型と“トップ・ダウン”型貿易政策決定過程の 同一性についての覚書	甲斐亜弥子	237
[書評]	James C. Riley 著 <i>Rising Life Expectancy: A Global History</i>	永島 剛	245
	飯田裕康教授略歴・著作目録		249
	神谷傳造教授略歴・著作目録		257
	田辺裕教授略歴・著作目録		263
	鳥居泰彦教授略歴・著作目録		273

95 卷 1 号 (2002 年 4 月)

[論説]	幕末・維新の時期における知識人, その思想と行動 —福沢諭吉の書簡集を通じてみる—	飯田 鼎	1
	中央銀行政策と財政統制 —1930 年代初頭～戦時期のドイツと日本について— (上)	大島 通義/井出 英策	27
	フレーム・アップとしての満鉄調査部弾圧事件 (1942・43 年)	松村 高夫	67
	金融調節と金融政策	高橋 亘	93
	自由貿易協定と農業問題	木村 福成/安藤 光代	111
	地方債の起債許可制度を通じた暗黙の利子補給	土居 丈朗	139
[研究ノート]	『日本資本主義分析』再読—日本マルクス主義とロシア構成主義—	寺出 道雄	161
[書評]	福光寛著『金融排除論—阻害される消費者の権利と金融倫理の確立—』	数阪 孝志	177
	蓑谷千風彦著『金融データの統計分析』	齊藤 誠	181
	池尾和人, 黄圭燦, 飯島高雄著『日韓経済システムの比較制度分析 —経済発展と開発主義のわな—』	国宗 浩三	185



95 卷 2 号 (2002 年 7 月)

[会 長 講 演]	ゲーム理論の歩みと現代経済学	川又 邦雄	1
	〈小特集：フロンティアの比較研究〉		
	序	岡田 泰男	15
	都市フロンティアとしてのバンコク	坪内 良博	17
	カトマンズ近郊の都市フロンティア		
	——バタン市の町形成を事例に——	マハラジャン, ケシャブ・ラル	31
	フィリピンにおける向都移動と開拓移動の比較		
	——サマル島農村部の事例から——	細田 尚美	51
	奴隷商人と西部移住		
	——アンティベラム期アメリカ南部における奴隷取引と商人ネットワーク——	柳生 智子	75
	アメリカにおけるフロンティアと市場革命	岡田 泰男	101
<hr/>			
[論 説]	温暖化対策としてのクリーン開発メカニズム (CDM) を巡る国際情勢と 日本の対応	山口 光恒	115
	中央銀行政策と財政統制		
	——1930 年代初頭～戦時期のドイツと日本について——(下)	大島 通義/井出 英策	147
	中国沿海都市近郊における農村発展メカニズムの変容		
	——天津市郊外村の事例を中心に——	駒形 哲哉	191
	ハイエク転換問題についての一考察： 複合的方法による実証主義の内在的批判	西村 崇	229
[研究ノート]	地価の乱高下が居住形態選択に与える影響の経済分析	瀬古 美喜/三好 向洋	253
[書 評]	松村高夫・解学詩・郭洪茂・李力・江田いづみ・江田憲治著 『戦争と疫病——七三一部隊のもたらしたもの——』	鈴木 晃仁	263

95 卷 3 号 (2002 年 10 月)

[論 説]	自由民権思想における福沢諭吉と加藤弘之	飯田 鼎	1
	確率的変動下における排出権の最適供給時期および市場均衡	藤田 康範	37
	「自立」概念の再検討：沖縄を例として	大平 哲	47
	均衡と時間 II (承前) ——重複世代モデルの場合 その 2——	福岡 正夫	61
	韓国「財閥」の内部資本市場としての効率性	飯島 高雄	75
	Aumann-Drèze 値と Myerson 値の基本的関係	内海 幸久	103
[研究ノート]	携帯電話産業におけるネットワーク外部性の実証	田中 辰雄	119
	中国浙江省温州市産業発展試論 その 2		
	——温州市産業機械メーカーの形成と意味——	渡辺 幸男	133
	イギリス労使関係史の諸論点——労働史研究における「危機」と「未来」——	齊藤健太郎	153

95 卷 4 号 (2003 年 1 月)

[論 説]	消費者間の協力の失敗とケインズ均衡	大山 道広/永田 長生	1
	「新京・農安ベスト流行」(1940 年)と 731 部隊 (上)	松村 高夫	13
	ドイツ戦後補償と強制労働補償基金の意義	矢野 久	35
	過剰債務問題と公的金融	藤田 康範	63
	均衡と時間 II (承前) ——重複世代モデルの場合 その 3——	福岡 正夫	75
	ケンブリッジの上水道事業：地方政治からみるヴィクトリア中期衛生改革	菅 一城	109
	ハイエクの「転換」プロセスについての一考察		

	——モルゲンシュテルン論文「完全予見と経済均衡」との関係から——	秋山美佐子	135
[研究ノート]	『日本資本主義分析』再読(その2)——戦前のマルクス主義と未来主義——	寺出 道雄	153
	貨幣的経済成長モデルにおける定常状態の存在について	邵 宜航	165
	満鉄オイルシェール事業——1909-31年——	山本 裕	177
[書 評]	松村高夫・解学詩・江田憲治編著『満鉄労働史の研究』	平井 廣一	199
	岡田泰男教授略歴・著作目録		203
96 卷 1 号 (2003 年 4 月)			
[論 説]	前工業化期日本農村における市場経済と家族経済		
	——経済学と人類学的思考の接点から——	友部 謙一	1
	家計労働供給の理論と検証(2)——観測と理論構成——	宮内 環	25
	1920年代日本の正貨収支の数量的検討——「在外正貨」再考——	岸田 真	61
	J. S. ミルの社会主義論とハリエット・テイラー	安井 俊一	91
[研究ノート]	沖縄と本土の格差——一人当たり県民所得格差をどのように見るか——	大平 哲	111
[書 評]	大友敏明・池田幸弘・佐藤有史編『経済思想史にみる貨幣と金融』	中村 廣治	121
	細田衛士著『グズとバズの経済学』	植田 和弘	127
	松井均著『銀行原理と国際通貨システム』	山本美樹子	133
96 卷 2 号 (2003 年 7 月)			
	〈特集：地球温暖化問題への対応および循環型社会の構築〉		
	序	山口 光恒	1
	京都議定書の遵守問題と新たな国際レジームの構築		
	——米国および途上国を含めた代替レジームの可能性——	村瀬 信也	5
	温暖化対策としての自主協定の評価手法		
	——ドイツ・オランダ・日本の例を参考に——	山口 光恒	19
	河川流域における最適水配分について	大沼あゆみ	49
	環境法における費用負担——環境基本法制定から10年を振り返って——	大塚 直	63
	使用済み電気・電子機器(E-Waste)の適正処理とリサイクル	細田 衛士	89
	拡大生産者責任(EPR)の経済理論的根拠と現実		
	——家電リサイクルの場合——	岡 敏弘/小藤めぐみ/山口 光恒	113
96 卷 3 号 (2003 年 10 月)			
[会 長 講 演]	計量経済学の史的展開と現代の課題	蓑谷千風彦	1
[論 説]	オーラル・ヒストリーの可能性と日本との関連	ポール・トンプソン	17
	社会史の認識論的一系譜——ヴィーコからミシュレへ、さらにフェーブルへ——	松村 高夫	41
	「左傾」の時代——1930年代の社会と芸術(I)——	寺出 道雄	71
	昭和金融恐慌後のアメリカの対日経済認識と日米経済関係		
	——1927年10月、モルガン商会 T.W. ラモントの訪日を通じて——	岸田 真	91
	「新京・農安ベスト流行」(1940年)と731部隊(下)	松村 高夫	121
[研究ノート]	1900年代初頭における横浜生糸合名会社の経営		
	——長野県大地主の早期株式投資との関連で——	横山 憲長	151
	適応的期待と不安定性について	加藤 寛之	169
[書 評]	Nich Tiratsoo, Junichi Hasegawa, Tony Mason, and Takao Matsumura 著		
	<i>Urban Reconstruction in Britain and Japan, 1945-1955: Dreams, Plans and Realities</i>	石田 頼房	179

北村洋基著『情報資本主義論』……………洪井 康弘 183

96 卷 4 号 (2004 年 1 月)

〈小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展——「温州モデル」を中心に——〉

	序……………	渡辺 幸男	1
	I 体制移行と発展モデル		
	温州モデル研究の視角——中国経済の体制移行に寄せて——……………	駒形 哲哉	5
	温州モデルと蘇南モデル……………	巖 善平	25
	II 産業発展		
	温州の産業発展試論		
	——自立・国内完結型・国内市場向け産業発展、その意味と展望——……………	渡辺 幸男	41
	温州産業集積の進化プロセス……………	丸川 知雄	59
	III 市場形成と企業家		
	温州産業の原蓄過程——情報による「下から」の資本制化と企業の階層分化——……………	黒瀬 直宏	81
	IV 企業経営・管理		
	温州民営中小企業のビジネス行動——経営コンサルタントの視点から——……………	加藤 孝	115
	V 資金供給		
	中国における中小企業信用保証制度の展開と課題		
	——浙江省温州市を中心にして——……………	森田 和正	133
	中国の民間金融		
	——温州を中心とする東南沿海部における民間金融の実態と地域経済——…	陳 玉雄	149
[論 説]	ネットワーク形成をともなうクールノー・ゲーム……………	川又 邦雄	171
	「社会としての選択肢の多様性」に関するランキング		
	——多数決に基づく辞書的順序による特徴づけ——……………	巽 靖昭	187
[書 評]	杉浦章介著『都市経済論』……………	瀬古 美喜	197
	池尾和人著『銀行はなぜ変わらないのか』……………	黒田 巖	199
	慶應義塾大学経済学部編『市民的共生の経済学』（全 4 巻）……………	高田 実	203
	大山道廣教授略歴・主要著作目録……………		209

97 卷 1 号 (2004 年 4 月)

〈小特集：経済学の進路〉

	序……………	大山 道広／津曲 正俊	1
	自由貿易協定と経済厚生——Kemp-Wan 定理を超えて——……………	大山 道広	5
	地域貿易協定と非加盟国の貿易利益		
	——Ohyama の命題と実証分析——……………	若杉 隆平／伊藤 和彦	15
	日本経済の安定とデフレーション……………	嘉治佐保子	35
	企業内の非対称情報と寡占均衡……………	石橋 孝次	59
	通時的な投資をともなう研究開発における最適な組織形態……………	玉田 康成	75
[論 説]	不確実性と資産市場均衡 I……………	福岡 正夫／須田 伸一	91
	コミュニケーションを考えた $\alpha$ コアの特徴……………	平瀬 和基／内海 幸久	129
[批判・応答]	社会史の認識論的再訪 松村高夫「社会史の認識論的一系譜——ヴィーコから		
	ミシュレへ、さらにフェーブルへ——」に寄せて……………	矢野 久	143
[書 評 論 文]	勤勉革命論の実証的再検討……………	斎藤 修	151
[書 評]	飯田裕康・高草木光一編『ここで跳べ 対論「現代思想」』……………	大島 通義	163

慶應義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間〈市民的共生の経済学 1〉』	……	神野 直彦	169
慶應義塾大学経済学部編『マイノリティからの展望〈市民的共生の経済学 2〉』	……	神野 直彦	169
慶應義塾大学経済学部編『家族へのまなざし〈市民的共生の経済学 3〉』	……	神野 直彦	169
慶應義塾大学経済学部編『経済学の危機と再生〈市民的共生の経済学 4〉』	……	神野 直彦	169

97 卷 2 号 (2004 年 7 月)

〔会長講演〕	環境税について	……	飯野 靖四	1
〔論 説〕	アメリカ東部の農村商人——19 世紀中葉ニューヨーク州の例——	……	岡田 泰男	11
	動学的一般均衡モデルにおける合理的期待均衡の頑健性	……	加藤 寛之	45
	カレツキ経済学の基本構造の成立過程	……	松谷 泰樹	59
〔研究ノート〕	誘致工場と機械金属産業集積の新たな形成——熊本県の事例を中心に——	……	渡辺 幸男	85
	満州医科大学と「開拓衛生」	……	江田いづみ	109
〔書 評〕	田中明編著『近代日中関係史再考』	……	唐木 園和	123
	嘉治佐保子著『国際通貨体制の経済学——ユーロ・アジア・日本——』	……	山本美樹子	127

97 卷 3 号 (2004 年 10 月)

〔学 界 展 望〕	労働移動と経済発展——最近の研究と展望——	……	赤林 英夫	1
〔論 説〕	ケインズ理論と日本経済	……	大山 道廣	19
	中国の国防財政に関する考察——カバリッジ、予算過程、変動要因——	……	駒形 哲哉	35
	不確実性と資産市場均衡 II	……	福岡 正夫/須田 伸一	61
	テクノロジーの標準に対する特許制度の影響	……	奥村 保規	95
〔研究ノート〕	銀行業における範囲の経済性と金融政策効果についての覚書	……	山崎 将太	123
〔書 評 論 文〕	20 世紀社会とナチズム——川越修『社会国家の生成』に寄せて——	……	矢野 久	135
〔書 評〕	速水雅彦・宮川幸三著『参入・退出と多角化の経済分析——工業統計データに基づく実証理論研究——』	……	松田 芳郎	153
	土居丈朗編著『地方分権改革の経済学——「三位一体」の改革から「四位一体」の改革へ——』	……	林 宏昭	157

97 卷 4 号 (2005 年 1 月)

〈小特集：日本における生活水準の変化と生活危機への対応：1880 年代～1980 年代〉

日本における生活水準の変化と生活危機への対応：1880 年代～1980 年代

——危機管理研究からみた疾病史・疾病統計研究および計量体格史研究——	……	友部 謙一	1
近代日本におけるジフテリア疾病統計の分析	……	鈴木 晃仁	37
近代日本における労働市場統合と生活水準に関する一試論	……	齊藤健太郎	55
——熟練労働者と農業労働者に関する地域間賃金変動の分析，1899-1940 年——	……	永島 剛	79
感染症統計にみる都市の生活環境——大正期東京の腸チフスを事例として——	……	坂口 誠	99
近代大阪のペスト流行，1905-1910 年	……	寺出 道雄	121
貧困の構造——山田盛太郎の農業問題理解——	……	勝野 有美	135
近代日本における身体障害像の変遷	……		
——貧困と労災に関する政策・調査の対象規定を通して——	……		

〔論 説〕	長期平成不況の性格とそれに関する若干の経済学的概念の謬見	……	常盤 政治	177
	川又邦雄教授略歴・著作目録	……		201
	蓑谷千風彦教授略歴・著作目録	……		209

山口光恒教授略歴・著作目録	219
---------------	-----

98 卷 1 号 (2005 年 4 月)

[会長講演]	経済学への思い——半生を振り返って——	島田 晴雄	1
[論 説]	ネットワーク形成と安定性	川又 邦雄/玉田 康成/山田 隆太	15
	温暖化ガス排出抑制のための国内対策のあり方に関する試論		
	——戦略的貿易政策下での戦略的国内割当——	藤田 康範	33
	コミュニケーション系と事前 $\alpha$ コア	平瀬 和基/内海 幸久	43
	白色雑音の和の周期確率過程への収束について	加藤 寛之	55
	地方単独事業と財政支援措置——市町村における単独事業を中心に——	宮崎 雅人	75
[研究ノート]	フィッシャーの情報量	竹中 淑子/金川 秀也	95
[批判・応答]	ハーマンとヘルダーの歴史認識		
	——矢野久「社会史の認識論的再訪」に対する応答——	松村 高夫	105
[書 評]	清家篤・山田篤裕著『高齢者就業の経済学』	橋本 俊詔	129

98 卷 2 号 (2005 年 7 月)

〈小特集：環境政策のフロンティア〉

	序	大沼あゆみ	1
	ポスト京都議定書の枠組み	山口 光恒/関根 豪政	5
	わが国の温暖化対策とエネルギー需要の価格弾力性について	天野 明弘	35
	二酸化炭素濃度安定化における技術の役割	秋元 圭吾/友田 利正	53
	技術革新と温暖化政策：エネルギー部門の技術開発における論点と 対策オプション	マイケル・グラブ	65
	「自動車リサイクル法」31 条をめぐる論点		
	新しいシステムは自動車メーカーに「リサイクルしやすい設計」を促すか？	外川 健一	101
	日本からの使用済み自動車に伴う環境負荷の増大とその防止策	鹿島 茂/布施 正暁	121
	逆有償物を「廃棄物」と定義する見解に対する経済学的検討		
	——水戸地方裁判所判決をめぐる——	細田 衛士	141
	環境標準とその経済分析	大沼あゆみ/山本 雅資	157
[論 説]	「転向文学」の時代——高見順の場合を中心に——	寺出 道雄	189
[書 評]	寺西重郎著『日本の経済システム』		
	青柳 淳子/大神田久美子/島西 智輝/杉山 伸也	211	
	矢野誠著『「質の時代」のシステム改革——良い市場とは何か？』	出井 文男	215

98 卷 3 号 (2005 年 10 月)

〈小特集：組織とインセンティブの理論〉

	序	川又 邦雄	1
	R & D と資本蓄積, Learning by Doing を含む経済成長モデルにおける 特許保護強化の分析	祝迫 達郎/二神 孝一	5
	直接的コネクションと間接的コネクションから形成されるネットワークの 安定性	川又 邦雄/玉田 康成	17
	第 2 帰納定理の応用とその周辺	中山 幹夫	29
	企業と銀行の金融契約と市場競争	白井 義昌	43

[論 説]	BIS 規制, 会計操作, 「追い貸し」	櫻川 昌哉/後藤 尚久	55
	不完備契約の再交渉におけるコミットメント	花崗 誠	79
	韓国企業の所有権構造と企業パフォーマンス ——2SLS 手法による企業パフォーマンス方程式の推定——	金 奎 坂	91
[研究ノート]	基軸通貨体制のサステナビリティ		
	——その今日的意義と歴史的教訓から学ぶもの——	山本美樹子	117
	松田道雄の医学・育児思想——その発想と論理——	和田 悠	145
[書 評]	マーク・シャー, 吉野直行著『Small Savings Mobilization and Asian Economic Development: The Role of Postal Financial Services』		
		パトリシア・ヘイガン・桑山	165
	土居丈朗著『三位一体改革 ここが問題だ』	小川 光	167
98 巻 4 号 (2006 年 1 月)			
[会 長 講 演]	歴史認識論と「歴史認識問題」	松村 高夫	1
	〈小特集: 経済の数理解析〉		
	序	丸山 徹	33
	多数決投票, Lorenz 曲線および交渉集合の下での財政上安定した所得分布について		
		J. -M. グランモン	39
	情報異質性が存在する経済における, 展開形ゲームによる均衡の遂行について		
		D. グリコパンティス/A. ミュール/N. C. ヤネリス	55
	微分可能性と分岐について	C. A. スチュアート/G. エヴェコ	87
	主体の測度空間をもつ厚生経済モデルと変分問題	A. イオッフエ	117
<hr/>			
[論 説]	金融コングロマリットと範囲の経済——理論と実証——	前多 康男/永田 貴洋	137
	不確実性と資産市場均衡 III	福岡 正夫/須田 伸一	155
99 巻 1 号 (2006 年 4 月)			
[論 説]	小麦農場からりんご園へ——19 世紀後半・アメリカ東部の都市近郊農業——	岡田 泰男	1
	誘致工場と産業集積の形成——その可能性と限定性——	渡辺 幸男	29
	医薬品の研究開発と法制度	若杉 隆平/若杉 春枝	57
	戦後再建期のイギリスにおける社会政策の意義 ——福祉国家の成立・定義とコンセンサス論をめぐって——	長谷川淳一	75
[研究ノート]	「人間開発指数」とボルダー順位	藁谷千風彦	99
	ヘドニック価格関数と製品差別化市場モデル——文献サーベイ——	坂上 紳	131
[書 評]	石井寛治編『近代日本流通史』	平野 隆	149
	松村高夫著『イギリスの鉄道争議と裁判——タフ・ヴェイル判決の労働史——』	久木 尚志	155
	井村喜代子著『日本経済——混沌のただ中で』	渋井 康弘	159
99 巻 2 号 (2006 年 7 月)			
	〈小特集: 日本と東アジアにおける貿易・投資・環境——現代的課題——〉		
	序	木村 福成	1
	東アジア・環太平洋地域の経済統合の現状と日本・韓国の国際通商政策		
		木村 福成/久野 新/リー, ヒョン=フン/ホ, ヒョン=ソン	5
	知的財産権の強化と技術移転		
	——マイクロデータによる実証研究——	若杉 隆平/伊藤 萬里	31

静脈物流に関する基礎的分析		
——東アジアへの展開を視野において——	山本 雅資／細田 衛士／宮内 環	47
RunGTAP による FTA シミュレーション——日韓 FTA を題材に——	板倉 健	67
1990 年代の日本企業の生産性		
——企業レベルの実証研究によって確認された事実——	清田 耕造	77
東アジアにおける国際的生産・流通ネットワーク		
——中南米・中東欧との比較——	安藤 光代	91
東アジアにおけるサービス・リンク・コストの計測とその課題	早川 和伸	113
<hr/>		
〔研究ノート〕 小林秀雄「私小説論」再読	寺出 道雄	127
<hr/>		
99 卷 3 号 (2006 年 10 月)		
〈小特集：「人体計測・市場・疫病の社会経済史——ユーラシア大陸とアメリカ大陸——」		
(2006 年度慶應国際ワークショップ)		
「人体計測・市場・疫病の社会経済史」とその一事例研究		
——空間分析を用いた大正期群馬「花柳病」分析序論——	友部 謙一	1
近代日本における不熟練労働市場と感染症に関する一試論		
——明治後期－昭和戦前期における日雇人夫と女工をめぐる——	齊藤健太郎	23
大正期日本における感染症の突発的流行——発疹チフス 1914 年——	永島 剛	41
戦後における看護婦の進路選択動機とその決定要因	山下 麻衣	61
日本におけるスペイン風邪の流行と既存の結核との関連	石谷 誓子	83
日本における赤痢の流行と感染症対策の変遷 1890－1930 年	馬場わかな	103
乳児死亡の構造と丸山博のアルファ・インデックス		
——新生児死亡＝母胎・母体を取り巻く生活環境指標の発見——	白井 泉	121
〈小特集：社会史の実証と方法〉		
序	矢野 久	155
ドイツ・東エルベの農民 1648～1806 年		
——「ミクロの社会史」による多面的で多様な実像への接近——	飯田 恭	159
第二次大戦下の仏領インドシナへの社会史的アプローチ		
——日仏の文化的攻防をめぐる——	難波ちづる	189
戦後ドイツにおける外国人労働者の居住の社会史	矢野 久	205
<hr/>		
〔論 説〕 不確実性と資産市場均衡 IV (完)	福岡 正夫／須田 伸一	225
〔研究ノート〕 小林秀雄「私小説論」再読 (続) ——小林秀雄と中村光夫——	寺出 道雄	233
〔書 評〕 柳沢遊・木村健二 編著『戦時下アジアの日本経済団体』	小林 英夫	247
駒形哲哉 著『移行期 中国の中小企業論』	丸山 知雄	251
<hr/>		
99 卷 4 号 (2007 年 1 月)		
〈小特集：ヴィレフレード・パレート『経済学提要』刊行 100 年〉		
序	池田 幸弘	1
パレートの経済学	福岡 正夫	3
パレートと積分可能性問題	須田 伸一	31
パレートの『経済学提要』と 20 世紀ミクロ経済学の展開	川俣 雅弘	51
〈小特集：経済分析と最適化の数理〉		
序	丸山 徹	75

	確率変数の $L^p$ -射影とその数理ファイナンスへの応用	新井 拓児	79
	動学的最適化における黄金最適政策	岩本 誠一	101
	最適化理論における近接点法と非線形射影	高橋 渉	127
	荷重付き Sobolev 空間における非凸変分問題の存在定理と表現定理	佐柄 信純	153
〈小特集：東アジア共同体とヨーロッパ共同体の比較研究〉			
	序	松村 高夫	173
	咸錫憲と池明観の宗教哲学にみる社会史的認識論	松村 高夫	179
	サン＝シモンの「ヨーロッパ」概念	高草木光一	203
<hr/>			
〔論 説〕	我が国の金融システムと市場型間接金融 ——銀行の債権譲渡に関する一考察——	前多 康男	221
〔研究ノート〕	明治初期の横浜居留地市場と内外商間取引	鷺崎俊太郎	239
	飯野靖四教授 略歴・著作目録		265
	松村高夫教授 略歴・著作目録		277
	島田晴雄教授 略歴・著作目録		291